

**福岡県立大学 中期計画に関わる
自己点検・評価報告書**

**令和6年6月
公立大学法人福岡県立大学**

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円（全額 福岡県出資）
沿革	<p>昭和20年（1945）4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年（1952）7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年（1967）4月 福岡県社会保育短期大学（保育科、社会福祉科）開学</p> <p>平成4年（1992）4月 福岡県立大学（人間社会学部）開設</p> <p>平成9年（1997）4月 大学院人間社会学研究科（修士課程）開設</p> <p>平成15年（2003）4月 看護学部開設</p> <p>平成18年（2006）4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年（2007）4月 大学院看護学研究科（修士課程）開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、地(知)の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命とする。</p> <p>理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となるために、以下について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 ・大学の特色を生かして、社会人のリカレント教育の充実や、県民の生涯学習を推進するとともに、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 教育：(1)特色ある教育の展開、(2)教育活動の活性化、(3)意欲ある学生の確保、(4)学生支援の充実 2 研究：(1)特色ある研究の推進、(2)研究の実施体制等の整備 3 地域貢献及び国際交流：(1)地域社会への貢献、(2)国際交流の推進 4 業務運営の改善及び効率化：(1)大学運営の改善、(2)事務等の効率化・合理化、(3)社会的責任・安全管理の徹底 5 財務内容の改善：(1)財務基盤の強化、(2)経費の節減 6 自己点検評価及び情報の提供：(1)自己点検・評価、(2)情報公開・広報

法人の業務	1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長（学長）	柴田 洋三郎	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長 （～平成14年3月） 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	奥 園 秀 史	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和59年 4月 福岡県採用 平成30年 4月 総務部防災危機管理局長 平成31年 4月 人事委員会事務局長 令和 3年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事（事務局長） 令和 4年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事（事務局長）	野 上 明 倫	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和60年 4月 福岡県採用 平成31年 4月 企画・地域振興部次長 令和 2年 4月 会計管理者（兼）会計管理局長 令和 4年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事（事務局長）

理事（学外）	古野金廣	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント（株）入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス（株） 代表取締役社長 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント（株） 代表取締役社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事 令和 2年 4月 学校法人福岡雙葉学園副理事長
理事（学外）	芳賀晟壽	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和51年 1月 （社）北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 （株）芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 （社）北九州高齢者福祉事業協会 会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長
理事（学内）	上野行良	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	平成 6年 3月 東京都立大学人文科学研究科 博士課程単位取得退学 平成 5年10月 福岡県立大学講師 平成10年 2月 福岡県立大学助教授 平成19年 4月 福岡県立大学准教授 平成20年 4月 福岡県立大学教授 平成30年 4月 福岡県立大学人間社会学部長 兼人間社会学研究科長 令和 2年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事（学内）	松浦賢長	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	平成 2年 3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年 3月 カリフォルニア大学バークレー校 研究助手 平成 5年 4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年 3月 カリフォルニア大学バークレー校 客員研究員 平成15年 4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年 4月 福岡県立大学教員兼務理事

監事	井上道夫	令和4年9月1日～令和7年度の財務諸表の承認の日	平成元年4月 弁護士開業 平成6年4月 井上法律事務所開設 平成30年4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	大谷晃士	令和4年9月1日～令和7年度の財務諸表の承認の日	平成28年7月 公認会計士登録 令和元年7月 大谷公認会計士事務所開設 令和4年9月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2) 教員

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教員数	常勤（正規）	112人	111人	106人	105人	109人	112人	
	内訳	教授	24人	25人	25人	25人	26人	29人
		准教授	32人	32人	29人	31人	32人	31人
		講師	24人	22人	23人	22人	22人	23人
		助教	22人	23人	20人	19人	17人	19人
		助手	10人	9人	9人	8人	12人	10人
	非常勤講師	63人	56人	57人	55人	58人	63人	
合計	175人	167人	163人	160人	167人	175人		

教員数増減の主な理由

(3) 職員

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人	
	正規職員	県派遣	13人	13人	13人	13人	13人	12人
		プロパー	8人	8人	8人	8人	7人	11人
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	21人	21人	21人	21人	20人	23人	
嘱託（常勤・非常勤）等・臨時	14人	14人	15人	14人	14人	12人		
合計	36人	36人	37人	36人	35人	36人		

職員数増減の主な理由

(4)法人の組織構成											
別紙「組織図」のとおり											
3. 学生に関する情報											
関連する学部・ 大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)						
					30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
人間社会学部	計	630人	688人	109%	114	112	110	109	108	109	
内訳	人間社会学部	600人	653人	109%	115	113	111	110	109	109	
	公共社会学科	200人	218人	109%	113	109	109	111	111	109	
	社会福祉学科	200人	214人	107%	117	114	110	106	107	107	
	人間形成学科	200人	221人	111%	114	115	114	112	110	111	
	大学院 人間社会学研究科	30人	35人	117%	93	100	93	93	93	117	
看護学部	計	384人	393人	102%	105	110	109	106	103	102	
内訳	看護学部	360人	379人	105%	106	110	108	106	104	105	
	看護学科	360人	379人	105%	106	110	108	106	104	105	
	大学院 看護学研究科	24人	14人	58%	96	121	104	104	79	58	
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由											
定員充足率が100%を超えている主な理由は、入学者数が定員を超過しているため。 看護学研究科の定員充足率が90%を下回っている主な理由は、令和3年度と令和4年に実施した入学試験の入学充足率がそれぞれ66.7%と33.3%であったことによるもの。なお、令和5年度に実施した入学試験では、入学定員充足率は91.7%となっており回復傾向にある。											

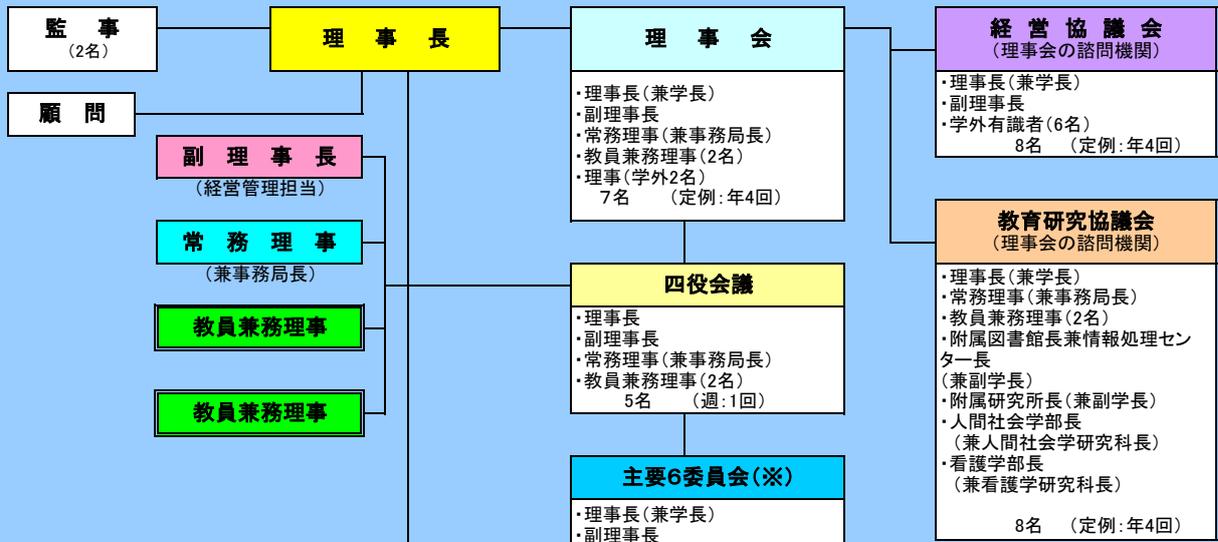
4. 審議機関情報			
(1) 経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田 洋三郎	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長・学長
副理事長	奥園 秀史	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	二場 公人(前任)	令和4年4月1日～令和5年5月31日	田川市長
	村上 卓哉(後任)	令和5年6月1日～令和6年3月31日	田川市長
	齋藤 明	令和4年4月1日～令和6年3月31日	元 独立行政法人大学入試センター 監事
	亀川 寿	令和4年4月1日～令和6年3月31日	田川商工会議所 会頭
	秋吉 一明	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 顧問
	野口 久美子	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	豊福 成史	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
(2) 教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田 洋三郎	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長・学長
学部長	池田 孝博	令和4年4月1日～令和6年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	江上 千代美	令和4年4月1日～令和6年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	石田 智恵美	令和4年4月1日～令和6年3月31日	副学長兼附属図書館長、情報処理センター長
	石崎 龍二	令和4年4月1日～令和6年3月31日	副学長兼附属研究所長
	上野 行良	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教員兼務理事
	松浦 賢長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教員兼務理事
	野上 明倫	令和4年4月1日～令和6年3月31日	常務理事兼事務局長

公立大学法人福岡県立大学組織図

令和5年4月1日現在

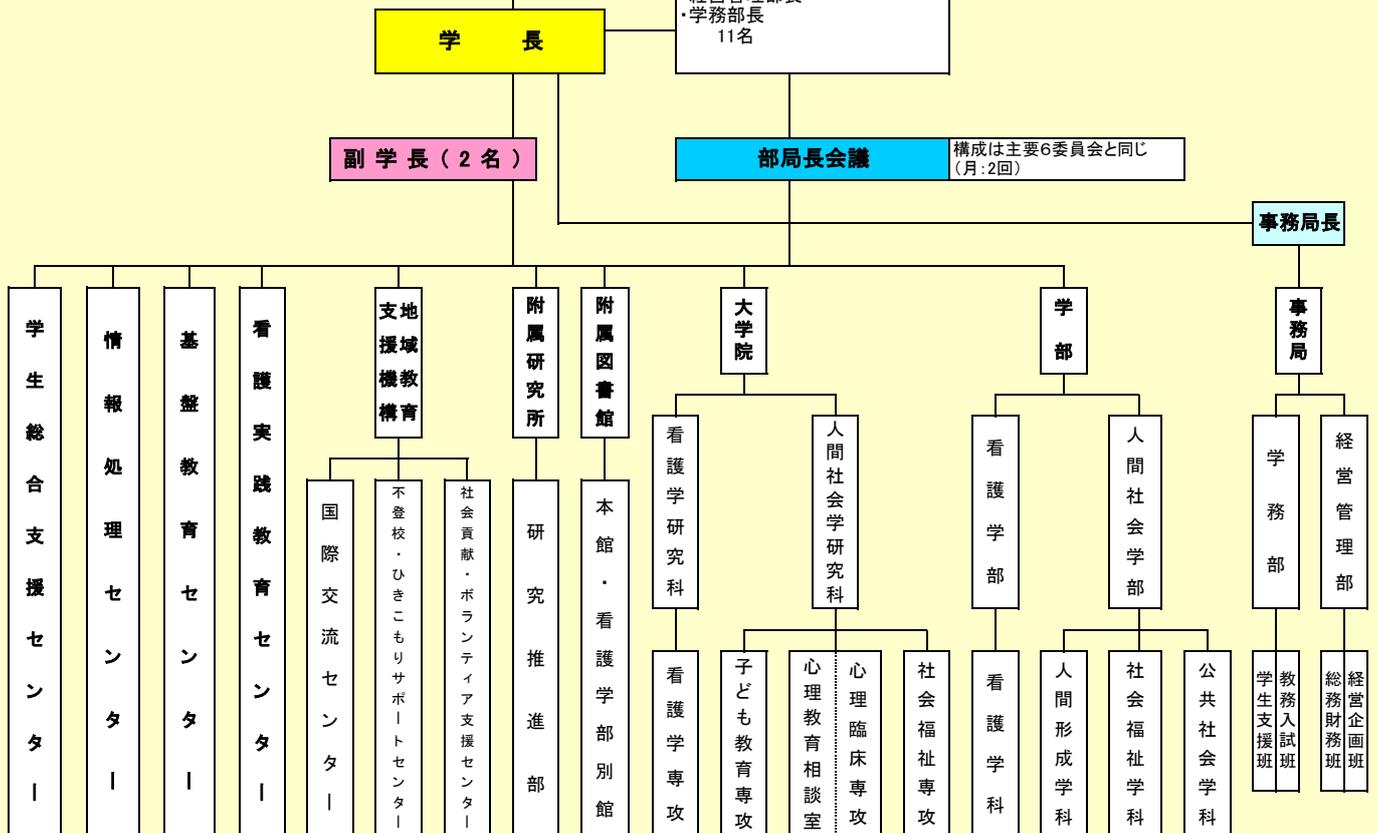
: 理事長指名の役職者

法人



(※)改革推進、総務人事、予算、教務入試、学生、地域連携

大学



法人自己評価

I 全体

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。令和5年度をもって、第3期中期計画期間の6年が経過しました。この6年間は、コロナ禍以前の2年間、コロナ禍の3年間、そして自律的な感染症対応となった1年間に大別されますが、この期間には大学教育の様相が大きく変化しました。まさに“ポスト・コロナ”という表現が示す通りの新たな価値観の時代、新たな大学観の時代の幕開けとなりましたが、学長の掲げる「学生ファースト」の理念のもと大学改革を推進し、かつ新たな価値の創造を希求する大学教育の推進に努めました。

コロナ禍以前の2年間（平成30年度、令和1年度）については本学の“基礎体力”を培った期間でした。学長主導のもと、めまぐるしく打ち出される国の高等教育改革に迅速に対応できる大学の“基礎体力”の増進とそれを可能にする意思決定の柔軟性向上に全学挙げて取り組みました。これらの全学的取り組みにおいては、公立大学としての本学の使命を常に問い直し、共有していくというプロセスが不可避となり、教職員や各組織間の意思疎通がより無駄を削ぎ落とした形で可能になりました。先の見えない将来を見通す試みの中で、福祉系総合大学としての方向性を打ち出すことのできる基盤ができたといえます。コロナ禍の令和2年度は、年度初めからのコロナ禍において臨機応変に対応する高い“機動力”が必要となりましたが、学長主導のもと、内部統制・ガバナンスを向上させ“機動力”を磨くことにより、教育研究におけるコロナ禍の影響を最小限に留めることができました。特に、福岡県の全面的な支援により、年度当初にいち早く遠隔授業に対応する環境を整備しました。同時に新入生に対する遠隔授業研修会も実施し、その結果学年暦通りに授業を開始することができました。そしてコロナ禍2年目、3年目となる令和3年度、令和4年度には、困難な状況においても安定した大学教育を展開できる“恒常力”が求められました。学長主導のもと、個人から組織のあらゆるレベルにおける内部質保証サイクルの向上を目指し、その不断のプロセスを“恒常力”開発の基盤としました。そして計画期間最終年度の令和5年度には、新たな“ポスト・コロナ”時代を生き抜く大学として、学長の先見的アイデアに触発されるかたちで、次期中期計画の中核となる新たな価値を創造する“希求力”が生まれました。

令和1年度から令和2年度にかけて注力したことが内部質保証と内部統制の強化・向上でした。これについては、まず組織の見直しを行いました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組み、IR推進室によるPDCAサイクル評価を受けて、大学活動の改善を行うことを目的としました。さらに、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進について進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としています。これらの重層的な組織改編により、内部質保証の取り組みが偏ることのないよう進められ、教職員が教育活動のあらゆるレベルにおいて積極的なサイクル推進を心がける意識改革に繋がりました。その結果、令和4年度に受審した大学機関別認証評価では、内部質保証等の不断の取組みの成果を高く評価いただきました。

入口管理については、教職協働体制のもとオープンキャンパスを実施しましたが、コロナ禍の令和2年度からはオンラインにて実施しました（令和4年度からは対面とオンラインの併用）。オンライン開催により高校3年生の増加、遠隔地からの参加が増え、裾野の拡大につながりました。令和3年度にはオンラインにて1,200人を超える参加を得ることができました。令和4年度以降は対面・オンライン併用にて約1,700人の参加を得ています。

オンライン形式のオープンキャンパスに向けては、教職員や学生が協働して紹介動画の作成にあたり、手作りではありますが、キャンパスの雰囲気や画面で伝えることができました。また、平成30年度から高校生にも門戸を広げた学部の授業参観ウィークを実施しており、多くの参加生徒から高い評価を得ています。さらに、新たに国公立大学初となる「全国児童養護施設推薦特別選抜入試（看護学部）」を実施しました。令和5年度からは社会的養護等を必要とする受験者の特別枠を人間社会学部にも広げました。これらの結果、学部・一般入試の志願倍率はいずれの年度においても目標を超えました。

出口管理については、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、各学科・コースにおいて国家試験対策に取り組み、各国家試験合格率は令和5年度にはいずれも全国平均を上回ることができました。

就職対策については、令和3年度に学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターの3部署を学生支援センター内に統合し、学生就職支援のワンストップ拠点を構築・運用しました。平成30年度からの就職率はいずれも目標とする95%以上となっており、高い水準を維持しています。

教育は、全学横断型教育プログラムのうち、「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」の学修証明書を令和5年度には計162名の学生に発行しました。コロナ禍における教育については、緊急事態宣言等の発出に合わせ、対面授業と遠隔授業を切り替えながら教育を進めましたが、その間の学生ニーズを把握するために、令和2年度から学生生活総合アンケートを複数回行っています。学生生活総合アンケートの結果は、学修面と生活面の両面から迅速に評価され、部局長会議等で共有した上で、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつながりました。eラーニングシステムの利用については、令和2年度以降は遠隔授業導入の影響もあり、コース数と学生利用率は高い水準となりました。

経済的に修学が困難な学生に対する支援については、特にコロナ禍の令和2年度以降、授業料に関しては修学支援新制度に基づく授業料減免・大学独自の授業料減免・分割納付による学生支援を実施し、奨学金等に関しては学内外の制度を最大限活用いたしました。本学独自の支援制度として令和2年度には真島・市場特別奨学金制度を設立することができました。国や自治体の支援制度を積極的に周知・活用することにより、令和2年度以降は高い水準の支援を実施することができました。これにより、コロナ禍においても経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。

研究は、引き続き積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数・獲得件数はいずれの年度も目標を上回りました。また、学内の研究奨励交付金については、重点領域研究枠を設け、年平均3件の採択をしています。また、福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究に関する業務協定を令和5年2月24日に締結し、市町村国保の保健事業を支援するため、令和5年度から国保データベース（KDB）システムを活用した医療・介護・健診のデータに基づく4件の共同研究プロジェクトを開始しました。研究倫理の徹底については、コロナ禍の令和2年度以降に、それまで対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにしました。研究成果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、令和3年度以降は研究奨励交付金の成果報告書を機関リポジトリに収録しています。

地域連携に基づく活動は、大変活発なレベルにあったと言えます。コロナ禍の令和2年度以降は、各センターを中心にオンライン活動も取り入れながら、着実にやってきています。とくに、不登校・ひきこもりサポートセンターの県子どもサポーター派遣事業では毎年延べ1,000人～3,000人の学生が活動していました。同センターのフリースクール事業では、毎年延べ1,000人前後の不登校児童生徒が通級しました。フリースクール児童生徒の登校開始率は非常に高い値を維持しています。また、福岡県重点課題事業として平成30年度、令和1年度には「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を受託・実施しました。令和3年度からは「不登校児童・生徒に対する社会的自立支援事業」を受託し、福岡県の不登校減少に向けた取り組みを開始し、高い評価を得ています。社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、活発な学生活動が行われました。国際交流については、コロナ禍以前は多くの学生・教職員が活動し、また留学生の派遣・受入も高いレベルにありました。コロナ禍の令和2年度は、国際交流の機会はほとんどありませんでしたが、令和3年からはオンラインによる国際交流が複数起動し、教員交流数が増加しました。また、オンラインを中心に留学生の受入も進んでいるところです。オンラインによる国際交流のトレンドを汲み、令和3年度には大邱韓医大とオンライン短期留学に関する新たな交流協定を締結し、積極的に交流を行っています。

総合的には、コロナ禍以前の平成30年度、令和1年度に培った大学教育の“基礎体力”を土台にして、コロナ禍の令和2年度以降においては高い“機動力”を発揮し、コロナ禍を通して安定した大学教育の推進ができたと言えます。今後とも、学長の掲げる「学生ファーストの大学」という理念を現実の教育に落とし込みつつ、大小の変革を常に行っていくことにより激動する困難な環境を乗り切っていくことが求められます。その基盤となるのはまずは内部質保証サイクルですが、大学組織レベルから教職員個々人のレベルまであらゆるレベルで積極的関与がなされるよう引き続き取り組みを推進していきます。基礎体力のある大学、機動力のある危機に強い大学として、引き続き「学生ファースト」の大学を常に追求し、新たな価値を希求しながら本学に課せられた使命に応えていきます。

II 中期目標項目

1 教育

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 専門的支援力の養成等

特色ある体系的な教育課程の編成については、令和2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂と体系的な教育課程の編成を行いました。全学横断型教育プログラムであるデータサイエンス・プログラムとキャリアマネジメント・プログラムにおいて、新設科目を開講するとともに、令和3年度には学修証明書の交付を開始しました。令和4年度には高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目を次年度以降開講するための準備を行いました。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えました。令和5年度にはデータサイエンスの学修証明書発行数は100件を超えました。

教養教育の充実として、平成30年度に「ライフキャリア論」「入門・数字で見る日本社会」を新たに開講しました。コロナ禍にあった令和2年度以降は、入学直後の1年生に対して新型コロナウイルス感染禍対策用に改訂した教養演習テキストを利用することで、eラーニングの使用方法和情報処理機器の操作を遠隔授業で指導しました。これらの対策・対応により、令和2年度は本学すべての全学共通科目においてオンラインによる遠隔授業の実施に至りました。同時に、教養演習テキストにはオンラインやデジタル機器に関する新たな章を追加し、以後、導入教育に取り入れました。令和4年度にはeラーニングシステムの変更に合わせてテキストの改訂と教育内容の見直しを行い、令和5年度には生成AIの普及に対応してテキストの改訂を行いました。さらに、英語カリキュラムについて、これまでの学科別編成から能力別編成に転換する改革を行い、令和5年度より実施しました。

学修成果の検証として、教務・共通教育部会において令和2年度「卒業時アンケート」「成績評価アンケート」「受講者数と成績分布」について結果分析を行いました。また、進路生活支援部会にて令和2年度「卒業生・就職先アンケート」の結果分析を行いました。令和4年度にはそれらの結果分析を学部・学科等に対して文書報告を行うとともに、「学位プログラムDプレビュー」の一部としてWebサイトで公表しました。令和5年度には、各種の国家試験合格率（看護師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士）はすべて全国平均を上回りました。

2 高度専門職業人の人材育成

大学院各研究科における体系的な教育課程の編成については、平成30年度より3つのポリシーの検討を開始しました。その後、改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育・評価方法を実施できているか検討・対応を行いました。連合大学院構想の他大学との連携については、候補の大学と調整を行ってきました。専門教育の充実として、令和3年度に人間社会学研究科の子ども教育専攻と看護学研究科の看護学専攻において、社会人の学生等のニーズを考慮し、メディア授業科目を設置しました。

大学院の学修成果検証については、毎年度11月に「在学生学修環境等満足度調査」を実施し、その結果を受けて大学院生との座談会を開催してきました。さらにそこで出た意見を両研究科委員会にフィードバックし、修了時（3月）に再度、「修了生学修環境等満足度調査」を実施するプロセスを踏み、学生－教員間の往還による学修向上に取り組みました。令和4年度、令和5年度には、修了時において社会人学生全員から満足であるとの回答を得ることができました。

3 教育活動の活性化

効果的なFD活動の推進については、令和2年度以降に教員を対象とした指導方法研修を対面とオンラインを用いて実施しましたが、高い教員参加率を得ることができました。平成30年度から毎年度授業参観ウィークを実施しています。授業評価アンケートについては前期・後期の各終了時に紙媒体にて実施していましたが、令和2年度からオンライン化しました。令和3年度後期は授業評価アンケートを授業中間時と終了時の2回実施しています。授業評価アンケートに書かれた学生からのニーズについて、担当教員がどのように対応するかを掲示する「授業自己評価・対応プラン」（平成29年度導入）は引き続き毎年度実施し、教員－学生間の往還による教育活動向上に取り組みました。

学生の主体的学修の促進については、学生の学修時間を含む生活時間に着目し、アンケート調査結果をもとに取り組みを続けました。年度により異なりますが、アンケートは本学SD・FD部会による「生活時間調査」、もしくは文部科学省「全国学生調査」によって、学生の生活時間の課題やストレス状況を把握してきました。これらからシラバスの改訂（必要とされる学修時間の明記等）に結びました。また、コロナ禍においては、アルバイト等の環境が大きく変わったため、これらのアンケートから経済的な支援を要する学生を把握し、適切な修学支援制度の採用に結びつける等の支援を行い、学生の主体的な学びを保証する環境整備に取り組みました。さらに、自由記載等書かれたニーズに関しては各学部速やかに共有し、臨機応変に対応しました。令和4年度からはベネッセが行う問題解決力を測るテスト「GPS-Academic」を受検しています。当該年度の学部1年生と学部3年生が参加し、結果の個票については、対応の必要のある学生を抽出して、担当教員に繋いでいます。

教育活動の定期的・多角的な評価の実施については、成績評価の客観性・厳格性の担保に関する全学的体制の整備を行いました。成績評価の分布に関する調査及び検証については継続的に実施し、令和2年度には報告書を取りまとめ、アセスメント・プランの指標を策定しました。この指標に基づき、令和3年度より教育活動について学生アンケートや成績分布や受講者数の調査などから多角的に検証し、必要に応じて見直しと改善を行いました。その内容については、学科ごとに『学位プログラムDPレビュー』を作成しWebサイトに公表し、教育活動の活性化に取り組みました。

4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

学部のアドミッション・ポリシーについては、令和3年度に改訂を行いました。高校訪問・オープンキャンパスでの広報活動及び大学案内等にアドミッション・ポリシーを明記することにより、令和2年度以降のアドミッション・ポリシー認知率は目標の80%を超える状況になっています。オープンキャンパスはコロナ禍以前には2,000人を超える参加者を得ておりましたが、コロナ禍となる令和2年度以降はオンライン開催に切り替えることにより、令和3年度には1,000人を超える参加を得ました。また、オンライン開催により、高校3年生の増加や遠隔地からの参加という裾野の拡大につながりました。令和4年度からは対面とリモートを併用したオープンキャンパスを実施しました。その結果、令和4年度、令和5年度は令和3年度よりも大幅に参加者が増加し、約1,700人となっています。

入学者選抜方法の検証については、令和1年度（令和2年度入試）よりアドミッション・オフィスの試行及びインターネット出願を開始しました。令和2年度、令和3年度は、コロナ禍のため学校推薦型選抜では集団面接を行わず、調査書および推薦書によりアドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行いました。令和3年度（令和4年度入試）より看護学部への入学試験において全国の国公立大学となる「全国児童養護施設推薦特別選抜（看護学部）」を実施し、1名の受験者を得ました。翌年度には人間社会学部に社会的養護等を必要とする受験者の特別枠を設け、1名の合格者が出ています。また、オープンキャンパスや高校訪問の資料を高校生に伝わりやすいように大幅に改訂する等、広報に努めた結果、学部の一般入試の志願倍率が、全国の国公立大学の平均や公立大学の平均を大きく上回りました。

高大連携の推進については、毎年度高大連携事業を実施し、良好な評価を得ています。令和3年度には福岡県立西田川高等学校と「連携教育に関する連携協定」を締結し、令和4年度から高校生の受講を受け入れています。令和5年度までに4名の西田川高校生が本学の科目を履修し、単位取得にいたっています。また、すでに協定を締結していた福岡県立博多青松高等学校からは令和2年度に1名の高校生の受講を受け入れました。

5 学生の学修支援と生活支援

学生の学修環境の整備については、学生の自主的学修を促すため、継続的に学生および教員に分館ラーニング・コモンズの使用法と活用事例などを広報してきました。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、分館ラーニング・コモンズを個別学習の場として活用し、その活用促進のために古くなったパソコンを更新しました。情報環境面からは、平成30年度に安全な情報ネットワークの活用を徹底するために情報セキュリティマニュアルを作成し、教職員および学生への周知徹底を図りました。令和1年度には情報処理教室の機器更新を行いました。令和2年度には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなど、全学的な遠隔授業の実施に臨機応変に対応しました。令和3年度には、令和4年度から導入する新eラーニング・システムのMoodle導入に向けて教職員・学生向けのMoodle講習会を開催しました。その結果、eラーニングシステムの学生利用率は95%以上となりました。

多様な学生の支援については、GPA2.0以下の成績不振の学生に対して、学年担任・アドバイザー・ゼミ担当教員等が面談の上、支援を提供しています。また、令和2年度に学生総合支援センターを設置し、令和3年度より学内規則に基づき、障がいのある学生への支援を実施しています。経済的に修学が困難な学生に対する支援については、特にコロナ禍の令和2年度からは学内外の各種制度を活用し、支援に漏れないよう努めました。授業料については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。奨学金等については、外部資金等を活用した本学独自の支援策を実施しました。令和2年度には真島・市場特別奨学金制度を開始しました。学外制度としては、日本学生支援機構からの支援等も活用し、コロナ禍においても経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。この成果は、学生生活総合アンケートにおいて、経済的理由により就学継続が「非常に困難だと感じる」との回答割合が極めて低率であったことから読み取ることができました。

6 キャリア支援

学生のキャリア支援体制の充実・強化については、令和3年度にキャリア支援に関わる3部署を統合し、学生のキャリア支援を一元化する体制を整備しました。県内の産業界等との連携強化については、令和2年度からはプレインターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施しています。就職説明会の開催についても令和2年度からはオンラインでも開催しています。また令和3年度には、より少人数で開催するために学科ごとや業界ごとに就職説明会を開催したことにより、開催回数は大きく増加しました。

令和4年度には、令和2年度卒業生247名および同卒業生の卒業時の就職先203か所を対象にオンラインアンケートを実施しました。卒業生アンケートと就職先アンケートの結果をコース別にまとめ、部局長会議で報告し、教授会に共有しました。また、キャリア支援システムを導入し運用したところ、大学宛求人企業数の大幅な増加と相談室予約の効率化を図ることができました。

実施事項別評価は、A+を1項目、Aを8項目、Bを11項目とします。

2 研究

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 特色ある研究の推進

福祉社会の実現に寄与する研究の推進に関しては、附属研究所運営部会を中心に取り組みました。学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、毎年2件～4件の実績を上げました。令和3年度には本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、ホームページ上に「研究シーズ数」（21件）を掲載し、そのうち3件について問い合わせがありました。また、福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究に関する業務協定を令和5年2月24日に締結し、市町村国保の保健事業を支援するため、令和5年度から国保データベース（KDB）システムを活用した医療・介護・健診のデータに基づく4件の共同研究プロジェクトを開始しました。

2 研究の実施体制等の整備

附属研究所研究推進部を中心に、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。いずれの年度においても、外部研究資金の応募件数・獲得件数は目標を上回りました。研究倫理の徹底については、令和2年度からは対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影しました。それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードし、オンデマンド聴講を可能にした結果、教員受講率は令和5年度には100%となりました。

3 研究水準向上と成果の公表

研究水準向上のための取り組みについては、研究奨励交付金の募集枠として令和1年度に「科研費申請補助」を新設、令和2年度に「データサイエンス研究」の新規設置、「科研費申請補助」の対象を拡大しました。令和3年度には「重点領域研究」の募集枠を拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やしました。令和4年度には「若手研究」の募集枠を拡大しました。

研究成果の公表については、研究成果の公表については附属研究所と図書館が連携し、研究奨励交付金の令和2年度の成果報告書を令和3年度に機関リポジトリに収録・公表しました。研究奨励交付金事業成果報告会も開催しています。

実施事項別評価は、Aを1項目、Bを7項目とします。

3 地域貢献及び国際交流

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 地域社会との連携

公開講座を毎年実施しました。コロナ禍の令和2年度からはオンラインによる公開講座に切り替えましたが、令和4年度からは対面・オンラインのハイブリッド方式も採用しています。また、保健・福祉・教育・心理等をテーマとするフォーラムを令和1年度（コロナ禍による影響）を除き毎年実施しました。この特定行為研修については、令和5年度から受講生が所属する医療機関で実習を行う「自施設実習」を整備し、10名中6名が所属施設での実習を行った。

リカレント教育については、看護実践教育センターによる現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」を令和3年度から開講し、初めての修了生を輩出しました。看護学部では令和3年度に新たにリカレント教育部会を設置し、これまで各分野で行われていたリカレント教育を取りまとめて実施することにしました。人間社会学部では福岡県立大学社会福祉学会の協力を受けながら、社会福祉士・精神保健福祉士等を対象に研修会を実施しました。また、公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象に年数回の研修会を実施してきました。コロナ禍以降は、開催方法を対面だけでなくZoom等のオンラインも活用し、研修の機会を確保しました。

令和5年度には、福岡県肢体不自由児協会主催の療育キャンプに本学学生13名が参加しましたが、学生数としては最多数の大学でした。また、令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に看護学部1年生全員(当日90名)がトリアージ対象の要救助者役として参加し、多くの学びを得ました。

2 地域活性化への支援

不登校・ひきこもりサポートセンターの県大子どもサポーター派遣事業では毎年延べ1,000人～3,000人の学生が活動していました。同センターのフリースクール事業では、毎年延べ1,000人前後の不登校児童生徒が通級しました。フリースクール児童生徒の登校開始率は非常に高い値（令和2年度73.1%、令和3年度76.5%、令和4年度100%、令和5年度66.7%）を維持しています。

福岡県重点課題事業として平成30年度、令和1年度には「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を受託・実施しました。令和3年度からは「不登校児童・生徒に対する社会的自立支援事業」を受託し、福岡県の不登校減少に向けた取り組みを開始し、高い評価を得ています。

社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、活発な学生活動が行われました。

ペアレントトレーニング関連の研修会については毎年複数回開催し、多くの参加者を得ました。令和3年度からはペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラムを開催しています。

3 国際交流の推進

国際交流協定締結大学との交流については、令和2年度はコロナ禍の影響を受け、教員交流が無くなりましたが、令和3年度にはオンラインイベント等を通じて、教員交流数がコロナ禍以前のレベルに戻りました。地域住民との連携事業についてはコロナ禍により事業を縮小しましたが、コロナ禍以前にはホームビジット等の積極的な取り組みを展開しました。国際交流チューターや留学生チューター等の本学学生が活躍する留学説明会や留学生サポートを実施することができました。

留学生の派遣・受入については、コロナ禍の令和2年度は語学研修や派遣プログラムを実施できませんでしたが、平成30～令和1年度については実施することができました。平成30年に三育大学校との交流協定を更新し、令和3年には大邱韓医大学校とオンラインプログラムのための協定を新たに締結しました。コロナ禍の令和3年度にはオンライン留学として計12名の留学生を受け入れることができました。留学生支援としては、コロナ禍以前の平成30年度までは短期派遣留学生に奨学金を給付しました。また、オンライン派遣交換留学をする学生に対して通信費補助の奨学金を給付することを令和3年度に決定しました。令和4、令和5年度はオンラインプログラムに加えて現地渡航の再開で多角的な実施ができ、派遣・受入数の目標も達成できました。

実施事項別評価は、Aを2項目、Bを3項目とします。

4 業務運営の改善及び効率化

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 組織運営の改善・強化

学内組織や学内資源の配分見直しについては、平成30年度は附属研究所長へ各センター事業を含めた予算管理権限を付与するとともに、各センター事業の見直しを行いました。令和1年度は新たな教育研究拠点として発展させるため、「不登校・ひきこもりサポートセンター」を附属研究所から独立させました。令和2年度は特定行為指定研修機関の指定を受け、令和3年4月に開所しました。学生に向けた施設・機能等の整備については、既存の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにしました。また、管理棟の教務入試班（各種証明書の発行）、2号館のキャリアオフィス（就職相談）、そして3号館の学生支援班（奨学金受付等）の3箇所に分かれていた学生支援窓口を既存の学生支援センター内に移設し、学生支援窓口を一本化しました。これにより、教務と学生支援の連携が速やかになり、学生へのサポートや支援がよりスピーディに対応できるようになりました。

教員の士気を高めるための教育環境整備については、ベストティーチャー表彰を毎年行いました。また、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行いました。令和1年度には「科研費申請補助」を新設、令和2年度には「データサイエンス研究」、「科研費申請補助「B」」を新設しました。令和3年度には「重点領域研究」の募集枠を拡充し、「科研費申請補助「B」」の助成額を増やしました。令和4年度は「若手奨励研究」の募集枠の拡充等を行いました。令和5年度はプロジェクト研究として「国際研究」の募集枠を新設し、「データサイエンス研究」の募集枠を拡充しました。

SD等の推進については、全国市町村研修財団主催研修、公立大学協会主催研修、九州大学主催研修、NPO法人学校経営研究会主催研修等、学外で開催される研修に積極的に参加してきました。令和4年度は、業務に応じた受講計画を作成し、研修を系統的に全講座（4カテゴリー23項目）受講できる体制を整え、受講を開始した。また対象職員をプロパー職員に加え、県派遣職員にまで拡大し、本学事務局職員の資質向上につなげました。事務局プロパー職員の人事評価制度については、令和元年度から試行し、令和3年度から本格的に導入しました。事務局プロパー職員の人事評価結果を給与に反映する制度改正は令和4年度から適用しており、令和5年2月には評価結果を確定し、評価結果について令和5年度の給与から反映、給与への反映状況を検証しました。

2 事務事業等の効率化

事務処理省力化については、令和1年度にインターネット出願システムと電子シバラスシステムの導入を行いました。令和2年度には、授業評価アンケートの集計業務を外部委託していたものを教務システムで集計できるようシステム改修を行ったことにより、経費を節減できました。令和3年度には、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」を令和4年1月からデジタル化することにより、業務委託料（印刷費）の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。また、令和2年度から地場企業の「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務を委託し、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図りました。

3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備

人権尊重等の徹底については、田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修会に参加するとともに、本学独自の人権研修会も企画・実施し人権に対する認識を深めることができました。リスクマネジメント体制の整備等については、大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにしました。特に、令和2年度からは大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めました。本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性の解消を図るため、令和3年度にはシステム更新の準備を行い、令和4年度から新情報システムの安定稼働を図ることができています。

実施事項別評価は、Aを2項目、Bを6項目とします。

5 財務内容の改善

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 自己収入の積極的確保

外部資金の積極的確保については、適宜Webサイトに外部資金等の公募情報を掲載し全教員にメールを発信するとともに、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催しました。令和2年度からは研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとりました。

寄付金の受け入れについては常時Webサイトに掲載するとともに、大学広報誌（春号・秋号）に掲載しました。外部資金の獲得額は年度平均で5,000万円を超えることができました。令和3年度は大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行い、施設使用料を得ました。

2 業務効率化による経費の節減

平成30年度は、改正された業務方法書に基づく内部統制システム構築に向けた業務の一部を外部委託し、業務量の大幅軽減を図りました。また、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託しました。令和2年度は、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにシステムを改修し、業務委託料を節減しました。さらに、除草業務を業務委託から非常勤職員の任用に切り替えたことで年間100万円削減できました。令和3年度は、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書をデジタル化した結果、業務委託料（印刷費）の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。

実施事項別評価は、Bを3項目とします。

6 自己点検・評価及び情報の提供

【中期目標期間（平成30～令和5年度）】

1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上

内部質保証と内部統制の強化・向上については、令和2年度に組織の見直しを行いました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組み、IR推進室によるPDCAサイクル評価を受けて、大学活動の改善を行うことを目的としました。さらに、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進について進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としました。

これらの重層的な組織改編により、内部質保証の取り組みが偏ることのないよう進められました。これら3つの組織が共同で大学改革セミナーを開催し、全学の教職員に内部質保証の取り組みへの参画を促し、普段からの質向上サイクルを推進することを周知・共有しました。

これらの土壌において、令和4年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審しました。実地調査はオンライン形式にておこなわれました。実地調査における評価審査会の対象となったテーマは「児童生徒を対象とした不登校・ひきこもりサポートセンターの取組」であり、学内外の関係者の参加を得て進みました。正式な評価報告書は3月に受け取ることができました。その後、評価報告書と点検評価ポートフォリオを大学ホームページに掲載しております。

なお、大学教育質保証・評価センターによる認証評価を令和4年度は19大学受審しましたが、本学は唯一「改善を要する事項」がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価される結果となりました。

2 県大ブランドイメージの醸成

コロナ禍の影響を受け、令和2年度からはオンラインによるオープンキャンパスを実施してきました。オンラインによるオープンキャンパスの参加者は、令和2年度は約700人、令和3年度は約1,300人の参加を得ました。オンライン形式にしたことにより、受験直前の高校3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られたという成果につながりました。令和4年度からはオープンキャンパスをオンライン形式及び対面形式で開催しました。参加者は夏・秋合わせて毎年約1,700人となり、アンケート結果も「満足以上の評価」が約99.0%と好評でした。

入試説明会への参加はコロナ禍の影響を受け若干落ち込んだものの、訪問高校数は令和3年度には33校と持ち直すことができました。令和5年度には、高校訪問は32校へ、入試説明会は10回、出前講座14回開催し、コロナ禍以前の水準近くに戻りました。

実施事項別評価は、A+を1項目、Bを3項目とします。

中期計画項目別評価

<p>中期目標 1. 教育に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程 人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組み、福祉社会の実現を目指す人材を育成する。 また、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を備え、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成する。 イ 大学院課程 地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材を育成する。 また、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成する。</p> <p>(2) 教育活動の活性化 教育活動を定期的・多角的に評価するとともに、効果的なファカルティ・ディベロップメント等の組織的な取組を推進し、授業内容・方法の改善など全学的な教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針の下、効果的・戦略的な広報活動の展開、高等学校との連携強化を図り、大学の魅力を広く伝えるとともに、入学者選抜改革を推進し、大学が求める資質・能力を持った学ぶ意欲の高い学生を確保する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援 留学生や障がいのある学生を含め、多様な学生が自主的・多面的な学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修環境の整備や学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。 イ キャリア支援 学生の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組み、就職に関する相談や企業を知る機会の拡充など、就職支援の充実・強化を図る。 また、県内の産業界等との連携強化や進学等の希望に対応する支援を行う。</p>
-----------------------------	---

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成	1 【特色ある体系的な教育課程の編成】 ①教育に係る3つのポリシーを検討し、改訂する。 ②ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の編成と定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を検討し、実施する。 ④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入する。 ⑤社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を育成する全学横断型教育プログラムの充実を図る。	2	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①令和2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を行った。 ②令和2年度に体系的な教育課程の編成を行った。 ③毎年ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育方法を確認した。 ④プログラムの原案作りを行い、科目選定や付随する規則の整備など、プログラムを立ち上げた。 ⑤データサイエンス・プログラムとキャリアマネジメント・プログラムにおいて、新設科目を開講するとともに、学修証明書等の交付を開始し、発行した。	B ↓ B	【高く評価する点】		1

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																									
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	1	2	<p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを継続的に検証した。また、学修成果の評価方法をより明確に示すため、評価の方法に関する記述をカリキュラム・ポリシーに追加した。</p> <p>②DPアンケート・成績分布調査・就職率調査・国家試験合格率のデータ分析をもとに、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性の観点から体系的な教育課程の検証を継続的に行った。</p> <p>③成績評価アンケート・授業評価アンケートの結果をもとに、継続してディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育方法の改善と検証を行った。</p> <p>④令和4年度より「包括的な専門教育プログラム」（多職種連携プログラム）を実施した。</p> <p>⑤データサイエンス・プログラムでは、教職課程（高校・情報）における新設科目（マルチメディア論、地理情報システム論、情報ネットワーク演習）を開講した。また、「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付を開始した。</p> <p>学修証明書発行数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データサイエンス（リテラシー）</td> <td></td> <td></td> <td>114件</td> </tr> <tr> <td>データサイエンス（基礎）</td> <td>40件</td> <td>40件</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>データサイエンス</td> <td>11件</td> <td>8件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>キャリアマネジメント（基礎）</td> <td>4件</td> <td>7件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>キャリアマネジメント</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※データサイエンス（リテラシー）：R5年度開始</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に係る3つのポリシー改訂：H32年度の実施 ・体系的な教育課程の編成：H33年度の実施 ・包括的な専門教育プログラムの導入：H34年度の実施 <p>○目標実績</p> <p>[教育に係る3つのポリシー改訂]：令和2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を実施した。</p> <p>[体系的な教育課程の編成]：令和3年度に新たなディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、体系的な教育課程の編成を行った。</p> <p>[包括的な専門教育プログラムの導入]：令和4年度に「包括的な専門教育プログラム」（多職種連携プログラム）を実施した。</p>		R3年度	R4年度	R5年度	データサイエンス（リテラシー）			114件	データサイエンス（基礎）	40件	40件	33件	データサイエンス	11件	8件	9件	キャリアマネジメント（基礎）	4件	7件	6件	キャリアマネジメント	0件	0件	0件	【実施（達成）できなかった点】	B ↓ B	1
	R3年度	R4年度	R5年度																											
データサイエンス（リテラシー）			114件																											
データサイエンス（基礎）	40件	40件	33件																											
データサイエンス	11件	8件	9件																											
キャリアマネジメント（基礎）	4件	7件	6件																											
キャリアマネジメント	0件	0件	0件																											

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	2 【教養教育の充実】 ①導入教育の充実により、大学教育への円滑な移行を図る。 ②教養科目において導入教育の中心となっている「教養演習」の授業内容及び方法を継続的に改善する。 ③語学教育科目の充実を図る。 ④科目区分の再編により、社会変化に柔軟に対応可能な教養教育カリキュラムを構築する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・導入教育科目の新設：2科目（既存科目の改編を含む）（期末） ・科目区分の再編：1回以上（期末）	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①平成30年度に「ライフキャリア論」「入門・数字で見る日本社会」を新たに開講し、他の既存の導入教育科目と併せて改善実施を毎年行った。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症への対応として、入学直後の1年生に対して、新型コロナウイルス感染対策用に改訂した教養演習テキストを利用することで、eラーニングの使用方法和情報処理機器の操作を遠隔授業で指導した。さらに、これらの対策・対応により、本学すべての全学共通科目においてオンラインによる遠隔授業の実施に成功した。令和3年度においても、一部の授業で遠隔授業を実施した。 ②新型コロナ禍でのオンライン授業方法の必要性を踏まえ、新型コロナ禍においてオンラインによる遠隔講義に対応できるように教養演習テキストを適宜適切に改訂した上、オンラインを利用した教養演習の遠隔授業やすべての全学共通科目のオンライン遠隔授業を実施することができた。 ③語学教育を強化し、内容の充実を図った。 ・中国語検定試験（HSK）にも対応できるよう取り組んだ。その結果、令和2年度～令和3年度は数名の学生が中国語能力試験（HSK）3級に合格し、令和2年度には1名がHSK4級に合格した。 ・新型コロナ禍のなか、動画などを駆使して学生が初めて接する中国語や韓国語の発音教育に工夫を凝らした。 ④再編前まで人間社会学部のみが受講可能であった「Introduction to studying English」を基礎ゼミ（全学的に受講可能）の区分に科目再編することによって、令和3年度より看護学部の受講ができるよう整備を行った。また、既存科目区分の更なる見直しを検討し、「全学共通科目（教養科目）」を「基盤教育科目（教養科目）」に、教養科目の中の区分の一つである「総合科目」を「複合領域」に改め、今後の科目の再編に備えた。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①②令和4年度eラーニングシステムの変更に伴い、教養演習テキストのeラーニングシステム活用に関する項目について追加改訂を行い、教育内容を変更した。令和5年度はChatGPT等の生成AIの適切な活用について教養演習テキストの追加改訂を行った。また情報処理演習等の授業を通じて試行的にChatGPTの活用と課題について学生に周知を行った。教養演習は少数教育のため担当教員が多いため、授業開始前に担当教員に対して授業の進め方と成績評価方法について毎年オリエンテーションを実施してきたが、令和5年度には加えて、適正な成績評価を目的とした成績評価方法に関する周知、確認を成績評価前に行った。 ③令和4年度には、令和5年度以降の入学生に対する、英語の習熟度別クラス編成の準備を整えた。また英語プレゼンテーションに関する科目を、大学院（人間社会学研究科）科目として開講した。令和5年度には英語のプレースメントテストを新入生に行い、習熟度別クラス編成による授業を開始した。また令和2年度以降コロナ禍の影響で実施できていなかった「海外語学実習」をイギリスにて実施した（8月19日～9月3日）。中国語検定（HSK）、韓国語検定に関する情報提供を行うとともに、個別相談に応じた。 ④令和4年度より科目区分の再編として「全学共通科目」を「基盤教育科目」に、「総合科目」を「複合領域」に変更した。 ○目標実績 ・導入教育科目の新設 平成30年度「ライフキャリア論」「入門・数字で見る日本社会」を新設した。 令和4年度「英語プレゼンテーションに関する科目」を、大学院（人間社会学研究科）科目として新設した。 ・科目区分の再編 令和3年度「Introduction to studying English」を基礎ゼミ（人間社会学部限定から全学的に受講可能）に科目区分を再編した。 令和4年度「全学共通科目」を「基盤教育科目」に、「総合科目」を「複合領域」により科目区分を再編した。	【高く評価する点】 令和2年度開始直後に新入生に対して情報教育を実施し、オンラインによる遠隔授業を可能にしたことで、大学を休校することなく教育を継続した。同時に、教養演習テキストにはオンラインやデジタル機器に関する新たな章を追加し、以後、導入教育に取り入れた。令和4年度にはeラーニングシステムの変更に合わせてテキストの改訂と教育内容の見直しを行い、令和5年度には生成AIの普及に対応してテキストの改訂を行った。 さらに、英語カリキュラムについて、これまでの学科別編成から能力別編成に転換する改革を行い、令和5年度より実施した。 A ↓ A 【実施（達成）できなかった点】		2	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	<p>3 【専門教育の充実（人間社会学部）】</p> <p>①カリキュラムと科目内容の見直しにより、社会福祉・保育・心理等の分野で求められる対人援助力等を養成する教育を推進する。</p> <p>②総合人間社会コースの保健福祉情報教育プログラム等の充実により、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化する教育を推進する。</p> <p>③他大学との連携による教育を充実する。（県内福祉系大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討）</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善：全専門科目（期末）</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①公認心理師のカリキュラムは、平成30年度から開始された。令和2年度以降のコロナ禍においても、コロナ対応を目的に策定したガイドラインに基づいて実習を実施し、令和3年度に無事完成年度を迎えた。保育士・幼稚園免許カリキュラムは、平成30年度に改定案を策定し、令和1年度から実施した。令和2年度からは実習の種別ごとに教員を配置し、実習指導教育の充実を図った。同じく令和1年度に改訂カリキュラムをスタートした中高教職課程も、3年次まで順調に進行した。社会福祉士・精神保健福祉士養成について、平成30年度に国家試験対策の科目、令和1年度には「手話」の開設を決定し、法令改正に伴う新カリキュラムを令和2年度中に申請し、令和3年度よりスタートさせた。総じて、すべての実習教育（学外）においてコロナ対応のガイドラインを策定するなど、実習先施設の理解と協力を得るかたちで順調に資格養成教育を実施することができた。</p> <p>②総合人間社会コースの横断プログラムは、平成30年度に2科目の新規開講を行い、令和1年度に完成年度を迎えた。令和2年度には、社会的ニーズに即してプログラムの名称変更やプログラム修了者への学修証明書発行ルールの策定を行うなど、恒常的にプログラムの見直しや改善に努めた。</p> <p>③平成30年度に県内福祉系6大学を対象にボランティア教育の状況などの確認を行い、令和1年度はそのうち4大学との情報交換を実施した。令和2年度はコロナの感染拡大期を避けて、学外から担当教員を招いての研修会を実施した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①公認心理師カリキュラムでは、コロナ禍で変更を意義なくされた心理実習を、令和4年度は予定通り、令和5年度は見直しを行った上で予定通り実施した。保育士・幼稚園免許カリキュラムを予定通り実施した。令和4年度に「子ども家庭支援の心理学」を新設し、令和4から令和5年度にかけて実習指導教育の一層の充実を図るため実習及び実習指導の開講時期の見直しをおこなった。公共社会学科に令和4年度より高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程を設置し、新カリキュラムを開始した。また、教育職員免許法施行規則の改正に基づく教科区分の変更を行うなど、カリキュラムの点検・改善を継続して実施した。社会福祉士養成では、「プレ実習」の新設、精神保健福祉士養成では「病院実習」「地域実習」の実施時期を見直し等を行い、事前・事後学習の内容も含めて実習教育を充実させた。</p> <p>②全学横断プログラムでは、令和4年度から新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」を設けた。令和5年度から4月のオリエンテーションで、履修コースの目的が明確になるよう改善を行った。また、キャリア・マネジメントでは、コロナ禍で中止になっていた問題解決演習の現場体験および調査を再開した。</p> <p>③福岡県障がい福祉課、産業医科大学、本学との共同で手話奉仕者（ボランティア）の普及啓発に向けた手話教育を実施した。また、西南学院大学、西南女学院大学、久留米大学、近畿大学九州短期大学、福岡歯科大学と本学との共同で福祉ボランティアに関する教育を実施した。さらに、田川市社会福祉協議会と連携して、視覚障害ガイドボランティア講座と認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>○目標実績 ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 令和5年度までに全専門科目の見直し・改善を行った。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>コロナ禍においてもガイドラインを策定したり、施設との調整を行った上で計画の見直し等を行い、中期計画期間を通してすべての実習教育を予定通り終了した。また、公共社会学科において高校公民・中学社会に加え、令和4年度に高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程を新たに設置した。設置に伴う新規科目を含む新カリキュラムを令和4年度入学生から開始し、順調に教育を進めていた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	B ↓ A		3

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	4 【専門教育の充実（看護学部）】 ①看護技術強化のための統合科目を開講する。 ②看護実践力強化のための臨地実習教育を充実させる。 ③他大学との連携による教育を充実させる。 （ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる連携）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①看護技術を強化するために、授業における看護技術に関する教育内容の現状把握を行い、現カリキュラムでの看護技術を強化するための教育内容と方法について検討を行った。さらに、令和4年度開始する新カリキュラムでの看護技術を強化するための各専門科目の演習、新カリキュラムにて新設している統合演習科目について、段階的に科目間で接続しながら行う教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して教員間の共有理解を行った。学生が主体的に看護技術の練習ができるように、看護技術室（真島・市場シミュレーションルーム、5号館1階）の整備に加え、看護技術極め隊の活動支援を行った。</p> <p>②看護実践力のコアとなる演習科目である看護過程および看護技術について段階的に科目間で接続しながら行う教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して検討を行った。さらに、看護実践力のコアになる看護倫理、フィジカルアセスメントを強化することとなった。</p> <p>令和4年度入学生に向けた看護技術統合科目の開講：統合演習2単位（令和3年度文部科学省承認）</p> <p>③平成30年度から前後期合わせて17科目を開講している。令和2年度よりコンソーシアム連携作成科目「災害看護学」を開講し、本学では必修科目のため他の科目と合わせて受講生は100名前後で推移している。キャリア像確立講義Ⅰ・Ⅱについては、作成から5年が経過しているため再構築を検討している。また、令和3年度には「ケアリング・ナースング・プログラム」の検討を行い、令和4年度から開始することとなった。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①②授業（専門科目の演習）における看護技術に関する教育内容の現状把握をもとに、教務部会（看護技術WG）、教育編成WG、科目責任者と協力し、取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合科目を含む全専門科目の演習で実施する教育内容（対象者、健康レベル、生活障害等）と看護技術項目の確定 ・新カリキュラムで新たに設定した統合演習科目と専門科目の演習について取り組む看護技術の決定 ・客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）の実施継続 ・全専門科目の演習で実施する看護技術の到達度評価（各専門科目で看護技術試験導入） ・看護の臨床推論判断の強化に向け、シミュレーターを用いたスキルラボ室を整備 ・模擬患者（SP: Simulated Patients）の導入に向けた検討を行い、SPに関する研修会を開催 <p>③キャリア像確立講義Ⅰ・Ⅱについて令和4年度後期より再編したVODの使用を開始した。他の開講科目についても再編を検討し、令和6年度以降に内容を刷新することとなった。令和5年度はコンソーシアムのオリジナル科目である「キャリア像確立講義Ⅰ」「災害看護学」を延べ117名が受講した。また、令和4年度より「ケアリング・ナースング・プログラム」を開始した。</p>	B ↓ A	<p>【高く評価する点】</p> <p>令和3年度から令和4年度にかけて、電子カルテシステムとシミュレーター機器を導入し、同時にナースングスキルラボとして計5部屋を設置した。これらを令和4年度より授業で活用し、学生は患者（シミュレーター）情報をもとにフィジカルアセスメントを学んだ。また、自己学習のためにそれらのスキルラボ室を開放し、学生は技術練習を主体的に行った。令和5年度には全専門科目でスキルラボ室を活用した。コロナ禍で学内実施となった実習でもナースングスキルラボをフル活用し、臨地の指導者とオンラインで繋ぐなど、臨地実習により近い状況において教育を実施できた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 20 「大学間連携」	4

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
	○評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善：全専門科目（期末） ・モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂：H31年度の実施 ・看護技術統合科目の開設：H35年度の実施		○目標実績 ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 平成30年度にカリキュラムと全科目の科目内容を点検した。令和1年度に、平成30年度からの文科省コアカリキュラムの方針に沿い、全科目の科目点検のうえ、5科目の検討を行った。令和2年度、令和3年度にカリキュラムと全科目の科目内容を点検した。 ・モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂 平成30年度にモデル・コア・カリキュラムを参考にカリキュラムを決定した。令和1年度に、「看護倫理学」「医療安全」「チーム医療論」「災害看護学」「健康科学」を改正した。 ・看護技術統合科目の開設 令和4年度に看護技術統合科目：統合演習2単位を開設した。				

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																	
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																			
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	5 【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・授業の学修到達目標に対する達成度（授業評価アンケート）：全学平均3以上（4段階評定）（単年） ・DP到達度（卒業時アンケート）：全学平均4以上（5段階評定）（単年） ・国家試験合格率： 看護師 98%以上（単年） 保健師 90%以上（単年） 社会福祉士65%以上（単年） 精神保健福祉士70%以上（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①毎年各種データの収集を行った。令和2年度に令和3年度より実施するアセスメント・プランを作成した。それに伴い令和2年度より、成績評価アンケートを開始した。また令和2年度からアンケートの結果分析を学部・学科等に対して報告文書での通知を始めた。令和3年度より報告文書は学位DPプレビューの一部として公表した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①毎年、卒業時アンケート、授業評価アンケート、成績評価アンケート及び受講者と成績分布について結果分析を行った。結果分析を学部・学科等に対して文書報告を行うとともに、「学位プログラムDPレビュー」の一部として公表した。そのほか、卒業生・就職先アンケートを実施し、結果分析を行った。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業評価アンケート (4点満点中)</td> <td>3.4</td> <td>3.2</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>卒業時アンケート (5点満点中)</td> <td>4.1</td> <td>4.3</td> <td>4.2</td> <td>4.3</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>看護師合格率 (%)</td> <td>97.7</td> <td>100</td> <td>99.0</td> <td>98.9</td> <td>93.3</td> <td>98.9</td> </tr> <tr> <td>保健師合格率 (%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>90.0</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士合格率 (%)</td> <td>78.0</td> <td>78.9</td> <td>67.3</td> <td>73.3</td> <td>93.5</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士合格率 (%)</td> <td>91.7</td> <td>93.3</td> <td>100</td> <td>90.9</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	授業評価アンケート (4点満点中)	3.4	3.2	3.6	3.6	3.6	3.6	卒業時アンケート (5点満点中)	4.1	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5	看護師合格率 (%)	97.7	100	99.0	98.9	93.3	98.9	保健師合格率 (%)	100	100	100	90.0	100	100	社会福祉士合格率 (%)	78.0	78.9	67.3	73.3	93.5	88.9	精神保健福祉士合格率 (%)	91.7	93.3	100	90.9	100	100	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」 No.8 「学生による授業評価」	5
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																		
授業評価アンケート (4点満点中)	3.4	3.2	3.6	3.6	3.6	3.6																																																		
卒業時アンケート (5点満点中)	4.1	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5																																																		
看護師合格率 (%)	97.7	100	99.0	98.9	93.3	98.9																																																		
保健師合格率 (%)	100	100	100	90.0	100	100																																																		
社会福祉士合格率 (%)	78.0	78.9	67.3	73.3	93.5	88.9																																																		
精神保健福祉士合格率 (%)	91.7	93.3	100	90.9	100	100																																																		

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
2 高度専門 職業人の人 材育成 地域社 会、福祉政 策、対人援 助の専門知 識を持ち、 高度福祉社 会の実現に 貢献できる 人材の育成 および地域 の保健・医 療・福祉分 野の施策展 開を推進で きる高度な 職業人とし ての看護職 者や、看護 学の創造と 発展に貢献 できる研究 者・教育者 を育成する ためのカリ キュラムの 充実を図 る。	1 【体系的な教育課程の編 成】 ①教育に係る3つのポリ シーを検討し、改訂す る。 ②ディプロマ・ポリシー およびカリキュラム・ポ リシーと整合した体系的 な教育課程の編成と定期 的な点検・見直しを実施 する。 ③ディプロマ・ポリシー およびカリキュラム・ポ リシーに基づいた適切な 教育方法を展開する。 ④修士課程を見直すとし て、博士課程の設置を 検討する。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 <人間社会学研究科> ①平成30年度より、3つのポリシーの検討を開始し、令和1年度に学力の3要素に対応したDP案を策定した。令和2年度にはCP、APを策定してDPとの整合性を確認し、予定よりも1年前倒しで公表した。 ②平成30年度より開始されたDPの検討プロセスと並行して、DPに基づいた教育課程の見直しを各専攻で作業を進めてきた。令和2年度には論文指導を行う「特別研究」を3専攻共通のものとするため、「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」に分割するとともに、学修内容に見合った単位数に改めた。 ③DP、CPに基づいた教育方法を実施するため、平成30年度はシラバスにそれを明記するよう改善した。また、令和1年度に策定された新DPに基づいて改めて教育方法の見直しを実施した。子ども教育専攻において、令和2年度には社会人入学生の学修環境整備を目的として、ポストコロナにおいてもメディア授業を実施するための検討を開始し、令和4年度よりカリキュラムを開始できるよう、令和3年度中に規則改正を行った。 <看護学研究科> ①1年間の学修を通して、実施した学生アンケート結果より、該当するすべての項目において、ディプロマ・ポリシーが達成されていることを確認した。 ②新たなディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程を実施した。体系的な教育課程の編成の整合性について、令和4年度のシラバスならびにカリキュラムマップの確認を行った。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて適切な教育方法を実施できているか、シラバスにて確認を行った。また、授業の満足度調査においては、約85%の学生が授業方法について満足していたことが確認できた。 <人間社会学研究科><看護学研究科> ④連合大学院構想については、構成大学候補との調整をおこなってきた。	B ↓ B	【高く評価する点】		6
	○評価指標（指標及び達成目標） ・教育に係る3つのポリシー改訂：H33年度の実施		【令和4、5年度の実施状況概略】 ①②③<人間社会学研究科> ①令和1年度にDP、令和2年度にCP、APを改訂済み 社会福祉専攻：②令和4年度に改めてCP及びカリキュラムマップの改訂を行って新カリキュラムを編成した。③令和5年度は新カリキュラムを適切に実施した。 心理臨床専攻：②令和4年度にカリキュラムの見直しを実施し、令和5年度にも更なる修正を行った。③令和5年度は令和4年度に見直したカリキュラムを点検しつつ実施した。 子ども教育専攻：②令和4年度は科目の統廃合、令和5年度は科目の名称変更と内容を見直し、併せてCP及びカリキュラムマップを見直した。③DP及びCPに基づく教育方法で適切にカリキュラムを実施した。 研究科全体：②学生のニーズや社会の要請に合わせて学生を受け入れられるよう、現在の3専攻を令和7年度より1専攻3コース制に組織改編するための検討を行った。 ①②③<看護学研究科> 教育に係る3つのポリシーの検証を継続的に行った。 ・SD・FD部会を通して、各期終了時に大学院生へ学期末アンケートの導入、アンケート結果を教員間で共有し、教育内容方法の再検討を行い、各学期の授業に反映させた。 <人間社会学研究科><看護学研究科> ④連合大学院構想については、関西の大学と調整を行った。 ○目標実績 【教育に係る3つのポリシー改訂】：令和2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を実施した。		【実施（達成）できなかった点】		

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	2【専門教育の充実（人間社会学研究科）】 高度福祉社会の実現に貢献できる職業人育成を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善：全科目（期末）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p><心理臨床専攻> 平成30年度は、新設科目の開設と実習指導マニュアル、実習記録簿の作成、令和1年度は実習評価票の改訂を行った。令和2年度は非常勤相談員の委託制度の導入、コロナ対策の実習ガイドラインの作成など、実習教育の充実に努めた。</p> <p><社会福祉専攻> 平成30年度より段階的にカリキュラムを見直し、地域社会分野と社会福祉分野の統合カリキュラムを策定・実施した。論文指導の充実を目的に、特別研究担当教員の増員を実施した。</p> <p><子ども教育専攻> 平成30年度は専修免許の課程認定を視野にカリキュラムの見直しを実施したが、申請自体は専攻の状況等を勘案し、今後の課題とした。令和1年度にはカリキュラムの充実（新設）を、令和2年度にはその代替措置としての一部科目の廃止を実施した。また、実習施設の充実・多様化のため担当教員を増員した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p><3専攻共通> 令和4年度に3専攻共通の教養科目「研究倫理」の開講を決定し、令和5年度から実施した。また、専攻内や教員個人で運用していた研究指導計画について専攻間で調整を行い、研究科として組織的な研究指導が実施できる体制に改めた。</p> <p><心理臨床専攻> 令和4年度は、実習に際しての感染症対策を厚労省の指針変更や学生の状況も踏まえて修正した。教育・研究指導体制充実のため、新たに授業担当教員と研究指導教員を教員資格審査によって増員した。令和5年度も厚労省の指針変更に伴う実習の際の感染症対策の見直しを行った。</p> <p><社会福祉専攻> 令和4年度にカリキュラムの見直しを行うとともに、教員資格審査によって研究指導教員・同補助教員を増員した。令和5年度はその新たな教員体制で新カリキュラムを実施し、その成果について検証を行った。</p> <p><子ども教育専攻> 令和4年度にメディア授業を取り入れたカリキュラムを開始した。その後もカリキュラムの継続的な見直しや、研究指導体制を強化するため研究指導教員を増員した。実習については学生のニーズに応じた内容が実施できるよう選択方法を改善した。</p> <p>○目標実績 【カリキュラムと科目内容の見直し・改善】：令和4年度以降も引き続きカリキュラムと全科目の科目内容を検討し、必要に応じて令和2年度に改めたカリキュラム・科目の見直し・改善を継続して行った。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		7	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	3 【専門教育の充実（看護学研究科）】 高度看護専門教育の充実を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善：全科目（期末）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①平成30年度は助産実践及び助産アドバンスの両コースに特化した学習内容を検討し、電子シラバスを導入、令和元年、助産実践アドバンスコースのカリキュラムの検討を行いコースを廃止、令和2年度は令和4年度からの助産師カリキュラム改正に合わせ、現カリキュラムの見直しを行い、大学院における助産師教育の充実を検討した。</p> <p>②精神看護専門看護師、助産実践形成コースの実習教育の充実に向け、平成30年度は精神看護専門看護師の指導体制が整備されている実習施設の確保、令和元年度は実習内容についての検討、令和2年度は実習における臨床教授制について再検討を行い、見直しを行った臨床教授制を次年度から実施した。</p> <p>③平成30年度、令和元年度は人間社会学研究科と連携できる科目について検討を行い、令和2年度は看護学研究科の学生に共通科目として人間社会学研究科が開講している科目の受講希望について学務部会で調査を行い、受講希望者へ履修できるように促した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①②将来構想WGと連携を取りながら、カリキュラムを検討し、カリキュラム改正に向けた準備を行った。 ・令和7年度開始に向けたカリキュラム見直しと申請の準備を行った。</p> <p>③他研究科との連携による科目の内容を検討した。</p> <p>○目標実績 ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 平成30年度に助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースのカリキュラムと科目内容の見直しを行った。 令和4、5年度に令和7年度開始に向けたカリキュラム見直しと申請の準備を行った。</p>	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		8

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	4 【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・国家試験合格率：助産師100%（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①平成30、令和1年度は在学生・修了生のアンケート調査を実施し、令和2年度は在学生に満足度調査を実施した後、研究科委員会に報告し、令和3年度は在学生の満足度調査から大学院FDセミナーでその結果を報告した上で、教員間で意見交換を行い、学修成果を検証した。令和3年度に社会人修了生の満足度調査も実施した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①令和4年度及び令和5年度とも、在学生・修了生に満足度調査を実施した後、各研究科に報告し、学修成果について教員間で検討した。なお社会人修了生の満足度調査では、令和4年度及び令和5年度ともに、全員から満足であるという回答を得た。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国家試験合格率（助産師）</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>66.7%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	国家試験合格率（助産師）	100%	100%	100%	100%	66.7%	100%	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 7 「資格試験合格率、免許の種類」	9
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
国家試験合格率（助産師）	100%	100%	100%	100%	66.7%	100%															

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号													
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由															
3 教育活動の活性化	1 【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・FD活動等への教員参加率：100%（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①②③平成30年度は、他大学の授業参観システムの情報収集を実施・検討を行った。令和1年度は、実施計画案を作成した。令和2年度は、1月に授業参観ウィークを実施した。令和3年度は、令和2年度のアンケート結果を踏まえ、12月に日程を変更して開催した。各年度、他大学、他機関と連携したFD活動に随時参加した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】 （学部） ①令和4年度は6つの指導方法研修等を実施し参加教員数延べ277名、令和5年度は5つの指導方法研修等を実施し、参加教員数延べ221名であった。 ②令和4年度は授業参観ウィークを10月31日～11月4日の4日間実施した（36科目に教員36名、高校生114名参加）。令和5年度は対象高校数を令和4年度より10校増やし、授業参観ウィークを10月30日～11月2日に実施した（34科目に教員延べ27名、高校生延べ57名参加）。授業参観ウィークについてのアンケート（全教員対象、11月13日～11月20日）を実施した。 ③令和4年度は、学外で実施されたFDセミナーに1名の教員が参加、令和5年度は、延べ4名の教員が参加するなど、他機関と連携したFD活動を行った。</p> <p>（大学院） ①②③令和4年度及び令和5年度ともに、6月に授業参観ウィークを実施した。他大学、他機関と連携したFD活動に参加した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動等への教員参加率</td> <td>95.4%</td> <td>93.3%</td> <td>93.2%</td> <td>99.0%</td> <td>93.8%</td> <td>95.9%</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	FD活動等への教員参加率	95.4%	93.3%	93.2%	99.0%	93.8%	95.9%	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p> <p style="text-align: center;">B ↓ B</p>	No. 9 「FD」	10
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度														
FD活動等への教員参加率	95.4%	93.3%	93.2%	99.0%	93.8%	95.9%														

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※3 教育活動の活性化の続き	2 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】 ①学生の学修時間の実態を把握することで、学修時間確保に必要な対策を検討する。 ②アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。 ③学生自習グループの活動を支援する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数（講義科目）：20%増加（期末）	2	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①②③各年度、アンケート調査及び聞き取り調査を実施し、それぞれFD部会において検討を行い、学修時間確保に必要な対策を立案した。 ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業についてFD活動に反映させた。 ・学生自習グループ活動に支援を行った。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①アンケート調査及び聞き取り調査を実施し、それぞれFD部会において検討を行い、学修時間確保に必要な対策を立案した。調査については、令和4年度は、「GPS-Academic」及び文科省全国学生調査を実施した。令和5年度は、「GPS-Academic」及び「学生生活総合アンケート」を実施した。 ②令和4年度、令和5年度とも、eラーニング講習会、アクティブ・ラーニング研修会を複数回実施し、学生の主体的な学修を促す教育方法の実践を促進した。 ③令和4年度は、学生自習グループの活動状況を把握し、5号館の自習室の機の整備、5号館自習室の利用時の手続きのWEB登録への切り替え、全体の利用ルールの明確化と学生への周知を行った。新利用ルールの周知状況とルールの遵守状況等を調査した。令和5年度は、学生の自習室の利用状況について調査・分析を行い、利用方法等についての周知ポスターの作成や利用の促進を図った。 ○目標実績 [アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数（講義科目）]： 平成30年度 全530科目中105科目（19.8%） 令和4年度 全542科目中404科目（74.5%） 54.7ポイント 増加	暫定 ↓ 中期 B ↓ A	【高く評価する点】 アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修を促す方法についての研修を継続的に実施してきたことから、教員に広くアクティブ・ラーニング等の手法が浸透した。その結果、コロナ禍においても工夫しつつ、大幅にアクティブ・ラーニングを取り入れる授業科目数を増加させることができた。 【実施（達成）できなかった点】		11

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※3 教育活動の活性化の続き	<p>3 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】</p> <p>①教育活動の調査と教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制を整備する。</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備：H33年度の実施</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①令和1年度はアクティブ・ラーニングの効果について調査を行った。令和2年度はコロナ禍での授業形態の変更に伴い、「遠隔授業での取り組みの実態」について教員を対象に調査を行い、複数の方法を用いた科目は主観的評価が高い傾向であることが確認できた。令和3年度は授業方法に着目し、「eラーニングシステム活用による教育効果」について教員と学生に調査を行い、eラーニングシステムの使用頻度と学習効果が確認できた。</p> <p>②「成績評価の分布に関する調査及び検証」を継続して行なった。令和2年度にはコロナ禍でのeラーニングの増加に伴い学科・基盤教育別にコロナ禍前後の分布比較を行い報告書にした。令和3年度からは科目別学科等別の成績分布の分析結果を文書として各学科等に通知した。各学科等において対策等を授業実施評価レポートにまとめて報告する体制が整備された。</p> <p>③成績評価の客観性、厳格性の担保のための全学体制として、令和1年度に成績評価ガイドラインを作成し、令和2年度から適用した。また、令和2年度にアセスメント・プランを策定し、令和3年度より実施した。上記に加え、成績評価の客観性、厳格性の担保をするために、成績評価基準をシラバスに明記し、成績評価後には全科目及び学科等別の成績分布を教務・共通教育部会が分析した。分析結果は各学科等に通知し、新たに作られた成績評価アンケートの結果分析とともに各学科等で問題点と対策を検討した。検討結果は授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に提出し、その対策の成果を次年度の授業実施評価レポートにて報告する体制が整備された。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①令和4年度はeラーニングのシステムをMoodleに変更したことから、教育効果にどのような影響を与えたかを検証するために、年度末に教員を対象に「eラーニング（Moodle）活用による教育効果の調査」を実施した。令和5年度に教務・共通教育部会にて、調査内容を分析した結果、Moodleの導入は科目管理や動画・授業資料の提示や課題の提示・提出など多くの点に有用性を感じていることが確認できた。これらの結果については、『2022年度「eラーニングシステム（Moodle）活用による教育効果の検証」に関するアンケート調査報告書』としてまとめ、報告した。</p> <p>②令和4年度は、教務・共通教育部会において、全科目及び学科・コース・基盤教育別の成績評価の分布および受講者数について分析を行い、分析結果と成績分布に偏りがみられる科目の指摘を成績評価アンケートの結果も合わせて各学科に通知した。各学科は指摘された点を中心に科目ごとに成績評価等の検討を行い、見直しが必要な点については対策をたて、『授業実施評価レポート』を作成し、公表した。これらの内容については、学部長を経て教務入試委員会に報告した。</p> <p>③アセスメント・プランの指標に基づき、卒業時DP到達度アンケート、成績評価アンケート、成績評価分布及び受講者数の調査結果を教務・共通教育部会にて検証し、報告書を作成し、学科・コースに通知した。各学科で指摘のあった内容について検討し、必要な対策をたて『授業実施評価レポート』としてまとめた。これらの報告書に進路生活支援部会による、就職、進学、資格試験試験の結果分析報告等の内容を加え、各学科ごとに『学位プログラムDPレビュー』を作成し、教務入試委員会に提出した。『学位プログラムDPレビュー』は、ホームページに掲載し公表した。また卒業生・就職先アンケート結果分析を学科等に文書にて報告した。各科目の成績評価については、大学の成績評価の方法と基準に従い実施し、アセスメント・プランに従い評価結果の点検を行っていることを、大学及び各学科のカリキュラム・ポリシーに明示した。</p> <p>○目標実績 【成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備】：令和3年度に全科目及び学科等別の成績分布を教務・共通教育部会が分析した結果を各学科等に通知し、新たに作られた成績評価アンケートの結果分析とともに各学科等で問題点と対策を検討し、その結果を授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に提出し、その対策の成果を次年度の授業実施評価レポートにて報告する体制が整備された。これらの体制に基づき、教務・共通教育部会、各学科を中心に教育活動の定期的な点検と多角的な評価を行った。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>令和2年度に策定したアセスメント・プランの指標に基づき、令和3年度より教育活動について学生アンケートや成績分布や受講者数の調査などから多角的に検証し、必要に応じて見直しと改善を行った。その内容について、各学科ごとに『学位プログラムDPレビュー』を作成しホームページ上に公表し、教育活動の活性化に取り組んだ。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>			

12

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保 アドミッション・ポリシーにより求める学生像を明確にし、高等学校等との連携を図り、福岡県立大学が求める資質と能力を備えた意欲ある入学者を確保する。	1 【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】 求める学生像、入学者選抜方針をアドミッション・ポリシーとして明確化し、意欲ある学生を確保するための戦略的な広報活動を行う。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 <学部> アドミッション・ポリシーを検討、令和3年度に改訂を行い、高校訪問・オープンキャンパスでの広報活動及び大学案内等に明記し、認知率は平成30年度66.6%、令和1年度74.1%、令和2年度84.0%、令和3年度83.6%と増えている。オープンキャンパスは令和2、3年度はコロナ禍によりWEB開催となった。開催にあたっては教職員や学生が協働で手作りの紹介動画を作成し、キャンパスの雰囲気や画面で伝えることができ、動画の視聴と個別相談を行い、参加数は1,000人以上を維持し、良好評価も95%以上を維持している。一方、入試説明会は申し込みは行ったものの、開催が中止となったものもあり、目標値10会場には到達できなかったが、開催会場の情報を取りながら6会場に参加することができた。 <大学院> アドミッション・ポリシーの明確化： 平成30年度に改訂に向けた検討を行った。令和2年度に学力の三要素に基づくディプロマ・ポリシーの修正に対応する形で承認された。令和3年度に新たなアドミッション・ポリシーをホームページと募集要項に明示し、周知した。 戦略的な広報活動： オープンキャンパス、個別相談：平成30、令和1年度は対面で、令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで開催した。 ホームページ：継続的な更新を行なった。新たに作成した人間社会学研究科のパンフレットを掲載した。 パンフレット等：毎年度6月頃に約770か所の関係機関に大学院募集ポスターを送付した。令和2年度は社会福祉専攻、子ども教育専攻のパンフレットも送付した。毎年度7月頃に関係機関（246か所）に看護学研究科のパンフレットを送付した。令和1年度に看護学研究科パンフレットを発行・配付した。令和2年度に新たに人間社会学研究科（3専攻）のパンフレットを作成し、令和3年度に同窓会の会報誌に同封し配布した。	【高く評価する点】 オープンキャンパスの開催形式をコロナ禍の令和2年より新たに始めたリモートに加え、予約制を取り入れた。令和4年よりリモートと並行して対面型を再開した結果、令和4、5年度は令和3年度よりも大幅に参加者が増加した。	B ↓ A	No.1 ②入学者選抜試験（大学院） ③受験生の県内・県外の比率（学部） No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.6 「オープンキャンパス」	13

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																								
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																										
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	1	1	<p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p><学部> アドミッション・ポリシーの明確化： 大学案内の入試概要ページにアドミッション・ポリシーを記載し、小論文・面接問題集に、アドミッション・ポリシーと小論文の関係を記載した。令和4年度よりインターネット出願においてアドミッション・ポリシーと試験内容の対応を提示した。 戦略的な広報活動： SNS（インスタグラム）にて情報発信した。また本学ホームページを精査し、広報としての強化を図る形で修正を行った。高校訪問及び入試説明会は全教員で行う体制で実施し、アドミッション・ポリシーを含めた広報活動を強化した。入試広報活動手許資料を大幅に改訂し、スライドや動画の統一化を進めた。入試部会内の広報小部会がオープンキャンパスでの動画作成の管理を行った。令和4、5年度はオープンキャンパスをリモートと対面の両方で実施した。令和4年度の対面では予約制及び人数制限を行い、令和5年度の対面では予約制及び人数制限ありと人数制限なしの内容に分けて実施した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者のAP認知率</td> <td>66.6%</td> <td>74.1%</td> <td>84.0%</td> <td>83.6%</td> <td>85.0%</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td>オープンキャンパス参加数</td> <td>2,133人</td> <td>2,057人</td> <td>698人</td> <td>1,276人</td> <td>1,737人</td> <td>1,618人</td> </tr> <tr> <td>良好評価（アンケート）</td> <td>97.0%</td> <td>95.3%</td> <td>97.4%</td> <td>98.4%</td> <td>98.7%</td> <td>98.3%</td> </tr> <tr> <td>入試説明会参加数</td> <td>10回</td> <td>11回</td> <td>8回</td> <td>6回</td> <td>12回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>良好評価（アンケート）</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99.4%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>訪問高校数</td> <td>41校</td> <td>37校</td> <td>6校</td> <td>33校</td> <td>39校</td> <td>32校</td> </tr> <tr> <td>良好評価（アンケート）</td> <td>97.7%</td> <td>97.7%</td> <td>97.9%</td> <td>99.1%</td> <td>99.0%</td> <td>99.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p><大学院> 前年度に引き続き、アドミッション・ポリシーをホームページと募集要項に明示した。令和4年度から、オンラインだけでなく対面でのオープンキャンパス・個別相談も再開した。令和4年度の参加者は、人間社会学研究科では個別相談、大学院進学説明会あわせて119名であった。同様に看護学研究科は46名であった。令和5年度は、人間社会学研究科は模擬授業（心理臨床専攻のみ）も実施した。その他、専攻独自で様々な企画を行い、参加人数は合計92名であった。看護学研究科は28名であった。ホームページに関しては継続的な更新を行ない、年度ごとに作成したパンフレットを掲載した。また、令和4年度から入試相談用メールを研究科のコース毎に新設した。 毎年度6月頃に関係機関に大学院募集ポスターを送付した。人間社会学研究科では、令和4年度に3専攻のリーフレットを刷新し、社会福祉専攻、子ども教育専攻のパンフレットと共に、同窓会や関係機関など合計約800ヶ所に毎年送付した。看護学研究科では令和4年度から卒業生が勤務する施設も追加し、関係機関にパンフレットを送付した（約300ヶ所）。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	入学者のAP認知率	66.6%	74.1%	84.0%	83.6%	85.0%	85.0%	オープンキャンパス参加数	2,133人	2,057人	698人	1,276人	1,737人	1,618人	良好評価（アンケート）	97.0%	95.3%	97.4%	98.4%	98.7%	98.3%	入試説明会参加数	10回	11回	8回	6回	12回	10回	良好評価（アンケート）	100%	100%	99.4%	100%	100%	100%	訪問高校数	41校	37校	6校	33校	39校	32校	良好評価（アンケート）	97.7%	97.7%	97.9%	99.1%	99.0%	99.0%	B ↓ A	【実施（達成）できなかった点】	No. 1 ②入学者選抜試験（大学院） ③受験生の県内・県外の比率（学部） No. 3 「高校訪問」 No. 4 「入試説明会」 No. 6 「オープンキャンパス」	13
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																									
入学者のAP認知率	66.6%	74.1%	84.0%	83.6%	85.0%	85.0%																																																									
オープンキャンパス参加数	2,133人	2,057人	698人	1,276人	1,737人	1,618人																																																									
良好評価（アンケート）	97.0%	95.3%	97.4%	98.4%	98.7%	98.3%																																																									
入試説明会参加数	10回	11回	8回	6回	12回	10回																																																									
良好評価（アンケート）	100%	100%	99.4%	100%	100%	100%																																																									
訪問高校数	41校	37校	6校	33校	39校	32校																																																									
良好評価（アンケート）	97.7%	97.7%	97.9%	99.1%	99.0%	99.0%																																																									

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																		
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																				
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	2 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】 アドミッション・ポリシーに基づいた多様な入学選抜試験を実施するとともに、アドミッション・オフィスにおいてIRを活用し、入学選抜方法の検証・改善を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・志願倍率<全学（学部）の志願倍率（一般入試）> >（志願者数） / （募集人員） : 全学4倍以上（単年） ・充足率<大学院> >（入学者数） / （入学定員） : 大学院各研究科100%（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p><学部> 平成30年度より、アドミッション・オフィス設置に向けての準備およびインターネット出願への移行準備を進め、令和1年度（令和2年度入試）よりアドミッション・オフィスの試行及びインターネット出願を開始した。一方、令和2年度および令和3年度は、コロナ禍のため学校推薦型選抜では集団面接を行わず、調査書および推薦書によりアドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行った。入学試験の実施においては、感染拡大の防止の観点から、会場の収容人数の50%以下の受験数とし、換気、トイレ案内や退出時の誘導の工夫などを行った。</p> <p><大学院> 平成30年度に、社会人志願者の確保のため、人間社会学研究科では英語を小論文に代えて受験する受験者の受験資格のうち、社会人経験年数を短縮した（4年→社会福祉専攻2年、心理臨床専攻・子ども教育専攻3年）。令和1年度に看護学研究科の入試選抜を改編した。人間社会学研究科では、入学選抜方法の検証に向けて情報収集を行った。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p><学部> 令和4年度にアドミッション・オフィスを本格運用し、データに基づく入学選抜方法の検証を開始した。また、令和4年度に人間社会学部「学校推薦型選抜」の「社会的養護を必要とする者」の枠を設けた。令和5年度には、令和3年度に開始した看護学部「全国児童養護施設特別選抜」の対象者を広げ、人間社会学部の「社会的養護の必要とする者」と対象者を同一にした。また対象者の拡大に伴い、「全国児童養護施設特別選抜」を「全国児童養護施設等特別選抜」と改称したほか、人間社会学部の「社会的養護を必要とする者」を学校推薦型選抜の「特別枠」とし、枠を明確化した。その結果、1名が「特別枠」で合格した。アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保ができていたかを検証するため、学校推薦型選抜における集団面接時の入学生と調査書および推薦書からアドミッション・ポリシーへの適合性を評価する方法に転換後の入学生のGPAの比較分析を行なったほか、各学科の各種選抜方法の受験状況と入学後のGPAを照らし合わせる形で検証した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志願倍率（倍）</td> <td>7.7</td> <td>5.1</td> <td>7.0</td> <td>4.9</td> <td>5.7</td> <td>6.2</td> </tr> </tbody> </table> <p><大学院> 令和4年度は、アドミッション・ポリシーや入学試験に関する情報を志願者が入手しやすくなるよう、ホームページのレイアウト変更やコンテンツの充実を行った。各研究科では受験生の確保に向けた出願前の事前相談を対面・オンラインで随時実施するとともに、各専攻の専用メールアドレスを設定して、志願者が相談しやすい環境整備を行った。また、入学選抜方法の検証を行い、秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通の問題に統一し、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。令和5年度には、これまで秋季・春季としていた入試の名称を一般選抜・追加選抜に改めた。各専攻では新たな入学者を確保するための対策として、アドミッション・ポリシーに沿った形で追加選抜入試の試験科目等の変更を行った。看護学研究科では、他大学が入試時期を早めていることから、一般選抜に先駆けて自己推薦型入試を実施した。</p> <p>○目標実績 ・充足率（入学者数） / （入学定員）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間社会学研究科</td> <td>73.3%</td> <td>73.3%</td> <td>66.7%</td> <td>80.0%</td> <td>106.7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>看護学研究科</td> <td>108.3%</td> <td>66.7%</td> <td>75.0%</td> <td>66.7%</td> <td>33.3%</td> <td>91.7%</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	志願倍率（倍）	7.7	5.1	7.0	4.9	5.7	6.2		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	人間社会学研究科	73.3%	73.3%	66.7%	80.0%	106.7%	100%	看護学研究科	108.3%	66.7%	75.0%	66.7%	33.3%	91.7%	<p>【高く評価する点】</p> <p><学部> 社会的養護等を必要とする受験者のための枠を設けた。また、オープンキャンパスや高校訪問の資料を高校生に伝わりやすいように大幅に改訂する等、広報に努めた結果、学部的一般入試の志願倍率が、全国の国公立大学の平均や公立大学の平均を大きく上回った。</p> <table border="1"> <caption>【R6(2024)年度の志願倍率】全国平均と本学の比較</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>国立大学平均</th> <th>公立大学平均</th> <th>本学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期</td> <td>2.9倍</td> <td>3.3倍</td> <td>3.7倍</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>1.0倍</td> <td>11.2倍</td> <td>14.2倍</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4.3倍</td> <td>5.5倍</td> <td>6.2倍</td> </tr> </tbody> </table> <p><大学院> 入学選抜方法の検証や改善を行ったことにより、人間社会学研究科では令和5年度の充足率が100%に達した。一方、看護学研究科も令和5年度に自己推薦型入試を新たに実施して、91.7%（前年度比58.4ポイント増）まで充足率が改善した。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		国立大学平均	公立大学平均	本学	前期	2.9倍	3.3倍	3.7倍	後期	1.0倍	11.2倍	14.2倍	合計	4.3倍	5.5倍	6.2倍	No.1 「①入学選抜試験（学部） ②入学選抜試験（大学院）」	14
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																			
志願倍率（倍）	7.7	5.1	7.0	4.9	5.7	6.2																																																			
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																			
人間社会学研究科	73.3%	73.3%	66.7%	80.0%	106.7%	100%																																																			
看護学研究科	108.3%	66.7%	75.0%	66.7%	33.3%	91.7%																																																			
	国立大学平均	公立大学平均	本学																																																						
前期	2.9倍	3.3倍	3.7倍																																																						
後期	1.0倍	11.2倍	14.2倍																																																						
合計	4.3倍	5.5倍	6.2倍																																																						

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	3) 【高大連携の取組の推進】 高等学校等と緊密な連携のもと、高校生に対して大学での学修内容への興味や進学意欲を高める高大連携の取組を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・高大連携授業への参加者の満足度：良好評価80%以上（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>高大連携教職員合同研修会は、オープンキャンパスと同時開催し、平成30年度と令和1年度は本学において、高校の先生向けの受験指導セミナーや個別相談を行った。令和2年度および令和3年度はWEB開催とし、令和2年度は入試の動向のディスカッション、令和3年度は個別相談を行った。高大連携授業及び出前講義を実施し、令和2年度と令和3年度はWEB開催となったが、参加者の満足度は高かった。連携教育に関する協定に基づき、令和2年度に博多青松高校から1名の生徒の受講を受け入れた。また、西田川高校と協定を結び、令和4年度から受講を受け入れる。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>高大連携教職員合同研修会は、オープンキャンパスと同時開催し、令和4、5年度は高校の先生向けの個別相談を行った。また、授業参観ウィークにおける高校生への授業公開及び高等学校のニーズによる出前講座を実施した。さらに、連携教育に関する協定に基づき、令和4年度から西田川高等学校の生徒の受講の受け入れを開始し、令和4、5年度は毎年2名の生徒が本学の講義計2科目を履修した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)</td> <td>96.0</td> <td>100</td> <td>92.3</td> <td>100</td> <td>98.4</td> <td>98.3</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)	96.0	100	92.3	100	98.4	98.3	B ↓ A	<p>【高く評価する点】</p> <p>令和4、5年度に高大連携教育に関する協定の締結校である県立西田川高校の生徒4名（令和4：2名、令和5：2名）を科目等履修生として受け入れ、全員履修単位を取得した。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 5 「出前講義」	15
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)	96.0	100	92.3	100	98.4	98.3															

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
5	<p>学生の学修支援と生活支援</p> <p>学生が自主的で多様な学修活動が行えるような学修環境の整備や、留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①学生の自主的学修を促すため、継続的に学生および教員に分館ラーニング・コモンスの使用方法和活用事例などを広報すると同時に、パーティション及びモニターを設置した。本館に設置した40台のパソコンを無線から有線LANに切り替え、学習環境を整備した。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、分館ラーニング・コモンスを個別学習の場として活用し、その活用促進のために古くなったパソコンを更新した。また、感染収束後を見据えてラーニング・コモンスにおけるワークショップ等の企画案などの検討、図書館利用・資料検索のための文献検索演習の開催、学生からの要望が多かった本館入館時の手荷物持ち込みを認める試行などを実施し、継続する予定である。将来の図書館構想を検討するため、電子書籍に関する学習会も実施した。</p> <p>②平成30年度に、安全な情報ネットワークの活用を徹底するために情報セキュリティマニュアルを作成し、教職員および学生への周知徹底を図った。令和1年度に、情報処理教室の機器更新を行った。令和2年度に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなど、全学的な遠隔授業の実施に対応した。令和3年度に、令和4年度に実施する学内LAN再構築計画を立て、令和4年度から新システムのMoodle導入に向けて教員向けのMoodleの講習会を開催した。</p> <p>③学生フェスティバル「かんだま祭」は年に1回開催し、令和3年度で13回目を迎えた。令和2年度、3年度はともにオンラインで開催し、また高校生への案内を強化し、多くの高校生の参加を得ている。大学を越えたアクティブラーニングの場「かえる場」は、令和1年度から開始し、第1回は対面にて、2回目、3回目はオンラインで開催している。</p> <p>④社会人大学院生が学びやすい学修環境整備を図るため、平成30、令和1年度は在学生・修了生のアンケート調査を実施し、令和2年度は在学生に満足度調査を実施し、令和3年度は在学生・社会人修了生の満足度調査を実施し、それらから満足度の状況を把握した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①②「学生の自主的学習を促すために、学術情報基盤としての図書館を整備する」について、図書館運営部では、教育分野ワーキンググループを設置し、ラーニング・コモンスの活用促進を含めた学生および教職員の図書館利用を検討した。学生の図書館の利用目的として「試験勉強やレポート作成」が58.7%を占め、「友人と談話できるスペース」や「より広い自習室」などの希望が調査結果から明らかとなった。そのため、ラーニングコモンスを、グループワークを含めて多様に活用できるよう変更した。さらに、本館3階のオープンスペース及び総合資料室の利用促進のため、改革案を検討した。「学生の自主的学習を促すために、学術情報基盤としての情報ネットワーク環境を整備する」については、eラーニングシステムをmoodleに更新した。新学内LAN稼働計画の一環である、メールシステムを更新し令和4年10月から稼働している。稼働に伴う整備及び点検を実施した。学修状況のポートフォリオ導入を検討した。</p> <p>③大学間の学生コンソーシアムの取組として学生フェスティバル「かんだま祭」並びにその企画会議である学生コンソーシアム会議、さらに大学を越えたアクティブラーニングの場である「かえる場」を毎年開催し、学生の大学を越えた学びの交流の場を設け展開した。令和4年度はオンラインで、令和5年度は対面とオンラインで開催した。</p> <p>④社会人大学院生が学びやすい学修環境整備を図るため、令和4年度及び令和5年度ともに在学生・修了生の満足度を把握するために調査を実施した。なお3月に修了生の満足度調査を実施し、令和4年度及び令和5年度ともに全員から満足であるという回答を得た。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 13 「図書館」	16	

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																	
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																			
	○評価指標（指標及び達成目標） ・図書館入館者数：36,000人以上（単年） ・図書貸出数：24,000冊以上（単年） ・eラーニングコース開設数：110以上（単年） ・eラーニングシステムの学生利用率：全学平均80%以上（単年） ・社会人学生の満足度：良好評価70%以上（単年）		○目標実績 <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数（人）</td> <td>37,084</td> <td>45,223</td> <td>39,158</td> <td>113,036</td> <td>127,209</td> <td>131,974</td> </tr> <tr> <td>貸出数（冊）</td> <td>24,143</td> <td>40,790</td> <td>35,974</td> <td>104,114</td> <td>117,836</td> <td>122,804</td> </tr> <tr> <td>リポジトリ（件数）</td> <td>—</td> <td>11,163</td> <td>27,566</td> <td>94,045</td> <td>108,939</td> <td>114,523</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>eラーニングコース開設数</td> <td>135</td> <td>142</td> <td>375</td> <td>281</td> <td>255</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>eラーニング学生利用率</td> <td>87.6%</td> <td>88.8%</td> <td>98.8%</td> <td>98.2%</td> <td>99.0%</td> <td>95.0%</td> </tr> </tbody> </table> 社会人学生の満足度 令和5年度良好評価53.6%（終了時調査では良好評価100%）		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	入館者数（人）	37,084	45,223	39,158	113,036	127,209	131,974	貸出数（冊）	24,143	40,790	35,974	104,114	117,836	122,804	リポジトリ（件数）	—	11,163	27,566	94,045	108,939	114,523		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	eラーニングコース開設数	135	142	375	281	255	300	eラーニング学生利用率	87.6%	88.8%	98.8%	98.2%	99.0%	95.0%				
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																		
入館者数（人）	37,084	45,223	39,158	113,036	127,209	131,974																																																		
貸出数（冊）	24,143	40,790	35,974	104,114	117,836	122,804																																																		
リポジトリ（件数）	—	11,163	27,566	94,045	108,939	114,523																																																		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																		
eラーニングコース開設数	135	142	375	281	255	300																																																		
eラーニング学生利用率	87.6%	88.8%	98.8%	98.2%	99.0%	95.0%																																																		

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																							
※5 学生の学修支援と生活支援の続き	<p>2 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】</p> <p>①成績不振の学生への相談支援を行う。 ②留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援の充実に向けた見直しを行う。 ③学生が安心して勉学に専念できるような相談・支援体制の整備として、学生総合支援センター（仮称）を開設する。</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・学生総合支援センター（仮称）の開設：H32年度の実施</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①②③GPA2.0未満の成績不振の学生に対して、学年担任、アドバイザー、ゼミ担当教員等が面談の上、支援を提供した。また、令和2年度に障がいのある学生に対する支援を実施する学生総合支援センターを設置し、令和3年度より学内規則に基づき障がいのある学生への支援を実施した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①②③GPA2.0未満の成績不振学生に対して、学年担任、アドバイザー、ゼミ担当教員などが面談の上、支援を提供した。また、令和2年度に設置した学生総合支援センターを中心として、障がい・病気により配慮を必要とする学生に対する支援を実施した。</p> <p>○目標実績 [学生総合支援センター（仮称）の開設]：令和2年度に学生総合支援センターを開設した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GPAによる支援件数</td> <td>133</td> <td>145</td> <td>138</td> <td>161</td> <td>141</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td>障がい等に係る配慮決定件数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>7</td> <td>19</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※延べ数</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	GPAによる支援件数	133	145	138	161	141	174	障がい等に係る配慮決定件数				7	19	32	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		17
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																						
GPAによる支援件数	133	145	138	161	141	174																						
障がい等に係る配慮決定件数				7	19	32																						

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																																																												
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																																																																														
※5 学生の学修支援と生活支援の続き	3 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策を検討する。 ②外部資金等を活用した本学独自の支援策を検討する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①寄付金を活用した特別奨学金「真島・市場特別奨学金」を新設し、支援を行った。 ②本学独自の授業料減免及び分割納付を実施した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①授業料減免及び分割納付については、現行の制度で引き続き運用を行った。 ②経済的に支援の必要な学生については、随時、相談を受け、支援策を講じることで対応した。</p> <p>「授業料減免実施人数」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全額減免</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>182 (10)</td> <td>178 (0)</td> <td>167 (0)</td> <td>163 (0)</td> </tr> <tr> <td>2/3減免</td> <td></td> <td></td> <td>109 (0)</td> <td>94 (0)</td> <td>83 (0)</td> <td>81 (0)</td> </tr> <tr> <td>半額減免</td> <td>90</td> <td>79</td> <td>13 (13)</td> <td>11 (11)</td> <td>8 (8)</td> <td>3 (3)</td> </tr> <tr> <td>1/3減免</td> <td></td> <td></td> <td>58 (0)</td> <td>47 (0)</td> <td>47 (0)</td> <td>47 (0)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>106</td> <td>97</td> <td>362 (23)</td> <td>330 (11)</td> <td>305 (8)</td> <td>294 (3)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ ()内は、大学独自の制度による減免・内数 ※ 2年度より国の就学支援新制度実施</p> <p>「外部資金等を活用した修学支援実施人数」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">学内制度</td> <td>和田奨学基金 (H19.10創設)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別奨学金 (H18.12創設、R2.3廃止)</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>真島・市場特別奨学金 (R2.4創設)</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">学外制度</td> <td>日本学生支援機構</td> <td>648</td> <td>641</td> <td>790</td> <td>749</td> <td>738</td> <td>697</td> </tr> <tr> <td>その他各自治体奨学金</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>受給学生数合計</td> <td>673</td> <td>663</td> <td>816</td> <td>766</td> <td>757</td> <td>720</td> </tr> <tr> <td>受給率 (受給学生数/総学生数)</td> <td>59.8%</td> <td>58.7%</td> <td>73.8%</td> <td>70.1%</td> <td>70.3%</td> <td>66.6%</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	全額減免	16	18	182 (10)	178 (0)	167 (0)	163 (0)	2/3減免			109 (0)	94 (0)	83 (0)	81 (0)	半額減免	90	79	13 (13)	11 (11)	8 (8)	3 (3)	1/3減免			58 (0)	47 (0)	47 (0)	47 (0)	計	106	97	362 (23)	330 (11)	305 (8)	294 (3)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考	学内制度	和田奨学基金 (H19.10創設)	1	2	2	2	2		特別奨学金 (H18.12創設、R2.3廃止)	1	0					真島・市場特別奨学金 (R2.4創設)			3	0	1	0	学外制度	日本学生支援機構	648	641	790	749	738	697	その他各自治体奨学金	9	10	9	3	2	2	その他	14	10	12	12	14	19	合計	受給学生数合計	673	663	816	766	757	720	受給率 (受給学生数/総学生数)	59.8%	58.7%	73.8%	70.1%	70.3%	66.6%	<p>【高く評価する点】</p> <p>中期計画期間中は「検討」となっていた「外部資金を活用した本学独自の支援策」として、令和2年度に「真島・市場特別奨学金」を導入実施することができた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No.10 「奨学金受給」	18
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																																																																													
全額減免	16	18	182 (10)	178 (0)	167 (0)	163 (0)																																																																																																													
2/3減免			109 (0)	94 (0)	83 (0)	81 (0)																																																																																																													
半額減免	90	79	13 (13)	11 (11)	8 (8)	3 (3)																																																																																																													
1/3減免			58 (0)	47 (0)	47 (0)	47 (0)																																																																																																													
計	106	97	362 (23)	330 (11)	305 (8)	294 (3)																																																																																																													
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考																																																																																																												
学内制度	和田奨学基金 (H19.10創設)	1	2	2	2	2																																																																																																													
	特別奨学金 (H18.12創設、R2.3廃止)	1	0																																																																																																																
	真島・市場特別奨学金 (R2.4創設)			3	0	1	0																																																																																																												
学外制度	日本学生支援機構	648	641	790	749	738	697																																																																																																												
	その他各自治体奨学金	9	10	9	3	2	2																																																																																																												
	その他	14	10	12	12	14	19																																																																																																												
合計	受給学生数合計	673	663	816	766	757	720																																																																																																												
	受給率 (受給学生数/総学生数)	59.8%	58.7%	73.8%	70.1%	70.3%	66.6%																																																																																																												

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
	○評価指標（指標及び達成目標） ・授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策の検討：H35年度の実施		○目標実績 ・授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策の検討： 制度改善として令和2年度に本学独自の支援である「真島・市場特別奨学金」を導入実施した。				

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																														
6 キャリア支援	<p>1 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】</p> <p>①キャリア形成支援プログラム関連科目の充実により、全学的キャリア教育を推進する。 ②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。 ③キャリアサポートセンター、就業力向上支援室、学生支援班の連携により、学生キャリア支援体制を強化する。 ④卒業生に対する就職活動支援を行う。 ⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を構築する。</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・就職率（就職者数／就職希望者数）：95%以上（単年）</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①②キャリアマネジメント関連科目の既存科目を改善実施した。 ③キャリアに関わる部署間においては、情報共有を行い学生の支援強化を行い、令和2年度には、3部署を統合し、学生のキャリア支援を一元化に支援する体制を整備した。 ④本学が得た求人情報について卒業生へ情報提供を実施。また、キャリアカウンセラーによる就職相談も行った。 ⑤学生への評価・表彰制度について評価対象活動の拡大を行い、令和元年度に不登校・ひきこもりサポートセンターの活動参加者に対する表彰を行った。また、各年度において教職員へ推薦依頼を実施している。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①②キャリア教育の授業科目として実施するプレ・インターンシップの自己紹介書の作成指導・添削を、学生支援班が協力して行った。 学生支援班が開催する就職支援講座に加え、株式会社マイナビのキャリアサポーターによる就職支援講座を実施した。 ③キャリア相談室の専任キャリアコンサルタントが就職に関連した事務業務を兼任することで、学内就職支援関連行事の内容を専門的な視点で見直すことを可能とし、就職・キャリア支援体制の連携強化・充実を図った。キャリア相談については、福岡県若者就職支援センターの大学生等就活支援事業である「個別就職相談」を活用することで、学生が相談できる時間枠を増やした。 ④就職支援の窓口を一本化することで、卒業生にとっても相談先がより分かりやすい体制とした。また、本学学生専用の就活ナビサイトや各学科ゼミ教員を通して、卒業生に対しても求人情報の提供を行った。 ⑤表彰対象となる活動につき、教職員への推薦を引き続き依頼した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間社会学部就職率 (%)</td> <td>99.3</td> <td>100</td> <td>97.8</td> <td>97.9</td> <td>98.5</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>看護学部就職率 (%)</td> <td>98.7</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>全体就職率 (%)</td> <td>99.1</td> <td>100</td> <td>98.7</td> <td>98.7</td> <td>99.0</td> <td>99.0</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	人間社会学部就職率 (%)	99.3	100	97.8	97.9	98.5	98.4	看護学部就職率 (%)	98.7	100	100	100	100	100	全体就職率 (%)	99.1	100	98.7	98.7	99.0	99.0	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	B ↓ B	No. 16 「就職状況」	19
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																													
人間社会学部就職率 (%)	99.3	100	97.8	97.9	98.5	98.4																													
看護学部就職率 (%)	98.7	100	100	100	100	100																													
全体就職率 (%)	99.1	100	98.7	98.7	99.0	99.0																													

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号													
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由															
※6 キャリア支援の続き	<p>2 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】</p> <p>①既存のインターンシップ実施体制を検証し、継続的キャリア形成の観点から効果的なインターンシップの推進を図る。 ②企業等に対する調査を行い、求めるスキルや潜在的求人ニーズなどの情報を収集する。 ③県内各種団体と協力し、学内における企業等就職説明会を開催する。 ④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行うシステムの導入運用を行う。</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・学内就職説明会：2回以上（単年）</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①コロナ禍における対応として、プレ・インターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施した。 ②就職先アンケートを実施した。回収率を上げるため学生へは企業経由で渡すことやフォームでの回答を実施した。 ③コロナ禍における対応としてオンラインでの就職等説明会を開催した。また、少人数で開催するため学科毎や業界ごとに開催した。 ④キャリアタスUCの導入を決定した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①筑豊地域インターンシップ推進協議会と連携し、既存の短期インターンシップに加え、中期インターンシップを実施した。体験日数が増えたことにより、学生が体験できる業務の幅が広がった。また、社員との交流の機会も増え、学生のキャリア形成支援につながった。 ②卒業後3年目の卒業生および同卒業生の卒業時の就職先を対象にアンケートを実施した。回収率を上げるため、インターネット上のフォームでの回答に加え、メール、FAX、郵送での回答にも対応した。 ③対面形式とオンライン形式で学内就職説明会を実施した。教員と連携を図って学生への周知を行ったことで、参加学生数が増加した。 ④キャリアタスUCの導入により、学生が専用のナビサイトから求人検索や学内ガイダンス・キャリア相談室の予約などが可能となり、学生が利用しやすい環境が構築できた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学内就職説明会（回数）</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>56</td> <td>69</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	学内就職説明会（回数）	2	2	16	33	56	69	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p> <p style="text-align: center;">B ↓ B</p>		20
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度														
学内就職説明会（回数）	2	2	16	33	56	69														

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
		ウェイト総計	中期 22	項目数計			中期 20

【ウェイト付けの理由】

- ・通し番号1 保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入するとともに体系的な教育課程を編成する。
- ・通し番号11 自ら考え、行動できる力を伸ばすため、アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。

教育に関する特記事項

(令和1年度)
 ①令和1年度、総合人間社会コースにおける卒業生4名（公共3名、福祉1名）が初めて誕生した。
 ②学修成果として、各学科就職率100%、および各種国家試験における高合格率を達成した。

(令和2年度)
 ③前期授業開始直前の遠隔授業研修
 新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。
 ④遠隔授業に係る環境重点整備
 前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約（41本）、動画サーバVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線（年間契約）、iPad50台を購入などの環境整備を重点的に行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。
 ⑤大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催
 コロナ禍における各連携大学（7大学）の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した（計7回）。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報の取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催（法的観点からみた行動制限）につなげた。
 ⑥西田川高校との教育連携協定締結
 令和2年8月、本学と県立西田川高校（フレックス型単位制高校）の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけではなく、全国的にみても先駆的な協定（Advance Placement）である。

(令和3年度)
 ⑦高等学校教諭一種免許状（情報）の教職課程が認定された。
 ⑧英語クラスを習熟度別に全学展開することを決定した。
 ⑨データサイエンス・プログラムの学修証明書を51名に対して発行した。
 ⑩学生の自主学習グループである看護技術「極め隊」が活動を開始し、基礎的な看護技術をマスターするための協働的な学びを推進している。教員は適宜アドバイスを行い、自主学習環境の整備（患者役等の募集含む）をはかっている。
 ⑪後期に授業評価アンケートを中間時点と終了時点の2回実施した。
 ⑫大学院においてメディア授業制度を導入した（子ども教育専攻、看護学専攻）。
 ⑬全国児童養護施設推薦特別選抜を実施し、1名の受験生を得た。

(令和4年度)
 ⑭高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目（「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」）を令和5年度以降開講するための準備を行った。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。
 ⑮中国語、韓国語に対し意欲のある学生のために、授業を通して語学検定の情報と勉強方法を教示し、図書館等に試験対策書を配備した上で、個別の相談に応じた。その結果、中国語検定試験（HSK）に5名、韓国語検定に1名が合格した。
 ⑯大学院授業参観ウィークについて、PDCAサイクルに基づき、令和3年度（12月）実施分をふりかえり、令和4年度は、6月に実施した（参加者28人）。
 ⑰令和4年度の秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通の問題にして、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。

(令和5年度)
 ⑱福祉分野の教育職を目指す学生のために、社会福祉学科のカリキュラムを改編し、高校福祉の免許取得を可能にするための新たな教職課程を令和5年度末に文部科学省に申請した。さらに、人間形成学科のカリキュラムを改編し、幼稚園教諭免許を基礎免許として特別支援学校教諭（二種）免許の取得を可能にするための教職課程を策定し、「特定分野に強みや専門性を持つ学科等の特例」として申請を行った（文科省による申請期日が、年度末から変更になったため実際の申請日は令和6年5月15日）。
 ⑲看護実践能力の強化のため、シミュレータでは学べない学内での授業における模擬患者（SP: Simulated Patients）の導入に向けた検討を行った。さらに、第4期での導入に向けてSPIに関する研修会を開催し、導入に向けての課題を明確にした。

中期計画項目別評価

中期目標 2 研究に関する目標	(1) 特色ある研究の推進 地域の特性や時代の先端を見据え、地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域に根差した研究拠点として、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 (2) 研究の実施体制等の整備 研究活動を更に活性化するため、研究支援体制の充実・強化を図るとともに、国内外の大学、研究機関、企業、行政機関等との連携体制の整備や外部資金の導入を推進する。 (3) 研究水準の向上と成果の公表 研究水準の向上を図る取組を推進するとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。
--------------------	--

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																							
1	特色ある研究の推進 保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特色を生かした研究を推進する。各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、学際的研究プロジェクトを推進する。また、社会のニーズに対して、本学の研究シーズを生かした受託研究・共同研究を活性化させる方法を検討・実施する。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①本事業の評価指標として、学術成果件数（査読付き論文又は学術書、その他の論文等）を単年で100件以上（うち、査読付き論文又は学術書50件以上）の数値目標を設定している。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①保健・医療・福祉等の本学の特色を生かした研究成果の発信方法を強化し、研究の促進を図った。取り組みの一環として、重点領域研究及びプロジェクト研究COC研究に対して研究奨励交付金を通じた支援を行った。また、研究者間の協力と交流を深めるため、共同研究室を提供した。さらに、附属研究所のWebページを活用して、重点領域研究の進捗状況に関する情報を定期的に発信した。 以下は、評価指標に対する目標実績の推移である。やや評価指標を下回った年があったものの、6年間の平均で、査読付き論文又は学術書やその他の論文等が102、その内、査読付き論文又は学術書が62となり、評価指標を達成することができた。 ○目標実績 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査読付き論文又は学術書、その他の論文等</td> <td>100</td> <td>96</td> <td>85</td> <td>131</td> <td>102</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>上記の内、査読付き論文又は学術書</td> <td>70</td> <td>56</td> <td>42</td> <td>95</td> <td>57</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	査読付き論文又は学術書、その他の論文等	100	96	85	131	102	96	上記の内、査読付き論文又は学術書	70	56	42	95	57	50	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No. 18 「論文等の実績」	21
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																						
査読付き論文又は学術書、その他の論文等	100	96	85	131	102	96																						
上記の内、査読付き論文又は学術書	70	56	42	95	57	50																						

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																											
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																													
※1 特色ある研究の推進の続き	2 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。地方自治体及び国の研究機関、行政機関等と連携・協力して、地域の課題解決等福祉社会の実現に寄与する共同研究を推進する。また、社会のニーズとのマッチングを円滑にする大学の研究シーズの公表方法を検討し、積極的に発信する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学際的研究プロジェクトの実施：2件以上（単年） ・研究プロジェクトの成果報告会：1回以上（隔年） ・研究シーズ公表方法の検討・発信：H33年度の実施	2	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①平成30年度より、学際的研究プロジェクトである重点領域研究を毎年2件以上採択した。 ②令和2年度から、三者連携協定を締結している福智町との共同研究を始めた。福岡女子大学を令和2年度に訪問、令和3年度にオンライン会議を実施し、大学間の連携による研究の推進を行うための情報交換を行った。 ③本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、令和3年度にホームページ上に「研究シーズ集」を掲載した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①本学の特徴を生かした福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトである重点領域研究を毎年3件採択した。 ②地域の関連機関等と連携・協力して、地域の課題解決に向けての共同研究を実施した。令和4年度に三者連携協定を締結している福智町、福智町社会福祉協議会との共同研究を行った。令和5年度から福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベース（KDB）システムの研究を開始した。 ③地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを推進するために附属研究所Webページ上の「研究シーズ集」を毎年更新し、研究テーマの数が令和3年度の21件から令和5年度には36件に増加した。</p> <p>以下は、評価指標に対する目標実績の推移である。6年間を通して評価指標を達成することができた。</p> <p>○目標実績 ・学際的研究プロジェクトの実施数（件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重点領域研究</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・研究プロジェクトの成果報告会 発表数（件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表件数</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・研究シーズの公表 令和3年度から附属研究所Webページ上に「研究シーズ集」を公表し、毎年更新した。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	重点領域研究	4	3	2	3	3	3		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	発表件数	-	13	6	9	9	7	<p>【高く評価する点】</p> <p>附属研究所において、平成30年度から福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを毎年平均して3件実施した。令和3年度からは附属研究所のWebページ上で「研究シーズ集」の公表を開始し、地方自治体や国の研究機関、行政機関等と連携・協力して地域の課題解決を図る共同研究を推進した。特に、福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究に関する業務協定を令和5年2月24日に締結し、市町村国保の保健事業を支援するため、令和5年度から国保データベース（KDB）システムを活用した医療・介護・健診のデータに基づく4件の共同研究プロジェクトを開始した。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	B ↓ A	22
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																												
重点領域研究	4	3	2	3	3	3																												
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																												
発表件数	-	13	6	9	9	7																												

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
2 研究の実施体制等の整備 福祉社会の実現に寄与する特色ある研究を推進するための基盤整備を行う。附属研究所の組織・システムの見直し等により研究機能を強化し、研究支援体制を充実・強化する。	1 【研究支援体制の充実・強化】 研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・研究支援体制の充実・強化方法の検討及び実施：H33年度の実施	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①若手研究者への研究支援として研究支援セミナーを実施してきた。令和1年度は、計画書作成のコツについての講義、質疑応答、令和2年度は、個別相談、令和3年度は科研費申請のための研修会にて若手研究採択者による体験談と個別相談を組み合わせ実施した。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①令和4年度に、若手研究者を対象とした若手研究採択者及び科研費の科研費基盤研究（C）採択者による体験談を実施し、令和5年度は科研費基盤研究（B、C）採択者による体験談を実施した。これに加え、この2年間にわたり、若手研究者を対象とした研究計画支援セミナー（個別相談）を継続して実施した。 ○目標実績 【研究支援体制の充実・強化】：令和3年度に若手研究者を対象とした科研費説明会と個別相談を組み合わせ実施し、以降継続して実施した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		23

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※2 研究の実施体制等の整備の続き	<p>2 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】</p> <p>本学の特色を生かした研究活動の支援、他大学や行政機関等との連携による研究の推進、既存の事業部門との連携促進等により、研究支援機能・研究推進機能を強化するという考えの下、附属研究所の組織・システムの見直し等を行う。</p> <p>○評価指標（指標及び達成目標） ・附属研究所の組織・システムの見直しによる、新たな組織・システムの整備：H33年度の実施</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①令和1年度に、研究支援機能・研究推進機能を強化するため、研究事業を研究推進部直轄にすることとした。それに伴い、ヘルスプロモーション実践研究センターを令和1年度末、生涯福祉研究センターを令和2年度末に閉所した。令和3年度から運営部会を設置し、運用を開始した。研究推進部への兼任研究員を置き、重点領域研究を推進した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①令和4年度および令和5年度において、附属研究所運営部会を中心に附属研究所の事業を推進した。令和4年度では、研究推進部に3名の兼任研究員を配置し、重点領域研究の進捗状況について情報交換を行いながら附属研究所のWebページで公開した。令和5年度では、重点領域研究を推進するため、研究推進部へ3名の兼任研究員を配置し、附属研究所のWebページ上の進捗状況を更新した。また、データサイエンス研究の推進のために、研究推進部にさらに3名の兼任研究員（計6名）を配置した。また、研究推進部にCOC研究を推進するために専任研究員1名、国際共同研究を推進するために客員研究員1名を配置した。</p> <p>○目標実績 【附属研究所の新たな組織・システムの整備】：令和3年度から運営部会を設置し、附属研究所の事業を推進した。研究機能を強化するため、研究推進部に兼任研究員、専任研究員、客員研究員等を配置した。</p>	<p>暫定 ↓ 中期</p> <p>B ↓ B</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		24

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																				
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																						
※2 研究の実施体制等の整備の続き	3 【外部研究資金の導入の推進】 研修会の開催により、科研費をはじめとする外部研究資金獲得の増加を目指す。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部研究資金獲得件数（継続を含む）：30件以上（単年） ・外部研究資金応募件数（新規分）：50件以上（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①本事業の評価指標として、外部研究資金獲得件数（継続を含む）30件以上（単年）、外部研究資金応募件数（新規分）50件以上（単年）の数値目標を設定して、取り組んだ。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①外部研究資金獲得のための研修会を実施した。令和4年度、令和5年度と継続して、科研費申請のための研修会を会場への対面参加に加えて、リアルタイムでのオンライン参加、録画を事後視聴で参加できる形式で実施した。</p> <p>その結果、以下の評価指標に対する目標実績に示す通り、6年間を通して目標を達成することができた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部研究資金獲得件数（継続を含む）</td> <td>36</td> <td>46</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>30</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>外部研究資金応募件数（新規分）</td> <td>82</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>54</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	外部研究資金獲得件数（継続を含む）	36	46	42	41	30	32	外部研究資金応募件数（新規分）	82	60	55	60	54	71	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 17 「研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況」	25
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																					
外部研究資金獲得件数（継続を含む）	36	46	42	41	30	32																					
外部研究資金応募件数（新規分）	82	60	55	60	54	71																					

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
※2 研究の実施体制等の整備の続き	4 【研究倫理の徹底】 ①全ての研究者等を受講対象とする研修を実施し、研究倫理及び不正行為の防止を図る。 ②説明会の開催などにより、研究費の適正使用を徹底する。 ③研究倫理部会委員の学外研修により、研究倫理審査能力の向上を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率：100%（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①研究倫理・不正行為防止研修を実施した。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催した。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行った。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①研究倫理・不正行為防止研修を実施した。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催した。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行った。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)</td> <td>95.5</td> <td>96.4</td> <td>99.1</td> <td>99.0</td> <td>87.2</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)	95.5	96.4	99.1	99.0	87.2	100	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		26
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)	95.5	96.4	99.1	99.0	87.2	100															

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
3 研究の水準向上と成果の公表 研究水準の向上を図るための課題を明確化し、課題解決のための取組を推進するとともに、多様な研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。	1 【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①研究水準の向上に向けた課題を整理する。 ②研究推進のための学内資源の適正配分を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学内資源の適正配分の実施：H34年度の実施	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①研究水準を把握するために、調査を実施した。 ②研究推進のために研究奨励交付金の見直しを行った。令和1年度に「科研費申請補助」を新設した。令和2年度に、「データサイエンス研究」の新規設置、「科研費申請補助」の対象を拡大した。令和3年度に、「重点領域研究」の募集枠を新規2件から新規・継続4件に拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やした。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①研究水準を把握するために、令和4年度および令和5年度に外部研究資金の応募・獲得状況を調査し、課題を検討した。本学Webサイト上に研究助成金の公募情報を掲載し、定期的に更新して応募を呼びかけた。 ②研究推進のために研究費の適正配分を実施した。令和4年度では、若手研究の促進を目的として、研究奨励交付金における「若手奨励研究」の新規募集枠を7件から9件に増やした。令和5年度では、国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究として「国際研究」の募集枠を新設した。さらに、国保データベース（KDB）システムを活用したデータサイエンス研究の強化を図るため、「データサイエンス研究」の募集枠を2件から8件に増やした。 ○目標実績 ・学内資源の適正配分の実施：令和4年度に、若手研究を強化するために研究奨励交付金の「若手奨励研究」の募集枠の拡充等を行った。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		27

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
3 研究の水準向上と成果の公表	2 【研究成果の公表の推進】 ①研究成果の多様な公表内容や方法について検証を行う。 ②学内において研究成果発表の場や機会獲得のための支援を行う。 ③図書館に報告書を収蔵する。 ④情報検索・閲覧・発信システムの充実により研究成果の公表を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学内での研究成果発表の場や機会の設定：H35年度の実施 ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムの充実：H34年度の実施	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ① 附属研究所と図書館とで連携し、附属研究所研究奨励交付金の令和2年度の成果報告書を令和3年度中に機関リポジトリに収録・公表することを令和2年度に決定し、令和3年度に収録・公表した。 ②研究成果発表の場や機会獲得のための支援のあり方について検討し、令和2年度、令和3年度に附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会を実施した。 ③④平成30年度に図書館規則の検討をし、現行の規則に沿って機関リポジトリ細則を定めた。細則に則り機関リポジトリに本学発行の紀要を収蔵した。また、学生便覧の機関リポジトリへの試行登録およびその他の報告書の登録準備を行い、機関リポジトリの個人コンテンツuploadマニュアルおよびアカウント登録申請書を作成した。さらに、情報検索、閲覧、発信システムの更新と充実を図った。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①附属研究所と図書館が連携して、研究の成果を公表した。令和4年度では、令和3年度の附属研究所研究奨励交付金成果報告書を機関リポジトリに収録・公表した。令和5年度も、令和4年度の附属研究所研究奨励交付金成果報告書を機関リポジトリに収録・公表した。 ②学内における研究成果発表の場を設けた。令和4年度は附属研究所研究奨励交付金事業の成果報告会（オンライン）を実施した（発表件数9件、午前と午後の参加者延べ63人）。令和5年度も附属研究所研究奨励交付金事業の成果報告会（オンライン）を行った（発表件数7件、午前と午後の参加者延べ58人）。 ③④機関リポジトリの細則に則り本学発行の紀要を収蔵した。また、学生便覧の機関リポジトリへの試行登録およびその他の報告書の登録、機関リポジトリの個人コンテンツ登録を行った。情報検索、閲覧、発信システムの更新と充実を継続して行っている。一方、機関リポジトリ環境提供サービス（JAIRO cloud）のシステム更新と移行を行い、それに伴う不具合に関して、図書館協議会加盟校と情報交換を行いながら対応を行った。 ○目標実績 ・学内での研究成果発表の場や機会の設定：令和5年度に学内での附属研究所研究奨励交付金事業の成果報告会（オンライン）を実施した。 ・機関リポジトリ環境提供サービス（JAIRO cloud）のシステム更新と移行を行った。	暫定 ↓ 中期 B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		28
ウェイト総計			中期 9	項目数計			中期 8

【ウェイト付けの理由】

・通し番号22 附属研究所の機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。

研究に関する特記事項

(令和3年度)

①研究シーズ集を作成（21件）・公表したところ、そのうちの3件について外部から問い合わせがあった。

(令和4年度)

②本学は福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ（令和5年2月24日）。令和5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース（KDB）システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。

中期計画項目別評価

<p>中期目標 3 地域貢献 及び国際交流に関する 目標</p>	<p>(1) 地域社会への貢献 ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラムや、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 イ 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を地域社会に還元し、地域の諸課題の解決、地域社会の活性化に貢献する。 (2) 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を戦略的に展開する。</p>
--	---

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																							
1 地域社会との連携 大学の特色を生かして、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、資格・免許保持者のキャリアアップやスキルアップ等に資するリカレント教育等を実施する。	<p>1 【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】</p> <p>①附属研究所における3センター(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター)を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等でテーマを設定し、セミナーやフォーラムを実施する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・公開講座の実施回数: 3回以上(単年)</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①公開講座を毎年実施した。 ②保健・福祉・教育・心理等をテーマとするフォーラムを、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止をした令和1年度を除き、毎年実施した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①附属研究所を中心とした公開講座を実施した。 令和4年度では、公開講座I「『からだの不調』と不登校～病気の理解、治療・対応のいま～」をテーマにオンライン(当日リアルタイム配信及び年度内オンデマンド配信)計3回(第1回:11月10日、第2回:12月19日、第3回1月12日)開催した。参加者数は延べ685人(当日延べ107人、オンデマンド延べ578人)。公開講座II「筑豊の炭鉱閉山期、『筑豊の子供を守る会』の活動を振り返る」をテーマに対面式で1回(2月11日)開催した(シンポジウム・座談会 延べ114人)。令和5年度では、公開講座I「不登校の子どもの笑顔を引き出すために～コツの伝授と学びの場づくりの実際～」第1回は12月7日に開催。参加総数は618名(当日Zoom参加95名、後日vimeo視聴延べ523名)であった。第2回は令和6年1月30日に開催。参加総数は260名(現地参加38名、当日Zoom参加39名、後日vimeo視聴延べ183名)であった。公開講座II「満州から博多・佐世保港に引き揚げてきた子どもたち～二人の体験談を交えて～」を開催(令和6年2月17日)した(シンポジウム・座談会 延べ84人)。 ②保健・福祉・教育・心理等のテーマでフォーラムを実施した。 令和4年度では、『起立性調節障害の理解～映画「今日も明日も負け犬。-起立性調節障害と紡いでいく-」上映から考える～』というテーマで不登校・ひきこもり支援フォーラムを3月13日に実施した(参加者65人)。 令和5年度では、『不登校・ひきこもり支援における精神医療職の関わり～訪問看護師と作業療法士～』というテーマで不登校・ひきこもり支援フォーラムを3月8日に実施した(総参加者数116名 当日Zoom参加30名、後日vimeo視聴延べ86名)。</p> <p>以下の評価指標に対する目標実績の推移に示す通り、6年間を通して公開講座の実施回数の評価指標を達成することができた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R1年度</td> <td>R2年度</td> <td>R3年度</td> <td>R4年度</td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実施回数</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>受講者数(延べ)</td> <td>116</td> <td>192</td> <td>762</td> <td>289</td> <td>799</td> <td>962</td> </tr> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	実施回数	5	5	4	4	4	3	受講者数(延べ)	116	192	762	289	799	962	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No. 21 「公開講座等」	29
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																						
実施回数	5	5	4	4	4	3																						
受講者数(延べ)	116	192	762	289	799	962																						

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																											
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																																																													
※1 地域社会との連携の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①看護臨床実習における実習指導者を対象とした、教育力向上のための研修会を開催する。 ②看護師等の資格・免許保持者を対象とする研修会の開催、または研修会の講師等として参画する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議は、年に1回ずつ開催している。令和2年度、令和3年度はオンラインで開催し、実習施設への本学の教育方針の伝達共有や指導力向上の機会となっている。 ②各職種の対象や時機に応じた内容でリカレント教育(研修会)を実施した。令和3年11月からリカレント教育部会が発足し、運営や広報の一本化を進めた。 ③福祉従事者に対し、年1～2回リカレント教育を実施し、コロナ禍以降は、開催方法を対面だけでなくZoom等のオンラインも活用した。 ④公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象に年数回の研修会を実施し、コロナ禍以降はオンラインでの研修会を実施し、研修の機会を確保した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議を実施した。令和5年度は看護学実習教育における課題の明確化と、個人情報・記録の取扱いについて弁護士を講師に迎えての研修を実施した。 ②卒業生や地域を中心とした看護師等の専門職の質向上を目指し、各職種の対象や時機に応じた内容をリカレント教育部会とそれぞれの担当が共同開催した。また一部の研修会ではDXを活用する等、実施方法の工夫を図り、参加者の好評を得た。 ③福祉従事者等に対するリカレント教育として、令和4年度は、12月17日(土)にリカレントセミナーを対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。テーマは「子ども家庭福祉を巡る課題とソーシャルワークの展望」であり基調講演を実施した。参加者は196名(来場165名、オンライン31名)であった。令和5年度は、12月9日にリカレントセミナーを対面のみで開催した。テーマは、「ソーシャルワークの新時代を拓くー実践を起点とした共通基盤の確立と価値・倫理の創造・発信に向けてー」であり、基調講演を実施した。参加者は、180名であった。令和4年度から対面での開催を行い、来場者からの質疑も多数あり、活発な議論を行うことができた。 ④公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象に、令和4年度は、全6回(いずれも対面とオンラインのハイブリッド開催)を実施し、いずれも40名前後の参加者(1回目:41名、2回目40名、3回目36名、4回目31名、5回目42名、6回目40名)があった。令和5年度は、全6回中、1回目から5回目までをハイブリッド開催、第6回目は対面のみで開催とした。いずれも40名前後の参加者(1回目:48名、2回目40名、3回目39名、4回目37名、5回目33名、6回目36名)があった。臨床心理士資格認定協会の方針の下、個人情報保護など倫理的配慮に注意しながら事例検討も行い、参加者からは好評を博したことから、公認心理師・臨床心理士のリカレント教育として一定の効果を達成したと考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="593 989 1541 1228"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>0※</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>165</td> <td>0</td> <td>117</td> <td>130</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td>開催回数</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>397</td> <td>321</td> <td>183</td> <td>313</td> <td>205</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③</td> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>0※</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>168</td> <td>0</td> <td>123</td> <td>176</td> <td>196</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④</td> <td>開催回数</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>389</td> <td>165</td> <td>297</td> <td>244</td> <td>230</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R1年度は、コロナウイルス感染症拡大のため急遽中止となり、参加予定者には資料のみ配布</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	①	開催回数	2	0※	2	2	2	のべ参加人数	165	0	117	130	108	②	開催回数	10	8	6	4	8	のべ参加人数	397	321	183	313	205	③	開催回数	2	0※	1	2	1	のべ参加人数	168	0	123	176	196	④	開催回数	6	5	6	6	6	のべ参加人数	389	165	297	244	230	【高く評価する点】	【実施(達成)できなかった点】		30
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																												
①	開催回数	2	0※	2	2	2																																																												
	のべ参加人数	165	0	117	130	108																																																												
②	開催回数	10	8	6	4	8																																																												
	のべ参加人数	397	321	183	313	205																																																												
③	開催回数	2	0※	1	2	1																																																												
	のべ参加人数	168	0	123	176	196																																																												
④	開催回数	6	5	6	6	6																																																												
	のべ参加人数	389	165	297	244	230																																																												

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
2 地域社会への貢献	1 【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を社会に還元し、地域社会の課題解決、活性化に貢献する。各センター事業による地域連携・地域支援を推進するとともに、より効果的な地域貢献を行うべく、組織体制の整備を検討し、実施する。	2	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①令和1年度末にヘルスプロモーション実践研究センター、令和2年度末に生涯福祉研究センター閉所に伴い、地域に対する支援業務の体制を整理した。</p> <p>②地域から福祉・教育などの相談について、不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターが連携して対応する体制整備に取り組んだ。ペアレントトレーニングについては、平成30年度から令和2年度まで生涯福祉研究センターが実施し、令和3年度より心理教育相談室が引き継いだ。</p> <p>・平成30年度より、不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、県大子どもサポーターの活動促進を目的に、通算活動回数が100回を超えたサポーターをマイスターとして認定し、表彰する制度を実施した。これまでに43人のサポーターが表彰を受けた。</p> <p>・令和3年度より、県の事業である不登校児童生徒社会的自立支援事業を実施し、県内の5中学校区(中学校5校、8小学校)をモデル校とし、大学から延べ90回、延べ146人が不登校情報の分析をもとに不登校支援会議へ介入した。さらに延べ4回のネットワーク会議を開催し、計90名が参加した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①学内で地域に対する支援を実施している部署である不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センターの連携体制を構築し、両センターのコーディネーター会議を定期的で開催(令和4年度：4回、令和5年度：4回)し、それぞれのセンターにおける地域への支援に関する課題を共有した。</p> <p>②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図るため、学生による支援活動であるボランティア活動について両センター共通の記録フォーマットを作成し、活動記録の共有化を図った。</p> <p><不登校・ひきこもりサポートセンター></p> <p>・不登校について保護者や教員等から、令和5年度は4,782件(令和4年度：4,151件)の相談を受け、県大子どもサポーター派遣事業では467人(令和4年度：505人)がサポーター登録をし、延べ2,948回(令和4年度：3,080回)の活動に至った。うち5人(令和4年度：3人)が通算活動回数100回を超え、マイスターとして認定・表彰を受けた。</p> <p>マイスター認定者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定者数</td> <td>15人</td> <td>17人</td> <td>7人</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・キャンパス・スクール事業では、令和5年度は16人(令和4年度：28人)の児童生徒がスクールに在籍し、延べ1,181回(1,650回)の利用ができた。義務教育課程生徒の登校開始率は66.7%(令和4年度：100%)であった。</p> <p>・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」として、「不登校・ひきこもり援助論」「子供学習支援論」の授業を開講し、受講生が不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センターでの活動に参加した。課題検討のため、活動に参加した学生に対してヒアリングを実施したところ、発達障害の児童生徒への具体的対応方法についての学びの機会が少ないことが指摘され、改善策として「不登校・ひきこもり援助論」「子供学習支援論」の授業の内容にそれらを盛り込み、さらに学生の希望に応じて関係教職員によるスーパービジョンを随時受けることができる体制を整備した。</p> <p>・福岡県の重点課題事業として不登校児童生徒社会的自立支援事業を実施した。令和5年度は県内の11中学校区(中学校10校、小学校19校、義務教育学校1校)(令和4年度[9校区；中学校8校、小学校15校、義務教育学校1校])をモデル校とし、大学から延べ223回(令和4年度：136回)、延べ240人(令和4年度：157人)が不登校情報の分析や不登校支援会議へ介入した。さらにネットワーク会議を2回(令和4年度：4回)開催し、計54人(令和4年度：延べ94人)が参加した。人材育成においては、社会的自立包括支援コーディネーター研修を開催し61人(令和4年度：2日間開講延べ92人)が受講した。さらに不登校情報分析コーディネーター研修を開催し58人(令和4年度：2日間開講延べ110人)が受講した。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	認定者数	15人	17人	7人	4人	3人	5人	<p>【高く評価する点】</p> <p>令和2年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大にも関わらず、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター、心理教育相談室による地域に対する支援活動を活発に行い、こうした活動に対する参加者アンケートでも、高い評価が得られた。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターにおけるキャンパス・スクール事業では、義務教育課程生徒の登校開始率が非常に高い値(令和2年度73.1%、令和3年度76.5%、令和4年度100%、令和5年度66.7%)を維持で</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	B ↓ A	No. 28 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」	31
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
認定者数	15人	17人	7人	4人	3人	5人															

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
※1 地域社会への貢献の続き	1	2	<p><社会貢献・ボランティア支援センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティアコーディネーター及び支援について、令和5年度は130件（令和4年度：78件）のボランティア依頼情報を学生に提供した。また、延べ543人（令和4年度：327人）の学生相談に応じ、コーディネーターにより延べ944人（うち令和5から開始した学習サポート事業への参加が493人）（令和4年度：236人）の学生が活動に参加した。 ・新たなボランティア活動として、令和5年度より、地域の子どもを対象とした学習支援活動を実施する「学習サポート事業」を開始した。さらに環境保全に関わる取り組みとして、清掃活動ボランティアグループの組織化を支援し、1団体を立ち上げるとともに、地域のフードバンクを運営するNPO団体と連携し、大学内でフードドライブを開催した（7回）。 <p><心理教育相談室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニング等の地域住民等に対する相談・支援の取組を行った。 <p>[ペアレントトレーニング開催]</p> <p>令和4年度は春クラス（期間：4月～6月）10回開催し、のべ20名参加。令和3年度秋クラスの6か月フォロー（7月）1回開催し、3名参加。令和4年度春クラスの3か月フォロー（9月）1回開催し、1名参加。令和4年度春クラスの6か月フォロー（1月）1回開催し1名参加。令和4年度秋クラス（期間：10月～12月）10回開催しのべ20名参加（コロナ感染症のためのべ1名×2回のリモート受講を含む）。令和4年度秋クラスの3か月フォロー（3月）1回開催し、2名参加。</p> <p>令和5年度は春クラス（期間：4月～6月）10回開催し、のべ30名が参加。令和4年度秋クラスの6か月フォロー（8月）1回開催し、2名参加。令和5年度春クラスの3か月フォロー（9月）1回開催し、3名参加。令和5年度秋クラス（期間：10月～12月）10回開催し、のべ30名参加。令和5年度春クラスの6か月フォロー（2月）1回開催し、3名参加。</p> <p>[ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム開催]</p> <p>令和4年度は5回開催（期間：6月～7月）のべ140名参加。 令和5年度は8月7日（月）にワークショップを開催。131名参加。</p> <p>以下の評価指標に対する目標実績の推移に示す通り、6年間を通して目標を達成することができた。</p> <p>○目標実績</p> <p>参加者・相談者アンケート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良好評価</td> <td>99.2%</td> <td>86.6%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>93.8%</td> <td>98.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年度から令和1年度のアンケート対象者は、ヘルスプロモーション実践研究センター事業とペアレントトレーニングの参加者、令和2年度から令和5年度のアンケート対象者は、不登校・ひきこもりサポートセンターキャンパス・スクール及びサポーター派遣事業及びペアレントトレーニングの参加者</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	良好評価	99.2%	86.6%	100%	100%	93.8%	98.0%	<p>B ↓ A</p>		No. 28 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」	31
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
良好評価	99.2%	86.6%	100%	100%	93.8%	98.0%															
			○評価指標（指標及び達成目標） ・参加者・相談者アンケート：良好評価70%以上（単年）																		

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																
3 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を充実させる。	1 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①協定締結校との文化・学術交流事業を実施する。 ②国際理解を深める文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流センターの事業を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・教員交流数：延20名以上（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①教員交流を推進し、令和3年度は教員交流数27名を達成できた。 ②コロナ禍の令和1、2年度は地域住民との連携事業を縮小したが、他の時期は国際交流センターにおける留学生歓迎会やホームビジット等を通して連携を深めた。 ③国際交流チューター・留学生チューターによる留学説明会や留学生サポートを実施できた。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①教員交流を推進し、令和4年度は22名、令和5年度は38名の教員交流数を達成できた。 ②令和4・令和5年度とも留学生到着式・修了式に田川地域の2団体を招待し、令和5年度は留学生のホームビジットを再開し、地域の方との交流と連携を深めた。 ③国際交流チューター・留学生チューターによる留学アドバイスや留学生サポートを実施できた。 ※①・③についてはオンラインの活用を含む。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員交流数（人）</td> <td>23</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>27</td> <td>22</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	教員交流数（人）	23	9	0	27	22	38	A ↓ A	<p>【高く評価する点】</p> <p>教員交流を継続し、コロナ禍である令和3年度に教員交流数27名を達成した。その後もオンラインを活用した交流を継続し、令和5年度は対面も含めた教員交流数38名を達成できた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 22 「国際交流協定」	32
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度															
教員交流数（人）	23	9	0	27	22	38															

中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																				
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																						
※3 国際交流の推進の続き	2 【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の拡充により、派遣留学生の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援体制を作る。 ③留学生（派遣・受入）に対する支援体制について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学締結について検討・実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・留学生（派遣・受入）数：30人以上（うち、受入数20人以上）（単年）	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①コロナ禍の令和2～3年度は語学研修や派遣プログラムを実施できなかったが、平成30～令和1年度については実施できた。また、令和3年度にはオンラインでの研修プログラムを4回実施できた。</p> <p>②留学生派遣の無かった令和3年度を除き、留学生派遣中は提出されたレポートや定期的な連絡によって留学生生活の改善に努めた。</p> <p>③平成30～令和1年度は年約5回の受入留学生支援事業を実施した。また国際交流センターを活用し、留学生歓迎会や送別会等地域住民との交流の機会を提供した。</p> <p>④コロナ禍以前の平成平成30年度までは短期派遣留学生に奨学金を給付した。また、令和4年度よりオンライン派遣交換留学をする学生に対して通信費補助の奨学金を給付することを決定した。また、平成30年2月に三育大学校との学術交流及び交換留学協定を更新、令和3年2月に大邱韓医大学校とオンラインプログラムのための協定を新たに締結した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①令和4年度はコロナ禍の影響があり、オンラインでの研修プログラムを2回実施した。令和5年度には、英国での海外語学実習及び韓国での短期研修を現地渡航により実施し、韓国短期研修では交流協定校の威徳大学校を訪問して現地学生・教員との交流を深めた。令和4年度・令和5年度には、交流協定校の大邱韓医大学校(韓国)から「韓日共同高等教育留学生交流プログラム」に招待があり、本学から令和4年度は8名、令和5年度は5名が渡韓して参加した。</p> <p>②令和4年度～令和5年度とも、派遣中の留学生からのレポート提出や定期連絡により留学生生活上の相談対応や改善に努めた。</p> <p>③留学生支援事業を令和4年度・令和5年度とも各4回実施した。留学生支援事業では、本学学生も参加して受入れ留学生との交流を深めた。</p> <p>④令和4年度のオンライン派遣留学では、対象の学生に通信費補助として奨学金を支給した。また令和4年度、令和5年度とも、交流協定校に交換留学や短期研修で派遣した本学学生に奨学金を支給した。令和5年度に三育大学校の総長の本学訪問及び協定書更新を行った。その際、三育大学校総長の記念講演を実施した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣数（人）</td> <td>39</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>44</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>受入数（人）</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>12</td> <td>57</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	派遣数（人）	39	19	1	0	44	28	受入数（人）	25	28	0	12	57	42	<p>【高く評価する点】</p> <p>コロナ禍以前は年度計画に沿って留学生数を伸ばし、令和1年度は留学生数47名を達成した。また、令和3年度はオンラインイベントとプログラムを通して文化交流、語学研修ができた。</p> <p>令和3年度にオンラインプログラムについての新たな協定を大邱韓医大学校と交わすことができた。</p> <p>令和4・令和5年度はオンラインプログラムに加えて現地渡航の再開で多角的な実施ができ、派遣・受入数の目標も達成できた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p> <p>令和2・3年度についてはコロナウイルスの影響により、留学生数が目標指標に足りなかった。新しい交換留学締結について令和5年度まではコロナ禍により先行きの見通しがつかず実施にいたらなかった。</p> <p style="text-align: center;">A ↓ B</p>	No. 22 「国際交流協定」 No. 23 「学生、教員の国際交流」	33
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																					
派遣数（人）	39	19	1	0	44	28																					
受入数（人）	25	28	0	12	57	42																					

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
		ウェイト総計	中期 6	項目数計			中期 5

【ウェイト付けの理由】

・通し番号31 学内で地域支援を行っている部署間の連携体制を強化し、地域連携・地域支援を推進する。

社会貢献に関する特記事項

(平成30年度)

- ①不登校・ひきこもりサポートセンターの扱う相談件数が5,000件となった。
- ②寄附金をもとに、災害ボランティア活動に必要な装備一式(5組)を購入した。
- ③初となる男子寮の運用を開始し、8名(+男子留学生3名)が入寮した。

(令和2年度)

- ④特定行為研修の開始
国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。

(令和3年度)

- ⑤大邱韓医大との「オンライン短期交換留学プログラムにおける覚書」を交わした。

(令和4年度)

- ⑥オックスフォードブルックス大学(イギリス)とのオンライン日本語・英語研修プログラムを実施した。

(令和5年度)

- ⑦特定行為研修については、令和5年度から受講生が所属する医療機関で実習を行う「自施設実習」を整備し、10名中6名が所属施設での実習を行った。

中期計画項目別評価

<p>中期目標 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>(1) 大学運営の改善 学術研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応するため、教育研究組織や学内資源配分を恒常的に見直し、理事長のリーダーシップの下、自主性・自律性を生かした活力ある大学運営を行う。 また、多様な人材を確保・育成するとともに、教職員の意欲向上を図るため、能力と業績を適正に評価する。併せて、スタッフ・ディベロップメント等の取組を推進し、複雑化・専門化する大学運営の充実を図る。</p> <p>(2) 事務等の効率化・合理化 継続的な業務見直しや事務体制の見直し等により、事務等の効率化・合理化を図る。</p> <p>(3) 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重、法令遵守の徹底など、公立大学法人としての社会的責任を果たすとともに、学生と教職員の健康の確保や事故、犯罪、災害等の未然防止、情報セキュリティ対策などの安全管理に万全を期す。 また、事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を確立する。</p>
--------------------------------------	---

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
<p>1 組織運営の改善・強化</p> <p>理事長のリーダーシップの下、社会情勢等の変化に対応して学内組織や学内資源の配分を見直す等、的確な大学運営を行うとともに、教職員の能力と業績の適正評価による意欲の向上や多様な人材を育成するためにスタッフ・ディベロップメント（SD）等の取り組みを推進し、職員の資質向上を図る。</p>	<p>1 【学内組織や学内資源の配分見直し】</p> <p>社会情勢の変化に併せて学内組織や学内資源の配分を改変する。</p>	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①・平成30年度は、附属研究所長へ各センター事業を含めた予算管理権限を付与するとともに、各センター事業の見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和1年度は、新たな教育研究拠点として発展させるため、「不登校・ひきこもりサポートセンター」を附属研究所から独立させた。また、ヘルスプロモーション実践研究センターを閉所した。 ・令和2年度は、生涯福祉研究センターを閉所した。また、特定行為指定研修機関の指定を8月に受け、附属研究所2階に看護実践教育センター特定行為研修室を設置し、令和3年4月1日に開所した。また、看護学部においてもコロナ禍における学内実習を充実させるため、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に真島・市場総合シミュレーションルームを併設し、生涯福祉研究センター跡については、人間社会学部のこども教育の研究拠点として、保育・幼児教育ルームに活用した。 ・令和3年度は、2号館2階の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにした。また、<管理棟>教務入試班（各種証明書の発行）、<2号館>キャリアオフィス（就職相談）、<3号館>学生支援班（奨学金受付等）の3箇所に分かれていた窓口を一本化するため、令和4年2月に2号館2階FPUホール内にあるキャリアオフィスを3号館1階学生支援センター内に移設した。（令和4年9月までには教務入試班も学生支援センター内に移設予定）さらに、令和3年度には令和2年度に整備した共同研究室の利用を開始した。 <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①・「管理棟教務入試班（各種証明発行）」、「2号館キャリアオフィス（就職相談）」、「3号館学生支援班（奨学金受付等）」の3箇所に分かれていた窓口を一本化するため、令和3年度に引き続き、管理棟1階にあった学務部教務入試班を3号館1階の学生支援センターへの移設を実施、学生窓口の一本化を完了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口を一本化したことにより、教務と学生支援の連携が速やかになり、学生へのサポートや支援がよりスピーディに、また学生からの相談等にワンストップで対応できる体制を整えた。 ・学生からは、1ヶ所で全ての手続きができること好評である。 	<p>A ↓ A</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>組織再編の結果、廃止した組織（ヘルスプロモーション実践研究センター、生涯福祉研究センター）の利用跡地に新たに「看護実践教育センター特定行為研修室」、「真島・市場総合シミュレーションルーム」、「保育・幼児教育ルーム」を設置した。また、2号館2階の地域文化資料室を「FPUホール」に改修した。その結果、学内施設を有効に活用することができた。また、本学が掲げる「学生ファースト」の理念の下、「管理棟教務入試班（各種証明発行）」、「2号館キャリアオフィス（就職相談）」、「3号館学生支援班（奨学金受付等）」の3箇所に分かれていた学生窓口を3号館1階の学生支援センターへ一本化することができた。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	34	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 組織運営の改善・強化の続き	2 【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度（Best Teacher's Award、研究費優遇、学内外公表、長期派遣研修等）を実施する。 ②全学的視点からの戦略的配分推進のため、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①毎年、教員表彰制度により、教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行った。令和1年度に「科研費申請補助」を新設した。令和2年度に、「データサイエンス研究」、科研費申請補助「B」を新設した。令和3年度に、「重点領域研究」の募集枠を新規、2年目を含めて4枠に拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やした。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①授業参観ウィークにおける学外者へのアンケート結果を基にSD・FD部会で審議を経て、令和4年度は顕著な功績のあった2名の教員、令和5年度は1名の教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るために研究奨励交付金の募集枠の見直しを行った。令和4年度は「若手奨励研究」の募集枠の拡充等を行った。令和5年度はプロジェクト研究として「国際研究」の募集枠を新設し、「データサイエンス研究」の募集枠を拡充した。	暫定 ↓ 中期 B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		35

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 組織運営の改善・強化の続き	3 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 教員の個人業績評価システムの検証・改善を実施する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行った。 平成30年度：評価様式に関する検討を行った。 令和1年度：評価様式に関する検討を行った。 令和2年度：デジタルデータ提出方式に変更し、教職員の負担を軽減した。 令和3年度：教員の個人業績評価システムを検証し、教員の入力作業及び事務局の確認作業の軽減を図ることを目的に、Excel様式にプルダウン入力やエラーチェックを組み込んだ。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①教員の個人業績評価システムについては、個人業績評価委員会等で協議を行った。</p>	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		36

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 組織運営の改善・強化の続き	4 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に各種専門研修等へ参加させるとともに、意欲向上等を目的とした学内研修の実施を検討し、多様な状況にも対応できる人材の育成を図る。 ②事務局プロパー職員に対する人事評価制度を導入する。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①全国市町村研修財団主催研修、公立大学協会主催研修、九州大学主催研修、NPO法人学校経営研究会主催研修等、学外で開催される研修に積極的に参加してきた。 ②令和1年度から試行、令和3年度から本格的に導入した事務局プロパー職員に対する人事評価については、職員のモチベーションを更にアップし、業務に対する意欲や熱意等を向上維持させることを目的に、評価結果を給与へ反映できるよう関係規定の改正を行った。（令和4年度から適用予定） 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①・令和3年度に作成した「事務局職員研修体系表」を公立大学協会が令和4年4月に改訂した公立大学教職員研修システムの対象職員、コンテンツに応じた改正を行い、「公立大学教職員研修システム」受講計画表（令和4年度～令和8年度までの5か年計画）を作成した。令和4年度から計画に沿って受講できる体制を整えた。 ・さらに公立大学教職員研修システムの更新状況を確認し、受講計画表の見直しを行い継続して研修を実施した。また公立大学教職員研修システム以外の学外の研修も積極的に受講するよう推奨した。 ②・事務局プロパー職員の人事評価結果を給与に反映する制度改正は令和4年度から適用しており、令和5年2月には評価結果を確定し、評価結果について令和5年度の給与から反映、給与への反映状況を検証した。	B ↓ A	【高く評価する点】 令和3年度は、公立大学協会の研修コンテンツを準備段階から把握し、コンテンツの公開後、速やかに研修を受講できるように準備した。令和4年度は、業務に応じた受講計画を作成し、研修を系統的に全講座（4カテゴリー23項目）受講できる体制を整え、受講を開始した。また対象職員をプロパー職員に加え、県派遣職員にまで拡大し、本学事務局職員の資質向上につなげた。 【実施（達成）できなかった点】	No. 24 「SD」	37

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
2 事務事業等の効率化 業務や事務体制の見直し等により、業務の効率化・合理化を図るとともに、ワークライフバランスの取り組みを推進する。	1 【事務処理省力化・簡素化】 ①業務の電子化（システム化）の検討を行う。 ②業務マニュアル、情報の共有化等により事務作業の簡素化を図る。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①令和1年度は、インターネット出願システム、電子シバラスの導入を行った。令和2年度は、授業評価アンケートの集計業務を委託していたものを教務システムで集計できるようシステム改修を行ったことにより、年間150万円が節減できた。令和3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」を令和4年1月からデジタル化することにより、年間約30万円の業務委託料（印刷費）の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。</p> <p>②平成30年度は、図書管理の適正化を図るため、図書管理システムマニュアルを策定した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①さらなる業務の電子化等を図るため、庶務事務業務の電子化について検討を行い、令和6年度上半期に試行を行う予定である。</p> <p>②事務作業の簡素化・適正化及び会計基準の改正に対応するため、決算業務マニュアルの見直しを行い内容の充実を図った。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p> <p style="text-align: center;">A ↓ B</p>		38	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※2 事務事業等の効率化の続き	2 【外部委託化】 業務の外部委託化の検討を行う。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①・平成30年度は、改正された業務方法書に基づく、内部統制システム等の整備業務の一部を外部委託したことにより、職員の業務量の大幅な軽減を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和1年度は、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託した。 ・令和2年度から「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務やWEB授業に利用する著作物に関する講習会の実施、遠隔授業に関する学生アンケート実施等の業務委託を行い、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図った。 ・令和3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」を令和4年1月からデジタル化（アウトソーシング）することにより、年間約30万円の業務委託料（印刷費）の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。 <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①・「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務の業務委託を行い、事務局職員の業務軽減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内電灯のLED化更新工事を行っているが、工事の適切な品質管理を確保するため、従来、職員が行っていた施工管理業務を外部委託し、監理業務の業務負担を軽減することができた。 	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		39	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																														
3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備 法令等遵守の徹底や意識の醸成を図るとともに、リスクマネジメント体制を強化し確立する。	1 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発を行う。 ②人権等研修を実施する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②研修会への参加実績</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①法令遵守等の徹底については、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②田川郡人権・同和対策推進協議会主催の人権・同和問題職員研修への参加並びに人権委員会主催の人権研修会を開催し、教職員の人権意識の向上に努めた。なお、人権委員会主催の人権研修会では、受講できなかった教職員に対し録画視聴による自己研修ができるように対応した。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)</td> <td>93</td> <td>89</td> <td>108</td> <td>100</td> <td>99</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)</td> <td>92</td> <td>96</td> <td>89</td> <td>83</td> <td>99</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>人権委員会主催人権研修会</td> <td></td> <td>51</td> <td>68</td> <td>27</td> <td>78</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)	93	89	108	100	99	93	田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)	92	96	89	83	99	86	人権委員会主催人権研修会		51	68	27	78	74	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		40
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																													
田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)	93	89	108	100	99	93																													
田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)	92	96	89	83	99	86																													
人権委員会主催人権研修会		51	68	27	78	74																													

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																														
※3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備の続き	2 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制を確立する。 ②危機管理マニュアルの検証・改変を実施する。 ③防災訓練、防犯講習会を実施する。 ④情報セキュリティ体制の検証・改変を実施する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにした。特に、令和2年度及び令和3年度は、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めた。</p> <p>②個別の危機管理マニュアルについては、必要に応じ見直しを検討した。</p> <p>③新入生防犯訓練、学生寮消防訓練、全学消防訓練は、実施時期を学内行事及び関係機関と調整の上、適切な時期に実施してきた。</p> <p>④本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性の解消を図るため、令和3年度はシステム更新の準備を行った。（令和4年度稼働）</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に配信し、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めた。</p> <p>②危機管理マニュアル等については、必要に応じて見直しを検討した。</p> <p>③防犯訓練及び消防訓練については毎年度適切な時期に実施した。</p> <p>④学内LAN及びメールシステムの更新を完了し、システムの安定稼働を図ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新入生防犯訓練</td> <td>4月</td> <td>4月</td> <td>※1</td> <td>※1</td> <td>4月</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>学生寮消防訓練</td> <td>5月</td> <td>5月</td> <td>7月</td> <td>7月</td> <td>5月</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>全学消防訓練</td> <td>11月</td> <td>11月</td> <td>11月</td> <td>11月</td> <td>11月</td> <td>11月</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ コロナ禍により中止したため、代替策として福岡県警作成の防犯講習動画を教務システムで視聴できるようにした。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	新入生防犯訓練	4月	4月	※1	※1	4月	4月	学生寮消防訓練	5月	5月	7月	7月	5月	10月	全学消防訓練	11月	11月	11月	11月	11月	11月	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		41
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																													
新入生防犯訓練	4月	4月	※1	※1	4月	4月																													
学生寮消防訓練	5月	5月	7月	7月	5月	10月																													
全学消防訓練	11月	11月	11月	11月	11月	11月																													
		ウェイト総計	中期 8	項目数計			中期 8																												

【ウェイト付けの理由】

業務運営に関する特記事項

(令和1年度)
①インターネット出願の運用を開始し、事務作業の大幅な省力化を図ることができた。

(令和3年度)
②特定行為研修の修了生をはじめて輩出した。

(令和4年度)
③新たにプロパー職員3人を採用した。
④メールサーバをオンプレミス（学内サーバ）からクラウド環境（Microsoft365）へ変更することにより、メールの安定稼働を図った。学内の無線LANアクセスポイントを62ヶ所から68ヶ所へと増強した。また無線LANの認証方式をWEB認証からIEEE802.1x認証へと認証方式を変更することにより、認証方式を簡素化（ID・パスワード入力省略）することができ、利便性を向上させた。

(令和5年度)
⑤令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に看護学部1年生全員（当日90名）がトリアージ対象の要救助者役として参加した。

中期計画項目別評価

中期目標 5 財務内容の改善に関する目標	(1) 財政基盤の強化 教育研究活動等の活性化のため、外部資金の獲得等による自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。 また、資産を適正に管理し、財産の有効活用を図るとともに、資金の安全確実な運用を行う。 (2) 経費の節減 大学の運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、適正な予算執行を進めるとともに、業務の効率化により、経費の節減を図る。
-------------------------	--

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																							
1 自己収入の積極的確保 外部資金の積極的獲得や資産の有効活用により、自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。	1 【外部資金の積極的確保】 ①科学研究費、受託研究費等の外部資金の積極的獲得を全学的に取り組み、獲得に向けた支援体制を整備する。 ②寄付金の受入れを促進するため、申込手続きの簡素化や広報活動を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部資金獲得額：5千万円以上（単年）	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①適宜、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催した。また、令和2年度からは研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとった。 ②常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌（春号・秋号）に掲載した。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①ホームページに外部資金等の公募情報を掲載した。また、科学研究費応募率向上のため、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催するとともに、学内研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制を継続して行った。 ②寄付金の受入れ増加に向け、大学ホームページ及び大学広報誌（春号、秋号）に掲載した。 ○目標実績 <div style="text-align: right;">（単位：万円）</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部資金獲得額</td> <td>5,436</td> <td>6,776</td> <td>5,822</td> <td>5,146</td> <td>4,683</td> <td>4,276</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td colspan="5"></td> <td>5,356</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	外部資金獲得額	5,436	6,776	5,822	5,146	4,683	4,276	平均						5,356	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.17 「研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況」	42
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																						
外部資金獲得額	5,436	6,776	5,822	5,146	4,683	4,276																						
平均						5,356																						

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 自己収入の積極的確保の続き	2 【大学施設の有効活用】 大学のホームページに大学施設の利用手続き等を掲載し大学施設の利用を促進する。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①・令和1年度には施設利用料金の改正を行い、令和2年4月1日から施行した。 ・令和2年度は、伊田中学校の移転・改築のため、令和2年度から4年度末まで学内施設（体育館、グラウンド、プール等）を無償で貸し出しを行うことを決定した。 ・令和3年度は、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン接種広域会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行った。（施設使用料収入額 1,729,200円）また、改築中である伊田中学校に学内施設（体育館、グラウンド、プール等）を令和2年度に引き続き無償で貸し出しを行った。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①・大学ホームページの「施設貸し出しについて」に、利用時間、利用料金及び申込み方法等を掲載し、学外者の利用について周知を行った。 ・令和4年度は、コロナ禍のため学外者の利用を原則中止した。ただし、一般財団法人消防試験研究センターに試験会場として、田川市に田川市職員採用試験会場としてそれぞれ貸し出しを行った ・令和5年度は新型コロナウイルスが感染症法上の位置づけが5類感染症になったことに伴い、順次施設の貸し出しを再開した。また附属図書館の学外者への利用についても段階的に再開した。地域の複数団体に対して研修会場や講演会の会場などへの貸し出しが徐々に増え、コロナ禍以前の貸し出し状況に回復しつつある。</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		43	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
2 業務効率化による経費の節減 業務の効率化により経費の節減を図る。	1 【業務効率化による管理経費の節減】 ①照明のLED化、老朽設備更新等、省エネ対策推進による経費節減を図る。 ②費用対効果を重視した外部委託化の検討を行う。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①令和1年度は、老朽化した空調機器4カ所の更新、令和2年度は、大講義室の映像設備の更新、令和3年度は、既設電灯管82本のLEDへの交換等。省エネ対策を推進した。</p> <p>②平成30年度は、改正された業務方法書に基づく内部統制システム構築に向けた業務の一部を外部委託し、業務量の大幅軽減を図った。また、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託した。令和2年度は、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにシステムを改修し、業務委託料を節減した。さらに、除草業務を業務委託から非常勤職員の任用に切り替えたことで年間100万円削減できた。令和3年度は、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書を令和4年1月からデジタル化した結果、年間約30万円の業務委託料（印刷費）の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①・学内のLED化を図り、消費電力のさらなる削減を図った。 ・令和4年度は、キャンパス広場周辺の回廊（夜間点灯照明）、附属図書館の書棚部分（センサー付きLED照明へ）の取替を行った。 また、設置から20年以上経過したエアコン4台（1号館、講堂）を更新した。 ・令和5年度は、3号館、4号館、5号館、講堂、管理棟、福利厚生棟、附属研究所、附属図書館、街灯、さらに令和6年度実施予定だった1号館、2号館、大講義室を前倒しで実施した。また小まめに消灯する等全学を挙げて節電に務めた。</p> <p>②継続して「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務の業務委託を行うことにより、事務局職員の相談対応業務の省力化が図られた。 ・学内電灯のLED化更新工事に伴い、工事の適切な品質管理を確保するため、従来、職員が行っていた施工管理業務を外部委託し、監理業務の業務負担を軽減することができた。</p>	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	No. 27 「経費削減」	44
		ウェイト総計	中期 3	項目数計			中期 3

【ウェイト付けの理由】

財務に関する特記事項

中期計画項目別評価

<p>中期目標 6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標</p>	<p>(1) 自己点検・評価 教育、研究その他大学運営全般の自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、その結果を公表し、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開・広報 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報を展開し、大学の存在感を高める。</p>
--	---

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
<p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上</p> <p>中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。次期認証評価に向けて、計画的に準備を行う。</p>	<p>1 【自己点検・評価の実施】</p> <p>①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。</p> <p>②次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。</p>	2	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①各事業年度の、教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>②一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価受審のためのポートフォリオ作成を行った。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>②IR機能を強化するため「福岡県立大学IR推進室規則」「公立大学法人福岡県立大学内部質保証・サイクル推進会議規則」「福岡県立大学IRサイクル総合会議規則」を令和3年度に改正しており、これらの規則に基づく新たな内部質保証体制のもと、令和4年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価を受審した。その結果、「基準1：法令適合性の保証」「基準2：教育研究の水準の向上」「基準3：特色ある教育研究の進展」の全項目において改善を要する事項の指摘はなく、大学として相応しい教育研究活動を行っており評価基準を満たすとの評価を得た。また、認証評価の受審結果を分析し、IR機能の更なる強化を含めた今後の課題と対応方針・内容について大学改革セミナーにて共有した。</p>	<p>B ↓ A+</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>IR関連規則の改正により学内関連組織の位置づけや役割分担を明確化することで内部質保証体制（IR機能）を大幅に強化することができた。また、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を令和4（2022）年度に受審した19大学のうち、本学は唯一「改善を要する事項」の指摘がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価された。</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	45	

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上の続き	2 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】 自己点検・評価結果、外部評価結果を学内にフィードバックし、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善を図る。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知した。また、大学認証評価受審に向けた準備を行った。 平成30年度：大学改革セミナーにて法人評価結果等の共有を行った。 令和1年度：大学改革セミナーにて法人評価結果等の共有を行った。 令和2年度：大学改革セミナーにて法人評価・認証評価について周知し、とくに認証評価についてはそのスキームについて共有した。 令和3年度：大学改革セミナーにて法人評価・認証評価に関するPDCAサイクルの向上について周知をはかった。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①大学改革セミナーを開催し、自己点検・評価結果および大学認証評価結果を学内教職員に共有し、各種改善に向けた取り組みについて説明した。</p>	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		46

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由																														
2 県大ブランドイメージの醸成 大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報活動を展開し、県大の存在感をアピールする。	1 【大学情報の積極的公開】 ①県大ブランドとなる教育方針、教育プログラム等を広く学外に発信する。 ②ホームページ掲載情報の適切な管理に努める。	1	<p>【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①②毎年度、高校訪問、入試説明会及び出前講義を実施し、教育情報を発信した。</p> <p>【令和4、5年度の実施状況概略】</p> <p>①高校訪問、入試説明会、出前講座を通じ、教育情報を積極的に発信した。 ②大学のホームページを活用し、学生や地域住民に向け、オープンキャンパスの開催や新型コロナウイルス感染症関連情報をはじめとした最新の情報を発信した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校訪問(校)</td> <td>41</td> <td>37</td> <td>6</td> <td>33</td> <td>39</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>入試説明会(回)</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>出前講座(回)</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>7</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	高校訪問(校)	41	37	6	33	39	32	入試説明会(回)	10	11	8	6	12	10	出前講座(回)	19	22	14	14	7	14	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>	<p>NO.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」</p>	47
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																													
高校訪問(校)	41	37	6	33	39	32																													
入試説明会(回)	10	11	8	6	12	10																													
出前講座(回)	19	22	14	14	7	14																													

中期計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項			暫定 ↓ 中期	理由		
※2 県大ブランドイメージの醸成の続き	2 【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページの充実を図る。 ②多様な媒体を活用した広報活動の充実を図る。 ③マスメディアへの積極的な情報提供を行う。 ④大学案内パンフレットの充実を図る。	1	【平成30年度～令和3年度の実施状況概略】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②入試マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)及び人間社会学部公共社会学科のInstagramの更新を適宜行った。また、大学広報誌の発行(4月、9月)やオンラインによるオープンキャンパスを実施した。 ③積極的に大学イベント等の情報をマスメディアに対し発信した。 ④大学案内パンフレット(2種)を更新作成した。 【令和4、5年度の実施状況概略】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②ホームページ上でオープンキャンパスの広報を行ったほか、SNS(Instagram)を活用し、入試情報、オープンキャンパスの情報を発信した。また大学広報誌を発行した(11月、3月)。オープンキャンパスをオンライン及び対面で開催した結果、参加者が増加、アンケート結果も「満足以上の評価」が約99.0%と好評であった。 ③積極的に大学イベント等の情報をソーシャルメディアを活用し発信した。また、公開講座の開催情報については、福岡県や田川市に情報提供を行い、広く県民に周知した。本学学生が活動しているeスポーツ、社会調査実習現場及び本学学生が田川警察署の実戦的総合訓練に参加したことなどが放送された。 ④大学案内パンフレット(大学案内・広報誌)を更新した。またリーフレット3種を更新した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		48
		ウェイト総計	中期 5	項目数計			中期 4

【ウェイト付けの理由】

・通し番号45 次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。

評価及び情報公開に関する特記事項

(令和4年度)
①本学は福岡県国民健康保険団体連合会(国保連)とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ(令和5年2月24日)。令和5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース(KDB)システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。

特記事項 (中期目標項目の枠組みにとらわれず、特に力を入れて取り組んでいる事項やアピールしたい事項)

特記事項	関連する 通し番号
<p>(平成30年度)</p> <p>①不登校・ひきこもりサポートセンターの扱う相談件数が5,000件となった。 ②寄附金をもとに、災害ボランティア活動に必要な装備一式(5組)を購入した。 ③初となる男子寮の運用を開始し、8名(+男子留学生3名)が入寮した。</p>	<p>31 31 31</p>
<p>(令和1年度)</p> <p>④令和1年度、総合人間社会コースにおける卒業生4名(公共3名、福祉1名)が初めて誕生した。 ⑤学修成果として、各学科就職率100%、および各種国家試験における高合格率を達成した。 ⑥インターネット出願の運用を開始し、事務作業の大幅な省力化を図ることができた。</p>	<p>3 5, 9, 19 38, 39, 44</p>
<p>(令和2年度)</p> <p>⑦前期授業開始直前の遠隔授業研修 新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。</p>	<p>16</p>
<p>⑧遠隔授業に係る環境重点整備 前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約(41本)、動画サーバVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線(年間契約)、iPad50台を購入などの環境整備を重点的に行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。</p>	<p>16</p>
<p>⑨大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催 コロナ禍における各連携大学(7大学)の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した(計7回)。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報の取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催(法的観点からみた行動制限)につなげた。</p>	<p>16</p>
<p>⑩特定行為研修の開始 国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。</p>	<p>30</p>
<p>⑪西田川高校との教育連携協定締結 令和20年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけでなく、全国的にみても先駆的な協定(Advance Placement)である。</p>	<p>15, 48</p>
<p>⑫田川市から応援商品券(学生全員対象)の交付を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。(配布実施1,014名/1,107名)また、近隣の方からもお米の寄贈を受け、多くの学生に行き渡るよう小分け作業を行い配布した。(230kg:300名分)</p>	<p>該当なし</p>
<p>(令和3年度)</p> <p>⑬高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程が認定された。</p>	<p>1</p>
<p>⑭データサイエンス・プログラムの学修証明書を51名に対して発行した。</p>	<p>3</p>
<p>⑮全国児童養護施設推薦特別選抜を実施し、1名の受験生を得た。</p>	<p>14</p>
<p>⑯本学学生・教職員と地域教育関係者等を対象に、大学拠点接種を3回(計5,071件接種)行った。</p>	<p>22</p>
<p>⑰研究シーズ集を作成(21件)・公表したところ、そのうちの3件について外部から問い合わせがあった。</p>	<p>33</p>
<p>⑱大邱韓医大との「オンライン短期交換留学プログラムにおける覚書」を交わした。 ⑲田川市から応援商品券(新入生:276名分)及び衛生用品(女子学生全員対象)の交付を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。また、地元企業団体からも生活支援物資(米、インスタント麺、トilet紙等)の寄贈を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。</p>	<p>該当なし</p>

(令和4年度)	
②①高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目（「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」）を令和5年度以降開講するための準備を行った。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。	1
②②中国語、韓国語に対し意欲のある学生のために、授業を通して語学検定の情報と勉強方法を教示し、図書館等に試験対策書を配備した上で、個別の相談に応じた。その結果、中国語検定試験（HSK）に5名、韓国語検定に1名が合格した。	2
②③大学院授業参観ウィークについて、PDCAサイクルに基づき、令和3年度（12月）実施分をふりかえり、令和4年度は、6月に実施した（参加者28人）。	10
②④令和4年度の秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通の問題にして、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。	14
②⑤本学は福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ（令和5年2月24日）。令和5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース（KDB）システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。	22、46
②⑥オックスフォードブルックス大学（イギリス）とのオンライン日本語・英語研修プログラムを実施した。	33
②⑦新たにプロパー職員3人を採用した。	37
②⑧メールサーバをオンプレミス（学内サーバ）からクラウド環境（Microsoft365）へ変更することにより、メールの安定稼働を図った。学内の無線LANアクセスポイントを62ヶ所から68ヶ所へと増強した。また無線LANの認証方式をWEB認証からIEEE802.1x認証へと認証方式を変更することにより、認証方式を簡素化（ID・パスワード入力 of 省略化）することができ、利便性を向上させた。	41
(令和5年度)	
②⑨福祉分野の教育職を目指す学生のために、社会福祉学科のカリキュラムを改編し、高校福祉の免許取得を可能にするための新たな教職課程を令和5年度末に文部科学省に申請した。さらに、人間形成学科のカリキュラムを改編し、幼稚園教諭免許を基礎免許として特別支援学校教諭（二種）免許の取得を可能にするための教職課程を策定し、「特定分野に強みや専門性を持つ学科等の特例」として申請を行った（文科省による申請期日が、年度末から変更になったため実際の申請日は令和6年5月15日）。	3
②⑩人間社会学部の学校推薦型選抜における「社会的養護を必要とする者（特別枠）」に1名が合格した。	14
②⑪特定行為研修については、令和5年度から受講生が所属する医療機関で実習を行う「自施設実習」を整備し、10名中6名が所属施設での実習を行った。	30
②⑫福岡県肢体不自由児協会主催の療育キャンプに本学学生13名が参加した（最多数の大学であった）。	31
②⑬令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に看護学部1年生全員（当日90名）がトリアージ対象の要救助者役として参加した。	41
②⑭個別施設計画に基づき、令和5年度は4・5号館外壁改修、トイレ排水管更新等の大規模な施設改修工事を実施し、建物等の長寿命化を図った。	該当なし

項目別の状況

その他中期計画において定める事項

中期計画		計 画		実 績	
I 収支計画予 算 及び資金計 画予算	1. 収支計画予 算	令和5年度計画 (単位：百万円)		令和5年度実績 (単位：百万円)	
		区分	金額	区分	金額
		費用の部	2,062	費用の部	1,990
		経常費用	2,062	経常費用	1,990
		業務費	1,739	業務費	1,686
		教育研究経費	368	教育研究経費	328
		受託研究費等	-	受託研究費等	0
		人件費	1,370	人件費	1,357
		一般管理経費	320	一般管理経費	301
		(減価償却費 再掲)	(82)	(減価償却費 再掲)	(84)
財務費用	2	財務費用	1		
臨時損失	-	臨時損失	0		
収益の部	2,027	収益の部	3,128		
経常収益	2,027	経常収益	1,989		
運営費交付金収益	1,097	運営費交付金収益	1,100		
授業料収益	583	授業料収益	573		
入学金収益	113	入学金収益	122		
検定料収益	22	検定料収益	23		
その他業務収益	-	その他業務収益	1		
受託研究等収益	-	受託研究等収益	0		
受託事業等収益	-	受託事業等収益	-		
補助金等収益	133	補助金等収益	132		
寄付金収益	-	寄付金収益	7		
資産見返負債戻入	48	資産見返負債戻入	-		
財務収益	0	財務収益	0		
雑益	28	雑益	28		
臨時利益	-	臨時利益	1,138		
純利益	(34)	純利益	1,138		
目的積立金取崩額	34	目的積立金取崩額	0		
総利益	-	総利益	1,138		
		平成30年度～令和5年度計画 (単位：百万円)		平成30年度～令和5年度実績 (単位：百万円)	
	区分	金額	区分	金額	
	費用の部	10,989	費用の部	11,420	
	経常費用	10,989	経常費用	11,420	
	業務費	9,807	業務費	10,023	
	教育研究経費	1,893	教育研究経費	1,935	
	受託研究費等	50	受託研究費等	18	
	人件費	7,864	人件費	8,068	
	一般管理経費	1,172	一般管理経費	1,384	
	(減価償却費 再掲)	(375)	(減価償却費 再掲)	(442)	
	財務費用	10	財務費用	12	
	臨時損失	-	臨時損失	0	

中期計画		計 画		実 績																													
		収益の部 経常収益 運営費交付金収益 授業料収益 入学金収益 検定料収益 その他業務収益 受託研究等収益 受託事業等収益 補助金等収益 寄付金収益 資産見返負債戻入 財務収益 雑益 臨時利益 純利益 目的積立金取崩額 前中期目標期間繰越積立金取 総利益	10,989 10,989 5,883 3,587 708 153 - 50 - 12 2 375 3 216 - - - - -	収益の部 経常収益 運営費交付金収益 授業料収益 入学金収益 検定料収益 その他業務収益 受託研究等収益 受託事業等収益 補助金等収益 寄付金収益 資産見返負債戻入 財務収益 雑益 臨時利益 純利益 目的積立金取崩額 前中期目標期間繰越積立金取 総利益	12,634 11,495 6,508 3,378 683 139 5 16 - 305 28 224 1 200 1,138 1,213 0 - 1,303																												
				※増減の主な理由 ■費用の部 ・人件費 教員人件費等の増による ・一般管理費 施設・設備の老朽化に伴う修繕費の増による ■収益の部 ・運営費交付金収益 高等教育の修学支援新制度に伴う奨学金の増による ・授業料収益 高等教育の修学支援新制度に伴う納付額の減による ・補助金等収益 施設整備等補助金の増 ・資産見返負債戻入 地方独立行政法人会計基準の改訂に伴う資産見返負債戻入の廃止による ・臨時利益 地方独立行政法人会計基準の改訂に伴う資産見返負債戻入の廃止による臨時収益が発生したため																													
I 収支計画予 算 及び資金計 画予算	2. 資金計画予 算	令和5年度計画 (単位：百万円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出</td> <td>2,411</td> </tr> <tr> <td>業務活動による支出</td> <td>1,938</td> </tr> <tr> <td>投資活動による支出</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>財務活動による支出</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>翌年度への繰越金</td> <td>399</td> </tr> <tr> <td>資金収入</td> <td>2,411</td> </tr> </tbody> </table>		区分	金額	資金支出	2,411	業務活動による支出	1,938	投資活動による支出	42	財務活動による支出	30	翌年度への繰越金	399	資金収入	2,411	令和5年度実績 (単位：百万円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出</td> <td>2,235</td> </tr> <tr> <td>業務活動による支出</td> <td>1,836</td> </tr> <tr> <td>投資活動による支出</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>財務活動による支出</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>翌年度への繰越金</td> <td>342</td> </tr> <tr> <td>資金収入</td> <td>2,235</td> </tr> </tbody> </table>		区分	金額	資金支出	2,235	業務活動による支出	1,836	投資活動による支出	20	財務活動による支出	36	翌年度への繰越金	342	資金収入	2,235
区分	金額																																
資金支出	2,411																																
業務活動による支出	1,938																																
投資活動による支出	42																																
財務活動による支出	30																																
翌年度への繰越金	399																																
資金収入	2,411																																
区分	金額																																
資金支出	2,235																																
業務活動による支出	1,836																																
投資活動による支出	20																																
財務活動による支出	36																																
翌年度への繰越金	342																																
資金収入	2,235																																

中期計画		計 画		実 績	
		業務活動による収入	1,976	業務活動による収入	1,941
		運営費交付金による収入	1,097	運営費交付金による収入	1,117
		授業料等による収入	717	授業料等による収入	651
		受託研究等による収入	-	受託研究等による収入	0
		補助金等による収入	133	補助金等による収入	134
		寄附金等による収入	-	寄附金等による収入	7
		その他収入	28	その他収入	29
		投資活動による収入	0	投資活動による収入	0
		財務活動による収入	-	財務活動による収入	-
		前年度からの繰越金	434	前年度からの繰越金	293
		平成30年度～令和5年度計画 (単位：百万円)		平成30年度～令和5年度実績 (単位：百万円)	
		区分	金額	区分	金額
		資金支出	10,906	資金支出	11,400
		業務活動による支出	10,377	業務活動による支出	10,634
		投資活動による支出	59	投資活動による支出	179
		財務活動による支出	168	財務活動による支出	261
		次期中期目標期間への繰越金	302	次期中期目標期間への繰越金	325
		資金収入	10,906	資金収入	11,400
		業務活動による収入	10,601	業務活動による収入	11,200
		運営費交付金による収入	5,883	運営費交付金による収入	6,601
		授業料等による収入	4,438	授業料等による収入	3,977
		受託研究等による収入	52	受託研究等による収入	20
		補助金等による収入	12	補助金等による収入	358
		寄附金等による収入	-	寄附金等による収入	36
		その他収入	216	その他収入	205
		投資活動による収入	3	投資活動による収入	1
		財務活動による収入	-	財務活動による収入	-
		前期中期目標期間からの繰越金	302	前期中期目標期間からの繰越金	199
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 2億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れること。			該当なし	
III 出資等に係る不要財産等の処分に関する計画	該当なし			該当なし	
IV IIIに規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし	

中期計画	計 画	実 績
V 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	平成30年度から令和4年度までに取り崩した目的積立金合計89百万円を、次のとおり教育研究の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 水道設備補修ほか 21百万円 ・令和2年度 空調設備の整備ほか 6百万円 ・令和3年度 便器補修、手洗器補修ほか 6百万円 ・令和4年度 体育館の整備および光熱費高騰対策費ほか 54百万円
VI その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし

2023（令和 5）年度

教育・研究・社会貢献活動一覽

福岡県立大学

【 凡 例 】

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2023（令和5）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2023（令和5）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2021（令和3）年度～2024（令和5）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2023（令和5）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2023（令和5）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2023（令和5）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2023（令和5）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2023（令和5）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2023（令和5）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2023（令和5）年度の状況を記載している。

<目 次>

【掲載順】

両学部ともに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

<人間社会学部>

教授	池田	孝博	1
教授	石崎	龍二	4
教授	岩橋	宗哉	7
教授	岡本	雅享	9
教授	小嶋	秀幹	11
教授	佐野	麻由子	14
教授	杉野	寿子	16
教授	Stuart	Gale	19
教授	住友	雄資	21
教授	堤	圭史郎	23
教授	藤澤	健一	26
教授	本郷	秀和	28
教授	村山	浩一郎	31
教授	森脇	敦史	34
教授	吉岡	和子	36
准教授	池	志保	39
准教授	伊勢	慎	42
准教授	井上	奈美子	45
准教授	奥村	賢一	47
准教授	河野	高志	50
准教授	小山	憲一郎	52
准教授	坂無	淳	55
准教授	柴田	雅博	58
准教授	寺島	正博	60
准教授	中原	雄一	63
准教授	中村	晋介	66
准教授	廣田	久美子	68
准教授	麦島	剛	70
准教授	陸	麗君	73
准教授	鷺野	彰子	76

講師	河本	恵美	79
講師	黒川	すみれ	81
講師	小林	亮太	83
講師	櫻井	晋伍	86
講師	菅原	航平	89
講師	董	秋艶	92
講師	畑	香理	94
講師	松岡	佐智	97
講師	宮原	和沙	100
助教	岡本	浩美	103
助教	古賀	なな子	105
助教	二見	妙子	107
助手	佐藤	繁美	110

〈看護学部〉

教授	石田	智恵美	112
教授	江上	千代美	114
教授	田吹	香子	117
教授	永嶋	由理子	119
教授	波止	千恵	121
教授	福田	和美	123
教授	村方	多鶴子	126
准教授	芋川	浩	128
准教授	加藤	法子	131
准教授	四戸	智昭	133
准教授	杉野	浩幸	135
准教授	田中	美樹	137
准教授	富崎	ゆかり	140
准教授	中井	裕子	142
准教授	原田	直樹	144
准教授	三浦	由紀子	147
准教授	山田	美幸	150
准教授	吉田	静	152
講師	於久	比呂美	155
講師	小野	順子	157
講師	梶原	由紀子	159
講師	小出	昭太郎	162

講師	塩田	昇	164
講師	手島	聖子	166
講師	藤野	靖博	168
講師	宮本	いずみ	169
講師	村田	和子	172
講師	安河内	静子	174
講師	安永	薫梨	176
講師	吉川	未桜	178
助教	猪狩	崇	181
助教	植田	愛	183
助教	鹿嶋	聡子	185
助教	清原	智佳子	187
助教	笹山	万紗代	189
助教	清水	夏子	191
助教	中村	美穂子	193
助教	平塚	淳子	195
助教	廣瀬	理絵	197
助教	松山	美幸	199
助教	御手洗	みどり	201
助教	村上	香織	203
助教	山口	馨子	205
助教	吉田	麻美	207
助手	石田	祐子	209
助手	大場	美緒	210
助手	島田	信	212
助手	田原	千晶	214

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	池田 孝博
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

慶應義塾中等部（教諭）、佐賀短期大学（准教授）を経て、2009.4 本学着任

2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了 博士（スポーツ健康科学）

2017.4 福岡県立大学大学院人間社会学研究科子ども教育専攻 特別研究担当教員

2023.10 鹿屋体育大学連携大学院 客員教授

発育発達研究、スポーツ測定評価、スポーツ統計学

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第1報）－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要，20：9-20，2023.
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第2報）－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要，20：21-32，2023.
- 井手裕子・伊勢慎・池田孝博，保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：17-33，2023.
- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博，新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：85-93，2023.
- 池田孝博，福岡県立大学生ドイツ派遣に関わる事前調査報告．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：95-107，2023.
- 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一，入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要，31(1)：71-80，2022.
- 伊勢慎・池田孝博・櫻井国芳・古橋啓介，子どもの道徳・規範意識と運動に関する一考察．福岡県立大学人間社会学部紀要，31(1)：81-90，2022.
- Nakahara-Gondoh, Y., Tsunoda, K., Fujimoto, T., Ikeda, T., Effect of encourageing greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during tye first COVID-19-related emergency in Japan. Journal of physical education and sport. 22(10)：2598-2603, 2022
- 中原雄一・池田孝博，コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか．大学体育スポーツ学研究. 19：94-99，2022.
- 池田孝博・中原雄一，コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因．福岡県立大学人間社会学部紀要. 30(1)：191-199，2021.
- 池田孝博・秋山大輔・岩本貴光・竹中健太郎・前阪茂樹・下川美佳・本多壮太郎，コロナ禍にお

いて策定された暫定的な剣道試合・審判法は大学生レベルの試合にどう影響したか？. 武道学
研究. 54(1): 75-86, 2021.

- ・ 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷺野彰子・中原雄一・伊勢慎, 保幼小連携におけるアプ
ローチカリキュラムに関する研究の動向と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 29(2): 215-
223, 2021.
- ・ 中原雄一・池田孝博, コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的
健康度. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 29(2): 115-122, 2021.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 池田孝博, 大学生の中高時代の部活動経験とスポーツの重要度の関連. 九州体育・スポーツ学
会第72回大会 (J:COM ホルトホール大分), 2023.
- ・ 池田孝博, 英国及び米国の剣道実践者による稽古環境のサーフェイスに関する評価. 日本武道
学会第56回大会 (大阪教育大学), 2023.
- ・ Ikeda, T., An investigation into the effect of play upon the development of social
skills and engagement in physical activity among Japanese children aged 10-12. 28th
Congress of the European College of sport science (ECSS), 2023.
- ・ Ikeda, T. and Aoyagi, O., Investigating the motivational factors and preferences
affecting attitudes toward physical activity and physical education among South Korean
and Japanese children in late childhood. Korean Conference of Growth and Development
(Chosun University), 2023. Invited Lecture
- ・ 池田孝博, 理想的な部活動のあり方とスポーツの価値および達成動機の関連. 九州体育・スポ
ーツ学会第71回大会 (九州保健福祉大学), 2022.
- ・ Ikeda, T.O., Ikeda, T.A., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N.,
Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y., The characteristics of general malaise/indefinite
complaints in Japanese children as examined by latent class analysis. 27th Virtual
congress of the European College of sport science (ECSS), 2022.
- ・ 中原雄一・池田孝博 (オンライン発表) コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の
実態—2020年度と2021年度で相違はみられるのか—. 九州体育・スポーツ学会第70回記念大
会 (西南学院大学), 2021.
- ・ 中原雄一・角田憲治・藤本敏彦・池田孝博 (オンライン発表) コロナ禍に伴う緊急事態宣言下
の身体活動促進の効果. 第76回日本体力医学会大会 (三重大学), 2021.
- ・ Ikeda, T. and Nakahara, Y. (e-poster session) An investigation into the relationship
between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixated anxiety among
university freshmen during the Covid-19 pandemic. 26th Virtual congress of the
European College of sport science (ECSS), 2021
- ・ 中原雄一・池田孝博 (口頭発表) コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と
精神的健康度に及ぼす影響. 第9回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2021.

③過去の主要業績

- ・ 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領，剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. 武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

5. 所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会，日本発育発達学会，日本体育測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会（理事、九州支部・支部長），日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)，日本保育者養成教育学会，韓国発育発達学会（理事）

6. 担当授業科目

<学 部>

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，体育Ⅰ・1単位・2年・通年，体育Ⅱ・1単位・3年・通年，幼児と健康・2単位・3年・前期、保育内容の指導法・健康・2単位・3年・後期，演習・2単位・3年・通年，卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>

教育課題研究B・2単位・1年・後期，子ども教育研究法・2単位・1年・前期，統計学演習・2単位・1年・後期，特別研究Ⅰ・Ⅱ・4単位・1-2年，地域教育課題演習・1単位・2年・前期，子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期，子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

9. 附属研究所の活動等

(データサイエンス研究)

KDB システムのデータを活用した健診結果からみる子どもの健康とその課題

(重点領域研究)

子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究

人間社会学部／ 総合人間社会コース・地域社会コース	職名	教授	氏名	石崎 龍二
------------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列における異常検知の手法開発、②カオスや乱流における拡散現象の解析、③物理学の視点・手法を用いた経済現象の解明等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における「プログラミング概論」の教育効果（2022年度）－PythonとJavaScriptの基礎的なスキル習得と授業形式の比較－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第32巻第1号、pp.21-35、福岡県立大学、2023年10月。
- ・ 石崎龍二，寺島正博，廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現状と課題－A県における質問紙調査によるニーズと課題の分析－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第32巻第2号、pp.71-83、福岡県立大学、2024年3月。
- ・ 藤澤健一，石崎龍二，佐藤繁美「教育委員会との連携を通じた教育方法と情報通信技術にかかわる学生支援」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第32巻第2号、pp.97-104、福岡県立大学、2024年3月。
- ・ 寺島正博，廣田久美子，石崎龍二「特例子会社における業務支援のためのICTツール導入の実績と課題－インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第32巻第2号、pp.23-29、福岡県立大学、2024年3月。
- ・ 藤澤健一，石崎龍二，佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み－教職課程コアカリキュラムと本学における実践－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第32巻第1号、pp.109-118、福岡県立大学、2023年10月。
- ・ 石崎龍二，佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2022年度）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第31巻第2号、pp.59-72、福岡県立大学、2023年3月。
- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部におけるプログラミング教育の教育効果（2020年度）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第31巻第1号、pp.103-113、福岡県立大学、2022年10月。

- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「保育所・認定こども園における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A 県におけるアンケート調査を通じて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 31 巻第 1 号, pp. 57-70, 福岡県立大学, 2022 年 10 月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2021 年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 30 巻第 2 号, pp. 53-66, 福岡県立大学, 2022 年 3 月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2020 年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 30 巻第 1 号, pp. 155-168, 福岡県立大学, 2021 年 10 月.
- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「介護サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A 県におけるアンケート調査を通じて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 30 巻第 1 号, pp. 63-75, 2021 年 10 月.

② その他最近の業績

<学会発表>

- 石崎龍二, 井上政義「金融時系列データの短期統計量に基づく特徴抽出と分析」日本物理学会 2024 年春季大会 (オンライン開催), 2024 年 3 月.
- 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「火山噴火の確率過程モデリングと噴火間隔の時系列解析」日本物理学会 2024 年春季大会 (オンライン開催), 2024 年 3 月.
- 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「火山の噴火活動の確率過程モデル」2023 年度 MIMS 現象数理学研究拠点共同研究集会「社会物理学とその周辺」(対面とオンライン開催), 2023 年 12 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 井上政義「桜島の噴火間隔データから見る活動状態の時間変動」第 129 回日本物理学会九州支部例会 (長崎大学), 2023 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「火山噴火における噴火間隔の時系列の統計的性質」日本物理学会第 78 回年次大会 (2023 年) (東北大学), 2023 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「局所情報量に基づく金融時系列データの特徴抽出と分析手法」経済物理学とその周辺 2023 (明治大学中野キャンパス), 2023 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「火山噴火時系列における間欠性の統計的性質」日本物理学会 2023 年春季大会 (オンライン開催), 2023 年 3 月.
- 石崎龍二, 井上政義「火山噴火観測データにおける間欠性の統計的性質」, 2022 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「社会物理学とその周辺」(対面とオンライン開催), 2022 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「火山噴火時系列における間欠性の統計的性質」, 第 128 回日本物理学会九州支部例会 (熊本大学), 2022 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「火山噴火時系列の間欠性の統計的性質」, 日本物理学会 2022 年秋季大会 (2022 年) (東京工業大学), 2022 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「複数金融時系列における局所不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」, 2021 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「社会物理学とその周辺」(オンライン開催), 2022 年 3 月.

- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における局所的不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」, 日本物理学会第 77 回年次大会 (2022 年) (オンライン開催), 2022 年 3 月.
- ・ 石崎龍二「保存力学系におけるカオス拡散の統計的性質」, 第 127 回日本物理学会九州支部例会 (オンライン開催), 2021 年 12 月.

③ 過去の主要業績

- ・ Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- ・ 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998 年.
- ・ Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究 (C) (研究代表者)、研究課題名「非定常時系列に対する異常判別・検知のための時系列解析法の開発と実証」(課題番号:23K04290)、交付金額:3,250 千円、2023 年度~2025 年度.

4. 受賞

5. 所属学会

日本物理学会, アメリカ物理学会 (APS), 日本心理学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、数学概論・2 単位・1 年・前期、情報科学・2 単位・1 年・後期、情報数学・2 単位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、教育方法と情報技術・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

公益財団法人飯塚研究開発機構 筑豊地域医療・福祉関連支援委員会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学附属研究所長

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	岩橋 宗哉
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

（1）現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（2）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをはっきりとしたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（3）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。（4）神話や文芸作品についての精神分析的な観点からの理解。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 日本病跡学雑誌 第106号 2023年12月
 - ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』須永との比較からみた敬太郎の造形についての検討 日本病跡学雑誌 第104号 2022年12月
 - ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』須永の「内へとぐるを捲き込む性質」について 日本病跡学雑誌 第101号 2021年6月
- #### <分担執筆>
- ・ 春日由美・五十嵐亮編「現場で役立つ教育相談入門」第12章第3節成人期の心理的不適応,第13章第1節心理療法の学派と心理療法. 2023年11月

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ シンポジウム「漱石の文学研究とパトグラフィとサルトグラフィ」
岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 第70回 日本病跡学会総会 大阪 2023年7月
- #### <翻訳>
- ・ M.ホジャット・A.モイヤー「友人関係の心理学」 第12章 友人関係における侵害,赦し,報復 金子書房.東京.2024年2月

③過去の主要業績

- ・ 岩橋宗哉「対象とのとの同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へーよい対象との失われた共通基盤を求めてー」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2015年3月
- ・ 岩橋宗哉「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）ー「不在の現実」についての「見るなの禁止」から「居場所」の形成へー」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月
- ・ 岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚ー精神分裂病者との心理療法過程からー」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

6. 担当授業科目

（学部）心理学的支援法・2単位・2年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・通年、臨床心理学概論・2単位・3年・前期、心理演習・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、心理実習Ⅱ・1単位・3～4年、心理実習Ⅲ・1単位・3～4年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、（大学院）臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、臨床心理面接特論・2単位・1年2年・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年（後期担当）、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究Ⅰ・2単位・1年・通年、特別研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・ 福岡県臨床心理士会代議員
- ・ 田川市教育支援委員会委員長
- ・ 日本心理臨床学会誌「心理臨床学研究」編集委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本 雅享
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)で Visiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。2012年度から明治学院大学国際平和研究所（PRIME）研究員。

1989年以来、在日コリアンを中心とするマイノリティ・ライツの研究・活動に従事してきた。国連 ECOSOC NGO での3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。2000年代後半から、明治以降の Nation Building の中で非ヤマト世界と位置付けられてきた出身地の出雲や東北のエミシ、南九州のクマソ=ハヤトなどの視点から、同質社会幻想で覆われてきた日本人（国籍者）の内なる多様性を解き明かし、日本人意識の脱構築（マジョリティ意識の転換）とマイノリティ・ライツの保障による多文化主義の構築にかかる研究を試みている。また日系移民を通してみるハワイ社会の多様性、新たな原住民（先住民族）の承認や民族語の復権・維持を図る台湾、日本と同様、移民の増大に伴い、多文化社会へ移行しつつある韓国などの研究者との交流も続けてきている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 『マイノリティ・ライツ—国際規準の形成と日本の課題』現代人文社、2024年（共著）
- ・ 「일본 Nation Building 의 탈구축 — 비(非) 야마토 민족 서발탄의 주체화 시도에 주목하면서」『일본연구 (日本研究)』第98号、2023年12月
- ・ 「日本のネーション・ビルディングで隠された多様性」韓国外国語大学校日本研究所第4回国際シンポジウム招聘講演、2023年6月10日、ソウル
- ・ 『越境する出雲学—浮かび上がるもうひとつの日本』筑摩選書、2022年（単著）
- ・ 「ミホススミに光を！プロジェクト」の意義と成果『福岡県立大学人間社会学部紀要』31巻1号、2022年10月
- ・ 「保守とリベラル、右派と左派—日本政治のための概念整理」（後編）『福岡県立大学人間社会学部紀要』30巻1号、2021年10月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 『出雲を原郷とする人たち』藤原書店、2016年（単著）
- ・ 『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- ・ 『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本平和学会、日本社会学会、移民政策学会、エミシ学会

6. 担当授業科目

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

飯塚研究開発機構理事

8. 学外講義・講演

かみがたりネットワーク（糸魚川・出雲・諏訪三市共催）「出雲から高志・信濃へ—神語りが映し出す地域間交流」2023年10月21日、出雲市

第12回出雲学フォーラム「列島各地の出雲から見えてくる《もう一つの日本》」2023年11月25日、松江市

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。近年は、演劇やゲームによる啓発教材作成に取り組み、福岡県内の自殺予防ゲートキーパー研修会等で実践している。その他、勤労者の精神保健、依存の心理、児童・思春期の精神保健（不登校・ひきこもり、自傷、虐待）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 守口典行, 吉岡和子, 小嶋秀幹: 老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化—国立大学農学部卒業者・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査、臨床心理学 24 (2) ; 224-234, 2024.
- ・ 小嶋秀幹: 共生社会を考えるカードゲーム「色んな人の気持ち (somebody's feelings)」開発の試み. 福岡県立大学心理臨床研究 16, 2024.
- ・ 小嶋秀幹: こころをつなぐ～身近な人に自殺の危険が迫ったら～. 翔雲社、2022.
- ・ 小嶋秀幹: 自殺予防啓発劇の実践報告～大学生のうつ病編～. 福岡県立大学心理臨床研究 14 巻; 23-34, 2022.
- ・ 小嶋秀幹: 大学生を対象とした「依存の心理」の啓発教育の実践報告. 独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要第 9 号 ; 90-99, 2021.
- ・ 馬淵可奈子, 小嶋秀幹: 頭痛のある女子学生に対する臨床動作法の短期介入—からだ・心の動き・援助者に対する感じ方に注目して—. 福岡県立大学心理臨床研究 13 巻 ; 15-23, 2021.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小嶋秀幹: 福岡県中間市における自殺予防啓発劇 10 年間の試みと今後に向けて、第 46 回日本自殺予防学会（熊本）、2022 年.

<教材開発>

- ・ 小嶋秀幹: うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるオンラインすごろく. 公益財団法人科学技術融合振興財団 2021 年度研究助成成果物、2024 年.
- ・ 小嶋秀幹: 色んな人の気持ち (somebody's feelings) のカードゲーム教材. 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成成果物、2023 年.
- ・ 小嶋秀幹: うつ病かるた. 科学研究費基盤研究 (C) 2021～2024 年研究成果物、2023 年.

<その他>

- ・ 小嶋秀幹：共生社会を考えるカードゲーム“色んな人の気持ち somebody’s feelings”. 人間と遊び財団レポート 2022；14-15，公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団、2023 年。

③過去の主要業績

- ・ 小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34 (1)；41-47，2014.
- ・ 小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22 (2)；92 - 105，2013.
- ・ 小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32 (1)：68-71，2012.

3. 外部研究資金

- ・ 小嶋秀幹：うつ病の生涯学習を促進する対話型ゲーム教材の開発と効果検証、科学研究費基盤研究 (C)、2020～2023 年度、研究代表者、143 万円
- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復までの道筋を考えるためのシリアスゲームの開発、公益財団法人科学技術融合振興財団 2021 年度調査研究助成、2022～2023 年度、研究代表者、75 万円
- ・ 小嶋秀幹、石崎龍二、村山浩一郎、美谷 薫、柴田雅博、畑 香理、尾形由起子、山下清香、小野順子：地域包括ケアシステム構築に向けた GIS を活用した地域診断—精神障害者の在宅療養実現を目指して—、福岡県立大学令和 5 年度研究奨励交付金 (附属研究所重点領域研究)、2022～2023 年度、研究代表者、926,700 円

4. 受賞

令和 5 年度福岡県地域精神保健協議会長表彰、2023 年 11 月

5. 所属学会

九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医

日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>精神保健学・2 単位・1 年・前期、精神保健学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、精神医学Ⅰ (精神疾患とその治療Ⅰ)・2 単位・3 年・前期、医学概論・2 単位・2 年・後期、精神保健学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期 (分担)、精神医学Ⅱ (精神疾患とその治療Ⅱ)・2 単位・3 年・後期、心理実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、心理実習Ⅲ・1 単位・3-4 年・通

年、演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>保健医療分野における理論と支援の展開・2単位・1年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開・2単位・1年・後期、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、心理実践実習A・10単位・1-2年・通年、心理実践実習B・2単位・1-2年・通年、特別研究I・4単位・1年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県ひきこもり対策協議会委員長、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、田川市青少年問題協議会委員、北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定業務、心神喪失等医療観察法判定医業務

8. 学外講義・講演

- ・精神障がい者の正しい理解と私たちの役割、田川保健所講演会、7月
- ・うつ病について知ろう、香椎高校出前講義、7月
- ・夏休み明けに要注意「子どものSOS」見逃さないで、KBCアサデス、9月
- ・死にたいと相談された際の関わり方、水巻町ゲートキーパー研修、9月
- ・学生のメンタルヘルス、福岡県看護師専任教員研修、9月
- ・認知症の診断その後、八幡西図書館メンタルヘルス講座、9月
- ・大学生のこころの危機、福岡教育大学ゲートキーパー研修、11月
- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話養成研修、11月、12月
- ・死にたいと相談された際の関わり方、香春町自殺対策講演会、12月
- ・子どもの自殺対策、田川地域自殺対策実務者会議、12月
- ・自死予防についての基礎知識、東海大福岡高校教職員研修、3月
- ・地域の見守りで自殺予防～こころのSOSの気づき～、嘉麻市自殺対策講演会、3月
- ・認知症診断後の支援、小倉南図書館メンタルヘルス講座、3月
- ・ストレスとうつ病、八幡西図書館メンタルヘルス講座、3月
- ・自殺予防の基礎知識、小竹町こころの健康講演会、3月

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	佐野 麻由子
----------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、開発。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンチャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち（男児選好による女兒の中絶、育児放棄、少女売買）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 佐野麻由子, 2023, 「途上社会の貧困, 開発, 公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『改訂版国際社会学』, 有斐閣, 167-183 (2015年第一刷発行).
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「資源エネルギー開発としての炭坑——旧産炭地田川から見た日本の「発展」と「開発」経験」, 佐藤寛編『戦後日本の開発経験』, 明石書店, 80-100.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「ダハール政権の劇的誕生で幕を降ろした選挙の年」『2023 アジア動向年報』, IDE-JETRO アジア経済研究所, 504-526.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭」早稲田大学先端社会科学研究所紀要『ソシオサイエンス』29 (1), 78-97.
- ・ 田村慶子・佐野麻由子編著, 2022, 『変容するアジアの家族——シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』, 明石書店.
- ・ 佐野麻由子, 2022, 「第5次デウバ政権, 連立諸党との調整が難航」『2022 アジア動向年報』, IDE-JETRO アジア経済研究所, 497-520.
- ・ 蜂須賀真由美・佐野麻由子, 2021, 「国際家族年前後の家族をめぐる論点の整理—国際比較のための基礎的研究—」『アジア女性研究』第30号, 1-14.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Mayuko SANO: “Nepal’s Transitional Development and Son Preference’s Future”, *Nepal Sociological Association, NSA International Conference 2023 International Conference on Good Governance and Social Transformation in Nepal*, 2023.9.2 (Pokhara, Nepal)

③過去の主要業績

- ・ 佐野麻由子，2018，「それでも息子が欲しい」？—ネパールにみる過渡期的発展と男児選好の未来」山田真茂留編著『グローバル現代社会論』，文眞堂，137-153.
- ・ 佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司，2015，『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店.
- ・ 佐野麻由子，2012，「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院，240-258.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究(C) 研究課題名「過渡期的発展段階における男児選好の構造的要因についての研究」(課題番号 20K12463) (令和2～5年度) (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会、国際ジェンダー学会

6. 担当授業科目

社会学概論・2単位・1年・後期、国際社会学A・2単位・2年・前期、国際社会学B・2単位・2年・後期、国際協力論・2単位・1年・後期、NPO論・2単位・3年生・前期、公共社会学研究IⅡ・2単位・3年・前後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

田川市協働事業提案制度審査会委員長 (2023年)

田川市産業振興会議・実務者責任者会議部会員 (2023年)

日本貿易振興機構アジア経済研究所「アジア諸国の動向分析」研究会委員 (2023年)

8. 学外講義・講演

佐野麻由子，「地域社会学—発見、分析、提言—を実践的に学ぼう」，令和5年度田川飛翔塾，源じいの森，2023年8月19日。

佐野麻由子，「ナマステ！ネパール—異文化を考える」，福岡県立京都高校，2023年11月14日。

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	杉野 寿子
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。本学では、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所等における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援」保育ソーシャルワーク学研究第9号，2023年12月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号，2023年3月
- ・ 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一「入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号，2022年
- ・ 吉浦朱音・杉野寿子「保育所でのソーシャルワーク実践－日常の子育て支援からの考察－」保育ソーシャルワーク学研究第8号，2022年
- ・ 杉野寿子「乳児院での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著，建帛社，2022年
- ・ 杉野寿子「福祉型障害児入所施設での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著，建帛社，2022年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春「SDGs と地域共生社会の視点による社会福祉実践－多様な社会ニーズに対応する事例から－」草の根福祉第51号，社会福祉研究センター，2021年
- ・ 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷺野彰子・中原雄一・伊勢慎「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号，2021年

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援ー保育者へのアンケートとインタビュー調査よりー」日本保育ソーシャルワーク学会第8回研究大会口頭発表, 2023年1月
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春「多様化する社会ニーズに対応する社会福祉実践ーSDGsと地域共生社会の視点からー」日本社会福祉学会第69回秋季大会ポスター発表, 2021年9月
- ・ 横尾美智代・櫛直美・杉野寿子「医学部医学科を除く大学・短期大学の研究倫理審査委員会の状況に関する研究」日本生命倫理学会ポスター発表, 2023年12月

<報告書>

- ・ 細井勇・伊藤篤・鬼塚香・稲葉美由紀・杉野寿子・三上邦彦・森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー：スコットランド及びロンドン訪問調査報告書」『2019年度科研費研究報告書』2020年

③過去の主要業績

- ・ 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第5号, 2019年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取組みからー」地域福祉サイエンス第3号, 2016年
- ・ 杉野寿子「ヨルダンにおける障害に関する意識調査ー近年の意識傾向を探るー」社会福祉科学研究第4号, 2015年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会

6. 担当授業科目

<学部>

社会福祉Ⅰ（2単位・1年後期）、社会的養護Ⅰ（2単位・2年前期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、子育て支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習指導Ⅱ・B（2単位・3年後期）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習Ⅱ・B（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、演習（2単位・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）

〈大学院〉

子どもの福祉研究（2単位・前期）、子どもの福祉演習（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市子ども・子育て会議会長
- ・ 田川市子どもの権利救済委員会委員長
- ・ 香春町子ども・子育て会議会長
- ・ 福岡県教育振興審議会社会教育部会委員
- ・ 福岡県教育振興審議会学校教育部会委員
- ・ 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- ・ 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市保育士等キャリアアップ研修（基礎）「保護者支援・子育て支援」講師
- ・ 北九州市保育所（園）中堅保育士研修「保護者に対する相談援助について」講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ 2023年度研究奨励交付金（重点領域研究）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」（研究代表者）
- ・ 2023年度研究奨励交付金（COC研究）「炭鉱閉山による児童の問題から引揚孤児問題へー福岡県を中心に」（研究分担者）
- ・ 公開講座Ⅱ「満州から博多・佐世保港に引揚げてきた子どもたち～二人の体験談を交えて～」
実行委員，2024年2月17日

人間社会学部／ 基盤教育センター・総合人間社会コース	職名	教授	氏名	Stuart Gale
-------------------------------	----	----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he came to Japan in the spring of 1993 to pursue a career in teaching. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University (FPU) as a full-time faculty member in the spring of 2007.

Stuart Gale's research activities encompass three main areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks *Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study abroad programmes and the facilitation of intercultural communicative competence.

In addition to his research activities, Stuart Gale also hosts bi-weekly, two-hour discussion group meetings at the university. These meetings are attended by local high school English teachers, business leaders and other citizens and are designed to facilitate the development of their English language skills.

2. 研究業績

- ①最近の著書・論文
- ②その他最近の業績

③過去の主要業績

- Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.
- Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.
- Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Japan Association of Language Teachers (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group);
Asia TEFL

6. 担当授業科目

Reading & Writing (advanced level) 1 単位 1 年 前期 後期 (1 course per semester)

Speaking & Listening (advanced level) 1 単位 1 年 前期 後期 (1 course per semester)

英語Ⅲ 1 単位 2 年 前期 後期 (3 courses per semester)

海外語学実習事前指導 (UK Programme Preparation Course, first semester only)

海外語学実習 (UK Programme, second semester only)

Introduction to Studying in English (英語で学ぶ ; 入門編) (seminar course, first semester only)

Advanced English Achievement (英語で学ぶ ; 高度) (seminar course, second semester only)

Postgraduate Presentation Skills Development in English (seminar course for postgraduate students, second semester only)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	住友 雄資
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 住友雄資 (2023) 「精神保健福祉領域におけるソーシャルアクションの課題—2022年の精神保健福祉法等改正から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(1), 37-53.
- ・ 藤原朋恵・住友雄資 (2022) 「女性精神保健福祉士の『仕事と子育ての両立』に関する研究動向と課題」『人間科学』4, 1-9.

② その他最近の業績

〈教育実践報告〉

- ・ 鬼塚香・住友雄資 (2022) 「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』—『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2), 77-85.
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資 (2021) 「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—コロナ禍における教育実践と今後の課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1), 181-190.

③ 過去の主要業績

- ・ 住友雄資 (2007) 『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版。(単著)
- ・ 住友雄資 (2001) 『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版。(単著)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会 査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

精神保健福祉の原理Ⅱ・2単位・2年・後期，精神科リハビリテーション学Ⅱ・2単位・3年・後期，精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期，卒業論文・6単位・4年・通年

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期，質的研究法・1単位・前期，精神保健福祉研究・2単位・前期，精神保健福祉演習・2単位・後期，特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

講演「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」（京都郡地域自立支援協議会）
出前講義「社会福祉学入門ーソーシャルワーカーの援助とはー」（福岡県立光陵高校）

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	堤 圭史郎
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」により、一般社団法人社会調査協会から第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援モデルに関する研究、大都市都心のコミュニティ状況把握等も行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・（近刊）堤圭史郎・相川陽一,2024,「小規模非合併農協による地域生活文化圏の形成と課題—主に下郷農業協同組合の歴史と実践に基づいて」西村雄郎・岩崎信彦編著『地方社会の危機に抗する<地域生活文化圏>の形成と展開』東信堂: 754-791.
- ・ Tsutsumi,K.(2024). Process of Social Acceptance of Facilities for the Poor. Institute of Social Theory and Dynamics. *Social Theory and Dynamics*,5, 70-86.
- ・ Tsutsumi,K.(2023). The Past and Present Homeless Issues in Japan. Aoki H and Ishioka T (Eds.). *The Bottom Worker in East Asia: Composition and Transformation Under Neoliberal Globalization (Studies in Critical Social Sciences, 262)*. Netherlands: Brill, 230-256.
- ・ 堤圭史郎,2023,「ホームレス化をヘッジする—ある支援付き住宅の取り組み」『社会分析』50: 73-90.
- ・ 堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎,2021,「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況—政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29-2: 61-74.

②その他最近の業績

〈研究報告書等〉

- ・ 堤圭史郎編,2024,『田川市における学校再編と部活動の地域移行—教員の経験と評価（2023年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）』.
- ・ 堤圭史郎,2023,「第3章 経済・就労の状況」福岡県『令和5年年度隣保館人権課題把握調査報告書』: 406-458.
- ・ 特定非営利活動法人抱樸,2023,『支援付き住宅の複合モデル「プラザ抱樸」の拡充と整備事業事業評価報告書』.(第I章3節、第II章、第V章、第VI章2節を執筆)

- ・ 堤圭史郎編,2022,『コロナ禍における困難と工夫—飲食店・教育機関・福祉施設・祭関係者へのインタビュー調査（2021年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）』.
〈書評〉
- ・ 堤圭史郎,2024,「川口泰司著『「寝た子」はネットで起こされる!?—ネット人権侵害と部落差別』福岡県人権研究所『リベラシオン』193: 104-108.
- ・ 堤圭史郎,2022,「橋本和孝・吉原直樹・速水聖子編著『コミュニティ理論と社会思想』『社会分析』49.: 110-1.
〈学会報告〉
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題における認識と制度化—都市住民に着目して」,第96回日本社会学会大会,立正大学,2023年10月9日.
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題と『地域共生社会』—貧者の施設の受容過程」,西日本社会学会第81回大会,熊本大学,2023年5月21日.
〈一般誌論稿〉
- ・ 堤圭史郎,2024,「貧困のリアリティを社会に育む」『2023年度ヒューマンアカデミア特別展集 Vol.2 第56回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 45-6.
- ・ 堤圭史郎,2024,「貧困」『2023年度ヒューマンアカデミア特別展集 Vol.2 第56回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 55.

③過去の主要業績

- ・ 堤圭史郎,2019,「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』12: 78-94.
- ・ 奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎,2014,『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.
- ・ 青木秀男編,2010,『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』,ミネルヴァ書房.(序章「ホームレス・スタディーズへの招待」、5章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」(妻木進吾と共著)を執筆)

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省,科学研究費補助金(基盤研究B),「大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣効果の研究:混合研究法による都市社会調査」,課題番号20H01578,2020~24年度,13,130千円,研究分担者(研究代表者:川野英二・大阪市立大学).

4. 受賞

5. 所属学会

関西社会学会、地域社会学会、西日本社会学会、日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会（理事）、日本都市社会学会（事務局担当理事）、貧困研究会、ソシオロジ同人

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、社会学A・2単位・1年・前期、社会学B・2単位・1年・後期、社会病理学・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、社会変動と社会問題・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、日本事情B・オムニバス・留学生・前期、地域問題研究・2単位・大学院・前期、地域問題演習・2単位・大学院・後期、特別研究Ⅰ・4単位・大学院・通年、特別研究Ⅱ・4単位・大学院・通年、フィールドワーク・2単位・大学院・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 一般社団法人日本伴走型支援協会・伴走型支援研究会・委員
- ・ 川崎町地域公共交通会議・副会長
- ・ 添田町子ども・子育て会議・会長
- ・ 田川市社会教育委員・副会長
- ・ 田川市地域公共交通会議・副会長
- ・ 田川市バスロケーションシステム等導入プロポーザル審査委員会・会長
- ・ 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員
- ・ 福岡県隣保館人権課題把握調査検討委員
- ・ 福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員 等

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県人権啓発情報センターヒューマン・アルカディア第56回特別展「SDGs - 持続可能な開発目標と人権-」に寄稿（タイトル「貧困のリアリティを豊かにする」「貧困（図書）の推薦」）。2023年12月9日～2024年年3月23日）

9. 附属研究所の活動等

- ・ 2023年度研究奨励交付金（COC研究）「炭鉱閉山による児童の問題から引揚孤児問題へー福岡県を中心に」（研究分担者）

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	藤澤 健一
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学(教育制度・政策の理論と歴史)、師範学校を中心とした教員養成史、教員研修史 教員団体・組織史。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 藤澤健一「近代沖縄における地方教育部会の変容過程—校長層の役職者への選出をめぐって」(単著) 琉球沖縄歴史学会『琉球沖縄歴史』第3号、2021年8月(査読あり)
- ・ 藤澤健一「近代沖縄における校長の組織化過程—校長会の運営実態を分析視点として」(単著) 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第49号、2022年3月、49—92頁(査読あり)
- ・ 藤澤健一「近代沖縄における女性教員政策史—沖縄県女教員研究会の役職者への登用をめぐって」(単著) 沖縄文化協会『沖縄文化』第53巻第1号(第125号)、2023年1月、22—41頁(査読あり)
- ・ 藤澤健一「近代沖縄における生活扶助を通じた教員の組織化過程—教員互助会の設置と運営」(単著) 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第51号、2024年3月(査読あり)

② その他最近の業績

<書評>

- ・ 我部政男著『日本近代史のなかの沖縄』不二出版、2021年7月、『図書新聞』第3514号、2021年10月9日

③過去の主要業績

- ・ 編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月
- ・ 編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年10月

3. 外部研究資金

研究代表者:科学研究費補助金基盤研究(B)「米軍占領下の沖縄における現職教員研修制度の再構築過程に関する研究」20H01631(2020年度～2024年度)、総額(直接経費)6760千円

4. 受賞

5. 所属学会

日本教育制度学会会員、日本教育政策学会理事、日本教育行政学会会員、日本教育学会会員 日本教育史研究会会員

6. 担当授業科目

教育学概論 B・2 単位・1 年前期、教師論・2 単位・1 年後期、教育史・2 単位・2 年前期、学校インターンシップ・2 単位・3 年、教育の方法と実践・1 単位・3 年後期、教育実習事前事後指導・2 単位・3 年後期から 4 年前期、中学校教育実習・4 単位・4 年、高校教育実習・4 単位・4 年、教職実践演習・2 単位・4 年後期、公共社会学研究 I・2 単位・3 年前期、公共社会学研究 II・2 単位・3 年後期、卒業研究・4 年・6 単位。

7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長、田川市教育事務点検評価委員会委員長、添田町教育委員会事務点検評価委員。

8. 学外講義・講演

長崎県立長崎南高等学校未来デザインスクール出前講義(2023 年 10 月 27 日)

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、地域福祉活動に取り組む NPO 法人において、社会福祉士・精神保健福祉士、介護福祉士等として相談・介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、特に高齢者福祉活動（ソーシャルワークや介護、各種の生活支援）に取り組む NPO 法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の主要研究テーマとしては、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特に NPO 法人が提供するサービスと経営）、2)高齢者の権利擁護（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、3)高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワーク（高齢者の退院支援ソーシャルワークを含む）と今後の展開（特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等）、ソーシャルワーク教育（海外含む）に関するものがあります。

研究上で特に意識することとして、机上のみではなく実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と顔がみえる関係を築きながら、現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています。また、社会福祉に関する各種調査等を通じて福祉問題を抽出・発見し、その結果を福祉現場にフィードバックすることで、実践に活かして頂ければありがたいと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智,「実習領域別にみる相談援助実習の課題 -A 大学における 2013-2021 年度実習後アンケート調査の概観-」,福岡県立大人間学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』,第 31 巻第 1 号,2022.10.
- ・ 川井大輝・本郷秀和,「QOL と高齢期の変化に関する一考察」,福岡県立大学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』,第 31 巻第 1 号.2022.10.
- ・ 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智,「感染症流行後の相談援助実習の課題と実習指導者への期待」『福岡県社会福祉士会研究誌』(福岡県社会福祉士会), 2023.3.
- ・ 本郷秀和,「第14章 相談援助の目的と方法 -ソーシャルワークの視点から-」「第16章 保健医療福祉に関する諸問題の例」,鬼崎信好・本郷秀和編,『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』,講談社,2023.3
- ・ 本郷秀和,「第1章 高齢者の定義と特性」「第2章 高齢者の生活実態と社会環境」,川村匡由編,『入門高齢者福祉』,ミネルバ書房,2023.3.
- ・ 本郷秀和・田中将太・梶原浩介,「介護系NPOにおける制度外サービス開発のポイントを探る -過去調査と2法人の事例検討を通じて-」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.25 No.5,(株)北陸社,2023.4.
- ・ 本郷秀和・梶原浩介・畑香理・大場敬太,「イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況 -地域包括ケアにおける高齢者福祉に関する取り組みを中心に-」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.26 No.4,2024.(株)北陸社,2024.3.
- ・ 本郷秀和・梶原浩介,「介護系NPOにおける制度外サービスの開発プロセスに関する研究-インタビュー調査を通じた発想から実施直後までのプロセスの探求-」『日本の地域福祉』第37巻,日本地域福祉学会,2024.3.

②その他最近の業績

- ・ 本郷秀和、「特集:虐待は、なくせるのか」「必要なのは「発見力」「連携力」「協働力」」環境新聞社、『月間ケアマネジメント』6月号、2021年5月。
- ・ 田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和（編集代表）、九州社会福祉研究会編、『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第3版』、学文社、2022年3月。
- ・ 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「子ども家庭福祉をめぐる現状と課題」コーディネーター（2022年12月17日、会場：福岡県立大学 講堂）
- ・ 日本社会福祉学会 全国フォーラム シンポジウム「地域共生社会を問う-共生の社会に向けた社会福祉実践から-」、コーディネーター（2023年3月、:久留米大学・オンライン）
- ・ 本郷秀和、【書評】「竹本与志人著『認知症のある人への経済支援—介護支援専門員への期待—』」日本社会福祉学会『社会福祉学』第64巻第2号、2023.9.
- ・ 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「ソーシャルワークの実践から価値を問い直す」コーディネーター（2023年12月9日、会場:福岡県立大学 講堂）

③過去の主要業績

- ・ 本郷秀和、『高齢者虐待と介護支援専門員』中央法規、2020年3月。
- ・ 畑香理・本郷秀和、「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援」日本社会福祉学会九州部会発行、『九州社会福祉学』第15号.2019年3月
- ・ 本郷秀和、「介護保険制度下の NPO 法人におけるソーシャルワーク実践の方向性」日本地域福祉学会発行、『日本の地域福祉』第17号.2003年3月。

3. 外部研究資金

平成 31 年度—令和 5 年度(5 年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究 C、「地域包括 ケアシステム推進下の介護 NPO の可能性」421 万円（総額）*研究代表：本郷秀和

4. 受賞

5. 所属学会

1) 日本社会福祉学会(代議員・九州地域ブロック運営委員)、2) 日本地域福祉学会、3) 日本介護福祉学会、4) 日本高齢者虐待防止学会、5) 日本社会福祉士会、6) 福岡県立大学社会福祉学会(副会長)。

6. 担当授業科目

〈学部〉

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」(2 単位・1 年後期)、「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(3 単位・2 年通年)、「ソーシャルワークの理論と方法 B」(2 単位・2 年前期)、「高齢者福祉論」(2 単位・2 年前期)、「ソーシャルワーク演習 C」(1 単位、2 年前期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(3 単位・3 年通年)、「ソーシャルワーク実習」(4 単位・3 年通年)、「社会福祉学演習」(4 単位・3 年通年)、「ソーシャルワーク演習 D」(1 単位・3 年後期)、「福祉専門職特講 A」(2 単位・3 年後

期・オムニバス)、「卒業論文」(6 単位・4 年通年)、「福祉専門職特講 B」(2 単位・4 年前期・オムニバス)。
〈大学院〉

「特別研究Ⅰ」(2 単位・1 年通年)、「高齢者福祉研究Ⅰ」(2 単位・1 年前期)、「量的研究法」(1 単位・1 年前期)、「高齢者福祉研究Ⅱ」(2 単位・1 年後期)、「フィールドワーク」(2 単位・1 年後期)、「特別研究Ⅱ」(2 単位・2 年通年)

7. 社会貢献活動

1)福岡県社会福祉審議会 審議委員. 2)福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長. 3)福岡県社会福祉審議会 地域福祉支援計画専門分科会 会長. 4)福岡県高齢者保健福祉計画(第 10 次)策定検討委員会 会長. 5)福岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議 委員長. 6)福岡県人権施策推進講話会専門部会委員. 7)福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部会長. 8)福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長. 9)福岡県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員. 10)福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会委員. 11)福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員. 12)福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員苦情処理小委員会 委員. 13)福岡県嘉麻市 地域福祉計画策定委員会 委員. 14)福岡県嘉麻市社会福祉協議会 地域福祉権利擁護事業 運営審議会委員. 15)福岡県嘉麻市社会福祉協議会 権利擁護支援 運営委員会委員. 16)福岡県宗像市 介護保険運営協議会 委員. 17)福岡県田川市 地域包括ケアシステム推進協議会 認知症支援部会 委員. 18)福岡県川崎町 地域包括支援センター運営協議会 会長. 19)日本社会福祉学会 機関誌「社会福祉学」編集委員・査読委員. 20)日本社会福祉学会 九州地域ブロック発行「九州社会福祉学」査読委員. 21)日本高齢者虐待防止学会機関誌「高齢者虐待防止研究」査読委員. 22)荒尾玉名地区(熊本県) 障害児者の生活を豊かにする会 会計監査. 23)NPO 法人 地域たすけあいの会 理事他.

8. 学外講義・講演

1)令和 5 年度 福岡県人権相談従事者研修「福祉相談と記録」(福岡県主催)、講師(会場:財福岡県人権啓発情報センター)6 月 20 日. 2)KBC 九州朝日テレビ放送「アサデス「街で車いすの方に出会ったら(アサデスポスト)」」コメンテーター(2023 年 6 月 23 日放送). 3)KBC 九州朝日ラジオ放送「アサデス ラジオ 街で車いすの方に出会ったら」コメンテーター(6 月 23 日放送). 4)社会福祉法人慈愛会 職員研修 テーマ「社会福祉の苦情と対応-高齢者領域を中心に-」講師(会場:特別養護老人ホーム 富の里),8 月 22 日. 5)福岡県老人福祉施設協会 生活相談員研修「生活相談員の役割 -権利擁護の視点から-」講師(12 月 8 日、会場:TKP ガーデンシティプレミアム).

9. 附属研究所の活動等

附属研究所調整部会 委員、福岡県立大学後援会 理事、社会福祉コース代表、博士課程設置ワーキンググループ. 〈主な資格〉社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・救急救命士・専門社会調査士他

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山 浩一郎
----------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村山浩一郎「第9章 地域福祉」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』, 講談社, 2023年2月

②その他最近の業績

- ・ 村山浩一郎「福祉協力員意識調査結果からみえてきたこと」, 北九州市社会福祉協議会『福祉協力員意識調査結果報告書2021』, 北九州市社会福祉協議会, 2022年5月
- ・ 村山浩一郎「包括的な支援体制をどう捉えるか」, 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会(委員長:村山浩一郎)『社会福祉協議会と包括的な支援体制～これからの福岡県内社協に必要な視点・求められる役割』, 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会, 2023年1月

③過去の主要業績

- ・ 村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化—新旧ガイドラインの比較より」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号, 2020年10月
- ・ 九州社会福祉研究会編(編集委員:岩井浩英, 江口賀子, 大山朝子, 片岡靖子, 門田光司, 河谷はるみ, 鬼崎信好, 倉田康路, 滝口真, 田畑洋一, 茶屋道拓哉, 本郷秀和, 村山浩一郎)『21世紀の現代社会福祉用語辞典<第2版>』, 学文社, 2019年6月
- ・ 村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題:3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」, 『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月

3. 外部研究資金

- ・2019年度－2023年度, 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】, 研究課題: 「地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する方法」 (研究代表: 村山浩一郎, 交付金額: 78万円), 研究代表者
- ・2019年度－2023年度, 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】, 研究課題: 「地域包括ケアシステム推進下における介護系NP0の役割」 (研究代表: 本郷秀和, 交付金額: 442万円), 研究分担者

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会 (理事・研究担当), 日本地域福祉学会 (地方委員), 日本社会学会, 福祉社会学会, リハビリテーション連携科学学会, 日本福祉教育・ボランティア学習学会

6. 担当授業科目

<学部>社会福祉学概論Ⅰ・2単位・1年・前期, ソーシャルワーク演習B・2単位・2年・通年, ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2～4年・通年, ソーシャルワーク実習A・2単位・2年・後期, 地域福祉論Ⅰ・2単位・2年・後期, 地域福祉論Ⅱ・2単位・3年・前期, ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年, ソーシャルワーク実習B・4単位・3年・通年, ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期, 社会福祉学演習・2単位・3年～4年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>特別研究Ⅰ・4単位・1年・通年, 研究倫理・1単位・1年・通年, フィールドワーク・2単位・1～2年・通年, 地域福祉研究A・2単位・1～2年・前期, 地域福祉研究B・2単位・1～2年・後期, 特別研究Ⅱ・4単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・遠賀町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・大牟田市健康福祉推進会議 会長
- ・苅田町地域福祉推進委員会 委員長
- ・北九州市社会福祉審議会 委員 (兼地域支援専門分科会 会長)
- ・北九州市地域福祉振興協会 副会長
- ・北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会 委員長 (兼アドバイザー)
- ・古賀市地域福祉計画・古賀市地域福祉活動計画策定委員会 副委員長
- ・小竹町地域福祉計画策定委員会 委員長
- ・志免町社会福祉協議会 ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会 会長
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健 (予防) ・生活支援部会 部会長

- ・田川市地域福祉計画推進会議 会長
- ・直方市生活支援体制整備事業アドバイザー
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
- ・福智町地域福祉計画・地域福祉活動計画 アドバイザー
- ・福津市福祉施策策定審議会 会長
- ・水巻町福祉施策推進協議会 会長
- ・みやこ町地域福祉総合計画審議会 会長
- ・行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会 委員長（兼実務者会議座長）
- ・行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

8. 学外講義・講演

- ・北九州市社会福祉協議会 ふくしのまちづくり講座（八幡東区前田第4地区） 講師
- ・九州社会福祉協議会連合会 九州ブロック地域福祉研究会議 第2分科会 助言者
- ・筑後ブロック民生委員児童委員協議会会長会 市町正副会長合同研修会 講師
- ・筑豊ブロック民生委員・児童委員協議会研修会 講師
- ・直方市社会福祉協議会 地域福祉活動セミナー 講師
- ・東筑紫学園高等学校 高校訪問
- ・福岡県地域福祉活動職員連絡会 コミュニティワーカー育成者養成研修 コーディネーター
- ・福岡県民生委員児童委員協議会 会長会議・研究協議会 講演
- ・福智町社会福祉協議会 生活ボランティアステップアップ講座 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・令和5年度附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断 - 精神障害者の在宅療養実現を目指して -」研究メンバー

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇 敦史
------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達をもたらす問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということ考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景、司法審査の正当化根拠についても研究を進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 森脇敦史「ヒューゴ・ブラック 歴史は繰り返すか？」山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法の群像 裁判官編』145～170 頁、尚学社、2020 年 6 月
- ・ 君塚正臣・森脇敦史（編）『ベーシックテキスト憲法 第4版』法律文化社、2023 年 9 月

②その他最近の業績

<判例研究>

- ・ 森脇敦史「家庭裁判所調査官が自ら担当した事件に関する論文等の公表とプライバシー侵害」新・判例解説 Watch【2021 年 4 月】、日本評論社、2021 年 3 月

③過去の主要業績

- ・ 森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第 53 巻 1 号 113～142 頁、2003 年
- ・ 森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様－CDA、COPA、CIPAの事例から－」、阪大法学第 53 巻 3=4 号 393～419 頁、2003 年
- ・ 森脇敦史「キャス・サンステイン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾・山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255～274 頁、尚学社、2010 年 1 月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年・後期、問題解決演習・1単位・2年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期、個人情報法制・2単位・後期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・後期、卒業論文・6単位・通年、日本事情B（分担）・2単位・留学生・前期、日本事情A（分担）・2単位・留学生・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員（会長）
築上町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員
古賀市行政不服審査会委員
玄界環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員
玄界環境組合行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部情報公開・個人情報保護審議会委員
飯塚市政治倫理審査会

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	吉岡 和子
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月、九州大学大学院人間環境学府博士後期課程（満期退学）。2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。

臨床心理士として、医療機関（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方②アサーショントレーニング・プログラムの実践③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<著書>

- ・マハザド・ホジャット アン・モイヤー（編）吉岡和子・田中健夫・細川理香・仲嶺実甫子・中園照美・吉田加代子・真崎由美子・岩橋宗哉・児玉恵美・富田真弓（訳）宮崎弦太（解題）（2024）『友人関係の心理学：生涯にわたる多様な友情の考察』金子書房
- ・吉岡和子（2023）春日由美・五十嵐 亮編（2023）『現場で役立つ教育相談入門：子どもたちの幸せのために』第4章 第3節／第12章 第1節，4節 北樹出版

<論文>

- ・水島侑子・吉岡和子（2024）対人的動機および非主張的な自己表現と精神的健康の関連について『福岡県立大学心理臨床研究』16, 3-15.（査読無）
- ・守口典行・吉岡和子・小嶋秀幹（2024）老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化—国立大学農学部卒業者・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査『臨床心理学』24（2），224-234（査読有）金剛出版
- ・山下雅子・中山政弘・後藤理恵・渋谷明子・豊田梨紗・中島亜矢菜・宮崎圭祐・吉岡和子（2022）「アウトリーチ型の子育て支援の意義と課題—COVID-19 禍の子育て支援—」『福岡県立大学心理臨床研究』14, 35-43.（査読無）
- ・吉岡和子（2022）「ロールシャッハ法を味わうために」『福岡県立大学心理臨床研究』14, 57-75.（査読無）
- ・Noriko Numata, Akiko Nakagawa, Kazuko Yoshioka, Kayoko Isomura, Daisuke Matsuzawa, Rikukage Setsu, Michiko Nakazato, Eiji Shimizu（2021）「Associations between autism spectrum disorder and eating disorders with and without self-induced vomiting: an empirical study」『Journal of Eating Disorders』9, Article number : 5（査読有）
- 本田（藤原）沙貴・吉岡和子（2021）「大学生の自己愛的脆弱性と友人関係の在り方及び満足感」『福岡県立大学心理臨床研究』13, 3-13.（査読有）

② その他最近の業績

<学会発表>

・ Kazuko Yoshioka, Emi Kodama (2022) Drawings in Draw-Your-Family-as-an-Animal Test and Evaluation of Impressions of Self and Parent. ECP 2022, 17th European Congress of Psychology (5-8.July) online (Ljubljana, Slovenia) .

・ 福田恭介・早見武人・吉岡和子・田中直也・志堂寺和則・松尾太加志 (2022) Go/No-Go 課題時の瞬目発生・抑制の発達の検討 第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第30回大会 合同大会 2022 2022.5.27~29 (関西学院大学)

・ 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・田中直也・志堂寺和則 (2021) 発達障害児・定型発達児における Go/No-Go 課題時の瞬目発生 第39回日本生理心理学会大会 2021.5.22~5.31 Web 発表 (日本大学)

<自主シンポジウム>

「地域に出向く子育て支援と心理職の働き方支援—それぞれの社会課題にどう向き合うか—」
(2021) 日本心理臨床学会第40回大会 指定討論者

③過去の主要業績

<著書>

・ 高橋紀子・吉岡和子編 (2010) 「心理臨床, 現場入門: 初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.

・ 吉岡和子・高橋紀子編 (2010) 「大学生の友人関係論: 友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

<論文>

・ 吉岡和子 (2007) 「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24 (6), 723-728.

・ 吉岡和子 (2002) 「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13, 13-30.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本青年心理学会 日本心理臨床学会 日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 (理事)
日本パーソナリティ心理学会 日本精神分析学会 九州心理学会 (理事)

6. 担当授業科目

<学部> 心理実習 I・1 単位・2 年・通年 (共同), 心理学的支援法・2 単位・2 年・後期 (共同), 公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期 (分担), 心理実習 II・1 単位・2 年・前期 (共同), 心理演習・2 単位・3 年・後期 (共同), 心理実習 III・1 単位・3 年・後期 (共同), 家族心理学 (社

会・集団・家族心理学)・2単位・4年・前期, 教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期(分担), 心理実習 III・1単位・4年・前期(共同), 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院> 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2単位・1・2年・前期, 臨床心理基礎実習 A・1単位・1年・前期(共同), 臨床心理基礎実習 B・1単位・1年・通年(共同), 臨床心理査定演習 II・2単位・1年・後期, 臨床心理実習 I(心理実践実習 A)・10単位・1・2年・通年(共同), 臨床心理実習 II・1単位・2年・通年(共同), 心理実践実習 B・2単位・1・2年・通年(共同), 心理療法特論・2単位・2年前期(分担) 特別研究 I・2単位・1年・通年, 特別研究 II・2単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・日本ロールシャッハ学会 理事/教育・研修委員会委員、編集委員会委員
- ・一般社団法人 日本心理臨床学会 代議員
- ・一般社団法人 日本臨床心理士会 代議員
- ・九州心理学会 理事
- ・福岡県臨床心理士会・福岡県公認心理師会連絡協議会 事務局長
- ・NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室 理事/相談員
- ・九州大学総合臨床心理センター 面接指導員
- ・福岡女学院大学大学院 心理査定委託相談員
- ・西九州大学臨床心理相談センター 研究員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」8月1日
- ・福岡県立大学大学院心理教育相談室「ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップワークショップ」8月7日
- ・北九州 LD 等発達障害親の会 すばる勉強会「アサーション」8月20日
- ・福岡県市町村研修所「カウンセリング・マインド養成研修」9月20日、21日
- ・令和5年度福岡県配偶者からの暴力防止対策筑紫地域連絡会議「DV相談と支援：相談の受け方について」12月20日

9. 附属研究所の活動等

<心理教育相談室>

- ・相談室室長
- ・相談室紀要編集委員会小部会
- ・お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)の企画と運営

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	池 志保
--------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014年より福岡県立大学人間社会学部および人間社会学研究科専任講師、2019年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では「臨床及び発達における創造性」を柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達の相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究のテーマとしています。心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院にて非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、本学学生相談室にて学生相談員・学生相談室部会長を兼任してきました。その他、西南学院大学大学院非常勤講師(2016年度集中「発達心理学特論」)、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師(2018年度より現在まで。前期「総合医科学」)など。2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士・日本精神分析学会認定心理療法士。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 井上奈美子・池志保（共著）大学1・2年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果，福岡県立大学人間社会学部紀要，第30巻 第1号，pp.21-34, 2021.

② その他最近の業績

<学会発表>

- 池志保（単独）Justin D. Bieberの創造性：分裂した自己と反抗、更生の半生，日本病跡学会第68回総会一般演題，2021.
- Shiho Ike(Presenter) , Amy Joelson(Discussant), Katrina Boggiano(Moderator), The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist's Selfobject Functions, 43rd Annual IAPSP International Conference Paper Session1 in Washington, DC, 2022.
- 池志保（司会者）日本心理臨床学会第42回大会口頭発表（発表者：本田賢介，指定討論者：富樫公一），2023.

<翻訳>

- <英語訳>Shiho Ike; Sachiko Mori, When “dreams are described by infants, Talking about Children Pt1”, International Association for Psychoanalytic Self Psychology(IAPSP) eForum, 2021.
- <講演記録（日本語訳）>トーマス・A・コフト（海外招聘講師），翻訳者：池志保（翻訳監修）・外山敬・西山豪. 精神分析と語られない歴史—なぜ精神分析家は文化を無視できないのか—, 精神分析研究 66 (4), pp.413-421, 2022.

<コラム>

- ・ 池志保（単独）先人に訊ねる日本の心理臨床学史：北山修先生に訊く，一般社団法人心理臨床学会「日本心理臨床学会 40 周年記念誌—その歴史と記録—」，2022.
- ・ 池志保（単独）恋愛関係の終焉の意味，日本心理臨床学会広報誌「心理臨床の広場」第 16 卷 30 号.

<海外講師招聘講演会>

- ・ 池志保（国際プロジェクト委員長・通訳・翻訳）トーマス・コフト教授招聘講演会，JAPSP 国際プロジェクト，2021.

③ 過去の主要業績

<著書>

- ・ Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg, Krise und Kreativität. BRANDES & APSEL, 2019.

<学会発表>

- ・ Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersonger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annual International Pre-Conference, Vienna, 2018.

<翻訳>

- ・ 池志保・外山敬（共著）心理療法における共感と失敗，講演論文翻訳：講師ヨシ・タミア，福岡県立大学心理臨床研究 10 卷，pp.57-63, 2018.

<外部研究資金>

- ・ 日本精神分析学会 2021 年度国際交流委員会助成金採択，池志保（企画者・申請者）JAPSP 海外招聘講演会.
- ・ 日本心理臨床学会 2022 年度国際交流助事業助成（国際学会発表）採択，“The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist’s Selfobject Functions” 開催地：アメリカ合衆国（ワシントン D.C.）43rd Annual IAPSP Conference in Washington, DC（研究代表者：池志保）.

3. 外部研究資金

- ・ Shiho Ike, IAPSP Early Career Professional Scholarship, \$750.00 for expenses related to attending the conference, an additional \$500.00 travel costs and complimentary registration for any virtual conference etc., from October 1st, 2023 to October 1st, 2024.

4. 受賞

Shiho Ike, IAPSP Early Career Professional Scholarship Award, October 2023.

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology) 、IARPP (The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy) (各正会員)

【その他の研究会】NAPI 精神分析的間主観性研究グループ (運営委員)、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究会 (各正会員)

6. 担当授業科目

【学部】発達心理学 I-A (2 単位・前期)、発達心理学 I-B (2 単位・前期)、発達心理学 II (2 単位・後期)、心理的アセスメント (2 単位・後期)、心理実習 I (1 単位・通年)、心理実習 II (1 単位・前期)、心理実習 III (1 単位・後期)、公認心理師の職責 (2 単位・後期)、演習 (2 単位・通年)、卒業論文 (6 単位・通年)

【大学院】発達心理学特論 (2 単位・前期)、臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理基礎実習 A (1 単位・前期)、臨床実践実習 B (2 単位・通年)、臨床心理実習 I (心理実践実習 A) (10 単位・通年)、臨床心理実習 II (1 単位・通年)、研究倫理 (1 単位・通年)

7. 社会貢献活動

【役員】

日本心理臨床学会広報誌編集委員 (2022 年度より現在まで)、日本精神分析学会運営委員、NAPI 精神分析的間主観性研究グループ運営委員 (2019 年度より現在まで)、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会運営委員 (2022 年度より現在まで)

【査読】

福岡県立大学心理臨床研究、福岡県立大学人間社会学部紀要

8. 学外講義・講演

【講義】

福岡精神分析研究会系統講義講師、講義内容「ウィニコットの遊ぶことと創造性」(2023 年 7 月 1 日)

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

人間社会学部／こどもコース	職名	准教授	氏名	伊勢 慎
---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士課程）単位取得満期退学。

修了後、保育士として現場経験が3年あります。授業や研究においても保育士経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰ（保育所）を担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方などの指導に力を入れています。

主な研究分野は、保育、幼児教育の内容に関する事、保育者養成に関する事などです。近年では、園内研修や保育者の前向きな働き方についても研究をしています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 伊勢慎、小山憲一郎：「保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究」、保育学研究、第61巻第2号、2023
- ・ 井手裕子、伊勢慎、池田孝博「保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題 - 課題解決のための情報収集とソーシャルスキルに着目して -」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻2号、2023
- ・ 高口知浩、伊勢慎「同僚性の形成に向けた取り組みの変化について - コロナ禍前後の比較 -」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻第1号、2022
- ・ 伊勢慎、池田孝博、櫻井国芳、古橋啓介「子どもの道徳・規範意識と運動に関する一考察」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻第1号、2022
- ・ 高口知浩、伊勢慎、古橋啓介「公立保育所における同僚性の形成に関する質的研究—離職保育者の語りから—」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第30巻第1号、2021
- ・ 七木田敦、上村眞生、岡花祈一郎、伊勢慎、その他：『子ども家庭支援論—子どもを中心とした家庭支援—』教育情報出版、2022
- ・ 中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹、伊勢慎、その他：『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（第1部⑤労働環境）、ミネルヴァ書房、2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 伊勢慎、小山憲一郎「アフターコロナ時代における保育士のニューノーマルな取り組みの一考察2」、国際幼児教育学会第43回大会、2022
- ・ 伊勢慎「アフターコロナ時代における保育士のニューノーマルな取り組みの一考察—保育士の語りから—」、日本保育学会第74回大会、2022
- ・ 井手裕子、伊勢慎「幼稚園教諭における情報収集の困り感に着目して—インタビューを通して見えてきた多様性・同僚性とそれらを支える園文化—」、日本保育学会第74回大会、2022

- ・ 森山也子、伊勢慎「公立保育所保育士が担う多様な保育ニーズと労働実態からみる職場改善・負担軽減に関する一考察－語りから見えてきた立場を超えた職員間の協働－」、日本保育学会第74回大会、2022
- ・ Makoto ISE : Study on New Mental Health Measures for Nursery School Teachers in Post-Covid Era. The 42nd conference of the International Association of Early Childhood Education, 2021
- ・ 伊勢慎「量的にみる保育士の長期勤務におけるポジティブな要因に関する研究」、日本保育学会第74回大会、2021
- ・ 井手裕子、伊勢慎「保育者の情報収集の実態から考える保育者支援」、国際幼児教育学会第42回大会、2021
- ・ 森山也子、伊勢慎「公立保育所保育士が感じている日常的な労働負担感を軽減する方策についての研究」、国際幼児教育学会第42回大会、2021

③過去の主要業績

- ・ 伊勢慎「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」、国際幼児教育研究第26巻、2019
- ・ 中坪史典、境愛一郎、濱名潔、保木井啓史、伊勢慎、サトウタツヤ、安田裕子『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』、ミネルヴァ書房、2018
- ・ 伊勢慎『保育暦』、ふくろう出版、2012

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）基盤研究C：「アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討」（代表）、2021-2023

4. 受賞

5. 所属学会

日本保育学会、国際幼児教育学会（理事）、日本子ども社会学会、日本質的心理学会、日本乳幼児教育学会、日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

（学部）

保育内容総論・2単位・2年・前期、保育カリキュラム論・2単位・2年・後期、保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年、保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期、乳児保育Ⅱ・2単位・3年・前期、保育実習指導Ⅱ-A・1単位・3年・後期、保育実習Ⅱ-A・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・後期・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期

(大学院)

教育課題研究 A・2単位・修士1年・前期、子ども保育計画研究・2単位・修士1年・前期、子ども保育計画演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

香春町教育委員会評価委員委員長、国際幼児教育学会理事、北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員、添田町公立保育所あり方検討会議委員長

8. 学外講義・講演

熊毛地区保育連合会職員研修会講師、北九州市保育士研修「領域・言葉」講師、ECEQ 公開保育研修園アドバイザー

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合コース	職名	准教授	氏名	井上 奈美子
--------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

資格：経済学博士、経営学修士（MBA）

主な研究分野：・ライフキャリア、人的資源管理（企業や自治体の人事分野、女性活躍推進、女性リーダー育成、セクハラ・パワーハラスメント）・キャリア教育（アクティブラーニング・PBL・インターンシップ）・サービスマネジメント（ホテル・航空会社などのホスピタリティ経営）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 井上奈美子・間間理、Effect of Pre-and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method. 福岡県立大学人間社会学部 紀要、第 29 巻、第 2 号、2021 年 3 月
- 井上奈美子・池志保、「大学 1・2 年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第 30 巻、第 1 号、2021 年 10 月
- 井上奈美子「宝塚歌劇団の顧客に対するサービス・マネジメント」、九州経済学会年報 59、1-8、2021 年 12 月
- 井上奈美子「地方大学における地域連携インターンシップ教育プログラムの開発」福岡県立大学人間社会学部 紀要、第 31 巻、第 1 号、2022 年 10 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- 井上奈美子「博多阪急とのオンライン PBL 設計教育」、日本創造学会、年次大会、2021 年
- 井上奈美子「学生主体の学びあいと職業体験による社会人基礎力向上効果～振り返りと 3 か月後の面談に注目して～」日本キャリア教育学会研究大会、2021 年
- 井上奈美子「課題解決型インターンシップによる学生の意識変化：マインドマップを手掛かりにして」、九州経済学会年次大会、2021 年
- 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、2022 年
- 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2022 年
- 井上奈美子「大学生を対象とした組織開発理論を応用した PBL 講義の実践：学習効果とストレスの探求」、日本創造学会、全国研究大会、2023 年
- 井上奈美子「学内グループ学習とインターンシップ連動学習の創造性の比較」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2023 年
- 井上奈美子「女性の本音と就業実態から探る女性の管理職登用の課題」九州経済学会、研究大会、2023 年

③過去の主要業績

- ・ 学生の「力」をのばす大学教育第 12 章「女子大学生の組織学習を通じたキャリア形成に関するフィールドリサーチ」地域創造研究叢書唯学書房、愛知東邦大学地域創造研究所(183 ページ)、2014 年
- ・ 「女性リーダー育成プログラムの開発と実践～九州女性ビジネススクールの成果と課題～」『日本ビジネス実務論集』第 33 号、日本ビジネス実務学会、67-76 頁、2015 年
- ・ “Women’s career life in contemporary Japan.” IAEVG International Conference 2015 国際キャリア教育学会、2015 年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本ビジネス実務学会会員（九州四国ブロック幹事）・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会
- ・ 日本創造学会

6. 担当授業科目

情報と職業 1 単位 2 年・前期、社会人基礎力演習 2 単位・1 年 2 年・前期、教養演習 2 単位・1 年・前期、プレインターンシップ 2 単位・1 年 2 年・前期、ライフキャリア論 2 単位・1 年 2 年・前期、キャリア教育論 2 単位・3 年・前期、人的資源管理論 2 単位・2 年前期、組織マネジメント 2 単位・3 年・前期、問題解決演習 2 単位・2 年 3 年・後期、グローバル社会論 2 単位・2 年・後期、日本事情 2 単位・後期

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画推進協議審議会 会長（審議会、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など）、久留米六つ門大学、特定非営利法人久留米 10 万人女子会フォーラム企画監修、高校生向けキャリア講話（キャリア）、企業や行政機関のパワハラ・セクハラ研修講師

8. 学外講義・講演

一般社団法人日本経営協会女性ビジネススクール女性リーダー育成プログラム講師 久留米六つ門大学 講師「日本企業における SDG s の取り組み」田川市男女共同参画推進センターゆめっせ主催「女性リーダー育成研修会」講師 あすばる男女共同参画フォーラム 2021 特定非営利法人久留米 10 万人女子会主催「コロナ後を どう生きる？～育児、介護の地域力をあげて私たちが望む社会へ」2021 年 11 月 28 日 企画& ワークショップ講師

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。主な研究テーマは以下の三点です。

一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。不登校をはじめとする種々の教育課題を改善していくため、スクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。児童虐待を早期発見・未然防止していくための家族支援に関する具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実に向け、地域の有機的ネットワークを活用した社会資源の開発・開拓および障害特性に対応したソーシャルワーク実践を研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村賢一（2023）「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程・実習プログラムの変遷と展開課題ー福岡県立大学における教育実践報告からの検討ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(1), 143-154.
- ・ 奥村賢一（2023）「障害者権利条約第 24 条「教育」の改善勧告（総括所見）を受けてー日本の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの課題ー」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『障害福祉研究さぼーと』70（2）38-44.
- ・ 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2022）『三訂版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版.
- ・ 奥村賢一（2022）「第 4 章 援助論としてのソーシャルワーク」「第 6 章 子どもと家庭に対する支援ー虐待と貧困から捉える子ども家庭福祉ー」「第 11 章 学校を拠点に実践を行うスクールソーシャルワーカーー子どもの教育保障に向けたソーシャルワークー」横山登志子編『社会福祉実践とは何か』放送大学教育振興会.
- ・ 奥村賢一（2022）「知的障害児・者の家族支援」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『障害福祉研究さぼーと』69（1）34-37.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 奥村賢一（2022）「子ども虐待防止に向けた学校でのスクールソーシャルワーカーの役割」basic lecture 演者，日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会，福岡サンパレス.
- ・ 奥村賢一（2022）「自治体へのスクールソーシャルワーカー配置促進に向けた課題分析ー小中学校教員と市町村教育委員会の認識から考える」コメンテーター，日本学校ソーシャルワーク学会第 16 回全国大会，分科会，北星学園大学.

- ・ 奥村賢一 (2022) 「研究の「問い」立てに必要な視野：実践の科学化、研究成果の社会実装」シンポジスト，日本学校ソーシャルワーク学会第16回全国大会，分科会，北星学園大学。
<報告書>
- ・ 奥村賢一・原田直樹・河野高志ほか (2024) 「令和5年度文部科学省委託調査スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究 調査研究報告書」238.
- ・ 奥村賢一 (2023) 「アドボカシーの概念—子どもが等しく学べる環境を—」『あらゆる子どもにアドボカシーの実現を 2022年度報告書』40.
- ・ Kenichi Okumura (2022) Parent Support Services -The role of School Social Worker-, Asia Network of School Social Work Newsletter , 6, 2-4.

③過去の主要業績

- ・ 門田光司・奥村賢一 (2009) 『スクールソーシャルワーカーのしごと—スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
- ・ 奥村賢一 (2009) 「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察—パワー相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻.
- ・ 奥村賢一 (2009) 「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察—軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号.

3. 外部研究資金

文部科学省（令和5年度いじめ対策・不登校支援等推進事業）「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」，104万円，2023年度.

科学研究費（基盤研究C）「子スクール（学校）ソーシャルワーク実習・実習指導プログラムの開発」117万円，2021年度～令和2023年度.

科学研究費（基盤研究B）「子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム構築とその評価」1,755万円，2019年度～2023年度.

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

【学 部】不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、子ども家庭福祉論A・2単位・2年・前期、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、ソーシャルワーク実習A・2単位・2年・後期、ソーシャルワーク実習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク

論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位・3年～4年・通年、学校
ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、子ども家庭福祉論B・2単位・3年・後期、卒
業論文・6単位・4年・通年

【大学院】特別研究Ⅰ・4単位・1年、特別研究Ⅱ・4単位・2年、子ども家庭福祉研究A・2
単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉研究B・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長

公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会・理事

NPO法人福岡県子どもアドボカシーセンター・理事

日本学校ソーシャルワーク学会・査読委員

福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市こども・子育て審議会・委員

福岡市登校支援対策会議・副委員長

福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長

福岡県社会福祉審議会・臨時委員

田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員

香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長

8. 学外講義・講演

福岡県不登校児童生徒支援強化事業研修体制整備における研修会「不登校児童生徒のケースマ
ネジメント」福岡県教育センター，2023年7月。

令和5年度小竹町人権講演会「子どもの人権」小竹町中央公民館，2023年7月。

教育・福祉虐待対応職員合同研修「模擬事例から学ぶ教育と福祉の協働」子どもの虹情報研修
センター，2023年8月。

長野県スクールソーシャルワーカー第3回実務者会「児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワ
ークースクールソーシャルワーカーの専門的役割を中心に」長野県教育委員会，2023年8月。

不登校児童生徒への支援に生かす教育相談「不登校児童生徒の理解と支援ーソーシャルワーク
の視点からー」福岡市教育センター，2023年8月。

令和5年度児童虐待防止講演会「児童虐待防止に向けた孤育て支援ーソーシャルワークの視点
からー」福智町地域交流センター，2023年11月。

2023年度子ども理解を深めるための連続講座 in KURUME「今、学校に求められる子どもの居場
所づくり」エールピア久留米，2024年2月。

9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野 高志
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都市立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都市立大学大学院公共政策学研究所福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都市立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学（現：神戸親和大学）の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の整理、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討、④地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因の分析、⑤地域共生社会におけるソーシャルワーク実践の効果の検討を行ってきました。また、共同研究ではソーシャルワーク実践に活用するコンピュータ支援ツールの開発を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 西梅幸治・山口真里・加藤由衣・河野高志・中村佐織（2024）「ソーシャルワーク実践における過程展開に関する科学化 - エコシステム視座の具体化に向けた試みに焦点化して - 」『福祉社会研究』第24号、pp.31-48、査読無
- 河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開 - 地域包括ケアシステムにみるミクロからマクロの実践 - 』株式会社みらい
- 河野高志（2021）「地域包括ケアシステムの構築における課題と進捗状況の検討 - 地域包括支援センターの全国調査を通して - 」『社会福祉学』第62巻 第2号、pp.76-90、査読有

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山本大輔・河野高志（2023）「ソーシャルワーク実践におけるアセスメントについての研究 - アセスメント支援ツール『e スキャナー』の試行と検討を通じて - 」日本ソーシャルワーク学会第40回大会、東北福祉大学、2023年7月8日

③過去の主要業績

- 河野高志（2018）「地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの可能性」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、pp.37-53、査読有
- 河野高志（2019）「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』第60巻 第1号、pp.63-74、査読有
- 河野高志（2021）「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーカーの役割と課題 - 先行研究の分析を通じた検討 - 」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、pp.19-38、査読有

3. 外部研究資金

- ・令和 2～5 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「地域共生社会の構築におけるソーシャルワーカー活用の効果に関する研究」(研究代表者: 河野高志) 2,080 千円
- ・文部科学省令和 5 年度いじめ対策・不登校支援等推進事業「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」(研究代表者: 奥村賢一、研究分担者: 寺田千栄子、原田直樹、河野高志、岡本浩美) 1,313 千円

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学学会

6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」(2 単位・1 年・後期)、「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年・後期)、「ソーシャルワーク実習指導 I」(2 単位・2 年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法 A」(2 単位・2 年・前期)、「ソーシャルワーク実習 A」(2 単位・2 年・後期)、「社会福祉学演習」(2 単位・3 年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法 D」(2 単位・3 年・前期)、「ソーシャルワーク演習 C」(1 単位・3 年・前期)、「ソーシャルワーク演習 D」(1 単位・3 年・後期)、「福祉専門職特講 A」(3 年・2 単位・後期)、「卒業論文」(6 単位・4 年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5 単位・4 年・通年)、「精神保健福祉援助実習指導」(3 単位・3～4 年・通年)

《大学院》

「特別研究 I」(4 単位・1 年・通年)、「フィールドワーク」(2 単位・1 年・通年)、「ソーシャルワーク研究 A」(2 単位・1～2 年・前期)、「ソーシャルワーク研究 B」(2 単位・1～2 年・後期)、「特別研究Ⅱ」(4 単位・2 年・通年)

7. 社会貢献活動

直轄地区居住支援協議会 委員

一般社団法人日本社会福祉学会 第 7 期代議員

嘉麻市男女共同参画審議会 会長

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	小山 憲一郎
--------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

マインドフルネスを用いたストレスマネジメント、肥満症をはじめとしたストレス関連疾患の治療、怒りや不安の受容、思考反すうへの対処などについて基礎研究から、臨床研究まで取り組んでいます。またペアレントトレーニングにマインドフルネスを組み合わせた臨床実践も行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 1) ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ 吉岡和子, 中藤 広美, 小山 憲一郎, 福田 恭介, 古賀ななこ 福岡県立大学 心理臨床研究 16, 35-53, 2024
- 2) 保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究 伊勢 慎, 小山 憲一郎 保育学研究 61 (2), 161-172, 2023-12-31
- 3) Hunger Rumination Scale 開発のパイロット研究 —MB-EAT に関する基礎研究— 小山, 憲一郎 福岡県立大学人間社会学部紀要 32 (1), 55-64, 2023-10
- 4) 困難克服過程で受けた支えに対する感謝が成人期以降の時間的展望に及ぼす影響 - 世代継承性を育む体験の一つとしての子育てに着目して— 下満 由貴, 小山 憲一郎 福岡県立大学心理臨床研究 15 7-16, 2023-03-31
- 5) デイタッチトでマインドフルな気づきは、直接的かつ即時的にポジティブ感情を高める作用を持っている ; 小確幸発見体験という Positive Side Effect of the Detached Mindfulness 小山, 憲一郎, 穴繁, 結奈 福岡県立大学人間社会学部紀要 31 (2), 35-46, 2023-03-01
- 6) コミュニケーション回避としての発言抑制発生機序モデルの検討 小山, 憲一郎, 尾首, 優花 福岡県立大学心理臨床研究 14 3-11, 2022-03-31
- 7) 減量・代謝改善手術のためのメンタルヘルス・ガイドブック 2022 評価と対応に関する Q&A 日本肥満症治療学会メンタルヘルス・行動医学部会 Kindle
- 8) 困難克服過程で受けた支えに対する感謝が大学生の時間的展望に及ぼす影響 下満, 由貴, 小山 憲一郎 福岡県立大学人間社会学部紀要
- 9) The relationship between premorbid intelligence and symptoms of severe anorexia nervosa restricting type. Keizaburo Ogata , Ken Ichiro Koyama, Takamasa Fukumoto, Suguru Kawazu, Mihoko Kawamoto, Eriko Yamaguchi, Yuuki Fuku, Marie Amitani, Haruka Amitani, Ken Ichiro Sagiyama, Akio Inui, Akihiro Asakawa. Int J Med Sci. 2021 Feb 4;18(7):1566-1569. doi: 10.7150/ijms.53907. eCollection 2021.
- 10) 怒りに関する包括的な心理モデルの作成 塚元 一正, 小山 憲一郎 臨床心理学 = Japanese journal of clinical psychology 21 (1), 109-116, 2021-01

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ シンポジウム6 肥満および摂食障害治療におけるマインドフルネスの実践：減量のための集団療法にマインドフルネスを使用した経験と今後の可能性について 小山憲一郎 第27回日本心療内科学会総会・学術大会 2023
メンタル行動医学部会セミナー マインドフルネス瞑想の体験的学習 ―導入と実施後のInquiry― 第41回 日本肥満症治療学会 2023
- ・ 行動医学講習会 マインドフルネスがもたらす肥満症治療への効果 ―体験的理解のすすめ― 第41回日本肥満症治療学会 2022

③過去の主要業績

- ・ Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain. Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshihiro Nakahara, Haruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui, Nutrition ;28:1132-1136. (2012) (学位論文)

3. 外部研究資金

オベシティスティグマの多施設実態調査-肥満に対する差別的感情が診療に及ぼす影響-

林 果林 東邦大学 野崎剛弘 中村学園大学 小山憲一郎 福岡県立大学 山崎充宏 東京大学 2023-04-01 - 2027-03-31 (科学研究費助成事業)

マインドフルネス食観トレーニングに関する基礎研究

小山 憲一郎 福岡県立大学 2021-04-01 - 2025-03-31 (科学研究費助成事業)

アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討

伊勢 慎 小山憲一郎 福岡県立大学 2021-04-01 - 2024-03-31 (科学研究費助成事業)

4. 受賞

2019 年第 2 回日本心身医学関連学会合同集会 優秀演題 マインドフルネス食観トレーニング (MB-EAT)を用いた集団肥満治療 荒木久澄 1,小山憲一郎 2, 野崎剛弘 1, 小牧元 3, 須藤信行 1
1 九州大学大学院医学研究院心身医学, 2 福岡県立大学人間社会学部, 3 福岡国際医療福祉大学医療学部

2019 年 第 9 回 日本マインドフルネス学会 優秀ポスター発表賞 新たな肥満治療戦略, マインドフルネス食観トレーニング Novel Approach to Obesity, Mindfulness-Based Eating Awareness Training (MB-EAT) 荒木 久澄 (九州大学大学院医学研究院心身医学) 小山 憲一郎 (福岡県立大学人間社会学部) 野崎 剛弘 (九州大学大学院医学研究院心身医学) 小牧 元 (福岡国際医療福祉大学医療学部) 須藤 信行 (九州大学大学院医学研究院心身医学)

5. 所属学会

日本認知療法・認知行動療法学会 日本肥満症治療学会 日本心身医学会 日本心療内科学会
日本マインドフルネス学会

6. 担当授業科目

障害児・障害者心理学 医療・健康心理学 他

7. 社会貢献活動

Review Editor on the Editorial Board of Eating Behavior (specialty section of Frontiers in Psychology and Frontiers in Nutrition).

8. 学外講義・講演

2023年 12月19日 香春町立保育所 アンガーマネジメント研修

9. 附属研究所の活動等

お父さんとお母さんの学習室 (ペアレントトレーニング)

人間社会学部／ 地域社会コース・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	坂無 淳
------------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。現在の具体的な研究テーマとしては、1 つめに高等教育と専門職におけるジェンダー平等についてです。研究者など複数の専門職を取り上げ、キャリア各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2 つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の共同保育の事例やイギリスでのコミュニティ開発についても研究をしています。3 つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 坂無淳, 2024, 「公的統計からみる日本の専門職と性別職域分離」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(2): 31-41.
- ・ 坂無淳, 2022, 「キャリアとワーク・ライフ・バランス——家事・育児とジェンダー」櫻井義秀編著『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会, 145-62.
- ・ 坂無淳, 2022, 「シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観」田村慶子・佐野麻由子編著『変容するアジアの家族——シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』明石書店, 51-75.
- ・ 佐野麻由子・坂無淳・田代英美・佐藤繁美, 2022, 「公共社会学科における高大連携授業の実践——鞍手高校 SGH 事業への参加とその効果」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2): 67-76.
- ・ 坂無淳, 2022, 「大学院生の悩みとメンタルヘルス——ジェンダーの観点からの統計分析と支援策の検討」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2): 1-18.
- ・ 坂無淳・平林真伊・河野銀子, 2021, 「シンガポールの高大接続と STEM 分野への女子の進学——大学入学基準と GCE—A レベルの数学の分析を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1): 51-61.

②その他最近の業績

〈学会発表・研究会〉

- ・ 坂無淳, 2023, 「シンガポールの高大接続の特徴と女性の STEM 専攻——学生・卒業生・大学教員へのインタビュー調査から」課題研究発表: 女子の理系進路選択拡大に向けた STEM 分野の高大接続, 日本科学教育学会第 47 回年会 (於愛媛大学), 9 月 18 日.
- ・ 坂無淳, 「第 2 章 シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観」『変容するアジアの家族』出版記念セミナー (於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ), 5 月 15 日.

- ・ 坂無淳, 2021, 「専門職とジェンダー・ステレオタイプ——大学教員は男性向き・女性向き職業と考えられているのか」 広島大学高等教育研究資源ナショナルセンター2021年度公開研究会（於広島大学（オンライン））, 7月31日。
〈報告書・書評・評論・エッセイ〉
- ・ 坂無淳, 2023, 『高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とその是正に関する実証研究』2018-2022年度科学研究費補助金研究成果報告書（18K12939）, 福岡県立大学。
- ・ 坂無淳, 2023, 「2022年度KFAWアジアジェンダー研究者ネットワークセミナー 第2章 シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観——メリトクラシーとジェンダーの観点から」 『アジア女性研究』32: 25-6.
- ・ 坂無淳編, 2023, 『福岡県内の自治体における男女共同参画の状況に関する調査——田川市での行政・団体への調査から』報告書』福岡県立大学人間社会学公共社会学科。
- ・ 坂無淳編, 2022, 『「大学の男女共同施策の実態と課題に関する調査」報告書』福岡県立大学人間社会学部坂無淳。

③過去の主要業績

- ・ Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing. (藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳, 2020, 『社会はこうやって変える!——コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社。) 翻訳担当: 第4章, 第6章, 第7章
- ・ 坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.
- ・ 坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80.

3. 外部研究資金

科研費, 基盤C (研究代表者), 現代日本の専門職化と性別職域分離に関する社会学的研究, 4420千円, 2023~2027年度

科研費, 基盤B (研究分担者, 研究代表者: 宇井美代子), 人文社会科学系研究者のジェンダー平等の実態と改善に関する研究, 9620千円, 2022~2024年度

科研費, 基盤B (研究分担者, 研究代表者: 河野銀子), 女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の新たな高大接続モデル——4か国比較から, 15470千円, 2019~2023年度

科研費, 基盤C (研究分担者, 研究代表者: 大久保淳子), プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発——就学前~小学校の接続を焦点として, 3510千円, 2018~2023年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会, 日本ジェンダー学会, 日本教育社会学会, 北海道社会学会, 西日本社会学会, ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender, and Society, RC04 Sociology of Education

6. 担当授業科目

データ分析の基礎・2単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 統計学・2単位・1年・後期, 社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期, 社会統計学Ⅱ・2単位・2年・後期, ジェンダー論・2単位・3年・前期, 公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1単位・3年・前後期, 社会福祉学演習・2単位・3年・通年, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

飯塚市男女共同参画推進委員会委員
福岡県福智町男女共同参画審議会委員
広島大学高等教育研究開発センター客員研究員
田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員

8. 学外講義・講演

坂無淳, 2023, 「男の子にも女の子にも聞いてほしいジェンダーの話——個人の生活と社会の問題をつなぎ, 今と未来を少しずつ変えるために」チェリアフェスティバル山形 2023 講演会, 主催 チェリアフェスティバル山形 2023 実行委員会・山形県男女共同参画センター((公財)山形県生涯学習文化財団)・山形県(しあわせ子育て応援部多様性・若者活躍課)(於遊学館), 10月8日.

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	柴田 雅博
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。そのほか、情報教育、プログラミング教育に関する研究も行っている。

本学では情報学教育を中心として、教育プログラム「データサイエンス・プログラム」に携わっている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「介護サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A県におけるアンケート調査を通じて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.63-75, (2021.10).
- ・ 柴田雅博「2020年度のオンライン授業への取り組み—NII主催のサイバーシンポジウムを通して—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.77-88, (2021.10).
- ・ 大久保淳子, 坂無淳, 柴田雅博『英国の初等教育におけるプログラミング教育の現状と動向—教科「Computing」の分析—』, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.127-139, (2021.9).
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2021年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.2, pp.41-51, (2022.3).
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「保育所・認定こども園におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.31, No.1, pp.57-70, (2022.10).
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2022年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.31, No.2 (2023.3) .
- ・ 柴田雅博, 増満誠, 中本亮「受講者の視点を踏まえた効果的なオンライン授業の検討」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.31, No.2 (2023.3) .
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2023年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.32, No.2 (2024.3) .

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 大久保淳子, 森久美子, 柴田雅博, 坂無淳「情報活用能力育成の現状と課題 —プログラミン

グ教育を視点とした就学前段階からの体系的なカリキュラム編成について」, 日本乳幼児教育学会第 33 回大会 (2023.12) .

③過去の主要業績

- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作: 「Web 上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美: 「雑談自由対話を実現するための WWW 上の文書からの妥当な候補文選択手法」, 人工知能学会論文誌, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- ・ M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: “Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

3. 外部研究資金

日本学術振興会, 科学研究費基盤研究 (C), 「プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発ー就学前～小学校の接続を焦点としてー」 (研究代表者: 大久保淳子) 3,510 千円, 令和元年度～令和 5 年度, 研究分担者.

4. 受賞

5. 所属学会

情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本情報教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期, 情報処理の基礎と演習・2 単位・1 年・前期, 情報処理応用演習・1 単位・1 年・後期, Web デザイン演習・1 単位・2 年・前期, 情報ネットワーク論・2 単位・2 年・後期, 情報ネットワーク演習・1 単位・2 年・後期, データベース論・2 単位・2 年・後期, マルチメディア論・2 単位・2 年・後期, グローバル社会論・2 単位・2 年・後期 (オムニバス), プログラミング演習・1 単位・3 年・前期, 情報検索システム論・2 単位・3 年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

筑豊市民大学オープン講座「AI は何を考えるのか?」 (2024.2).

9. 附属研究所の活動等

令和 5 年度研究奨励交付金 (横断型教育プログラム開発研究) 「データサイエンス・プログラムにおける高大接続教育を意識した ICT 機器活用の教育効果の検証と見直し」・研究代表者

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島 正博
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、および、無自覚の障害者虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・（単著）寺島正博「基幹相談支援センター職員における『養護者による障害者虐待』への対応支援に関する研究－虐待対応経験を持つ職員の全国意識調査を基に－」（査読有）『障害理解研究』第 J23 号，2022 年，1-13 頁。
- ・（共著）寺島正博・廣田久美子・石崎龍二「特例子会社における業務支援のための ICT ツール導入の実績と課題－インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望－」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 32 巻第 2 号，2024 年，23-29 頁。
- ・（共著）石崎龍二・寺島正博・廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現状と課題－A 県における質問紙調査によるニーズと課題の分析－」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 32 巻第 2 号，2024 年，71-83 頁。
- ・（共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「保育所・認定こども園における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A 県におけるアンケート調査を通じて -」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 31 巻第 1 号，2022 年，57-70 頁。

- ・ (共著) 寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「介護サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A 県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 30 巻第 1 号, 2021 年, 63-75 頁.
- ・ (共著) 寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「障害福祉サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - T 県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 29 巻第 2 号, 2021 年, 47-60 頁.

②その他最近の業績

<解説集>

- ・ (共著) 『2024 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2023 年.
- ・ (共著) 『2024 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2023 年.
- ・ (共著) 『2023 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2022 年.
- ・ (共著) 『2023 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2022 年.
- ・ (共著) 『2022 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2021 年.
- ・ (共著) 『2022 精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2021 年.

③過去の主要業績

- ・ (単著) 寺島正博『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』文芸社, 2012 年.
- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究ー全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通してー」(査読有)『発達障害者支援システム学研究』第 19 巻第 2 号, 2020 年, 103 - 113 頁.
- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における『無意識の不適切行為』に関する研究ー目撃従事者の観点によるその発生・増幅要因とその意識化要因の検討ー」(査読有)『障害理解研究』第 19 号, 2018 年, 11-20 頁.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本ソーシャルワーク学会
- ・ 日本発達障害学会
- ・ 日本発達障害支援システム学会
- ・ 日本障害理解学会

6. 担当授業科目

<学部>障害者福祉論・2単位・2年・前期、精神保健福祉の原理Ⅰ・2単位・2年・前期、就労支援・1単位・3年・前期、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・2単位・3年・通年、相談援助演習B・2単位・3年・通年、ソーシャルワーク演習B・2単位・2年生・通年、ソーシャルワーク演習C・1単位・3年・前期、ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期、相談援助演習C・1単位・3年・後期、社会福祉学演習・2単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・通年
<大学院>障害者福祉研究B・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県障がい者施策審議会 会長
- ・田川地区障がい者自立支援協議会 会長
- ・田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会 会長
- ・飯塚市指定管理者選定委員会 委員長
- ・糸田町公共交通会議 副委員長
- ・みやこ町地域福祉総合計画審議会 委員
- ・糸田町地方創生人口減少対策委会 委員

8. 学外講義・講演

- ・長崎南高校のSSH事業「未来デザインスクール」講師
- ・豊前市人権センター「障害福祉サービスにおける無意識の不適切行為への理解」講演

9. 附属研究所の活動等

- ・「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」令和5年度研究奨励交付金（COC研究）研究代表者，305,200円（令和5年度），令和5年度～令和6年

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中原 雄一
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

運動やスポーツ活動を含めた身体活動の重要性について研究を行っており、青年期を中心に幼児から勤労者まで幅広く検討している。また、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員、健康経営エキスパートアドバイザー等の資格を活かし、運動指導や助言なども行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 中原雄一、神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、植木貴頼、具志堅武、永松俊哉、鈴川一宏（2023）男子高校生の1年次初期段階におけるスポーツクラブ活動状況と身体組成および体力の関連：中学時代の活動状況を考慮した検討。運動とスポーツの科学, 29(1): 85-93.
- ・ Jindo T, Kitano N, Nagata K, Nakahara-Gondoh Y, Suzukawa K, Nagamatsu T. (2023) Correlates of early attrition from school sports clubs in male senior high school students: a 2.4-year follow-up study. *Frontiers in Sports and Active Living*, section Sport Psychology Vol. 5.
- ・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原（権藤）雄一、鈴川一宏、永松俊哉（2023）質問紙で調査した福岡県の私立男子高校生の身体活動。運動疫学研究, 25(1): 124-125.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感。福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(2): 85-93.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第1報。福岡県立大学看護学部紀要, 20: 9-20.
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第2報。福岡県立大学看護学部紀要, 20: 21-32.
- ・ Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Fujimoto T, Ikeda T. (2022) Effect of encouraging greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during the first COVID-19 related emergency in Japan. *Journal of Physical Education and Sport*, 22(10): 2598-2603.
- ・ 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一（2022）入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題。福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(1): 71-79.
- ・ 中原雄一、池田孝博（2022）コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか。大学体育スポーツ学研究, 19: 94-99.
- ・ 池田孝博、中原雄一（2021）コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因。福岡県立大学人間社会学部紀要, 30(1): 191-199.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 大西栄理、中原雄一、池田孝博（2023）幼児期における一過性の運動介入における実行機能の変化。九州体育・スポーツ学会第72回大会（大分）

- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2023) 大学生における入学時の体力レベル別にみた精神的健康度の縦断的变化：4年間の追跡調査. 日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会 (京都)
- ・ 藤本敏彦、中原雄一 (2023) 高等学校における体育実技授業の実態調査：高等学校教員を対象としたアンケート調査から. 日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会 (京都)
- ・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原雄一、具志堅武、鈴川一宏、永松俊哉 (2023) 男子高校生における運動部活動の早期離脱と学校生活ウェルビーイング、ストレス対処力の縦断的関連. 日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会 (京都)
- ・ 中原雄一、神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、植木貴頼、永松俊哉、鈴川一宏 (2022) 運動・スポーツ活動参加の違いが男子高校生における体力および体組成に及ぼす影響—中学時代と現在の参加状況からの検討. 第77回日本体力医学会大会 (オンライン)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2022) 大学入学時の体力レベル別にみた精神的健康度の変化：入学時から卒業間際にかけての追跡研究. 日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会 (千葉)
- ・ 藤本敏彦、中原雄一、坂本譲、西脇雅人、島本英樹、黒川修行 (2022) 高等学校における体育実技授業の実態調査：大学生を対象としたアンケート調査から. 日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会 (千葉)
- ・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原雄一、鈴川一宏、永松俊哉 (2022) 男子高校生における学校運動部活動の早期離脱の関連要因. 第23回日本健康支援学会年次学術大会 (Web)
- ・ 藤本敏彦、永山貴洋、中原雄一 (2022) コーチングを用いたソフトボールの授業の事例報告. 第10回大学体育スポーツ研究フォーラム (オンライン)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦、池田孝博 (2021) コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果. 第76回日本体力医学会大会 (オンライン)
- ・ 中原雄一、池田孝博 (2021) コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態—2020年度と2021年度で相違はみられるのか—. 九州体育・スポーツ学会第70回大会 (オンライン)
- ・ Ikeda T, Nakahara Y. (2021) An investigation into the relationship between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixed anxiety among university freshmen during the Covid-19 pandemic. 26th Annual Congress of the European College of Sports Science (Virtual Congress)

③過去の主要業績

- ・ 中原雄一、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博 (2019) 大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響. 大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18.
※ 大学体育優秀論文賞 受賞
- ・ 中原(権藤)雄一、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉 (2016) 勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討. 厚生指標, 63(5): 1-6.
※ 第18回川井記念賞 受賞
- ・ Gondoh Y., Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R, Fujimoto T. (2009) Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604.

3. 外部研究資金

- ・ 科研費 基盤研究 (C) (分担) 研究課題「幼児期における戸外の遊びと生活を促す仕組みと仕掛けに関する研究」交付金額 4,290 千円, 令和 4 年度～令和 8 年度.

4. 受賞

- ・ (公財) 全国大学体育連合 研修精励特別賞 (令和 6 年 3 月 4 日)

5. 所属学会

日本体力医学会 (評議員)、日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本健康学会、九州体育・スポーツ学会

6. 担当授業科目

<学 部> 健康科学実習Ⅰ・1単位・1年前期、健康スポーツ論・2単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、健康科学実習Ⅱ・1単位・1年後期、子どもの保健・2単位・1年後期演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位、4年通年

<大学院> 特別研究Ⅰ・4 単位・1 年通年、子どもの身体教育研究・2 単位・1 年前期、教育課題研究 B・2 単位・1 年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1 単位・1 年後期、子ども身体教育演習・2 単位・1 年後期、特別研究Ⅱ・4 単位・2 年通年、地域教育課題演習・2 単位・2 年前期、子ども教育実践実習Ⅱ・1 単位・2 年前期、

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県香春町部活動地域移行検討委員会 委員
- ・ 九州地区大学体育連合 理事
- ・ 日本体力医学会北九州地方会 幹事
- ・ 第 78 回日本体力医学会大会組織委員会 組織委員
- ・ 学術論文の査読：大学体育スポーツ学研究

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立西田川高等学校 出前講義「進路について考える～大学と短大・専門学校の違いとは?～」2023 年 5 月

9. 附属研究所の活動等

- ・ 令和 5 年度 データサイエンス研究：研究課題名「KDB システムのデータを活用した健診結果からみる子どもの健康とその課題」研究代表者 (研究分担者：池田孝博)
- ・ 令和 5 年度 附属研究所重点領域研究：研究課題名「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」研究分担者 (研究代表者：杉野寿子)

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村 晋介
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. 若者の意識・世代間ギャップに関する研究：「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観，社会観，就業観，インターネットに対する意識など）の解説を試みています。
2. ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。
3. 社会学理論に関する研究：主にフランスの社会学者ピエール・ブルデューの業績や思想についての研究をおこなっています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 「女子大学生・専門学校生のファッション選好——2017年度の調査より」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.32-1:1-20, 2023年10月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛積極性・恋愛観に関する比較研究」『現代の社会病理』No.34:75-89, 2019年10月.
- ・ 中村晋介「大学生と恋愛——恋愛に対する積極性の促進要因と阻害養親に着目して」『現代の社会病理』No.31:95-108, 2016年10月.
- ・ 中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？」友枝敏雄ほか編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい:47-55, 2019年8月.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会，日本社会病理学会，日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本家政学会，日本社会分析学会，西日本社会学会

6. 担当授業科目

プレ・インターンシップ・2単位・1年・前期，教養演習・1単位・1年・前期，社会調査法・2単位・1年・後期，社会学史Ⅰ・2単位・2年・前期，社会学史Ⅱ・2単位・2年・後期，質的調査法・2単位・2年，後期，現代社会論A（ジェンダー・世代）・2単位・2年・前期，グローバル社会論・2単位・2年・後期，日本事情A・2単位・留学生，前期，福祉専門職特講・2単位・3～4年・前期.

7. 社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 議長

福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員

NPO 福祉用具ネット 理事

九州大学社会学同窓会 常任幹事

8. 学外講義・講演

「高齢化と無縁社会」筑豊市民大学オープン講座，2023年10月.

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	廣田 久美子
----------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻博士後期課程単位取得満期退学。2018年4月に本学着任。専門分野は社会法（社会保障法）。

主な研究課題：障害のある人の雇用保障と就労支援保障を研究している。とくに、日本の障害者の就労支援のあり方について、障害者総合支援法、障害者雇用促進法等の雇用保障法制を中心として、就労支援の中心となっている、就労継続支援給付の現状と課題、支援つき雇用等の雇用促進施策との連携、賃金・工賃と公的給付の関係などについて、障害者権利条約第27条の「労働によって生計を立てる権利」の保障という観点から検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 平部康子・木村茂喜・脇野幸太郎・廣田久美子『地域生活を支える社会福祉と法』放送大学教育振興会、2023年
- 廣田久美子「障害者就労における働き方の変化－訓練等給付」山田晋他編『新たな時代の社会保障法』法律文化社、2022年
- 廣田久美子「発達障害のある人の就労支援と所得保障－ドイツ労働生活参加給付を参考にして」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号、91-102頁、2021年

②その他最近の業績

<学会発表>

- 廣田久美子「発達障害者の就労支援保障」日本職業リハビリテーション学会、2023年8月26日（神奈川県立保健福祉大学）
- 廣田久美子「ドイツ就労支援における近年の動向」日本職業リハビリテーション学会、2022年8月28日（オンライン）

③過去の主要業績

- 廣田久美子「障害のある人への補装具とリハビリテーション保障」宮崎産業経営大学法学論集第24巻第1・2号、77-102頁、2016
- 廣田久美子「障害者の就労支援と所得保障」日本社会保障法学会編『社会保障法』第33号、法律文化社、131-144頁、2018年
- 増田雅暢、脇野幸太郎、西山裕、木村茂喜、嶋田佳広、濱畑芳和、河谷はるみ、廣田久美子『よくわかる公的扶助論』法律文化社、2020年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会保障法学会、
日本労働法学会
日本職業リハビリテーション学会
日本障害法学会

6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、社会保障論Ⅰ・2単位・1年・前期、権利擁護と成年後見制度・2単位・3年・前期、福祉専門職特講B・2単位・3年・前期、社会保障論Ⅱ・2単位・1年・後期、公的扶助論・2単位・2年・後期、ソーシャルワーク演習D・2単位・3年・後期、福祉専門職特講A・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県職業能力開発審議会委員
福岡県総合計画審議会委員
福岡県県営住宅管理審議会委員
田川市部落差別解消審議会委員
飯塚市職員倫理審査会委員
飯塚市政務活動費審査会委員
福岡県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会構成員
福岡市障がい者差別解消推進会議委員
福岡市障がい者差別解消審査会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	麦島 剛
--------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

【発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究】

ADHD や自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害と catecholamine 神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHD を併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHD における衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine 受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や教育心理学の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Kariya N, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Shinba Y, Sun G, Matsui T. (2021). Return-to-Work Screening by Linear Discriminant Analysis of Heart Rate Variability Indices in Depressed Subjects. *Sensors (Basel)*, 21(15), 5177.
- 麦島 剛 (2022). 『精神薬理学』大浦賢治(編)実践につながる新しい教養の心理学 Pp.229-241. ミネルヴァ書房
- 麦島 剛 (2024). 『学習の生理学的基礎』『生物学的制約と進化』吉野俊彦(編)読んでわかる学習心理学 印刷中. サイエンス社
- 麦島 剛 (2023). 羅針盤としての行動分析学の発展を期して *J-ABA ニュース*. 110, 11.
- 麦島 剛 (2023). ADHD (注意欠如・多動症) モデル動物を用いた薬物療法・応用行動分析・ニューロフィードバック療法の相乗化. *細胞*, 55, 652-656.
- Moridera, A., Fujihara, H., Yoan, C., Mugishima, G. Fujiki, N. (2024). Effects of sleep deprivation on sleep and sleep electroencephalogram in secretin-receptor knockout mice. *Neuroscience Research*, 200, 41-47.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 砂原里南・森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛. ADHD モデルラット (SHR) の paired stimulation に対する P50 抑制様反応および波形昇降相違性への methylphenidate 投与の効果. 2021 年 9 月 日本心理学会第 85 回大会.

- ・ 麦島 剛・春成 雄太・砂原 里南・森寺 亜伊子・久保 浩明・井上 真澄・東 華岳・吉井 光信・榛葉 俊一 ADHD モデル動物 EL マウスの自発脳波における θ/β 比. 2021 年 9 月 日本心理学会第 85 回大会.
- ・ 吉田萌・水流百香・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHD モデルマウスの確率割引課題における選択への atomoxetine 投与の効果. 2021 年 9 月 第 39 回日本行動分析学会年次大会
- ・ 水流百香・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHD モデル動物の衝動性と確率割引課題における高リスク選択の関係性. 2021 年 9 月 第 39 回日本行動分析学会年次大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・砂原里南・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛 ADHD モデルとしての EL マウスにおける脳内自己刺激と脳波周波数への VI および DRL スケジュールの効果. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会
- ・ 砂原里南・榛葉俊一・吉井光信・竹明玲菜・細谷柊斗・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛 DDY マウス及び EL マウスの脳内自己刺激における電気刺激強度及び自発脳波の θ/β 比に関する検討. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会
- ・ 坪井芹菜・水流百香・久保浩明・吉田萌・森寺亜伊子・永井友幸・砂原里南・竹明玲菜・吉井光信・麦島剛 ADHD モデル動物 EL マウスの確率割引課題における リスク指向性と衝動性の関連. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会
- ・ 麦島剛・中田萌絵・砂原里南・竹明玲菜・坪井芹菜・吉井光信・井上真澄・東華岳 画像解析を用いた ADHD モデル動物 EL マウスの オープンフィールドにおける社会的行動. 2022 年 9 月日本心理学会第 86 回大会
- ・ 水流百香・坪井芹菜・甲斐田茉那・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 確率割引における ADHD モデルマウスの選択行動の Logue et al. (1984)式を用いた検討. 2022 年 9 月 日本行動分析学会第 40 回年次大会
- ・ 水流百香・榎田佳菜・竹明玲菜・吉田萌・久保 明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 高確率大報酬条件を含む確率割引における双曲線関数モデルを用いたマウス選択行動の検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・水流百香・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛 ADHD モデルマウスの DRL 事態での衝動的反応における脳内自己刺激と餌ペレット強化子の比較検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 麦島剛・久保浩明・永井友幸・水流百香・吉田萌・竹明玲菜・平田うの・森寺亜伊子・東華岳・井上真澄・中本百合江・吉井光信 高確率大報酬条件を含む確率割引におけるマウス選択行動の報酬量と報酬確率の感受性. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 麦島剛・吉井光信・竹明玲菜・梅原聡吾・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・榛葉俊一 ADHD モデル動物 (EL マウス) の脳波 θ/β 比の時間変化および改善薬 methylphenidate 投与の効果. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87 回大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛 EL マウスの脳波スペクトルと θ/β 比の ADHD 脳波特性との相似性. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87

回大会

③過去の主要業績

- ・ 麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座. 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.
- ・ 麦島 剛 訳 (2018) Näätänen, R., Elyse S. Sussman, E.S., Salisbury, D., Shafer, V.L. 著 認知機能不全の指標としてのミスマッチ陰性電位. 福岡県立大学心理臨床研究, 10, 25-46.
- ・ 森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛.(2020). 自然発症高血圧ラット(SHR)におけるペア刺激聴覚性事象関連電位の波形昇降相違性：注意欠如・多動性障害の感覚ゲーティング不全との関連. 生理心理学と精神生理学,38(1), 4-11.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

6. 担当授業科目

生理心理学及び神経心理学 2 単位, 2 年後期、学習心理学及び言語の習得 2 単位, 2 年前期、心身科学 2 単位, 2 年前期、加齢基礎論 2 単位, 2 年後期 2 年, 心理学実験 I 2 単位, 2 年前期、心理学実験 II 2 単位, 2 年後期、心理学研究法, 2 単位, 2 年後期、老年心理学 2 単位, 3 年後期、演習 2 単位, 3 年前期・3 年後期・4 年前期、卒業論文指導 6 単位, 4 年、神経生理学特論 2 単位, 修士 1 年、老年心理学特論 2 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 2 年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学生生活協同組合 理事長
- ・日本生理心理学会 評議員
- ・日本行動分析学会第 40 回年次大会委員長

8. 学外講義・講演

【シンポジウム】企画：五十嵐靖博・麦島剛・吉野俊彦 司会：麦島剛 話題提供：五十嵐靖博・森山哲美・三田地真実 指定討論：吉野俊彦 行動分析学と社会：社会と日常生活の心理学化が進行する時代をどう考えるか 2022 年 10 月 日本行動分析学会第 40 回年次大会

【学会講演】麦島剛 ADHD モデル動物の衝動性と不注意：価値割引を中心に 2021 年 11 月 第 29 回行動数理研究会.

【学会開催】日本行動分析学会第 40 回年次大会 2022 年 9,10 月 準備委員会委員長 福岡県北九州市

9. 附属研究所の活動等

2023・2024 年度 奨励研究交付金 重点領域研究 芋川浩・麦島剛「神経再構築とその細胞・組織・個体が創生する神経情報の理解への挑戦 —神経情報を医療機器に直結できる BMI 技術に向けた基盤研究—」

人間社会学部／ 地域社会コース・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	陸 麗君
------------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年一橋大学社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。農林水産省農業総合研究所（現農林水産政策研究所）海外部特別研究員、中国華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

私はグローバル化のなかの都市コミュニティと移民問題に焦点をあて、主に日本における外国人問題、特に華僑・華人の起業、華僑・華人の集住とコミュニティに関する問題を研究している。また中国の都市基層社会の変容、中国の大都市圏に関する問題も取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書（分担執筆 編著）>

- ・ 陸麗君 2021年8月「第14章【中国】管理か自治か—居民委員会の「治理」モデル」大内田鶴子・鯨坂学・玉野和志編著『世界に学ぶ 地域自治』学芸出版社 224-239.
- ・ 陸麗君・蕭閔偉・水内俊雄編著 2021年6月『大都市における人口構造の変化と空間の変容』URP 先端的都市研究シリーズ 28 大阪市立大学都市研究プラザ.
- ・ コルナトウスキヒェラルド・陸麗君編著 2022年3月『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ』URP 先端的都市研究シリーズ 33 大阪市立大学都市研究プラザ.

<論文>

- ・ 陸麗君 2023年10月「中国長江デルタ地域都市圏の発展と域内の一体化に関する考察」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol. 32, No. 1 73-84.

<報告>

- ・ 陸麗君 2023年3月「中国系住民を対象とする有効な調査方法—質問紙調査から考える」『空間・社会・地理思想』第26号 73-75.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Toshio Mizuuchi, Lijun Lu, Zechuan Zhu 6th July 2021 “The revival of a declining shopping street in the old inner-ring area through the vigorous action of Chinese immigrants; the case of Osaka” “Urban Mobilities in the 21st Century” FFJ-MICHLIN FOUNDATION WORKSHOP. (Zoomによる発表).
- ・ 陸麗君 2022年11月1日「華僑・華人の起業と集住—大阪インナーシティを事例に—」中国社会科学院、上海研究院主催「大都市的治理与参与」暨纪念中日邦交正常化50周年国际学术研讨会（大都市のガバナンスと参加 中日国交正常化50周年記念 国際シンポジウム）(Zoomによる発表).

- ・ 陸麗君 2022年12月10日「華僑華人の越境的な移動とネットワークの形成—関西地域の華僑・華人のネットワークを手掛かりに一」日中社会学会冬季研究集会 特別企画「日中交流の展望を問う① 日中交流の過去と現在—グローバルな視点から問い直す」成城大学.
- ・ 陸麗君・野村侑平・朱澤川・水内俊雄 2023年11月4日「日本におけるニューカマー新中間層の集住型定住：華僑華人の事例を手掛かりに」東アジア日本研究者協議会 第7回国際学術大会 東京外国語大学.

<書評>

- ・ 陸麗君 2022年3月「奈倉京子編著『中華世界を読む』(東方書店、2020年)『日中社会学研究』第29号.
- ・ 陸麗君 2024年3月「Jiaxin Zhong, Japanese War Orphans: Abandoned Twice By The State, Routledge, Contemporary Japan Series (English Edition)」『日中社会学研究』第31号.

③過去の主要業績

- ・ 陸麗君 2017年6月「越境にともなう起業と社会圏の形成—関西地域の新華僑・華人の経済活動を中心に—」『日中社会学研究』第25号 22-31.
- ・ 陸麗君 2019年3月「第4章新華僑のビジネス動向と地域コミュニティへの波及効果—カラオケ居酒屋、民泊、福祉アパート経営の実態から—」水内俊雄・福本拓・コルナトウスキヒェラルド編『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相—日本型ジェントリフィケーションの多様性』、URP 先端的都市研究シリーズ 17 大阪市立大学都市研究プラザ 69-81.
- ・ 陸麗君 2019年4月「第6章「対立」から「融合」と「管理」へ—流動人口のネットワークをめぐる流入地での戦略」南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す』明石書店 176-198.
- ・ 陸麗君 2019年5月「第16章インナーシティの新華僑と地域社会」鯨坂学・西村雄郎・丸山真央ほか編著『さまよえる大都市・大阪—「都心回帰」とコミュニティ—』東信堂 316-324.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究C)「在留外国人のトランスナショナル起業とその社会的影響—華人・華僑起業者を中心に」(研究課題番号:21K01906)2021-2024年度 2210千円 研究代表者
- ・ 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究B)「生活困窮者自立支援の実践に見る社会包摂原理の日本的受容に関する学際的探究」(研究課題番号:21H00636)2021-2024年度 17160千円 研究分担者(研究代表者 水内俊雄・大阪市立大学)
- ・ 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究C)「大都市ガバナンス改革の都市政治社会学的研究」(研究課題番号:20K02089)2020-2023年度 4290千円 研究分担者(研究代表者 丸山真央・滋賀県立大学)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、地域社会学会、日中社会学会、関西社会学会、都市社会学会

6. 担当授業科目

中国の社会と文化・2単位・1年・後期

中国語Ⅱ-(1)B・1単位・2年・前期

中国語Ⅱ-(2)B・1単位・2年・後期

中国語Ⅲ-(1)・1単位・3年・前期

公共社会学研究Ⅰ・1単位 3年・前期

卒業論文・6単位・4年・通年

中国語Ⅱ-(1)A・1単位・2年・前期

中国語Ⅱ-(2)A・1単位・2年・後期

都市社会学・2単位・2年・前期

中国語Ⅲ(2)・1単位・3年・後期

公共社会学研究Ⅱ・1単位 3年・後期

7. 社会貢献活動

田川市都市計画審議会 委員

田川市石炭・歴史博物館等運営協議会 委員

8. 学外講義・講演

2023年5月12日福岡魁誠高校出前講座（「簡単な中国語会話を学んで、使ってみよう」）

2023年10月31日高校生向け授業（中国語Ⅱ）

9. 附属研究所の活動等

中国華東理工大学社会与公共管理学院客員研究員

大阪公立大学都市科学・防災研究センター（UReC）特別研究員

人間社会学部／こどもコース	職名	准教授	氏名	鷺野 彰子
---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士（文学）。2011年より本学に就任。スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員（2016年度）。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、また19世紀の演奏様式を研究している。昨今は20世紀初期の演奏会で弾かれた即興の前奏演奏がどのようなものであったかといった研究や、Sonic Visualiser等のソフトを用いて20世紀初期の歴史的録音やピアノロールに遺された演奏を解析して演奏実践を分析する研究を行っている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 鷺野彰子, 2023, 「ヨゼフ・ホフマン（1876-1957）の即興的前奏演奏」『阪大音楽学報』19, 47-73.
- ・ 鷺野彰子, 2023, 「ヴィルヘルム・バックハウス(Wilhelm Backhaus)の即興的前奏演奏」『音楽表現学』21, 1-20.
- ・ 鷺野彰子, 2023, ‘The Mazurka in Chopin’s Waltz, Op. 42: Investigating the Discrepancies between Rosenthal’s Performances, his Score Notations, and his Explanations as to how the Piece should be Played.’ “The Element of dance in music of the first half of the nineteenth century” The Fryderyk Chopin Institute, 179-203.
- ・ 鷺野彰子, Craig Stuart Sapp, 2024, 「ヨゼフ・ホフマン(1876-1957, Josef Hofmann)のピアノロール編集：デュオ＝アート (No. 6401-6) の編集痕跡の分析」『福岡県立大学紀要』32/2, 1-21.
- ・ 鷺野彰子, 2024, 「特別支援教科書『おんがく☆』（星本）と小学校音楽教科書の表記の差異」『福岡県立大学紀要』32/2, 55-64.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 【研究発表】 Akiko Washino, Analyzing Piano Rolls and Acoustic Recordings of Chopin’s Op. 15 No. 2 in Order to Investigate How Tempo Rubato Was Applied by Performers born in the 19th Century, 2nd Global Piano Roll Meeting, Hochschule der Künste Bern, 2022年6月18日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「20世紀前半の演奏会における即興の前奏演奏実践例の分析」日本音楽学会第73回大会, 西南学院大学, 2022年11月27日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「20世紀前半の即興の前奏演奏実践例とそれを取り巻く要因の関係性」日本音楽表現学会第21回大会, 京都女子大学, 2023年6月18日.

- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「楽譜に記譜された即興的前奏演奏」日本音楽学会第74回大会，聖徳大学，2023年11月4日。
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「ピアノロールの計量的解析による演奏分析」シンポジウム「音楽家のためのComputational Musicology」，神戸大学，2023年11月23日。
- ・ 【一般誌論稿・雑誌記事】 鷺野彰子，2022，レコード誕生物語第52回「現代に通じるモダニスト。J. ホフマンのザ・ゴールドデン・ジュビリー・コンサート」『レコード芸術』2022年4月号，64-68。
- ・ 【一般誌論稿・雑誌記事】 鷺野彰子，2022，「グレン・グールドの演奏とノイズ」及びディスク・レビュー『レコード芸術』2022年11月号，49，51，54，57。
- ・ 【一般誌論稿・新聞】 鷺野彰子，2022，「膨大な数の蓄音機とSPレコードコレクション」『大阪日日新聞』2022年6月21日版，8。

③過去の主要業績

- ・ 【演奏】 鷺野彰子「シューベルトとヴォジーシェク」
ザ・フェニックスホール 2007年2月，大倉山記念館 2007年1月。
- ・ 【演奏】 鷺野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」
衍芸館 2008年10月，ザ・フェニックスホール 2008年10月。
- ・ 【演奏】 鷺野彰子「クラヴィコード and/or ピアノ」ザ・フェニックスホール 2009年12月。

3. 外部研究資金

- ・ 平成31（令和元）年度-令和3年度（延長） 科学研究費補助金・基盤(C)
「19世紀の演奏文化における前奏演奏」（課題番号：19K00256）研究代表者 3,380,000円
- ・ 令和4年度-令和8年度 科学研究費補助金・基盤(B)
「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏解析によるルバート奏法分析」
（課題番号：22H00629）研究代表者 14,560,000円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

6. 担当授業科目

（学部）

音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ・1単位・2年・後期、
 幼児と表現B・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・表現B・1単位・3年・後期、
 演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、
 保育内容演習・2単位・4年・後期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期

(大学院)

子ども教育表現研究・M1年・2単位・前期、子ども教育表現演習・M1年・2単位・後期、
教育課題研究B・M1年・2単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、
子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題演習・M2年・2単位・前期、
特別研究・M1～2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	講師	氏名	河本 恵美
------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、海事英語及び海事英語教育である。研究内容は、海難事故報告書や管制官の交信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。また、海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間 による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面 からも検証している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- “The Effectiveness of Maritime English Learning Program: An Investigation of Misused Expressions and First-Language Interference among Japanese Vessel Traffic Operators” (単著)『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University (2023年3月31日)
- (教育実践報告) 2022年度社会福祉学科における福祉英語の取り組み—講義内容と効果的な学習法—, 福岡県立大学人間社会学部紀要 第32巻 第1号 pp. 131-142. (2023年10月1日)

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- <博士論文> A Comparative Study of Maritime Cultures: A Study of the Actions and Procedures of Vessel Traffic Service Officers in Japan and Korea (2017年3月)
- "A Comparative Study of the Actions and Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers" (共著)『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University, Vol. 26. pp. 200-227. (2017)
- “A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea”, 北九州市立大学大学院社会システム研究科『社会システム研究』第16号 (2018)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- 日本人類言語学会
- 社会言語科学会

6. 担当授業科目

- ・教養演習（1年次前期 1単位）
- ・リーディング・ライティング中級(1)（1年次前期 1単位） ・リーディング・ライティング中級(2)（1年次後期 1単位）
- ・英語IV-(1)（3年次前期 1単位） ・英語IV-(2)（3年次後期 1単位）
- ・日本事情 B（留学生履修科目前期 1単位） ・日本事情 A（留学生履修科目後期 1単位）

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	黒川 すみれ
----------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2020年、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士（社会科学）学位を取得。東京大学社会科学研究所特任助教等を経て、2022年4月より本学に着任。

主な研究分野：家族社会学、計量社会学、労働社会学

女性が家族役割を担いながら、どのように職業キャリアを形成していくのかを研究しています。結婚、出産、就業など、人生におけるさまざまな出来事によって生じる地位や役割の移行に焦点をあてるライフコース研究です。マクロな社会変動とミクロな個人生活史との関連に着目した、社会学的研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 黒川すみれ, 2023, 「女性のライフコース—結婚と就業」吉武由彩（編）『入門・福祉社会学—現代的課題との関わりで』学文社.
- ・ 黒川すみれ, 2023, 「コロナショック後の所得変動」樋口美雄／労働政策研究・研修機構（編）『検証・コロナ期日本の働き方—意識・行動変化と雇用政策の課題』慶応義塾大学出版会.
- ・ 黒川すみれ, 2023, 「職場や働き方をめぐる個別労働紛争の男女比較分析」佐藤岩夫・阿部昌樹・太田勝造（編）『現代日本の紛争過程と司法政策—民事紛争全国調査 2016-2020』東京大学出版会.
- ・ 黒川すみれ, 2021, 「コロナショックの所得格差拡大への影響—社会階層の視点から」樋口美雄／労働政策研究・研修機構 編『コロナ禍における個人と企業の変容—働き方・生活・格差と支援策』慶応義塾大学出版会、261-280.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 黒川すみれ, 「夫婦の就業経歴がウェルビーイングに及ぼす影響」第75回数理社会学会大会 2023年8月.
- ・ 黒川すみれ, 「女性の働き方と意識の変容—東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（6）」第94回日本社会学会大会, 東京都立大学（オンライン）, 2021年11月.

③ 過去の主要業績

- ・ 黒川すみれ, 2021, 「コロナショックの所得格差拡大への影響—社会階層の視点から」樋口美雄／労働政策研究・研修機構 編『コロナ禍における個人と企業の変容—働き方・生活・格差と支援策』慶応義塾大学出版会、261-280.
- ・ 黒川すみれ, 2020, 「女性活躍推進と不本意非正規労働」『東京女子大学社会学年報』第8号, 1-16.

- ・ Kurokawa, Sumire, “Re-Defining Women’s Social Status By Optimal Matching of Occupational Career,” 19th International Sociological Association World Congress of Sociology, Canada Toronto, Poster, July, 2018.

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究（研究代表者）研究課題名「女性の職業キャリア研究における系列分析手法の応用」（課題番号 22K13543）、交付金額：3,250 千円、令和 4 年度～令和 6 年度。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会（研究活動委員会委員）、日本家族社会学会、数理社会学会、International Sociological Association RC28 (Social Stratification and Mobility)、西日本社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

公共性の社会学・2 単位・1 年・前期、家族社会学 A・2 単位・2 年・前期、家族社会学 B・2 単位・2 年・後期、社会調査実習 I・2 単位・2 年・前期、社会調査実習 II・2 単位・2 年・後期、福祉社会学・2 単位・3 年・前期、社会学の分析法 B・2 単位・3 年・後期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

行橋市総合計画審議会 委員

田川市後藤寺駅前整備基本計画策定会議及び後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会 委員

飯塚市情報公開審査会 委員

8. 学外講義・講演

立教大学社会情報教育研究センター「第 13 回社会調査フォーラム R で学ぶ系列分析入門」講師

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	講師	氏名	小林 亮太
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2020年3月に広島大学教育学研究科を修了し、福岡県立大学人間社会学部の講師として大学教育、研究に従事しています。研究テーマは、大きく感情制御と内受容感覚の2つです。まず、感情制御については、普段の生活の中で感じるネガティブな感情（例：不安、怒り）をどうしたら緩和することができるのか？ どういった方略が有効なのか？といったことを検討してきました。今後はこうした感情制御のメリットを追求するとともに、そのデメリット（弊害）の解明や日常応用について研究をしていきたいと考えています。

次に、内受容感覚についてですが、そもそも内受容感覚という用語は、身体内部の反応（例：心臓の鼓動、胃の収縮）に関する感覚を意味します。そしてたとえば、不安なときに心臓がどきどきするように、あるいは怒っているときに腸が煮えくり返ると表現するように、この内受容感覚は感情と密接に結びついています。これまで私はこうした内受容感覚への意識（注意）の向きやすさと感情体験の関連について研究を行ってきました。現在は、内受容感覚への意識を簡単に測定できる尺度を作成することに力を注いでおり、子ども向けの尺度も作成していければと思案しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Horinouchi, H., Liu, X., Kabir, R. S., Kobayashi, R., Haramaki, Y., & Kambara, T. (2024). Get the picture: Learning referents in a single-day context. *Word*, 70(1), 22–43. <https://doi.org/10.1080/00437956.2023.2299070>
- Nozaki, Y., & Kobayashi, R. (2024). Instrumental Motives in Emotion Regulation of One's Own and Others' Anger: Testing Cross-Cultural Similarities and Differences Between European Americans and Japanese. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 55(2), 189–215. <https://doi.org/10.1177/00220221231212176>
- 小林亮太・小田真実・岩佐康弘・則武良英 (2023). 青年期前期・中期における学習習慣と社会情緒的コンピテンス, メタ認知の関連 福岡県立大学人間社会学部紀要, 32, 65-72.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 小林亮太・重松潤・則武良英 (2023). 日本語版 Children's Depression Inventory 2nd Edition 短縮版の信頼性と妥当性の検討 日本認知・行動療法学会 2023年10月7-9日 北海道大学学術交流会館
- 則武良英・小林亮太 (2023). 子ども用認知的感情制御尺度日本語版 (CERQ-Jk) の作成 日本心理学会第87回大会 2023年9月15-17日 神戸国際会議場・展示場

- ・ 小林亮太・小田真実・岩佐康弘・則武良英 (2023). エピソードバッファと生涯学習への積極的関与, および継続意志の関連 日本心理学会第 87 回大会 2023 年 9 月 15-17 日 神戸国際会議場・展示場

③過去の主要業績

- ・ 小林亮太 (2022). Topics3 感情制御の伝染 (pp.74-75) / Topics5 安静時脳活動と感情制御 (pp.125-126) 有光興記 (監修) 感情制御ハンドブック 北大路書房
- ・ 小林亮太・本多樹・町澤まる・市川奈穂・中尾敬 (2021) 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の作成 —因子構造, および信頼性, 妥当性の検討— 感情心理学研究, 28, 38-48.
- ・ Kobayashi, R., Shigematsu, J., Miyatani, M., & Nakao, T. (2020). Cognitive reappraisal facilitates decentering: A longitudinal cross-lagged analysis study. *Frontiers in Psychology*, 11:103.

3. 外部研究資金

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (22K13818): 児童生徒の内受容感覚の気づき: 尺度作成から介入まで (代表) 2022.4-2025.3

4. 受賞

小林亮太・本多樹 (2023). 日本感情心理学会第 31 回大会大会発表賞 (若手優秀発表賞) (2023 年 8 月 31 日, 該当発表: 経験サンプリング法と質問紙尺度により測定された interoceptive attention の関連—Murphy et al. (2019) の 2×2 モデルの部分的検証— 日本感情心理学会 31 回大会プレカンファレンス 2023 年 5 月 26-28 日 松山市立子規記念博物館)

野崎優樹・小林亮太 (2023). 日本感情心理学会第 31 回大会大会発表賞 (優秀発表賞) (2023 年 8 月 31 日, 該当発表: 道具的動機に基づく他者の怒りの調整に関する日米比較研究 日本感情心理学会 31 回大会プレカンファレンス 2023 年 5 月 26-28 日 松山市立子規記念博物館)

5. 所属学会

日本心理学会, 日本感情心理学会, 日本認知心理学会, 日本社会心理学会, 日本認知・行動療法学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期(共同), 心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年(共同), 心理学統計法・2単位・2年・前期, 心理学実験Ⅰ・2単位・2年・前期(共同), 心理学実験Ⅱ・2単位・2年・後期(共同), 心理学研究法・2単位・2年・後期(共同), 認知心理学(知覚・認知心理学)・2単位・3年・前期, 心理実習Ⅱ・1単位・3年・通年(共同), 演習・2単位・3年・通年, 認知心理学特論・大学院・前期, 心理統計法特論・大学院・後期

7. 社会貢献活動

査読: Current Psychology, 心理学研究, Frontier in Psychology, Emotion Studies
梅光学院高等学校 大学等連携「卒業研究」プログラム

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井 晋伍
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育分野修了。

主に、水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 櫻井晋伍「造形表現活動における記録写真と活動報告の力量育成－保育者養成課程の学生を対象にして－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 32 号，2024 年 2 月
- ・ 櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査と分析－」和歌山大学教育学部紀要，教育科学，第 74 集，2024 年 2 月
- ・ 櫻井晋伍「造形教育における壁面構成製作の実践－2 メートル四方程度の壁面を活用して－」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 31 巻第 2 号，2023 年 3 月
- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における木材を用いた教材製作に関する研究－素材の特性に着目して－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 31 号，2023 年 2 月
- ・ 犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10 歳児）における調査と分析－」九州ルーテル学院大学紀要 VISIO，第 53 号，2022 年 12 月

<報告書>

- ・ 櫻井晋伍「保育者養成における造形表現活動に関するプレゼンテーション能力育成－地域連携活動を通じた学生の学びに着目して－」令和 4 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2024 年 2 月
- ・ 櫻井晋伍「筑豊地区の地域材を活用した木製玩具製作の教育実践－保育者養成課程における試み－」令和 3 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2023 年 2 月

② その他最近の業績

<絵画作品出展>

- ・ 櫻井晋伍「寂静」水彩画，第 32 回全日本アートサロン絵画大賞展，国立新美術館 2023 年 2 月，西宮市立市民ギャラリー 2023 年 3 月
- ・ 櫻井晋伍「水韻」水彩画，第 35 回 MBC サムホール美術展，鹿児島県歴史・美術センター黎明館 2022 年 9 月－10 月

<学会発表>

- ・櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査結果及び幼児・児童との比較－」第45回美術科教育学会兵庫大会，2023年3月
- ・犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10歳児）における実態調査と分析の展開－」第44回美術科教育学会東京大会，2022年3月

② 過去の主要業績

- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における壁面構成の制作技能育成に関する考察－鑑賞教育を通じた実践－」大学造形美術教育研究第16号，2018年3月
- ・櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年10月
- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年10月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・美術科教育学会
- ・日本美術教育学会
- ・日本基礎造形学会

6. 担当授業科目

<学部>造形Ⅰ・1単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、造形Ⅱ・1単位・1年後期、幼児と表現A・1単位・2年前期、保育内容の指導法・表現A・1単位・2年後期、保育内容演習・2単位・4年後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年後期、演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位・4年通年

<大学院>子ども造形表現研究・2単位・1年前期、子ども造形表現演習・2単位・1年後期、教育課題研究B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年前期、地域教育課題演習・2単位・2年前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

・福岡県立福岡魁誠高等学校，模擬授業「子どもと遊び」，2023年5月12日

9. 附属研究所の活動等

令和5年度 研究奨励交付金，若手奨励研究，研究課題名「土素材の特性を活かした立体作品製作－上野焼を鑑賞資料に活用して－」（研究代表者）

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	菅原 航平
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

・公認心理師、臨床心理士

佐賀県や大分県の短期大学で小学校・幼稚園教諭、保育士の養成に主にに関わり、令和5年度に福岡県立大学に着任致しました。

専門は心理学（臨床・発達）、保育学です。主な研究テーマは、インクルーシブな保育や保護者支援、保育者の研修、保育評価などです。特に現在関心をもって取り組んでいる研究テーマは、放課後児童クラブでの育成支援の質の向上であり、クラブに通う子どもやその保護者、放課後児童支援員等の皆さんのお役に立てるよう、行政、運営主体、支援員等の方に協力して頂きながら研修や育成支援の質に影響を与える要因、研修の効果についての調査等を進めています。

また、保育者を目指す学生に対して保育現場の実態に即した講義を行うために、保育現場との関係を大切にしながら様々な地域の園と保育の実践研究や園内研修に取り組んでいます。くわえて、公認心理師、臨床心理士として自治体の乳幼児健診・発達相談のお手伝いや、園や学校、大学の相談室での子育て相談・教育相談を通しての社会貢献に取り組むとともに、守秘義務等に触れない範囲でそこからみえる子育て・保育の喜びや困難を学生に伝えられるように意識しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・菅原航平（2022）第8章 子ども家庭支援の内容と対象 太田光洋（編著）保育ニュー・スタンダード子ども家庭支援論—保育を基礎とした子ども家庭支援— pp.113-129 同文書院
- ・菅原航平（2022）放課後児童クラブにおける育成支援の質—OJTやSACERSの相互関係と育成支援の質の関連— 別府大学短期大学部紀要第41号 pp.57-63
- ・菅原航平（2022）保育実習Ⅱの実習施設からの評価について～令和3年度の実習評価から～ 別府大学短期大学部児童学会初等教育-研究と実践-No.45pp.20-24
- ・菅原航平・田吹加奈子（2022）幼児の主體的な活動を促す指導～年長児での実践事例から～ 別府大学短期大学部幼児・児童教育研究センターセンターレポート41号 pp.55-62
- ・菅原航平（2022）放課後児童クラブにおけるOJTの状況と育成支援の質の関連 学童保育研究第12巻 pp.51-55
- ・菅原航平（2023）放課後児童クラブにおける障害児支援や職員研修の現状—SACERSの特別支援に関する尺度と育成支援の質の関連— 別府大学短期大学部紀要第42号 pp.135-141
- ・渡邊はるか・菅原航平・伊藤京子・大関美鈴・齊藤範子・助安明美・田中美貴・東保美香（2023）保育現場と協働した実践研究-令和4年度大分県保育事業研究大会分科会報告- 別府大学短期大学部幼児・児童教育研究センターセンターレポート42号 pp.17-22

- ・ 菅原航平（2023）領域「人間関係」の視点から考える保育カリキュラム-「集団」での「生活」の視点からの考察- 別府大学短期大学部幼児・児童教育研究センターセンターレポート 42 号 pp.9-16
- ・ 菅原航平（2024）知的障害児の心理及び生理、病理に関する研究の動向について-論文タイトルの量的な分析や教職コアカリキュラムにおける到達目標との関連からの考察- 福岡県立大学人間社会学部紀要第 32 巻第 2 号 pp.65-69
- ・ 堀内孝一・八田信人・菅原航平・古賀なな子（2024）知的障害特別支援学校における小・中・高等部を通じた学びの連続性の構築-育成を目指す資質・能力の明確化とカリキュラム・マネジメントの推進を通して- 福岡県立大学人間社会学部紀要第 32 巻第 2 号 pp.105-114

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 菅原航平（2021）放課後児童クラブにおける研修の状況と育成支援の質の関連 日本学童保育学会第 11 回研究大会（於 新潟県立大学）
- ・ 田吹加奈子・菅原航平・石川千穂子（2021）5 歳児保育実践「子どもの主体的な活動としての遊びが充実するための環境を考える」～主体性の育ち、そして友達とのつながりを求め続けて～ 第 12 回幼児教育実践学会(於 オンライン)
- ・ 鈴木雄清・永田誠・菅原航平（2022）幼児期の養育者の養育態度と大学生のマインドセットとの関連 日本生活体験学習学会第 24 回研究大会(於 熊本県立大学)
- ・ 永田誠・菅原航平・大村綾（2023）ポストコロナ社会における「親の保育参加／家庭との連携」に関する考察—保育者対象の質問紙調査の結果から—日本生活体験学習学会第 25 回研究大会（於 大分大学）

③過去の主要業績

- ・ 菅原航平，福原美帆，山本智子，田中秀樹（2009）高校生に対する睡眠マネジメント(知識教育と自己調整法)の効果～学校現場での夜型化の防止への取り組み～日本心理学会第 73 回大会（於 立命館大学）
- ・ 菅原航平，泉万里江，水田茂久，高木京子（2016）子ども発達支援士の養成～佐賀女子短期大学での取り組みから～佐賀女子短期大学研究紀要第 50 集 p.225-232
- ・ 菅原航平，宮地泰枝（2018）保育者による障害児支援におけるアセスメントと行動論的介入～自閉スペクトラム症と知的障害が併存する幼児への食事場面での援助～佐賀女子短期大学研究紀要 52 集 2 号 pp.173-182

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究（研究代表者）、放課後児童支援員に対する発達障害児支援力向上のための OJT の開発、910 千円、研究期間(年度)2020 – 2024

4. 受賞

5. 所属学会

日本睡眠学会、日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本生活体験学習学会（理事）、日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本LD学会、日本学童保育学会、日本保育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、こども家庭支援の心理学・2単位・2年・前期、幼児と人間関係・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・人間関係・1単位・3年・後期、幼児理解の理論と方法・2単位・3年・後期、教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

田川市子ども・子育て会議 委員長

8. 学外講義・講演

第48回全国学童保育指導員学校（福岡会場・熊本会場） 講師

大分県教育委員会免許法認定講習「教育相談」 講師

佐賀県放課後児童支援員認定資格研修（佐賀会場・武雄会場・唐津会場・鳥栖会場・土曜日会場） 講師

福岡県立門司学園中学・高等学校「門司学ライブ」 講師

佐賀女子高等学校「～SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」から考える現代の日本の子どもの健康課題について～」 講師

佐賀県幼児教育・保育初任者研修園外研修 講師

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	董 秋艶
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014年3月九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻博士後期課程満期退学。2015年3月九州大学より博士（教育学）の学位を取得。九州大学大学院人間環境学研究院の学際企画室テクニカルスタッフ、九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門助教を経て、2019年4月に本学着任。

主な研究分野は、教育学・教育社会史、中でも特に中国の女子教育制度化に交わる日中関係史に関心があり、これまで主に当時の日中両国のヒトやモノなどの動きに関する資・史料を駆使して、中国の近代女子教育の制度化過程、その制度化過程をめぐる日中関係史を解明してきた。現在は日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究を進んでいる。また、中国の近代幼児教育成立に関する日中関係史の研究にも関心がある。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 董秋艶（2021）「清末中国における日本の女子教育の情報 一下田歌子の『新撰家政学』（1900）の中国語翻訳書に着目して」『教育基礎学研究』九州大学教育基礎学研究会、第18号、2021（令和3）年3月。
- ・ 董秋艶（2021）「中国の公教育（学校教育）原理及び理念（歴史）『教育制度エッセンス—多様性の中で制度原理を考えるために—』（第3部 中国編 第2章 1節 210-213頁）

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- ・ 董秋艶（2012）「日清戦争後中国における日本の女子教育情報—呉汝綸による日本視察（1902）を通して」『日本の教育史学』教育史学会紀要 第55号 72-83頁
- ・ 董秋艶（2014）「清末中国における日本女子教育情報—受容の経路に着目して—」『九州教育学会 研究紀要』九州教育学会 第41巻 121-128頁
- ・ 董秋艶（2019）「中国における乳幼児教育の現状と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第1号、111-120頁

3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究 C） 研究課題「清末中国における日本の女子教育情報～湯剣訳の『新撰家政学』（1902）に着目して」（22k02316）（令和3年度—令和7年度）（研究代表者）

4. 受賞

5. 所属学会

教育史学会、アジア教育学会、九州教育学会

6. 担当授業科目

<学部>教育学概論A・2単位・1年・前期、保育学・2単位・2年・前期、生涯教育論・2単位・2年・後期、教育制度論・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年前期から4年前期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、幼稚園実習Ⅰ・Ⅱ・4単位・3年・前・後期、その他。 <大学院>子ども教育制度研究・2単位・1年・前期、子ども教育制度演習・2単位・1年・後期、教育課題研究A・2単位・1年・前期、教育課題演習A・2単位・1年・後期、子ども教育実践実習Ⅱ・2単位・2年、地域教育課題演習・2単位・2年。

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	畑 香理
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了、博士（保健福祉学）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 畑香理「第15章 社会福祉の実践事例：多職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの実践事例から」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第5版）』講談社、2023年2月。
- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴－入院から退院後の在宅生活を中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1）、2021年10月。
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1）、2021年10月。
- ・ 畑香理「被虐待高齢者への支援」日本医療ソーシャルワーク学会監修、村上須賀子・大垣京子・小嶋章吾・中川美幸編著『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト（第2版）』日総研、2021年9月。
- ・ 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者への支援に関する一考察－患者の性別に着目した医療ソーシャルワーカーの支援の特徴－」『厚生指標』68（7）、2021年7月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 松枝美智子・増満誠・中本亮・宮崎初・畑香理・本郷秀和「厚生労働省統計データによる精神医療の質に関連する要因の探索と予測モデルの作成」日本看護科学学会学術集会第41回大会口頭発表、2021年12月。

- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の生活課題の特徴－入院から退院後の在宅生活に焦点をあてて－」日本社会福祉学会九州地域部会第 62 回大会紙面発表，2021 年 6 月。

<その他>

- ・ 小嶋秀幹・石崎龍二・村山浩一郎・美谷薫・柴田雅博・畑香理・尾形由紀子・山下清香・小野順子・中本亮「地域包括ケアシステム構築に向けた GIS を活用した地域診断－精神障害者の在宅療養実現を目指して－」令和 5 年附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会口頭発表，2024 年 2 月。
- ・ 畑香理「福祉専門職養成の立場から」福岡県医療ソーシャルワーカー協会『FUKUOKA 医療ソーシャルワーク』42，2021 年 7 月。

③過去の主要業績

- ・ 畑香理「大腿骨骨折患者の支援における医療ソーシャルワーカーの役割に関する一考察－回復期リハビリテーション病棟へのアンケート調査から－」『医療と福祉』53 (2)，2019 年 11 月。
- ・ 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者に対する支援の現状－男女別、経験年数別にみた医療ソーシャルワーカーの支援状況の差異－」『地域ケアリング』21 (12)，株式会社北隆館，2019 年 11 月。
- ・ 畑香理・本郷秀和「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援－先行研究の分析から－」『九州社会福祉学』15，日本社会福祉学会九州部会，2019 年 3 月。

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究，交付金額 1,040 千円

「大腿骨骨折を経験した女性高齢者に対する支援モデルの検討」2019 年度～2023 年度，研究代表者。

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C，交付金額 4,420 千円

「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」2019 年度～2024 年度，本郷秀和・鬼崎信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島崎剛。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、日本看護科学学会、福岡県立大学社会福祉学会（理事）

6. 担当授業科目

「ソーシャルワーク演習 B」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワーク実習指導 I」(2単位・2年・通年)、「保健医療論」(2単位・2年・前期)、「ソーシャルワーク実習 A」(2単位・2年・後期)、「精神保健福祉演習」(1単位・2年・後期)、「ソーシャルワーク実習指導 II」(1単位・3年・通年)、「ソーシャルワーク実習 B」(4単位・3年・通年)、「医療ソーシャルワーク論」(2単位・3年・前期)、「ソーシャルワーク演習 D」(1単位・3年・後期)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・3年～4年・通年)

7. 社会貢献活動

田川市国民健康保険運営協議会 副会長

田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員

福岡県介護保険審査会 三者合議体委員

飯塚市指定管理者評価委員会 委員長

飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 委員

福岡県立大学社会福祉学会 理事

8. 学外講義・講演

令和5年度婦人保護事業中堅者研修会 講師, テーマ「相談記録の書き方(実践編)」, 2023年8月.

令和5年度福岡県人権相談従事者職員研修～技能向上コース～ 講師, テーマ「記録表現講座(実習)」(会場:福岡県人権啓発情報センター), 2023年9月.

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了，博士（保健福祉学）。

私は現在，高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では，自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ，「高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めています。特に，虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て，「施設内虐待防止に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また，社会福祉教育分野では，社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして，「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」，「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して，社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法，及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 松岡佐智（2023）「第 11 章精神保健福祉」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第 5 版』講談社，165-178.
- ・ 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智（2023）「感染症流行下の相談援助実習の課題と実習指導者への期待－A 大学における 2013-2021 年度実習後アンケート調査を通じて－」『福岡県社会福祉士会研究誌』2-12.
- ・ 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智（2022）「実習領域別にみる相談援助実習の課題－A 大学における 2013-2021 年度実習後アンケート調査の概観－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』31(1)，91-102.
- ・ 松岡佐智（2022）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止策に関する一考察－施設長インタビュー調査から－」『九州社会福祉学』第 18 号，33-47.
- ・ 松岡佐智（2021）「介護老人福祉施設における介護職員の虐待防止意識に影響を与える要因」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1)，103-112.
- ・ 松岡佐智（2021）「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較－施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析－」『九州社会福祉学』第 17 号，15-28.

②その他最近の業績

<辞典>

- ・ 九州社会福祉研究会（編）（2022）『現代社会福祉用語辞典 第 3 版』，学文社.

③過去の主要業績

- ・ 松岡佐智・本郷秀和 (2020)「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題－施設内虐待の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較－」『高齢者虐待防止研究』16(1), 55-67.
- ・ 秋竹純・本郷秀和・松岡佐智 (2019)「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況：調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』21(8), 北陸社, 64-68.
- ・ 松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太 (2018)「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の意義と課題 - 地域包括支援センター におけるインタビュー調査を通して -」『高齢者虐待防止研究』14(1), 36-48.

3. 外部研究資金

- ①2020－2024 年度 科学研究費補助金 (学術研究助成基金助成金) 若手研究, 交付金額 1690 千円 「施設内虐待の兆候発見に向けたセルフチェックシートの開発に関する研究」, 研究代表者.
- ②2019－2023 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 C, 交付金額 4,420 千円, 「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」, 本郷秀和・鬼崎信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島崎剛.

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本高齢者虐待防止学会, 日本地域福祉学会, 日本介護福祉学会

6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」(2単位・1年前期), 「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年通年), 「ソーシャルワークの理論と方法C」(2単位・2年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(1単位・3年通年), 「ソーシャルワーク実習A」(2単位, 2年後期), 「ソーシャルワーク実習B」(4単位, 3年通年), 「ソーシャルワーク演習D」(1単位, 3年後期), 「社会福祉学演習」(4単位, 3年通年), 「福祉専門職特講A」(2単位, 3年後期), 「福祉専門職特講B」(2単位, 4年前期), 「卒業論文」(6単位・4年後期)

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会 委員
- ・ 直方市高齢者保健福祉協議会・会長
- ・ 嘉麻市配食サービス事業業務委託事業者選考委員会・委員長

8. 学外講義・講演

- ・(公財)福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修「対人援助技法Ⅲ(演習)」

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	宮原 和沙
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程修了・博士（学術・福祉）
- ・主な資格：社会福祉士，精神保健福祉士，介護福祉士，高等学校教諭専修免許状（福祉）（更新講習未講習），高等学校教諭一種免許状（公民）（更新講習未講習）等。
- ・研究分野：社会福祉学，生命倫理学。
- ・人間の生命（いのち）の始まりと終わりに関する研究（例えば、生殖補助医療に関する福祉倫理学的研究や患者の尊厳ある生や死へのソーシャルワーク・アプローチ等について）や，医療福祉に関する研究，第二次世界大戦後の引揚げ女性への非合法の中絶に関する女性福祉論の研究等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・宮原和沙（2021）「(研究報告) 社会福祉士国家試験受験科目である『相談援助の基盤と専門職』の授業におけるアクティブラーニング導入とその評価」, 徳島文理大学研究紀要第101号, pp29-34. 単著. [査読有]
- ・桃井克将, 宮原和沙（2021）「(研究資料) 先行研究にみる精神保健福祉士養成課程におけるアクティブ・ラーニングと今後の展開」, 別冊 総合人間科学 3, 総合人間科学研究学会, pp93-97.
- ・宮原和沙（2022）「地域医療における医療ソーシャルワーカーの役割」, 日本メディカルセンター, 臨牀透析 Vol.38 No.3, pp.71-75.
- ・松本 華穂, 石井 有美子, 宮原 和沙, 田中 祐子, 郷木 義子, 貴志 知恵子, 竹内 理恵, 中村 雅子, 奥田 紀久子（2022）「大学生における月経セルフケア行動の実態と情報源との関連」, 教育保健研究, No.22, 11-22. [査読有]
- ・白山靖彦監修・執筆, 志水朱, 志水幸, 二渡努, 小口将典, 北村美渚, 稲田和也, 松本望, 五十嵐教行, 柳沢志津子, 宮原和沙, 木村淳也, 添田正揮, 川島恵美, 木村志保, 中村裕子, 市川哲雄, 下山美由紀, 季木明德, 後藤崇晴, 木下一雄, 大宮秀淑, 長谷川武史, 古川奨, 種村理太郎, 薄井明, 山下匡将（2023）『社会福祉士養成 基本テキスト 国試対応 第1巻（第2版）』（分担執筆／「第4章 ソーシャルワークの発展過程 第1節 慈善組織協会（Charity Organization Society: COS）, 第2節 リッチモンドの活動, 第3節 セツルメント, 第4節 ケースワークの発展, 第5節 ソーシャルワークの形成過程」）, 日総研出版, pp. 56-71.
- ・桃井克将, 宮原和沙（2024）「ソーシャルワークを多角的に学ぶアクティブ・ラーニング—巨大紙飛行機づくりから—」, 『児童学研究』第48巻, 日本家政学会児童部会, 2024年3月15日, pp.49-52.
- ・宮原和沙（2024）「医学史的観点からみる第二次世界大戦後の引き揚げ女性に行われた非合法中絶」, 『医学史研究』第105号, 2024年3月, pp.51-55.

- 宮原和沙 (2024) 「(論文) 第二次世界大戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究 (3) - 第三の引揚げ港に関する女性福祉の観点からの一考察 - 」, 『純心福祉文化研究』2023 第 17 号, 2024 年 3 月 31 日, pp,1-6. 単著. [査読有]

②その他最近の業績

<学会発表>

- 薄木公平, 宮原和沙 (2021) 「障害福祉サービス事業の継続性を確保するための円滑な事業譲渡方法について～ある事業譲渡事例を通して～」, 第 29 回日本社会福祉士会全国大会社会福祉士学会 (山形大会), 権利擁護/生活構造/相談援助/福祉経営 分科会, オンライン開催.
- 宮原和沙, 桃井克将 (2021) 「徳島県における地域包括ケアとデジタルトランスフォーメーションの現状と課題」, 第 4 回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会, 抄録集, p.18, 示説発表, 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂・ライブ配信 (ZOOM 開催).
- 宮原和沙, 桃井克将 (2021) 「ニューノーマルな実習指導」, SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) フォーラム 2021, オンデマンド・セッション, 高知大学, ZOOM 開催.
- 松本 華穂, 奥田 紀久子, 田中 祐子, 石井 有美子, 宮原 和沙, 郷木 義子 (2021) 「女子大学生の月経セルフケア行動獲得の実態と関連要因」, 学校保健研究, Vol.63, No.Suppl., 108.
- 宮原和沙, 桃井克将 (2022) 「専門課程における初年次教育は、如何にあるべきか?」, SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) フォーラム 2022, 示説発表, 愛媛大学, ZOOM 開催.
- 宮原和沙, 桃井克将 (2022) 「ヤングケアラーに対する社会福祉士の役割における福祉倫理的考察」, 第 5 回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会, 抄録集, p.17, 示説発表, 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂・ライブ配信 (ZOOM 開催).
- 宮原和沙, 桃井克将 (2023) 「地域共生社会の時代におけるダブルケアの現状と課題-もう一つのダブルケアについて-」, 第 6 回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会, 抄録集, p.22, 示説発表, 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂.

③過去の主要業績

- 宮原和沙 (2006) 「粕谷甲一のキリスト教福祉思想の一考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科 『人間文化研究第 4 号』, pp.29-41. [査読有]
- 宮原和沙 (2007) 「『ヒト胚の倫理的身分』についての福祉哲学的考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科 『人間文化研究第 6 号』, pp.9-28. [査読有]
- 宮原和沙 (2018) 「(短報) ソーシャルワークの一技法としてのスヌーズレンの位置付けに関する考察-社会福祉士の立場から, ISNA 日本スヌーズレン総合研究所・『スヌーズレン教育・福祉研究第 2 号』, pp.76-80. [査読有]

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会，徳島県地域包括ケアシステム学会，中国・四国学校保健学会，福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

精神保健福祉演習・1単位・2年後期，ソーシャルワークの理論と方法 E・2単位・3年前期，精神保健福祉援助演習・4単位・3-4年通年，精神保健福祉援助実習指導・3単位・3-4年通年，精神保健福祉援助実習・5単位・3-4年通年，福祉専門職特講 B・2単位・4年前期（メディア授業）。※2023（令和5年）度の精神保健福祉援助演習，精神保健福祉援助実習指導，精神保健福祉援助実習は、4年生は旧カリキュラム，3年生は新カリキュラムでの実施。単位数等は新カリキュラムを記載。

7. 社会貢献活動

日本社会福祉学会 研究倫理委員会委員（令和6年5月までの予定）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／福祉コース	職名	助教	氏名	岡本 浩美
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで不登校・ひきこもりに関する支援や大学生のボランティア活動のコーディネート、障がいがある方のスポーツ支援に携わってきました。これらの経験をもとに、「不登校・ひきこもり児童生徒に対する大学生ボランティアの有用性の検討」、「こども家庭福祉を進めるための社会資源や専門的支援の活用方法における課題」、「障がいがある方のスポーツ支援」をテーマに研究を深めたいと考えております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村 賢一・原田 直樹・河野 高志・寺田 千栄子・岡本 浩美 (2024)「令和5年度 文部科学省委託調査 スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」調査研究報告書.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 松浦賢長・原田直樹・小嶋秀幹, 増満誠, 梶原由紀子・大場綾沙美・岡本 浩美 (2017) . 「子供の支援者を目指す援助力養成ボランティア・ラダーの開発～援助力養成プログラムの実質化の推進～」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 14-15
- ・ 原田直樹・本郷秀和・小嶋秀幹・奥村賢一・小山憲一郎・増満誠・梶原由紀子・仲村彩・岡本浩美 (2017)「不登校支援プロセスにおいて, 学校が大学生ボランティアに求める役割と大学生の学びに関する調査研究」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 24-25
- ・ 原田直樹・岡本浩美・大場綾沙美・長谷川智子・梶原由紀子・田原千晶・松浦賢長 (2018) 「不登校児童生徒への児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査-大学生の関わりを中心に-」『平成 26 年度～平成 29 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査-大学生の関わりを中心に-研究成果報告書』

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会
 日本保健福祉学会
 九州思春期研究会
 福岡県立大学社会福祉学会
 日本看護福祉学会

6. 担当授業科目

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年

教養演習・1単位・1年・前期

ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議でのファシリテーター（令和5年11月）

8. 学外講義・講演

初級障がい者スポーツ指導員養成講習会（R6.2月）

不登児童生徒社会的自立支援事業 社会的自立支援コーディネーター研修講師（R6.2月）

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	助教	氏名	古賀 なな子
--------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2021年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を単位取得退学、2023年4月より福岡県立大学に着任いたしました。これまで主に臨床心理学、特別支援教育を中心に学び、臨床では精神科クリニック、小学校、放課後等デイサービス、就労継続支援A型事業所、大学附属の相談機関などで、臨床心理士・公認心理師として勤務してきました。“人が人と繋がって共により良く生きること”や“その人やコミュニティがもつ力を活かすこと”に関心をもち、人間性心理学といわれる分野を中心に学んでいます。主な研究としては、人と接する場面に不安を感じやすい方が、どのような経緯で支援に繋がるのか、社会資源や人をどのように捉えているのかについて研究を行っています。また、多様な教育的ニーズをもっている子ども達、ご家庭等への支援について日々考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 古賀なな子(2024) 人間性心理学の立場からみたインクルーシブ教育をめぐる理念への一考察. 福岡県立大学心理臨床研究, 第16巻, 印刷中.
- 新村信貴・古賀なな子(2023) ファミリー・グループにおける経年参加児の体験とその内在的な仕組みに関する一考察—日常の支えに焦点を当てて—. 九州大学総合臨床心理研究, 第15巻, 49-55.
- 古賀なな子(2022) 社交不安症者がセルフヘルプ・グループへ継続参加に至る心理的過程. 人間性心理学研究, 第39巻第2号, 155-167.
- 古賀なな子(2021) 社交不安症者の人的資源に着目した臨床心理学的支援に関する文献研究. 九州大学心理学研究, 第23巻, 45-52.
- 金子周平・白井祐浩・田中将司・古賀なな子・平井もも(2021) ファシリテーター機能自己評価尺度の作成と妥当性の検証. 人間性心理学研究, 第38巻第2号, 199-208.
- 古賀なな子・木場典子・山田悠未・池田千晶・金子周平(2021) 多面的な役割体験を重視した構成的グループのファシリテーター訓練の実践報告. 九州大学総合臨床心理学研究, 第13巻, 33-39.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 若手が考える人間性心理学研究のあり方—これからの担い手が抱く危機感と展望—. 日本心理臨床学会第42回大会（自主シンポジウム）
- 古賀なな子(2021) 社交不安症者が認知した人的資源との体験プロセス. 日本人間性心理学会第40回大会（ポスター発表）

③過去の主要業績

- ・ 古賀なな子(2019)社交不安傾向と学齢期の養育態度の認知に関する研究. 九州大学総合臨床心理研究, 第10巻
- ・ 田中将司・古賀なな子・新村信貴・森陽平・金子周平(2020) 臨床心理学におけるオンラインインタビューの方法論と倫理的配慮. 九州大学総合臨床心理学研究, 第12巻, 91-96.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会, 日本人間性心理学会, 九州臨床心理学会, 日本特殊教育学会, 日本育療学会

6. 担当授業科目

学部

教養演習・1単位・1年・前期

福祉心理学・2単位・1年・後期

心理学研究法・2単位・2年・後期(分担)

大学院

臨床心理基礎実習 A・1単位・1年・前期(共同)

臨床心理基礎実習 B・1単位・1年・通年(共同)

臨床心理実習 I(心理実践実習 A)・10単位・1~2年・通年(共同)

心理実践実習 B・2単位・1~2年・通年(共同)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学大学院心理教育相談室 主任 兼 相談室委員
お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)

人間社会学部／こどもコース	職名	助教	氏名	二見 妙子
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台としたインクルーシブ教育（保育）研究に励んでいます。1970年代に日本各地およびイタリア国で展開された障害児教育運動がその後の障害児教育制度や社会文化に与えた影響に興味があります。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 1. 「豊中市の教職員の意見表明権獲得のプロセスに関する研究——学閥弱体化／管理職権威形態化／職場の民主化／障害児教育等の推進」単著 令和5年10月 「戦後日本の教職員組合と社会・文化（その5）令和4-8年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）一般 冷戦体制下の日本における教育運動の構造と機能に関する研究第二次報告書研究課題22H00082」
- 2. Dialoghi sui processi inclusivi: il movimento educativo degli anni Settanta in Giappone, l'esperienza di Toyonaka（国際的な視点とモデル／インクルーシブ・プロセスに関する対話：日本における1970年代の教育運動、豊中の経験）（査読有り）共著令和5年9月 L'integrazione scolastica e sociale, n3-2023 共著（二見妙子 アントネムーラ。イラリア・タトゥッリ。アンティコ・ルイジ・ズルル）
- 3. 「Family association in Italy: between roots and perspectives for inclusion」（査読有り）共著（二見妙子 アントネムーラ。イラリア・タトゥッリ。アンティコ・ルイジ・ズルル）令和5年9月 公教育計画研究14。
- 4. 『卒業論文集 2021年度』（編二見妙子、阿久根桃香、瀬本紗来、立花淳乃、的場芽生、三好穂高、保武ひかり 2022年3月1日、植木印刷）。
- 5. 『イタリアのインクルーシブ教育に関する調査報告1—令和3年度～令和5年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究「イタリア1971年118号法制定のために教育運動が果たした役割（課題番号21K13617）研究成果第1次報告書』単著(2022年3月31日植木印刷)。
- 6. 『卒業論文集 2022年度』（編集二見妙子、藤本実桜、高島優奈、森淵優花、森賀那奈、角田綾夏、山田美央、2023年3月1日、植木印刷）。

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「インクルーシブ教育・保育の内容や方法に関する一考察」2023年度 障害学研究会九州沖縄部会 沖縄研究集会 2024年3月6日（水）— 3月7日（木）なは市民協働プラザ2F会議室

② 過去の主要業績

- ・ 『インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動』（単：現代書館;2017年4月15日出版）。
『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』（2012年：第6章、明石書店）。
- ・ 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」（熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文 2016年1月）。

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業、若手研究、「イタリア 1971年118号法制定のために教育運動が果たした役割」、4,420,000円、2021年～2023年
- ・ 科学研究費助成事業基盤研究(A) 22H00082（共：代表廣田照幸）冷戦体制下の日本における教育労働運動の構造と機能に関する研究、41860000円、2022年～2027年

4. 受賞

5. 所属学会

障害学会、社会福祉学会、公教育計画学会、子どもアドボカシー学会

6. 担当授業科目

特別支援教育・2年・1単位・前期。

特別な支援を必要とする子どもの理解・2年3年・1単位・後期

障害児保育・2年・2単位・後期。

教養演習・1年・2単位・前期

7. 社会貢献活動

家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。

障害児を普通学校へ全国連絡会会員。

田川郡香春町子ども食堂「キッチン小春ちゃん」実行委員。

社団法人子ども情報研究センター会員

8. 学外講義・講演

イタリア国立キャリア大学教育学部4年生へ特別講義「日本のインクルーシブ教育の現状」、
2022年10月25日。

熊本県宇城市小川地区特別支援教育連携協議会講演会講師「発達障害の理解とインクルーシブ
教育」2022年8月25日。

福岡県保育協会保育士会保育士研修会講師「インクルーシブ保育ってなあに」2023年11月6
日。

飯塚市幸袋こども園全体研修講師「インクルーシブ保育について」2024年1月20日。

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・ 大原孫三郎における地域社会構想の研究
- ・ 石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
- ・ 地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 藤澤健一,石崎龍二,佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み —教職課程コアカリキュラムと本学における実践—」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 32 巻第 1 号,pp.109-118,2023 年 10 月.
- ・ 藤澤健一,石崎龍二,佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み —教職課程コアカリキュラムと本学における実践—」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 32 巻第 1 号,pp.109-118,2023 年 10 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2022 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 31 巻第 2 号, pp.59-72,福岡県立大学,2023 年 3 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2021 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.53-66,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- ・ 佐野麻由子,坂無淳,田代英美,佐藤繁美,「公共社会学科における高大連携授業の実践 — 鞍手高校 SGH 事業への参加とその効果 —」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.67-76,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- ・ 下地貴樹,佐藤繁美,「公民科における学習と教えるの責任に関する一考察 ～公民としての資質・能力の育成モデル作成の試み～」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.19-27,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2020 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 1 号, pp.155-168,福岡県立大学,2021 年 10 月.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31 年度～6 年度 交付金額 4,420 千円

研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開

—大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成— (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

社会調査実習Ⅰ（補助） 2単位・2年・実習・前期

社会調査実習Ⅱ（補助） 2単位・2年・実習・後期

データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期

プログラミング概論（補助） 1単位・2年・演習・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田 智恵美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一環として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネージメント研修や、臨床の看護師を対象とした研究指導を行っている。また、看護実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 石田智恵美 中本亮 e-learning を活用した知識の変容に関する考察 日本教育工学会 2021年春季全国大会 2021年3月 関西学院大学（オンライン）
- ・ 石田智恵美 中本亮 看護学生の素朴概念に関する研究 日本教育工学会 2024年春季全国大会 2023年3月 熊本大学

③過去の主要業績

- ・ 石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・ 石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.
- ・ 石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 基盤研究 C 23K09862 素朴概念が看護の知識獲得に与える影響に関する研究 2023年～2025年

4. 受賞

5. 所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

国際看護論・1単位・2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，看護研究・2単位・3年・前期，看護教育学・1単位・3年・前期，看護実践論・1単位・3年・前期，教師論・2単位・3年・前期，看護管理論・1単位・4年・後期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護教育学特論・2単位・1年・前期，看護教育学演習・2単位・1年・後期，看護教育学・2単位・1年・後期，看護管理学・2単位・1年・後期，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 5月～3月まで1回/月 及び，院内研究発表会の講評
- ・地方独立行政法人川崎町立病院評価委員 2022年8月～2023年7月

8. 学外講義・講演

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」，「看護組織管理論」

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上 千代美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P（positive parenting program）という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 塩田昇, 江上千代美, 発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較, 福岡県立大学看護学研究紀要 21 巻, 27-34(2024).
- ・ 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 桑野瑞恵, 塩田昇, 山下裕史朗. ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践. 小児保健研究 80(3):303-306 (2021).

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第 42 日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.

- ・ 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響—POMS、唾液コルチゾール—. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 江上千代美. 第 81 回日本公衆衛生学会
- ・ 江上千代美, 山下裕史朗(2015). 発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~, 第 24 回日本 LD 学会, 佐賀, 349-350.

③過去の主要業績

- ・ Yushiro Yamashita, Chiyomi E et al. : Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・ Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2015 年度～2018 年度 交付金額 4,810 千円
研究課題、トリプル P 介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか
科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2018 年度～2021 年度 交付金額 4,290 千円
発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上・基本的生活習慣の習得を目指して・

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 2022 年度～2025 年度） 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：江上千代美）

4. 受賞

5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年次・後期, 生態・病態看護学実験 2 単位・2 年次, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年次・通年, 総合実習・2 単位・4 年次・前期, 生態機能看護学Ⅲ、卒業研究・2 単位・4 年次・通年,

<大学院>

Advanced 生理学・病態生理学・2 単位・1 年次、基盤看護学特別研究 8 単位実験看護学演習 2 単位・1 年次 実験看護学特論 2 単位・1 年次

7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・田川市・香春町・志免町・朝倉市

8. 学外講義・講演

子育て支援に関する講演会の講師

9. 附属研究所の活動等

久留米大学

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	田吹 香子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護学部・人間社会学部共通英語授業（一年生・二年生）、看護学研究科の英語科目、基盤教育センター科目を担当。主にアメリカ文学（ポストモダン文学）、英語文学(移民文学)、効果的な英語教育方法と英語教育と文学の関係を研究。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」『人と文化と言語 XIII 号』(2023)
- ・ 「戦争は『何の顔』をしているのか—Northern Lights における『女性の声』の役割を考える」日本英文学会九州支部第 75 回大会 アメリカ文学シンポジウム Proceeding (2022)
- ・ 「声を守る—“Love and Honor and Pity and Pride and Compassion and Sacrifice”における移民子孫の二重の語り」『人と文化と言語 XI 号』(2021)

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」日本人類言語学会第 23 回学術大会(2023)
- ・ 日本英文学会九州支部第 75 回大会 アメリカ文学シンポジウム「戦争に周縁はあるのか」(2022)
- ・ 「“Love and Honor and Pity and Pride and Compassion and Sacrifice”における父の『声』における表象」日本人類言語学会第 21 回学術大会 (2021)

③過去の主要業績

- ・ 「潰えゆく兵士の夢—『カチアートを追跡して』に見られる対抗文化的意識の挑戦と失敗」『九州英文学研究』第 27 号
- ・ 「語りの闇を超えて—The Things They Carried における語り手の苦悩と希望」『九州アメリカ文学』No.51
- ・ 「権力の生産・管理構造の外へ—The Nuclear Age (1985)における抵抗者たち」『九州アメリカ文学』No.50

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本英文学会、日本英文学会九州支部、日本アメリカ文学会、日本アメリカ文学会九州支部、日本人類言語学会(理事、事務局長、学会運営委員長)

6. 担当授業科目

Reading & Writing 初級 (1)・1 単位・1 年・前期、Speaking & Listening 初級・1 単位・1 年・前期、リーディングⅡ(A クラス、B クラス、C クラス)・1 単位・2 年・前期、リーディングⅢ・1 単位・4 年・前期、Reading & Writing 初級 (2)・1 単位・1 年・後期、Speaking & Listening 初級 (2)・1 単位・1 年・後期、Speaking & Listening 中級 (2)(D クラス、E クラス、F クラス)・1 単位・1 年・後期、卒業研究・2 単位・4 年・通年、英語文献講読特論・2 単位・大学院 1 年・前期

7. 社会貢献活動

日本人類言語学会(理事、事務局長、学会運営委員長)

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護コース	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 18 年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。
 主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択されたが、引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))においても採択されたことで、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択されたことで、平成 24 年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。プレ実験を受け平成 25 年度は本実験を実施し、一部興味深い結果を得ることができた。平成 26 年度、新たに科研(平成 26 年度～平成 29 年度挑戦的萌芽研究)が採択され、引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ結果、アイマークレコーダー装着での実験で視線の合理性(熟達に伴い無駄な視線の動きが減少する)が一部捉えられた。令和 1 年度に採択された科研(令和 1 年度～令和 4 年度基盤研究 C)においても、関連研究を引き続き実施し、実験の精度を高めつつ、科学的及び心理学的見地から研究に取り組んでいく予定である。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 松枝 美智子,村田 節子,江上 史子,松井 聡子,渡邊智子,永嶋由理子. 医療施設等の看護管理者が高度実践看護師に提供したい支援, 星槎大学大学院紀要,第3巻第1号,2021.
- ・ 浏野由夏,永嶋由理子,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美,宮崎千尋. 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討,福岡県立大学看護学研究紀要,第 17 巻,2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 佐多愛子,永嶋由理子. CDE 看護師の糖尿病療養指導スキルの実態とその検討,第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会,大阪国際会議場,2022.
- ・ 鹿嶋聡子,永嶋由理子.看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討,第 42 回日本看護化学会学術集会,広島国際会議場,2022.

③過去の主要業績

- ・ 永嶋由理子,特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9月号, p50-55, 2015.
- ・ 永嶋由理子,看護技術の熟達化における思考過程深化の解明,久留米大学大学院心理学研究科中間論文,P1-59,2006.
- ・ 永嶋由理子,山川裕子,血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基盤研究C），「看護技術の熟達形成に関わる促進要因の検討」，4万，研究代表，2019～2023年度。

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会，日本看護科学学会，本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本教育心理学会，日本協同教育学会

6. 担当授業科目

学部：基礎看護学概論・2単位・1年次・前期，基礎看護学実習I・1単位・1年次・前期，フィジカルアセスメント論・1単位・2年次・前期，看護過程・1単位・2年次・前期，基礎看護学実習II・2単位・2年次・前期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年次・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年，卒業研究2単位・4年次・通年

大学院：看護理論・2単位・1年次・前期，看護心理学特論・1年次・選択，看護心理学演習・1年次・後期，課題研究・4単位・1～2年次・通年，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年次・通年

7. 社会貢献活動

田川市住宅政策審議会委員

8. 学外講義・講演

福岡県看護教員養成指導者講習会講師，「看護論」の講義，2022年5月～6月

福岡県立大学看護実践教育センター特定行為研修講師，「臨床推論と看護診断」の講義2021年8月。

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	波止 千恵
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、脳外科、外科病棟、循環器病棟での臨床経験後教員となり、その後3年間在宅介護支援センターの管理者として地域福祉、高齢者福祉に携わる。

熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程単位取得後退学

主な研究分野は訪問看護師の実践能力向上に関する研究

在宅酸素療法が必要な慢性閉塞性肺疾患（Chronic Obstructive Pulmonary Disease :COPD）患者が急性増悪を起こさず在宅療養を継続するための訪問看護の効果について研究しています。訪問する看護師の方が呼吸器疾患の療養者や家族の方に質の高い看護が提供できるための支援を目指しています。

2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、在宅看護論が「地域・在宅看護論」と名称変更されました。本学では1年次から段階的に「地域・在宅看護実習」を行い、看護師が病院だけでなく、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動について学び実践できることを目指しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes.
Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. The 16 th EAFONS 2023.Tokyo.

③過去の主要業績

- ・ 波止千恵,前田ひとみ（2020）. 在宅酸素療法を行っている COPD 患者の外来看護介入の効果 個別指導と訪問指導の比較, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌,29（2） p 276-281.
- ・ 山崎律子,波止千恵,他（2017）. 医療機器を使用した在宅看護論演習の成果～酸素濃縮器と人工呼吸器を使用した体験型演習での学びを通して～純真学園大学雑誌号7号 p55－62
- ・ 長弘千恵、前野有佳里、波止千恵、Bevan宏美（2010）. 日本介護保険の現状と課題-介護予防の視点から-, Korean Journal of Research in Gerontology (韓国老年学研究)、vol19、37-50.

3. 外部研究資金

基盤研究（C） COPD 患者のセルフマネジメント教育支援のための訪問看護プロトコール開発 交付金額 247 万 令和5年～令和7年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、
日本地域看護学会会員、日本看護学教育学会会員

6. 担当授業科目

〈学部〉

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、暮らしと保健福祉・看護・2単位・1年・後期、チーム医療論・1単位・1年・後期、家族看護学・1単位・2年・前期、地域・在宅看護論・2単位・2年・後期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年通年、在宅看護学実習：3年次後期2単位、専門看護学ゼミ：2単位3年次通年、卒業研究：2単位4年次通年

7. 社会貢献活動

- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 医療・介護・住まい部会
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 認知症支援部会
- ・ケアカフェ田川 (在宅医療多職種研修会：田川市と共同開催)：年間3回

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	福田 和美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行いました。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了しました（看護学博士）。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っています。また、成人看護学教育におけるシミュレーション教育の導入や効果的な教授方法に関する研究も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村田和子、福田和美：成人看護学演習における OSCE の現状と課題，福岡県立大学看護学研究紀要，第 21 巻，p17-25，2023.
- ・ 高木美歩、福田和美：精神科訪問看護利用者が希望を語ることにつながった看護師の関り，日本地域看護学会誌，26 巻 1 号，p84-91，2023.
- ・ 福田和美，中尾久子，村田和子：術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア：The Journal of Nursing Investigation，第20巻1号，p33-43，2022.
- ・ 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香，成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリット型学内実習の実践報告：福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻，p90～105. 2022.
- ・ 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美，学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み：福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻，p115～122. 2022.
- ・ 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美：クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻，p69～76. 2021.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 山口馨子，福田和美：看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討，第48回日本看護研究学会学術集会（愛媛：オンライン），2022.
- ・ 福田和美，中尾久子：看護師が行う術後せん妄患者の家族への情報提供の現状，第 41 回日本看護科学学会学術集会（愛知：オンライン），2021.

③過去の主要業績

- ・ 福田和美, 中尾久子: 術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験, The Journal of Nursing Investigation, 第13巻1,2号, p20-27, 2015.
- ・ 渡邊美保, 福田和美: がん患者を対象とした全人的苦痛に対するタクティールケアの効果, 日本看護医療学会雑誌, 第16巻2号, p40-48, 2014.
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nakao: Effects of post-operative delirium of patients on family members and their response, The Journal of Nursing Investigation, 第11巻(11, 2号, p1-13, 2013.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基金分)基盤研究(C)令和2年~5年, 交付金額3,120千円, 研究課題: 情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発(研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International、日本地域看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期、健康レベルと看護・1単位・1年・後期、看護倫理学・1単位・2年・前期、成人老年看護学Ⅰ(急性期)・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ(慢性期)、成人老年看護学Ⅲ(終末期)・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3後~4年前期、成人慢性看護学実習・3単位・3後~4年前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年前期、卒業研究・1単位・4年生・通年

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年前期、成人看護学演習・2単位・1年後期、看護研究法・2単位・1年前期、ウイメンズヘルスト論・1単位・1年前期、ウイメンズヘルス演習・1単位・1年後期、臨床看護学特別研究・1~2年・8単位・通年、課題研究・1~2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会 看護研究倫理審査委員会 委員長
- ・ 日本看護協会 第54回日本看護学会学術集会 抄録選考委員
- ・ 済生会福岡総合病院 特定行為研修管理委員会 外部委員

8. 学外講義・講演

- ・飯塚市立病院 看護過程研修会 講師
- ・飯塚市立病院 接遇研修会 講師

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	村方 多鶴子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で勤務後、教育の分野（高等学校衛生看護科・専攻科、医療技術短大、看護学部など）で長年働いてきました。その後、精神科を専門とする訪問看護ステーションにて看護師として勤務後、再び教育・研究の場に戻り、令和3年度に本学に着任しました。

研究分野としては、精神障害をもつ母親の子育てに関する研究などを行っていましたが、訪問看護ステーション勤務後は主に、精神科訪問看護ステーションにおける新任スタッフ育成に関する研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 萱間真美、稲垣中編集（2021）：精神看護学Ⅰ、第3章（発達段階別にみる発達課題と精神の健康）3-1 発達理論と発達課題、南江堂、p 131-135.
- ・ 吉川隆博・木戸芳史編集（2021）：精神看護、第2部（アセスメント：リカバリー志向の包括的アセスメントをする技術）3-4 社会的アセスメント（家族、環境）、中央法規、p 113-117.

② その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 村方多鶴子 (2022) : 精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフの成長プロセス、第12回日本在宅看護学会学術集会（Web開催）.
- ・ 村方多鶴子 (2022) : 精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発－管理者が新任スタッフに行っているサポート－、第42回日本看護科学学会学術集会（Web開催）.

③ 過去の主要業績

- ・ 村方多鶴子 (2018) : 集中的な支援が必要な精神障害者に対する24時間電話対応、精神科臨床サービス、18(3)、p 54～58
- ・ 村方多鶴子 (2018) : 訪問看護における電話対応、精神科臨床サービス、18(3)、P59～P62
- ・ 村方多鶴子、角田秋 (2017) : 必要な精神医療を受けずに子どもと同居している母親への支援アウトリーチ推進事業による手厚い支援の分析、精神障害とリハビリテーション、21(2)、p 188～195

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本在宅看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉看護倫理学・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

助産学課題研究・4単位・1年・通年、特別研究・8単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県覚醒剤・麻薬禍対策協議会委員

8. 学外講義・講演

- ・宮崎県立看護大学：精神科訪問看護力向上のためのネットワーク構築事業：精神科訪問看護における看護実践力を高める看護師間の交流の推進
- ・全国訪問看護事業協会：精神科訪問看護研修会ファシリテーター
- ・入学説明会：北筑高校
- ・静岡県立大学大学院看護学研究科特別講義：地域における看護活動 精神科訪問看護

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	芋川 浩
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪大学 大学院・医学研究科を修了後(医科学修士)、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程に進学・修了(理学博士)した。その後、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、英国 University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリや、再生の王様であるプラナリアなどを用いて解析を進めている。(ちなみに、イモリ(井守)とヤモリ(家守)は違いますので、ご注意ください。)

ヒトなどは、手足や臓器・器官を失うと、再生させることはできないが、イモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを失っても、完全にもとに再生することができる。近年のめざましい生命科学の進歩により、四肢形成に関わる主要な遺伝子群もわかっており、実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子群を利用して手足を形成していることが分かっている。では、同じ遺伝子群を持っているのに、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか？その難問を解明しようと研究を進めている。

ノーベル賞に輝いた iPS 細胞を使ってさえも 3 次元の機能的な臓器・器官の形成に世界でまだ誰も成功していない。このような夢の再生医療の実現を地球で最高の再生の王様であるプラナリアやイモリから教えてもらいたいと考え、2017年、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。これは、日本初のイモリ培養細胞株の樹立である。このイモリの細胞株を使って、現在試験管内での3次元組織構築に挑んでいる。

また、このような再生医学的アプローチばかりではなく、「スキนครリーム」の開発により、福岡県立大学初の特許取得にも成功している。

さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギ、わさび、ポッカレモンなどで興味深い結果も得て、現在科学研究費・基盤研究で再生外の研究も鋭意に進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1-143, 2022年(改訂)
- ・ 芋川浩, 岡本七海. カボスの殺菌・抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 21: 9-16, 2023
- ・ 芋川浩, 上鶴紗也. レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 20: 1-8, 2023
- ・ 芋川浩, 山井ゆり. ドクダミの殺菌・抗菌効果の解析 -揮発性成分の有効性-. 福岡県立大学看護学研究紀要 19: 25-33, 2022

- ・ 芋川浩, 藤野まりか. 味噌の殺菌抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要. 18 : 1-11, 2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 芋川 浩. 柑橘類の殺菌抗菌効果の解析. 第 49 回日本看護研究学会 学術集会
・ 仮想空間オンライン開催 2023.
- ・ 芋川 浩. レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析. 第 48 回日本看護研究学会 学術集会
松山市(対面・オンライン同時開催) 2022.
- ・ 芋川 浩. ドクダミの殺菌抗菌効果について. 第 47 回日本看護研究学会 学術集会
仙台市(オンライン開催) 2021.

③過去の主要業績

- ・ Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 94, 9159-9164 (1997).
- ・ Y. Imokawa, J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin Is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.
Current Biology, 13, 877-881 (2003)
- ・ 芋川 浩. 『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』
日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016 年

3. 外部研究資金

芋川 浩 (単独研究) 科学研究費補助金 基盤研究(C)「大災害時で使える新しい殺菌消毒法の開発」課題番号 23K10320, 356.5 万円, 2023~2025 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験 A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験 B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情 A(日本科学事情 I&II)・2単位・交換留学生・後期

7. 社会貢献活動

- ①宗像市・福津市による青少年育成事業の委員として、
海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導・教育している
- ②西南学院大学・非常勤講師（科目名：生命科学 A(7), 生命科学 A(8), 生命科学 B(7),
生命科学 B(8))
- ③聖マリア学院大学・非常勤講師（科目名：生物学）
- ④麻生看護大学校・非常勤講師（科目名：異文化の理解と交流）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	加藤 法子
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、基礎看護・看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発やヘルスケア向上を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や教育方法に関する研究、成人女性の生理的むくみに関する基礎研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田昇、廣瀬理絵、松山美幸、加藤法子、蔵元恵里子、田中美智子、江上千代美、「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか、福岡県立大学看護学部研究紀要,19 巻,77-87,2022.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.
- 加藤法子,洲野由夏,永嶋由理子: 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討.福岡県立大学看護学研究要,4(2),64 - 68.2007.
加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34 (4) ,457-490.2008.
- 加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会
日本看護教育学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、統合実習・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期、看護心理学特論・2単位・1年・前期、基盤看護学特別研究、1～2年、8単位、通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

違法薬物、市販薬などの薬物乱用問題や依存（嗜癖）問題、インターネット依存やゲーム依存などの行為依存を主な研究対象にしています。どの依存症でも、陥りやすい人には共通点があります。家庭で両親から怒鳴りつけられていたり、家族や身近な人が依存症で苦しんでいたりと、ACEs（子供時代の逆境的体験）を抱えているケースが多いです。さらに現代社会では、依存から抜け出しにくい環境になっています。家庭環境に問題があるだけでなく、学校や職場での不安やストレスから逃げるためにその環境から飛び出して、同じ背景を抱えた人たちが集まり、新たな関係依存（共依存）が生まれやすいこともあります。依存した結果より、その原因に目を向ける支援が大切です。お気軽にメールでご連絡ください。（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 四戸智昭著.「第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー」.『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方 2023 年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2023 年 4 月.
- ・ 四戸智昭.「新型コロナウイルス感染症による孤独と不安」.『岩手の保健』. 226 号. 岩手県国民健康保険団体連合会. 2021 年 3 月.
- ・ 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.『アクションと家族』.第 37 巻第 2 号.日本嗜癖行動学会.2022 年 7 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.日本嗜癖行動学会第 31 回学術集会.熊本.2021 年 11 月.

③過去の主要業績

- ・ 四戸智昭著. (単著).『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- ・ 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり.”第 14 章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”.『21 世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- ・ 西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日（全 19 回）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本嗜癮行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アクション学会、子ども虐待防止学会、日本家族と子どもセラピスト学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癮・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院嗜癮行動学特論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

8. 学外講義・講演

- ・下関南高校、アクション模擬授業、2023年7月
- ・アクションフォーラム2023in田川、講演、2023年10月
- ・熊本市精神保健福祉センター、こころの健康づくり講演会、2023年11月
- ・R5年度ひきこもり市民講演会、講演、2023年12月
- ・学校カウンセリング研究会、講演「昼夜逆転とゲーム依存」、2024年1月
- ・水巻看護助産学校、特別講義、2024年2月

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。看護系教育機関における教員を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援など、ICT を活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、5) 効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術支援：ICT 器機利用トラブル対処状況に基づく支援方法の検討、日本看護研究学会第 26 回九州・沖縄地方学会学術集会、オンライン、2022 年 2 月 2 日～2 月 15 日
- ・ 杉野浩幸、看護学部基礎教育における感染看護教育効果向上への取り組み：常在細菌・真菌類を用いた実験を活用した事例、日本看護学教育学会・学術集会、オンライン、2021 年 8 月 18 日～9 月 17 日
- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築：ICT 関連トラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日
- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築-2：遠隔授業におけるトラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日

③過去の主要業績

- ・ H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a Rhodotorula - lytic enzyme from Paecilomyces lilacinus having β -1,3-mannanase activity. 2004, Biosci. Biotechnol. Biochem. 68:757-760
- ・ H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, Eur. J. Biochem. 269:1957-1967

- H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* 174:2485-2492

3. 外部研究資金

文部科学省、学術研究助成基金助成金（科研費（基盤 C））、効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用、1,800 千円、2019 年 4 月～2024 年 3 月

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護教育学会、日本看護学研究学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、感染・免疫看護学演習・1 単位・1 年・後期、看護情報学・1 単位・2 年・後期、看護研究・2 単位・2 年・後期、看護研究・2 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中 美樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、NICU 等での勤務を経てのち、グリフィス大学（オーストラリア）へ留学し学士を取得しました。帰国後、名古屋大学大学院医学系研究科博士前期課程へ進み、修了後より看護教育に携わっています。

現在、本学こどもコース教員とともに、入院中であつても子どもが子どもらしく生活を送れるため（子どもの最善の利益を守るため）の、保育士と看護師の協働に関する研究および、検査や処置を受ける子どもの“こころの準備”のためのプレパレーションに関する研究や絵本プロジェクトを進めています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 松尾 ひとみ編集、小神野 雅子、田中 美樹、濱田 裕子、平田 美佳、藤田 紋佳、本田 真也、吉川 未桜. 子どもの生活機能の発達とからだの仕組み-看護形態機能学の視点から-第2章「食べる」. 株式会社金芳堂（京都市）. 2024年3月31日
- ・ 吉川 未桜、吉田 麻美、田中 美樹. 小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して-保育園年長クラスの子どものたちの演習参加の試み-九州・沖縄小児看護教育研究会誌第23号.2024年
- ・ 田中 美樹、吉川 未桜、吉田 麻美、中原 雄一、杉野 寿子、池田 孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報-業務内容の現状分析-. 福岡県立大学看護学部紀要第20巻. 2023年.pp9-20
- ・ 吉川 未桜、田中 美樹、吉田 麻美、中原 雄一、杉野 寿子、池田 孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報-協働の現状と課題-. 福岡県立大学看護学部紀要第20巻. 2023年.pp21-32
- ・ 田中 美樹、吉川 未桜、吉田 麻美、杉野 寿子、中原 雄一、池田 孝博. 新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感. 福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号. 2023年.pp85-93
- ・ 平塚 淳子、猪狩 崇、中村 美穂子、小野 順子、吉川 未桜、吉田 麻美、田中 美樹、山下 清香、櫛 直美、尾形 由起子. A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要第20巻. 2023年.pp41-47
- ・ 杉野 寿子、吉川 未桜、田中 美樹、吉田 麻美、池田 孝博、中原 雄一「入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号. 2022年. pp71-79
- ・ 田中 美樹、吉川 未桜、尾形 由起子、櫛 直美、吉田 麻美. 小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学部紀要19巻.2022年. pp107-114

- ・ 吉川 未桜、吉田 麻美、平塚 淳子、中村 美穂子、大場 美緒、小野 順子、猪狩 崇、山下 清香、田中 美樹、櫛 直美、尾形 由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp45-55
- ・ 小野 順子、山下 清香、中村 美穂子、中本 亮、櫛 直美、田中 美樹、吉川 美桜、吉田 麻美、尾形 由起子. A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-. 福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp123-132
- ・ 櫛 直美、尾形 由起子、小野 順子、中村 美穂子、大場 美緒、吉田 麻美、猪狩 崇、平塚 淳子、田中 美樹、吉川 未桜、山下 清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp13-23

②その他最近の業績

- ・ 吉川 未桜、吉田 麻美、田中 美樹. 小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して-保育園年長クラスの子どもたちの演習参加の試み-. 第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会.2023 年 8 月 19 日. 鹿児島市
- ・ 田中 美樹、野村 さちい、伊藤 舞美、原田 香奈、児玉 和彦 セミナー「やってみたくなる！出来る気がする！プレパレーション」第 31 回日本外来小児科学会. 2022 年. 福岡市

③過去の主要業績

- ・ 杉野 寿子、田中 美樹、吉川 未桜、吉田 麻美、中原 雄一、池田 孝博.保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究.福岡県立大学人間社会学部紀要 29 巻 1 号.2020 年.
- ・ 田中 美樹. 保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援. 保育と保健 vol.19.no.2.2013 年.pp68-72
- ・ 田中 美樹. NICU 退院時と母親への継続的育児支援に関する研究. 日本新生児看護学会 vol.13.no.1.2006 年.pp15-21

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、日本国際看護学会

6. 担当授業科目

(看護学部)

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期

看護倫理学・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期

小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期、小児看護学実習・2単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年

統合実習・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年

(人間社会学部)

子どもの健康と安全・1単位・2年・前期

(看護学研究科)

小児看護学特論・2単位・1～2年・前期

7. 社会貢献活動

- ・絵本プロジェクト：検査や処置を受ける療養中の子どものための絵本作成（子どもコースと看護科の教員と学生とのコラボレーション）および配布
- ・病院で検査や処置を受ける子どもの家族向けの事前説明ツールの作成と配布

8. 学外講義・講演

- ・福岡県 消防職員専科教育第40回救急科講義「小児・新生児」
- ・北九州市社会福祉研修所 令和5年度保健衛生・安全対策研修「保健計画の作成と活用・事故防止および健康安全管理」
- ・田川市子育て支援センター子育て中の母親向けセミナー「こんなときどうするの？～」

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（重点領域研究）（2年目）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」
- ・附属研究所研究推進部会議
- ・令和5年度 附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会（2024年2月29日）

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	富崎 ゆかり
-----------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院およびがん専門病院で臨床経験を積んだ後、愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻へ進学し、がん治療に続発するリンパ浮腫を発症した患者の援助方法について研究を行いました（看護学修士）。その後、高知県立大学大学院健康生活科学研究科へ進学し、がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラム開発に取り組みました（看護学博士）。博士課程在学中に大学教員となり、看護教育に携わっています。

現在はがん治療後の後遺症であるリンパ浮腫に関する研究や、患者教育に関する研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 大西ゆかり，藤田佐和（2022）：リンパ浮腫の重症化予防のための患者教育指針の開発：社会的認知理論を実践に活用した患者教育を目指して，高知女子大学看護学会誌，47（2），22-30.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 大西ゆかり（2010）：慢性の経過をたどる患者のセルフマネジメントの概念分析　リンパ浮腫のあるがん患者への活用，高知女子大学看護学会誌，35（1），27 - 53.
- 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発過程，高知女子大学看護学会誌，38（2）、50-61.
- 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発と短期的評価，日本がん看護学会誌，30（1），82-92.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、高知女子大学看護学会、日本リンパ浮腫治療学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習 1 単位・1 年・前期、成人老年看護学Ⅰ・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅲ・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、成人老年急性看護学実習・3 単位・3 年・後期、成人老年慢性看護学実習・3 単位・3 年・後期、統合実習・2 単位・4 年・通年、卒業研究 2 単位・4 年・通年

<大学院>

成人看護学特論・2 単位・1 年前期、成人看護学演習・2 単位・1 年後期

7. 社会貢献活動

日本がん看護学会誌 査読委員

高知女子大学看護学会誌 査読委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	中井 裕子
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。成人老年看護学の教育に携わっています。主な研究分野は高齢者看護、周術期看護、看護教育です。主な研究テーマは高齢者を対象とした急性期・周術期看護、新卒看護師のリアリティショックを緩和する授業方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：69-76
- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：99-105
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：115-122

②その他最近の業績

<学会発表>

- 長聡子，増満誠，石橋曜子，平塚淳子，中井裕子，日高艶子，松浦賢長．エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力－看護師が体験した職場風土や組織体制－．日本看護科学学会第43回学術集会（山口）2023.

③過去の主要業績

- 中井裕子，榎本麻里，三枝香代子，堀之内若名．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）．千葉県立衛生短期大学紀要 2009；27(1・2)：143-151.
- 中井裕子，堀之内若名，三枝香代子，榎本麻里．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討．千葉県立衛生短期大学紀要 2008；26(2)：105-112.
- 大谷則子，堀之内若名，中井裕子，榎本麻里．手術室見学実習における学び一二つの実習形態の比較検討による考察－．OPE NURSING 2006；21(6)：98-108.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学会

6. 担当授業科目

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3～4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

田川市高齢者保健福祉計画評価委員会委員（副委員長）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	原田 直樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士、精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後、福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し、不登校・ひきこもりの児童生徒や家族、学校の支援に従事しました。その後 2010 年より看護学部の教員として着任しました。

主な研究分野は、①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究、②不登校・ひきこもり支援の具体的方法に関する研究、③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

学校保健福祉の視点から、個人因と環境因との関係性に焦点を当て、子どもの保健福祉の向上を目的とした研究と教育に取り組んでいます

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 原田直樹，梶原由紀子，田原千晶，増満誠，松浦 賢長．元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究．福岡県立大学看護学部紀要 2022；19：1-12.
- ・ 梶原由紀子，原田直樹，田原千晶，松浦 賢長．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究．福岡県立大学看護学部紀要 2022；19：57-68.
- ・ 松浦 賢長，原田直樹，梶原由紀子．思春期性教育における外部講師協働モデルの構築に関する研究．厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成総合研究事業)分担研究報告書 2022：91-112.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 原田直樹：思春期の悩みの向き合い方とインターネット不登校児童生徒を取り巻く環境と思春期の悩み．第 42 回日本思春期学会学術集会（東京）．2023.8.26
- ・ 松浦賢長，原田直樹：成育基本方針の指標～学校保健・思春期関連指標～．第 80 回日本公衆衛生学会総会（東京）．日本公衆衛生雑誌（特別附録）68(12)：76．2021.12.21

③過去の主要業績

- ・ 原田直樹，野見山晴佳，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長．中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究．福岡県立大学看護学部紀要 2012；10（1）：1-12.
- ・ 原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長．不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究－家庭支援へ向けての考察－．福岡県立大学看護学部紀要 2011.；8（1）：11-18.

- ・ 原田直樹，松浦賢長．学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究．日本保健福祉学会誌 2010 ; 16 (2) : 13-22.

3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会，科学研究費（基盤研究 C），HSC を有する不登校児童生徒への教育・支援方法の検討に関する研究，令和 4 年度～令和 7 年度
- ・ 日本学術振興会，科学研究費（基盤研究 B），エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発，令和 5 年度～令和 8 年度

4. 受賞

- ・ 平成 27 年度福岡県立大学ベストティーチャー賞
- ・ 第 30 回日本保健福祉学会学術集会 優秀学会発表賞

5. 所属学会

日本保健福祉学会，日本思春期学会，日本小児保健協会，日本学校ソーシャルワーク学会，日本学校保健学会，日本看護科学学会 等

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期，情報処理演習 I ・1 単位・1 年・前期，情報処理演習 II ・1 単位・1 年・前期，公衆衛生学・2 単位・1 年・後期，暮らしと保健福祉・看護・2 単位・1 年・後期，教育と社会・地域・1 単位・1 年後期，子供学習支援論・1 単位・1 年後期，保健統計学・2 単位・2 年・前期，養護概説・2 単位・2 年・後期，教育方法論・1 単位・2 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，学校保健学・1 単位・3 年・前期，健康教育論，2 単位・3 年・前期，性教育学・2 単位・3 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・通年，養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期，養護実習・1 単位・4 年・前期，教職実践演習（養護教諭）・2 単位・4 年・後期，思春期ヘルスプロモーション特論・2 単位・大学院 1 年・前期，思春期ヘルスプロモーション演習・2 単位・大学院 1 年・後期

7. 社会貢献活動

日本保健福祉学会幹事長，日本思春期学会常務理事（教育），九州思春期研究会理事，福岡県不登校児童生徒支援会議委員，第 2 次田川市子どもの貧困対策推進計画策定検討委員会委員長，嘉麻市教育委員会点検評価委員，赤村子ども・子育て会議会長，特定非営利活動法人ひこうせん理事長，田川市立鎮西小学校学校評議員・学校関係者評価委員，福智町立赤池中学校区学校運営協議会委員 他

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立大学不登校児童生徒社会的自立支援事業社会的自立包括支援コーディネーター研修 講師
- ・ 福岡県立大学不登校児童生徒社会的自立支援事業不登校情報分析コーディネーター研修 講師
- ・ NPO 法人 3keys Child Issue Seminar 講演会「不登校 その時に子どもたちは何を思ったのか～追跡調査から見えたもの～」 講師
- ・ NPO 法人スカイラボサポートセンター講演会「生活困窮と子どもと家庭」 講師
- ・ 田川市ファミリーサポートセンター会員養成講習会「子どもの発達」 講師
- ・ 田川市社会福祉協議会ふくし入門教室「ボランティア活動で広がるあなたの未来」 講師
- ・ 教育委員会及び学校での不登校支援の研修会（複数）
- ・ 小学校での児童対象の薬物乱用防止教室（複数） 他

9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所運営部会〈社会貢献・ボランティア支援センター長〉

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	三浦 由紀子
-----------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院の小児科病棟勤務を経て大学院に進学し、修了後は、高度急性期病院や民間病院で看護管理者等の臨床経験を積みました（2009年小児看護専門看護師認定、2020年認定看護管理者認定）。令和2年度より教育現場に携わり、令和5年度本学に着任し、主に「医療安全」「看護管理学」の科目を担当しています。

研究については、現在、チームメンバーの一人ひとりが恐怖や不安を感じることなく、安心して発言や行動ができる状態である「心理的安全性」を高める看護管理者の関わりについて探究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 中野 綾美（編著）、石浦 光世、佐東 美緒、萩原 綾子、染谷 奈々子、濱田 米紀、有田 直子、幸松 美智子、高谷 恭子、加藤 依子、三浦 由紀子：『ナーシング・グラフィカ小児看護学(2)小児看護技術』、第10章コラム p.264、メディカ出版、大阪（2023）

②その他最近の業績

<学会発表>

- 中村 由美子、岩崎 順子、嶋岡 暢希、高谷 恭子、田村 恵美、源田 美香、三浦 由紀子、有田直子、佐東 美緒、田之頭 恵里、池添 志乃、畦地 博子、森下 安子、野嶋 佐由美、中野 綾美、共分散構造分析を用いた看護師の心理的 well-being の構造、第43回日本科学学会学術集会、2023
- 有田直子、高谷恭子、田村恵美、田之頭恵里、佐東美緒、池添志乃、源田美香、中村由美子、三浦由紀子、嶋岡暢希、岩崎順子、鎌田 晃子、笹山 睦美、益守 かづき、中野 綾美：重度な障がいをもつ子どもと家族へのエンド オブ ライフケアにおける小児看護専門看護師の実践、日本小児看護学会第32回学術集会、2022
- 佐東美緒、高谷恭子、田之頭恵里、有田直子、池添志乃、中村由美子、鎌田 晃子、笹山 睦美、田村恵美、山崎 麗子、三浦由紀子、中野綾美、NICUに入院した子どもとその親が最善の生を生きることを支える看護援助、日本小児看護学会第30回学術集会（神戸）、2021
- 三浦 由紀子、池添 志乃、田之頭 恵里、高谷 恭子、森下 安子、田村 恵美、笹山 睦美、岩崎 順子、松岡 義典、中野 綾美、命に向き合う子どもと親のエンド オブ ライフを支える訪問看護師の看護援助（第1報）－在宅療養移行期－、第28回日本家族看護学会学術集会、2021
- 田之頭 恵里、池添 志乃、三浦 由紀子、高谷 恭子、中村 由美子、佐東 美緒、有田直子、源田美香、嶋岡 暢希、中野 綾美、命に向き合う子どもと親のエンド オブ ライフを支える訪問看護師の看護援助（第2報）在宅生活に焦点をあてて、第28回日本家族看護学会学術集会、2021

- ・ 中村 由美子、嶋岡 暢希、岩崎 順子、田村 恵美、高谷 恭子、佐東 美緒、有田 直子、田之頭 恵里、畦地 博子、池添 志乃、源田 美香、三浦 由紀子、森下 安子、益守 かづき、中野 綾美：こども専門病院における小児のエンド オブ ライフ への看護支援—看護師のコミュニケーションに焦点をあてて—第41回日本看護科学学会学術集会，2021
- ・ 岩崎順子,中村由美子,嶋岡暢希,高谷恭子,田村恵美,田之頭恵里,佐東美緒,有田直子,源田美香,三浦由紀子,畦地博子,池添志乃,森下安子,中野綾美：子ども専門病院における小児のエンド オブ ライフへの看護支援 —看護支援の相談・助言に焦点をあてて—,第41回日本看護科学学会学術集会,2021

③過去の主要業績

- ・ 高谷恭子、中野綾美、星川理恵、益守かづき、佐東美緒、有田直子、田村恵美、清水称喜、関根光枝、三浦由紀子、首藤ひとみ、池添志乃、野嶋佐由美、「子どもの看取りの選択肢として臓器提供に直面する家族を支えるケアガイドラインの開発」、高知女子大学看護学会誌 VOL.40、NO.2、pp92～104、2015
- ・ 三浦由紀子、中野綾美：「幼児期にある気管支喘息の子どもをもつ親が用いる症状マネジメントの方略」、高知女子大学看護学会誌、 Vol33,NO.1,pp64～73,2008
- ・ 三浦由紀子、中野綾美：「幼児期にある気管支喘息の子どもを持つ親の「子どもの症状」の体験、高知女子大学看護学会誌」,Vol34,NO.1,pp109～116,2009

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本家族看護学会、高知女子大学看護学会、日本専門看護師協議会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、医療安全・1単位・2年・前期、看護管理論・1単位・4年・後期、卒業研究・2単位・通年、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1～4年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、専門看護ゼミ・2単位・3～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護管理学・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

日本専門看護師協議会 会則委員

8. 学外講義・講演

- ・西宮市医師会看護専門学校 「子どもの生活と看護」
- ・高知県看護協会 継続教育 「事例をとおして学ぶ看護倫理」
- ・福岡県立三池高校 「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山田 美幸
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院にて脳神経外科・眼科、皮膚科、血液・消化器内科に勤務した後、大学の教員になりました。その間、看護学修士を修得し、熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程を単位取得後退学しました。教員としてはこれまで「基礎看護学」を担当して来ましたが、令和5年度福岡県立大学に着任し、主として「看護の統合と実践」の科目を担当しています。これまで得た経験を3・4年生の教育にどのように繋いで深化させていくか、常に問いながら教育をしていきたいと考えています。

研究については、これまでに「特別養護老人ホームのターミナルケア」「子どもの入院に付き添い家族」「新卒看護師の離職防止に向けた支援」「独居高齢者の介護予防」「看護学生のリフレクション」「児童虐待防止の支援策」に関する研究に取り組んできました。現在は「介護施設における心理的安全性」に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 小湊博美, 脇園幸恵, 山田美幸, 山下里奈, 有松操 (2021): 学内実習「発達援助実践」の教育効果に関する考察, 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, 25巻, p47-60.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 前原宏美, 山田美幸 (2022): 精神科看護師の行動制限における倫理的問題に関する文献的検討, 第17回医療の質・安全学会学術集会 (神戸: オンデマンド)

③過去の主要業績

- 山田美幸, 津田紀子, 前田ひとみ (2015): 看護学生が臨地実習におけるケアリング体験の意味を構築する過程, 日本看護教育学会誌, 第22巻第3号, p.1~12.
- 岩本テルヨ, 山田美幸, 加瀬田暢子 (2009): 特別養護老人ホーム在所者の最後の場の決定に関わる現状と課題—全国調査を通して—, 山口県立大学学術情報, 第2号, p8~14.
- 山田美幸, 前田ひとみ, 津田紀子, 串間秀子 (2008) 新卒看護師の離職防止に向けた支援の検討—就職3か月の悩みと6か月の困ったことの分析—, 南九州看護研究誌, 第6巻1号, p47~54.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和2年~5年, 交付金額 4,160千円, 研究課題: 発達障害の補償要因の強化を図るための児童虐待防止の支援策の策定 (研究分担者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年，看護倫理学・1単位・2年・前期，看護研究（新カリキュラム）・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，看護実践論・1単位・3年・前期，看護研究・2単位・3年・前期，統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

出前講義 福岡県立朝倉高等学校「看護におけるコミュニケーションで磨きをかける！」

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田 静
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了、修士（看護学）。2021年3月、国際医療福祉大学大学院博士課程修了、博士（助産学）。

現在、子どもの喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子どもの喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者へ望む支援. 日本助産学会誌, 36 (2), 212-242.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを亡くした父親の体験. インターナショナル Nursing Care Research, 21 (2), 41-50.
- ・ 吉田静. (2021). 子どもを喪失した父親が看護者に求めるケアに関する研究. 国際医療福祉大学大学院博士論文, A4版, 全134頁.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 分娩取扱を中止した施設の推移とその背景. 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・ 香野友美花, 吉田静. (2022). 二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母子愛着の視点から - (第1報). 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・ 香野友美花, 吉田静. (2022). 二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母親が医療者に求める支援 - (第2報). 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者に求めるケア. 第36回日本助産学会学術集会, 大阪 (オンライン).

③ 過去の主要業績

<教材開発>

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践. 2012年.

- ・ 吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・ 吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

3. 外部研究資金

吉田静. 文部科学省研究費補助金 基盤研究 C. 臨床との協働による子どもを喪失した父親へのグリーフ支援プログラム開発に関する研究. 351万円. 令和2年～令和5年.

鳥越郁代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子. 文部科学省研究費補助金 基盤研究 C. 教育と臨床の協働による帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラム開発. 286万円. 平成31年～令和5年.

4. 受賞

第18回日本助産学会賞 学術賞 受賞, 令和5年10月9日, 吉田静.

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本死の臨床研究会, 日本ウーマンズヘルス学会, 日本看護歴史学会

6. 担当授業科目

<学部>

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2単位・1年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産実践学Ⅲ(産褥期)・2単位・1年・前期, ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期, ホリスティック助産学演習・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, 助産学課題研究・4単位・1～2年・通年, 助産学実習Ⅰ(助産所実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(継続ケア実習)・3単位・2年・通年, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(健康教育実習)・2単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 中医学講座 助産に活かせる中国医学の智慧 (2023.4-2023.8)
- ・ 不妊症・不育症等ピアサポーター養成事業 (2023.12.23)

- ・国際助産師の日講演会（2023.6.25）
- ・産後ケア研修会（2024.2.18）
- ・福岡市委託事業「働くママとパパのマタニティスクール」（2023.5-2024.3）

8. 学外講義・講演

- ・大丸エルガーラ入試説明会（2023.4.18）
- ・福岡県立須恵高等学校（2023.5.10）
- ・福岡県立北九州高等学校（2023.5.24）
- ・大分県立竹田高等学校（2023.6.20）
- ・福岡県立香椎高等学校（2023.6.10）
- ・福岡市西部地域交流センターさいとぴあ入試説明会（2023.6.16）
- ・福岡県立糸島高等学校（2023.6.21）
- ・広島県立三原高等学校（2023.7.20）
- ・福岡国際センター入試説明会（2023.7.24）
- ・福岡県立博多青松高等学校（2023.11.11）
- ・東筑紫学園高等学校（2024.3.7）
- ・福岡県庁、令和5年度ハイリスク妊産婦支援事業研修会、子供の喪失経験を持つ方へのグリーフケア（2023.10.28）
- ・福岡県宗像保健福祉事務所、令和5年度ハイリスク妊産婦支援事業研修会、子供の喪失経験を持つ方へのグリーフケア（2023.11.16）

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護コース	職名	講師	氏名	於久 比呂美
------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 於久比呂美：患者との良好な関係性を確立している看護師の特色に関する文献検討、第 41 回日本看護科学学会学術集会、2021 年 12 月.
- ・ 於久比呂美、江崎千尋：臨床看護師の自己教育力における内的因子の関連、第 42 回日本看護科学学会学術集会、2022 年 12 月.

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小野 順子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。福岡市で保健師として勤務し、公衆衛生看護活動（保健師）に従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010年に福岡県立大学看護学部に着任。公衆衛生看護学分野で、地域診断、介護予防、在宅医療の推進、保健師教育に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 吉田麻美, 大塚文, 岩崎玲奈「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 21 巻, pp.1-8, 福岡県立大学, 2024 年 3 月.
- ・ 山下 清香, 中谷 久恵, 尾形 由起子, 小野 順子, 中山 貴美子, 山口 のり子「地域保健活動への住民参加を促進する行政保健師の技術」, 地域看護学会誌 26 巻 1 号, 2023.
- ・ 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子「A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19 巻, pp.41-47, 福岡県立大学, 2023 年 3 月.
- ・ 小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 櫛直美, 田中美樹, 吉川美桜, 吉田麻美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022
- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022
- ・ 吉川未桜, 吉田麻美, 平塚淳子, 中村美穂子, 大場美緒, 小野順子, 猪狩崇, 山下清香, 田中美樹, 櫛直美, 尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022
- ・ 尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 櫛直美, 眞崎直子, 多職種による終末期までの療養に対する意思決定支援内容の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 18 巻, 2021
- ・ 檜橋明子, 中村美穂子, 小野順子, 山下清香, 手島聖子, 尾形由起子, 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果 - 学生の自己評価に着目して - 福岡県立大学看護学研究紀要, 18 巻, 2021

②その他最近の業績

<学会発表>

Junko Ono, Yukiko Ogata, Naomi Ichiki, Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.

③過去の主要業績

- ・ 尾形由紀子,山下清香,櫛直美,江上千代美,岡田麻里,小野順子,香月眞美,迫山博美,高原洋城,中村美穂子,檜橋明子,山口のり子,地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習,2019年9月,クオリティケア,p37-53,62-68,77-84,85-93

3. 外部研究資金

- ・ 科研費, 基盤研究 (C), 研究代表者, 地理情報システムを活用した地域診断に基づく PDCA サイクルの実践に関する研究, 3,770 千円, 2022 - 2025 年度
- ・ 科研費,基盤研究 (C), 研究分担者, 退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発, 2,340 千円, 2023 - 2025 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 看護研究学会

6. 担当授業科目

【学部】

公衆衛生看護学 I (2 単位,2 年前期), 専門看護学ゼミ (2 単位,3 年通年), 公衆衛生看護学アシスト論 I (1 単位,3 年後期), 卒業研究 (2 単位,4 年通年), 統合実習 (2 単位,4 年通年), 公衆衛生看護学アシスト論 II (2 単位,4 年前期) 公衆衛生看護技術論 I (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学 II (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護技術論 II (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学実習 I (1 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学 III (1 単位,4 年後期), 組織協働活動論 (2 単位,4 年後期), 公衆衛生看護管理論 (2 単位,4 年後期), 公衆衛生看護学実習 II (4 単位,4 年後期)

【大学院】 地域看護学特論 (2 単位,1 年前期)、地域看護学演習 (2 単位,1 年後期)

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県田川保健所感染症の審査に関する協議会委員 (2017 年 4 月～現在)
- ・ 田川市男女共同参画審議会委員 (2019 年 4 月～現在)

8. 学外講義・講演

- ・ 麻生看護大学校, 暮らしの中の保健活動,母子保健 1 コマ

9. 附属研究所の活動等

- ・ R5 年度附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けた GIS を活用した地域診断 - 精神障害者の在宅療養実現を目指して -」研究メンバー
- ・ R5 年度附属研究所データサイエンス研究生「活習慣病の重症化による CKD(慢性腎臓病)重症化の地域格差とリスクの検討」研究メンバー

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	梶原 由紀子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

これまで看護師として、重心障害児（者）病棟、消化器内科・小児科、大学保健室で勤務し、高等学校で養護助教諭を経験してきました。子どもたちが心身共に健康で安全に学校生活を送ることができ、発達段階に応じた自己管理能力を身に付けるための支援として、また、現場の養護教諭先生方を支援するために研究に取り組む所存です。

【養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発】

養護教諭の危機管理力の研修開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつとも医療施設ではなく地域で暮らす子供が増えているとともに、地域の学校に通学する子供たちも増加しています。また、学校においては、子供たちの安全安心のために緊急時には専門的な対応が求められ、保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。さらに、感染症対策等の学校保健に関する組織活動の推進を考える上では、養護教諭と教職員との情報共有が必須となる一方で、内部組織だけでなく外部組織や保護者との連携も欠かせず、養護教諭がコーディネートを担うこともあり協働する力が不可欠であると考えています。このような点を踏まえ、現在、養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発に関する研究を行っています。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を実施しました。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<著書>

- ・ 松浦賢長、原田直樹、榊原秀也、渡辺多恵子、梶原由紀子（他 62名）（2021）；思春期学 基本用語集、学校保健に関する用語【医療的ケア、学校環境衛生、学校保健、学校保健安全法、健康観察、健康診断、健康相談、保健室、保健指導】について担当、講談社。
- ・ 衛藤隆、松浦賢長、近藤洋子、原田直樹、梶原由紀子他（26名）（2020）；1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子供の保健 小児保健に携わるすべての人に食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息 解説 p53, コラム p41, p54, p56, ジアース教育新社。
- ・ 永光信一郎、坂下和美、作田亮一、松浦賢長、原田直樹、梶原由紀子（他 9名）（2020）；ティーンズ検診 思春期のこどもへの健康指導マニュアル、リスク因子 33p 33, 久留米大学。

<論文>

- ・ 梶原由紀子、原田直樹、田原千晶、松浦賢長（2022）. 養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第 19 巻 57-68.

- ・ 原田直樹、梶原由紀子、田原千晶、増満誠、松浦賢長（2022）.元不登校児童生徒その保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻1-12.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 梶原由紀子（2019）.科研（若手 B）「インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発」研究成果報告書，1-67.
- ・ 松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者(2017)；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策 I 93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク.
- ・ 松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者(2015)；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策 I 93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク.

3. 外部研究資金

（科研基盤研究 C：22K10962）2022 年度～2024 年度 養護教諭の協働力を促進するための研修プログラム開発 1,560 千円

4. 受賞

5. 所属学会

日本思春期学会（理事）、日本保健福祉学会（幹事）、日本学校保健学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本LD学会、日本学校救急看護学会、日本災害看護学会、日本健康運動学会、九州学校保健学会、九州思春期研究会（理事）

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期，教育と社会・地域・1 単位・1 年・前期，子ども学習支援論・1 単位・1 年・後期，公衆衛生学・2 単位・1 年・後期，保健統計学・2 単位・2 年・前期，暮らしと保健福祉・看護・2 単位・2 年・後期，養護概説・2 単位・2 年・後期，教育方法論・1 単位・看護 2 年・後期，健康科学・2 単位・2 年・後期，学校保健学・1 単位・3 年・前期，健康教育論，2 単位・3 年・前期，性教育学・2 単位・看護 3 年／人社 3 年・前期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期，養護実習・4 単位・4 年・前期，教職実践演習（養護教諭）・2 単位・4 年・後期，統合実習・2 単位・4 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・通年，

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会，理事
- ・九州思春期研究会，理事
- ・福岡県教育員会 筑豊地区教育相談ネットワーク会議，委員
- ・福岡県立西田川高等学校関係者評価委員・学校運営協議会委員
- ・英彦山体験プロジェクト実行委員会，委員
- ・子育て支援活動：久留米市・田川市・香春町
- ・学生防犯サークルオリオンズ（コーディネーター）

8. 学外講義・講演

- ・嘉麻市立山田中学校規範意識講演会講師 R5.10月
- ・不登児童生徒社会的自立支援事業 社会的自立支援コーディネーター研修講師 R6.2月
- ・不登児童生徒社会的自立支援事業 不登校情報分析コーディネーター研修講師 R6.2月

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第 1 に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第 2 に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 小出昭太郎・田村誠、「1991 年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第 36 巻第 1 号、1999 年。
- ・ 小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成 10 年度～平成 12 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001 年。
- ・ 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成 14 年度～平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006 年。

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、保健医療福祉の法と制度・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年・前期、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・2単位・留学生・前期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	塩田 昇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後、産業医科大学病院（集中治療室）で看護師を6年経験した後、専門学校、大学で18年間の勤務を経て平成29年に福岡県立大学に着任しました。

研究は、発達障がいのある子どもの親とその子どもの睡眠問題について質問紙、生体指標を用いて明らかにすることです。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 塩田昇, 江上千代美. 発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較, 福岡県立大学看護学研究紀要 21 巻, 27-34(2024).
- ・ 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 桑野瑞恵, 塩田昇, 山下裕史朗. ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践. 小児保健研究 80(3):303-306 (2021).

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 発達障がいのある子どもの親へのトリプルPによる支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第42日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響—POMS、唾液 cortisol—. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第42回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 母親の睡眠関連問題とその学童期の子どもの睡眠習慣の検討. 塩田昇, 江上千代美. 第47回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.
- ・ 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討—「薬害被害者」の講演をとおして—. 廣瀬理絵, 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第46回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.

② 過去の主要業績

- ・ Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci. vol166 no3, p265-73. 2016.
- ・ 塩田昇. セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文. 2016.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業（基金分）（若手 平成29年度～令和4年度 交付金額4,160千円）
研究課題, 継続的なトリプルP 介入による睡眠の質, 量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究（研究代表者：塩田昇）
- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 令和4年度～7年度）親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながるか（研究分担者：塩田昇）
- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 令和18年度～令和5年度）発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上-基本的生活習慣の習得を目指して-（研究分担者：塩田昇）

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本心身医学会会員, 日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年次・後期, 生態病態看護学実験・1単位・2年次・前期, 病態看護学Ⅱ・2単位・1年次・前期, 統合実習・2単位・4年次・通年, 看護倫理学・2単位・2年次・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 卒業研究・2単位・4年次・通年

7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・香春町

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学出前講義「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」, 福岡県立嘉穂高等学校；11月28日
- ・リカレント教育研修会：頭部の痛み（頭痛等）に対するフィジカルアセスメントの実践（卒業生対象リカレント教育研修）3月20日
- ・大丸エルガー入試説明会4月18日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	手島 聖子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。

教育においては、在宅および地域で生活する人々を意識した教育が求められています。1年次からの「地域・在宅看護論」関連する科目において、地域に暮らす人々の理解とそこで行われる看護について、学生とともに学びを深めていきたいと考えます。また、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働していくために、地域看護学の視点や方法論を取り入れ、地域の特性と健康課題をアセスメントする力を養うとともに、地域での活動の幅を広げていけるような学生の看護師教育に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について. (財)安田生命社会事業団 2001年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・ 手島聖子. 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・ 手島聖子. (2007). 乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討, 家庭教育研究所紀要,29,77-83.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本公衆衛生看護学会、日本子ども虐待防止学会、日本看護協会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、家族看護学・1単位・2年・前期、地域・在宅看護論・2単位・2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・前期、在宅看護学実習・2単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、在宅看護学実習・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立光陵高等学校（2023.4.27）
- ・福岡県立新宮高等学校（2023.10.20）

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野 靖博
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

生理学的指標などを用いて、看護技術がひとの体に及ぼす影響について明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響。日本人間工学学会看護人間工学部会誌 (8), 15-20. 2007.
- ・ 矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩。日本臨床社. 2007.

3. 外部研究資金

- ・ 研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）「カプサイシンジエルとサーキュレーターを用いた睡眠導入効果に関する実験検証」、2019～2023 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、看護人間工学会、日本看護学教育学会、日本健康医学学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、看護過程・1 単位・2 年・前期、フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	宮本 いずみ
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学を卒業後、大学病院で看護師として勤務し、大学で看護教育に携わっています。九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野修士課程を修了、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程を修了しました。現在、手術室看護師の看護実践能力と教育プログラムの開発と検証に関する研究、手術シミュレーションによる手術室看護師の看護教育に関する研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 宮本いずみ編 村上海織 (2024). 褥瘡リスクの高い手術患者にエビデンスに基づいた褥瘡予防のケアバンドルを用いた評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), p2, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 貝沼純 (2024). 手術部位感染 (SSI) を減らすための周術期担当者と感染予防担当者との関係の最適化, AORN Journal 日本語版, 1(3), p3-8, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 佐藤明日美 (2024). 周術期看護師の QSEN コンピテンシーに対する認識, AORN Journal 日本語版, 1(3), p9-15, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 村上海織 (2024). 製造業者の添付文書とス波尔ディング分類を用いた周術期における超音波プローブの消毒方法の評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), p16-22, Wiley.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2024). 【転載】すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! 白内障手術, メディカ出版, 眼科ケア, 26 (1), 74-78.
- ・ 宮本いずみ (2023). 手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築. 山口大学大学院, 博士論文.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2023). 手術室看護師が認識している看護実践能力を高める効果的な継続教育の探求: テキストマイニングを用いた自由回答文の解析から, 山口医学, 72 (1), 29-38.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ, 八田圭司, 池田知香 (2022). ベッド上で『JRC 蘇生ガイドライン 2015』推奨の背板と標準的な背板を用いた胸骨圧迫の質の比較, 日本臨床救急医学会誌, 25 (5), 789-796.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2022). 手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発, 日本クリティカルケア看護学会誌, 17, 80-88.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 橈骨遠位端骨折 (プレート固定), メディカ出版, OPE nursing, 37 (1), p72-77.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 大腿骨転子部骨折 (髓内釘), メディカ出版, OPE nursing, 37 (2), p56-60.

- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術), メディカ出版, OPE nursing, 37 (3), p52-58.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 基本的な器械・器具, メディカ出版, OPE nursing, 37 (4), p68-76.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 全身麻酔の薬剤, メディカ出版, OPE nursing, 37 (5), p66-72.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔時の薬剤と介助の方法, メディカ出版, OPE nursing, 37 (6), p46-52.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 消化器外科手術の器械器具 大腸(腹腔鏡下大腸切除術), メディカ出版, OPE nursing, 37 (7), p58-65.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 眼科手術の器械器具 白内障手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (8), p60-65.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 胸部外科手術の器械器具 胸腔鏡下肺切除術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (9), p56-61.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 耳鼻咽喉科手術の器械器具 内視鏡下鼻副鼻腔手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (10), p50-55.
- ・ 宮本いずみ, 丸岡聖路, 前田晃史 (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 心臓血管外科手術の器械器具 心臓弁の手術・冠動脈バイパス手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (11), p56-61.
- ・ 宮本いずみ, 丸岡聖路, 前田晃史 (2022). すぐ実践に活かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 脳神経外科手術の器械器具 開頭術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (12), p64-68.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 八田圭司, 前田晃史, 佐藤美奈, 宮本いずみ (2021). 高齢者のセルフネグレクトに関する文献検討 セルフネグレクト患者に対する救急看護師の示唆, 日本救急看護学会雑誌, 23, p24.

③過去の主要業績

- ・ 宮本いずみ 『まるごと やりなおしのフィジカルアセスメントー チャートとイラストで見てわかる』第4章 胸腔鏡, 腹腔鏡術後患者の看護におけるフィジカルアセスメント, メディカ出

版, 2015.

- ・ 宮本いずみ『関連図と検査で理解する疾患 病態 生理パーフェクトガイド』婦人科系疾患 子宮がん (子宮頸がん, 子宮体がん), 卵巣がん, 総合医学社, p278-280, p281-284, 2017.
- ・ 宮本いずみ『月刊ナーシング』特集 これをする根拠は何?と聞かれてもすぐに答えられる!先輩には聞けない看護技術・ケアのなぜ?に答えられるようになる!学研メディカル秀潤社, p55-57, p61-62, p69-70, 2018.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費補助金 (若手研究), 研究課題「MR (複合現実) を活用した手術シミュレーションによる手術看護教育の開発と検証」, 交付金額 4,030 千円, 2018~2025 年度 (研究代表者)

4. 受賞

- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美, 2023 年度日本クリティカルケア看護学会 奨励論文賞 「手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発」, 2023 年 5 月 27 日

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護教育学会, 日本手術看護学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本救急看護学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・前期, 基礎看護学実習 I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, 基礎看護学実習 II・2 単位・2 年・通年, フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・通年, 卒業研究・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

日本手術看護学会誌 査読委員

日本看護学会誌 査読委員

日本クリティカルケア看護学会 第 18 回学術集会運営スタッフ (2022 年 6 月 11 日, 12 日)

8. 学外講義・講演

2023 年 9 月 27 日 中間高校 高校訪問

2023 年 10 月 24 日 田川高校 高校訪問

2024 年 2 月 9 日, 2 月 16 日 社会保険田川病院 看護研究発表会 講評

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	村田 和子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後、総合病院、大学病院で看護師としてICU、CCU、心臓外科病棟で勤務しました。その後、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻を修了し、総合病院で院内教育、新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもっています。現在は成人老年看護学の教育に携わり、シミュレーション教育を取り入れながら演習を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 福田和美 (2024) : 成人看護学演習における OSCE の現状と課題, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 21 巻
- ・ 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香 (2022) : 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2022) : クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美 (2022) : 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻
- ・ 福田和美, 中尾久子, 村田和子 (2022) : 術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア, The Journal of Nursing Investigation, 第 20 巻, 第 1 号

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2021) : クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－, 日本看護研究学会 第 47 回学術集会, オンライン開催

③過去の主要業績

- ・ 小田正枝, 下舞紀美代, 安藤敬子, 中西順子, 村田和子, 古川秀敏, 古庄夏香他, 『大特集 看護計画まで見せます! 実習でよく挙げる看護診断ベスト 10』, プチナース, 第 18 巻, 第 13 号, 2009, 照林社

- ・ 宇井進, 中川晋, 樺山幸彦, 廣谷隆, 田畑稔, 安藤恵美子, 川淵いづみ, 相良恭子, 星まき子, 菊川智恵, 伊勢田礼子, 村田和子, 中島千夏代, 立石由紀子, 『心疾患テクニカルチェックー
クリニカルパスにみるナーシングケア』, 第I章(4)「大動脈弁膜症」, 第I章(8)「心不全」,
第I章(9)「感染性心内膜炎」, 第III章(3)「IABP」を担当, メディカ出版

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単
位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・
2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・
3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4
年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安河内 静子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務(助産師), 福岡市保健福祉センターで勤務(保健師)した後, 2004年4月より本学に着任, 現在に至る。国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻課程修了。女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスの開催, 育児サロンの開催, 小中学校での性教育など思春期保健から女性のライフサイクルを見据えた教育活動を行ってきた。研究分野は妊産婦の禁煙プログラムに関する研究, 乳児の皮膚と洗浄法に関する研究などに取り組んできた。現在は, 妊娠期から産後の母親のボンディング支援に関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 清水夏子, 石村美由紀, 道園亜希. 学内における女性看護学実習に関する実践報告～妊娠期から子育て期に渡る母子との関わり～. 福岡県立大学看護学部紀要 2024 ; 21, 35-42.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 鳥越郁代, 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 荒木智子. 帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラムの検討ーオンライン帝王切開準備クラスの評価からー. 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2023, 大阪.

③過去の主要業績

- ・ 古田祐子, 安河内静子. 簡易型 S 皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 2016 ; 15, 11-20.
- ・ 安河内静子.古田祐子,佐藤香代. (2015) 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14, 福岡県立大学, 53-62.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010) 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果ー体験録の分析からー. 福岡県立大学看護学部紀要 7 (2), 63-71.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本助産師会，日本母性衛生学会，日本助産学会，日本思春期学会

6. 担当授業科目

【看護学部】人間のライフステージと看護・1単位・1年・前期、女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習・1単位・3年・前期，女性看護学実習・2単位・3～4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年.

【看護学研究科】基礎助産学演習・2単位・1年・通年、ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期、コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期、コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期、助産実践学Ⅰ・2単位・1年・前期、助産実践学Ⅱ・4単位・1年・通年、助産実践学Ⅲ・2単位・前期，助産学実習Ⅰ・1年・前期・1単位、助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期、助産学実習Ⅲ・3単位・2年・通年、助産学実習Ⅳ・2単位・後期・助産学実習Ⅴ・1単位・2年・通年.

7. 社会貢献活動

福岡県田川保健所感染症診査協議会委員
福岡県助産師会理事（勤務助産師部会長）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安永 薫梨
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては「精神科看護師による患者の暴力防止に向けた支援に関する研究」について取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレムアーンダーウッズのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは何か、を探求し、患者が望む生活の実現に向け、教育、研究、実践に取り組んでいきたいと思っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 川野雅資,安永薫梨,他(2022). 精神科看護ポケットガイド.p16-19,東京：中央法規.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 安永薫梨, 宇佐美しおり (2023)精神科看護師の不安と心的安全空間生成との関連に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33回 p126.
- 松橋美奈, 宇佐美しおり, 石飛マリコ, 遠藤恵美, 森本早弥果, 安永薫梨, 山岡由実(2023) 高度実践看護を推進する科学的臨床事例研究.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33回,p65.
- 安永薫梨.(2022).精神科看護師の不安に関するセルフケアについての文献検討. PASセルフケアセラピー看護学会第5回大会抄録集,p20.
- 安永薫梨,宇佐美しおり.(2021).精神科看護師の安全空間生成に関する質問紙の信頼性と妥当性の検証. PASセルフケアセラピー看護学会第4回大会抄録集,p29.

③過去の主要業績

- 安永薫梨.(2015).「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.
- 安永薫梨.(2011).精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み.日本精神保健看護学会誌.20(2),21-27.
- 安永薫梨.(2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

PASセルフケアセラピィ看護学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会

*PASセルフケアセラピィ看護学会事務局員

*PASセルフケアセラピィ看護学会第4,5,6回大会事務局員

*PASセルフケアセラピィ看護学会第4,5,6回大会企画委員

6. 担当授業科目

<学部>

医療安全・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期、精神看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院：精神看護専門看護師コース>

精神看護学特論・2単位・前期、精神看護学演習・2単位・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉川 未桜
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児看護学教育方法、看護と保育の協働・連携、医療や健康・保健に関する絵本制作、看護職による子育て支援、小児訪問看護に関する研究などに取り組んでいる。小児看護学教育方法に関する研究では、学生が子どもを知り、根拠ある適切な小児と家族への看護実践能力を身につける教育の探求を行っている。また、地域の幼稚園・保育園における健康教育や、保育と看護の協働に関する研究などを通してプリパレーションツール開発に取り組むなど、地域社会のあらゆる健康段階の子どもと家族が、より健康で健やかに成長発達できる看護支援の充実を目指している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 松尾ひとみ（編著）小神野雅子，田中美樹，濱田裕子，平田美佳，藤田紋佳，本田真也，吉川未桜（著），子どもの生活機能の発達とからだの仕組み－看護形態機能学の視点から，2024年4月11日初版，金芳堂。
- ・ 石原実結，太田歩花，堀田彩（制作），杉野寿子，田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，池田孝博，中原雄一（変集），がんばれ！てんてきマン，令和5年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金重点領域研究，子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究（絵本プロジェクト），2024年3月31日初版，福岡県立大学附属研究所。
- ・ 久保遙，佐藤未唯，白瀧姫翠（制作），杉野寿子，田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，池田孝博，中原雄一（編集），MRI ってなあに？，令和5年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金重点領域研究，子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究（絵本プロジェクト），2024年3月31日初版，福岡県立大学附属研究所。
- ・ 吉川未桜，田中美樹，吉田麻美，中原雄一，杉野寿子，池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－，福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月。
- ・ 田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，中原雄一，杉野寿子，池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－，福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月。
- ・ 田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，杉野寿子，中原雄一，池田孝博，新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感，福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号，2023年3月。
- ・ 平塚淳子，猪狩崇，中村美穂子，小野順子，吉川未桜，吉田麻美，田中美樹，山下清香，櫛直美，尾形由起子，A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題，福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月。
- ・ 杉野寿子，吉川未桜，田中美樹，吉田麻美，池田孝博，中原雄一，入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題，福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻1号，2022年10月。

- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫛直美、尾形由起子、新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応、福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻、2022 年 3 月。
- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、櫛直美、吉田麻美、小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み、福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻、2022 年 3 月。
- ・ 櫛直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香、在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察、福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻、2022 年 3 月。
- ・ 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、櫛直美、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、尾形由起子、A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題－災害時の在宅療養継続に向けて－、福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻、2022 年 3 月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して－保育園年長クラスの子どもの演習参加の試み－、第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会、鹿児島、2023 年 8 月。
- ・ 吉田麻美、山下清香、小野順子、吉川未桜、田中美樹、岡田麻里、尾形由起子、歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適切していくプロセスの検討、日本看護研究学会第 48 回学術集会（オンライン）ポスター発表、2022 年 8 月。

③過去の主要業績

- ・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果、福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号、2016 年 3 月。
- ・ 青野広子、吉川未桜、田中美樹、江上千代美、宮城由美子、小児看護技術支援における看護学部 4 年生の看護技術動作の傾向と感想の検討、福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号、2016 年 3 月。
- ・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み、福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号、2015 年 3 月。

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本看護研究学会、日本小児保健協議会、日本保育園保健学会、日本子ども健康科学学会、九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目

小児看護学・2単位・2年・後期. 小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期. 小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期. 小児看護学実習・2単位・3年前期～4年後期. 統合実習・2単位・4年・通年. 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年. 卒業研究・2単位・4年・通年. 小児看護学特論・2単位・M1～2年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

令和5(2023)年度ファミリーサポートセンター会員養成講習会「小児看護の基礎知識」2023年11月27日. 田川市.

9. 附属研究所の活動等

令和5年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金 重点領域研究「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」研究分担者

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	猪狩 崇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 28 年度に着任いたしました。現在は主に在宅看護学領域教育を担当しています。主な研究分野は理論看護学、地域・在宅看護学、補完代替看護学（統合医療と看護）で、地域包括ケア分野、精神看護分野での実践経験の視点も研究・教育に活用しています。看護学概論に関連しての看護史（特にドイツ近代における）研究にも取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 猪狩崇：「もう一人の父」フリートナー牧師と F.ナイチンゲール –‘A new art and science’の背後にひそむ F.N.の認識とは–；ナイチンゲール研究 第 13 号、2024 年 3 月末刊行予定
- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫛直美、尾形由起子：
A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題；福岡県立大学看護学部紀要第 20 号、2023 年 3 月。
- 吉川 未桜、吉田 麻美、平塚 淳子、中村 美穂子、大場 美緒、小野 順子、猪狩 崇、山下 清香、田中 美樹、櫛 直美、尾形 由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応；福岡県立大学看護学部紀要 19 号、2022 2 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- Takashi IGARI, Makoto MASUMITSU, Junko HIRATSUKA, Shinobu MAKIUCHI, Toyohiko KODAMA, Satoko CHO, Yoko ISHIBASHI, Naoki HARADA, Tsuyako HIDAKA, Kencho MATSUURA : Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period Leading up to ‘the Fifth Wave’ of COVID-19 in Japan ; JANS43th. , Dec.8, 2023.
- 猪狩 崇： F.ナイチンゲールの ‘もう一人の父’ T.フリートナー牧師が果たした役割；ナイチンゲール研究会第 45 回研究懇談会、2023 年 10 月。
- Junko Hiratsuka, Takashi Igari, Chie Namitomi : A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes ; The 16th EAFONS 2023. EFONS, Tokyo, March10-11.2023.

③過去の主要業績

- 猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形由起子：地域包括支援ケアシステム構築へ向けて人的ネットワーク形成・運営に関する一考察；福岡県立大学看護学部紀要 16 号、161-128, 2019.3.31（H30 年度研究）。

- ・ 猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由起子：地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察；福岡県立大学看護学部紀要 15 号, 83-90, 2018 .3.31 (H29 年度研究) .
- ・ 猪狩 崇：対応困難な事例にしないための対象理解の構造 (博士学位論文)；看護科学研究第 8 巻, p.25-40, 看護科学研究学会. 2013.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長 研究分担者 猪狩 崇：科研費 基盤研究 B (一般) エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージの開発；16380,000 円、令和 4 年度ー令和 7 年度

4. 受賞

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、日本看護科学学会、宮崎県立看護大学看護学研究会

6. 担当授業科目

地域・在宅看護論 2 単位 2 年、在宅看護学演習 I,II 1 単位 3 年、在宅看護学実習 2 単位 3 年、暮らしを知る実習 1 単位 1 年、暮らしの中の看護を知る実習 1 単位 2 年、専門看護学ゼミ 2 単位 3 年、卒業研究ゼミ 2 単位 4 年

7. 社会貢献活動

添田町地域包括支援センター運営協議会会長

添田町福祉施設指定管理者選定委員

添田町社会福祉協議会 (生活支援体制整備事業) 添田町協議体アドバイザー

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	植田 愛
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学看護学部を卒業後、総合病院の精神科で看護師として勤務しました。その後、福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を終了し大学教員として6年間勤務し、2023年4月より福岡県立大学に着任しました。主な研究は、精神疾患を患う方が自分らしく生きていけるようにストレスに着目した効果的な関わり方の探求や被害妄想をもつ方の症状軽減に関する研究を行っています。今後は、精神疾患の発症の予防にも着目していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 安藤愛, 後藤有紀, 前田由紀子: 精神科における長期入院患者のストレスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究. 西南女学院大学紀要, 26, 15-23, 2022
- ・ 中本亮, 安藤愛, 宮崎初, 坂部滯: 被害妄想に対する介入に関する文献レビュー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 35-43, 2022
- ・ 井手裕子, 坂部滯, 坂本未穂, 水原美地, 橋本真弥, 石井奈央, 安藤愛: 新型コロナウイルス感染症流行下の看護学各論代替実習における看護学生の学びに関する文献研究. 西南女学院大学紀要, 27, 105-117, 2023

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 光永憲香, 松枝美智子, 植田愛, 脇崎裕子, 児玉ゆう子, 池田智, 高野歩, 安保寛明: COVID-19 大規模災害下の国外の看護職者の Moral Injury. 第43回日本看護科学学会学術集会(山口). 2023年12月
- ・ 増満誠, 植田愛, 中本亮, 上田智之: 精神看護高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の活用技法. 第43回日本看護科学学会学術集会(山口). 2023年12月

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業, 基盤研究(B), エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発, 令和4-7年度, 分担研究者(研究代表者: 松浦賢長)
- ・ 科学研究費助成事業, 基盤研究(C), 高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討, 令和3~5年度, 分担研究者(研究代表者: 増満誠)
- ・ 科学研究費助成事業, 基盤研究(C), 日本版 Moral Injury 尺度の作成と信頼性・妥当性の検証, 令和4~8年度, 分担研究者(研究代表者: 松枝美智子)

4. 受賞

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、PASセルフケアセラピィ看護学会、国際ケアリング学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、精神看護学・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年後期～4年前期

7. 社会貢献活動

フードバンク活動、子ども食堂におけるボランティア活動

8. 学外講義・講演

授業参観（高校生への授業公開）：精神看護学「精神保健医療福祉の変遷と看護」

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	鹿嶋 聡子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学卒業後、看護師として外科病棟、内科病棟等で6年間勤務し、その後看護系大学にて約10年間助手、助教として成人看護学の教育に従事しました。福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了後（看護学修士）、2022年4月より本学へ着任し、現在は主に基礎看護学の科目を担当しています。主な研究内容として、看護系大学生のレジリエンスの検討、フィジカルアセスメント教育などを行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 鹿嶋聡子, 永嶋由理子. 看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討, 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月.

③過去の主要業績

- ・ 清村紀子, 梶原江美, 鹿嶋聡子. 看護形態機能学の知識習得に関連したバリアとニードの構造, 西南女学院大学紀要, vol.12, 37-46, 2008.
- ・ 石井美紀代, 鹿嶋聡子, 布花原明子他. 初年度教育における問題解決型学習の効果, 西南女学院大学紀要, vol.16, 25-34, 2012.
- ・ 清村紀子, 鹿嶋聡子, 時吉佐和子他. A地域における中学生へのCPR教育に関する質的評価, 日本臨床救急医学会雑誌, vol.16, No.5, 632-642, 2012.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会
日本健康医学会

6. 担当授業科目

基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、教養演習・1単位・1年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清原 智佳子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

慢性期・老年期における心と身体の状態は個人の生きて来た人生に大きく影響します。病気との向き合い方、心の在りようによって幾つになっても人は自分に合った健康を見つけ出し努力していく力を持っています。看護師はそのきっかけに関わる大切な仕事です。患者さんの体と心の支えとなる看護師になってください。一緒に学んでいきましょう。主な研究は慢性疾患患者さんの QOL に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 清原智佳子 運動・活動を意識している C 型慢性肝炎患者の生活行動の実態
日本慢性看護学会第 15 回学術集会 2021 年 8 月

③過去の主要業績

- ・ C 型慢性肝炎患者の疲労感、QOL と身体活動量に関する研究日本看護研究学会雑誌 2014 年 37 巻 2 号
- ・ 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステッピングストーンズトリプル P 受講前後のパイロット・スタディ 福岡県立大学看護学研究紀要 第 15 巻 2018
韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発 福岡県立大学看護学研究紀要 第 16 巻 2019

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会
日本看護慢性学会

6. 担当授業科目

老年看護学
老年看護学概論
老年看護学演習 I
老年看護学演習 II

老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ
専門ゼミ 3年
専門ゼミ 4年

7. 社会貢献活動

筑豊大学アドバイザー

中間市在留外国人支援活動（ベトナム語翻訳）中間市動物愛護協会不妊治療協力者

8. 学外講義・講演

筑豊大学講義

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	笹山 万紗代
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て2017年より本学に着任し、成人老年看護学に携わっています。演習ではシミュレーション教育を取り入れ、学生が患者をイメージできるように関わり、看護技術の習得・アセスメント能力の向上を目指しています。

手術室における新人看護師教育について研究しており、新人看護師の離職予防・早期の職場定着に向けた看護基礎教育や新人看護師教育について研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美: クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香: 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美: 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022

② その他最近の業績

<学会発表>

- 笹山万紗代, 石田智恵美: 手術室における新人看護師教育の課題について～新人看護師・教育担当看護師双方の視点から～, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島市
- 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美: クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 日本看護研究学会第47回学術集会, Web開催, 2021

③ 過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本手術看護学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2 単位・2 年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、成人急性看護学実習・3 単位・3 年後期～4 年前期、成人慢性看護学実習・3 単位・3 年後期～4 年前期、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年な

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

教養演習・1 単位・1 年・前期、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2 単位・2 年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、成人急性看護学実習・3 単位・3 年後期～4 年前期、成人慢性看護学実習・3 単位・3 年後期～4 年前期、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年な

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清水 夏子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。近年は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を経て、2023年度からは、東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査を実施しており、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を継続して実践している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉田静,安河内静子,佐藤繭子,清水夏子,石村美由紀,道園亜希：学内における女性看護学実習に関する実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要．21．2024.3

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 清水夏子．(2023)．看護基礎教育における東洋(漢方)医学教育の必要性-看護大学生に対するアンケート調査結果より-．シンポジウム「漢方でさらに深める看護の魅力～教育から実践まで～」．第73回日本東洋医学会学術総会．福岡．

③過去の主要業績

- ・ 安酸史子編集．清水夏子，他．経験型実習教育．pp240-252．東京．医学書院．2015．
- ・ 清水夏子，松山美幸，塩田昇，江上千代美：統合実習における学生が嬉しかったと感じた実習指導者の言動 - 経験型実習教育の研修を受けた実習指導者のかかわりを通して - ．福岡県立大学看護学研究紀要．16（1）．2019．
- ・ 清水夏子．(2018)．漢方教育導入から9年 - 福岡県立大学における東洋医学概論のあゆみ - ．共催セミナー(招聘講演)．第28回日本看護学教育学会学術集会．神奈川．

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

- ①【研究種別・研究期間・交付金額】 若手研究（B），平成29年～平成32年度，令和5年度まで延長2,730千円

【研究課題】 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討

- ②【研究種別・研究期間・交付金額】 基盤研究（C）一般，令和5年～令和9年度，3,300千円

【研究課題】 東洋(漢方)医学に関する基礎看護教育の実態調査と現役看護師に対する教育効果の検討

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本東洋医学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年,
女性看護学実習・2単位・3年・通年,
専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年,
卒業研究・2単位・4年・通年,
東洋医学概論・1単位・2年・前期,
ケアリング論・2単位・3年・前期,
女性看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期,
リプロダクティブヘルス看護学・2単位・2年・後期,
女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期,

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中村 美穂子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、がんを患い、がんによる症状および治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす方、そして残された時間や最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者家族の想いに触れてきた。しかし現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者家族の願いを叶えるためには、病院から在宅への移行支援及び地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。がん、非がんに関わらず、院内外の看護職及び多職種による退院支援や意思決定支援における職種間の連携の促進をテーマに、地域包括ケアシステムの視点もあわせ探究していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜, 吉田麻美, 平塚淳子, 中村美穂子, 大場美緒, 小野順子, 猪狩崇, 山下清香, 田中美樹, 櫛直美, 尾形由起子. 「新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19 巻, 2022 年 3 月.
- ・ 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子. 「A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19 巻, 福岡県立大学, 2022 年 3 月.
- ・ 小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 櫛直美, 田中美樹, 吉川未桜, 吉田麻美, 尾形由起子. 「A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題 災害時の在宅療養継続に向けて」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19 巻, 福岡県立大学, 2022 年 3 月.
- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香. 「在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19 巻, 福岡県立大学, 2022 年 3 月.
- ・ 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 吉田麻美, 大塚文, 岩崎玲奈. 「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 21 巻, 福岡県立大学, 2024 年 3 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 尾形由起子. 「がん患者の退院支援における退院調整看護師の病棟看護師との連携に関する研究 退院調整看護師の認識による連携の促進因子」. 第 48 回日本看護研究学会学術集会, 愛媛, 2022 年 8 月.

- 金崎美穂, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 中村美穂子. 「終末期がん患者の在宅移行期での退院前カンファレンスにおける退院調整看護師と訪問看護師の協働のあり方の検討」. 第48回日本看護研究学会学術集会, 愛媛, 2022年8月.

③過去の主要業績

〈著書〉

- 尾形由起子, 山下清香編, 山下清香, 中村美穂子. 「第5章 演習から実習の展開」, 『地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習』, クオリティケア, 2019年.

〈論文〉

- 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香. 「在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19巻, 2021年.

〈学会発表〉

- 中村美穂子, 尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 吉田恭子, 猪毛尾和美, 馬場順子. 「在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査－第一報－」. 第75回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017年.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ (2単位, 2年前期), 専門看護学ゼミ (2単位, 3年通年), 公衆衛生看護学アセスメント論Ⅰ (2単位, 3年通年), 卒業研究 (2単位, 4年通年), 公衆衛生看護学Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生アセスメント論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1単位, 4年前期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1単位, 4年後期), 公衆衛生看護管理論 (2単位, 4年後期), 組織協働活動論 (2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4単位, 4年後期)、統合実習 (2単位, 4年前期)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚 淳子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部に着任いたしました。主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、リスクマネジメントに関する研究、在宅看護についてです。在宅看護の研究では、地域で生活を送る高齢者の栄養に関する研究を行っています

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. (2023) 福岡県立大学看護学研究紀要.
- 櫛直美 尾形由紀子 小野順子 中村美穂子 大場美緒 吉田麻美 猪狩崇 平塚淳子 田中美樹 吉川美桜 山下清香. (2022) 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要.
- 吉川未桜・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・櫛直美・尾形由起子. (2022) 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要. 第 19 巻.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Takashi Igari, Makoto masumitsu, Junko Hiratsuka, Shinobu Makiuchi, Toyohiko Kodama, Satoko Cho, Yoko Ishibashi, Naoki Harada, Tsuyako Hidaka, Kencho Matsuura. Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period Leading up to the Fifth Wave of COVID-19 in Japan. (2023) .The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science.
- Junko Hiratsuka, Toyohiko Kodama, Satoko Cho, Tsuyako Hidaka, Yoko Ishibashi, Makoto masumitsu, Kencho Matsuura. Factors affecting the crisis faced by ward nurses during the COVID-19 pandemic: A review of studies outsides of Japan (2023) .The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science.
- Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes. (2023) .The16th EAFONS 2023.

③過去の主要業績

- ・ 平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019). 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 16 巻, p103-109.
- ・ 平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー (. 2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 15 巻, p91-96.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長. 分担研究者. 平塚淳子. 基盤研究B. エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発. 16,380 千円 . 2022 年～2026 年

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会, 日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1 単位・1 年, 暮らしの中の看護を知る実習・1 単位・2 年, 地域・在宅看護論・2 単位・2 年・後期, 災害看護学・1 2 年後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 地域・在宅看護論演習・1 単位・3 年・前期, 在宅看護支援実習・2 単位・3 年・後期

7. 社会貢献活動

スカイラボサポートセンター ボランティア

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年福岡県立大学大学院修士課程修了後、がん看護専門看護師を取得しました。

その後5年間、筑豊地域にある医療機関において、がん看護専門看護師として「がん」と共に生きる人、「老い」を生きる人を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践と看護師を対象とした看護倫理教育に携わりました。2015年度より本学へ着任し、看護師や学生を対象とした看護倫理教育と研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田 昇,廣瀬理絵,松山美幸,加藤法子,藏元恵里子,田中美智子,江上千代美 (2022) .「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要, 19,77-87.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 廣瀬理絵,塩田昇,江上千代美,田中美智子 (2021) .看護学生の倫理観を養う教育内容の検討-「薬害被害者」の講演をとおして-,日本看護研究学会第47回学術集会.
- 御手洗みどり,雪松和子,廣瀬理絵,櫛直美 (2021) .老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について, 第47回日本看護研究学会学術集会 (オンライン) .

③過去の主要業績

- 廣瀬理絵 (2015) .「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, Oncology NURSE, 8 (6) p98-104.
- 廣瀬理絵,渡邊智子 (2017) .がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援,日本看護科学学会第37回学術集会,仙台.
- 廣瀬理絵,仲村亜依子,井原資子,渡邊智子 (2018) .急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討, 日本臨床倫理学会第6回年次大会,東京.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会
 日本がん看護学会, 日本緩和医療学会, 日本 CNS 看護学会, 日本看護老年学会
 日本臨床倫理学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、看護過程・1単位・2年生・前期、健康レベルと看護・1単位・1年・後期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、看護倫理学・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅲ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

介護認定審査委員（2回/月）

がん看護専門看護師活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2023年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	松山 美幸
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法といった看護技術を行った際の生理学的効果の解明を研究分野としている。罨法については、特に月経随伴症状のある女性を対象に温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行ってきた。

現在は月経関連片頭痛とその症状を緩和するケアについての研究に取り組んでいる。

また、睡眠と自律神経の関係性に関する研究、薬害被害者講演を受講した看護学生の学びに関する研究、経験型実習教育と実習指導に関する研究を学内外の教員と共同で行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022.03)
- 田中 美智子, 江上 千代美, 松山 美幸, 津田 智子, 野末 明希, 長坂 猛, 在宅の高齢者における入眠前後の自律神経反応と主観的評価, 日本看護技術学会誌, 20 巻 20-28(2021.)

②その他最近の業績

<学会発表>

- 田中 美智子, 江上 千代美, 津田 智子, 松山 美幸, 野末 明希, 有松 操, 長坂 猛, 更年期女性の入眠前後の自律神経反応が睡眠パラメーターに及ぼす影響, 日本看護研究学会, 2022.10.
- 松山 美幸(福岡県立大学 看護学部), 廣瀬 理絵, 塩田 昇, 加藤 法子, 藏元 恵理子, 田中 美智子, 江上 千代美, 薬害被害者の講演を聞いた看護学生の薬害防止に向けたアンケートの分析(第2報) 薬害の実態への思い, 2022.08.
- 田中 美智子, 江上 千代美, 野末 明希, 津田 智子, 有松 操, 松山 美幸, 長坂 猛, 更年期女性のQOLと睡眠パラメータ, 日本看護技術学会, 2021.09
田中 美智子(宮崎県立看護大学), 江上 千代美, 松山 美幸, 野末 明希, 津田 智子, 有松 操, 長坂 猛, 更年期女性の入眠前及び睡眠早期の自律神経反応と睡眠パラメータとの関係, 日本看護研究学会, 2021.08.

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究、研究課題：「月経関連片頭痛に対するケアの検討」、交付金額 4,030 千円、令和 2 年度～令和 6 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護技術学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年後期、フィジカルアセスメント論・1単位・1年前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年前期、生態・病態看護学実験・1単位・2年前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年通年、専門看護学ゼミ・1単位・3年通年、卒業研究・1単位・4年生通年、統合実習・2単位・4年通年、生態機能看護学Ⅲ・2単位・4年後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	御手洗 みどり
-----------	----	----	----	---------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として総合病院での臨床経験を経て、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、高齢者の家族支援の研究を行いました。その後、大学教育や臨床経験を経て、北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程（学術博士）で、高齢者家族の代理意思決定の研究を行いました。主な研究分野では、高齢者の家族支援や、ひきこもりの当事者家族支援の研究を行っています。また、地域共生社会における居場所支援の研究も行っていきます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 御手洗みどり, 櫛直美, 楠凡之 (2021) : 看護学の実習におけるシミュレーション教育の学習効果～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～, 北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）(29) p 19-30
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容することの困難さ～成人期の子どもへの理解と支援～, 北九州市立大学大学院社会システム研究科博士学術論文
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容する過程と困難さ～「未解決の葛藤」の問題に焦点をあてて～, 北九州市立大学大学院紀要 (34) p 95-112
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容する過程と困難さ～成人期の子どもの自閉スペクトラム症に焦点をあてて～, 北九州市立大学社会システム紀要 (19) p 17-33
- ・ 御手洗みどり, 磯村侑泉, 多田村昂央, 中西優里, 畑島美鈴, 山根俊恵 (2022) : ひきこもりの人が居場所に求めるもの～居場所に通うことによって生じる変化からの考察～, 精神科看護 (49) 50-58
- ・ 御手洗みどり, 石橋花音, 竹内優梨, 田中瑠羽, 平田若菜, 山根俊恵 (2024) : 家族心理教育がひきこもりの家族に与える変化, 精神科看護 (51) 46-55

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容することの困難さ～成人期の子どもへの理解と支援, 第47回日本生活指導学会学術集会（オンライン）
- ・ 御手洗みどり, 雪松和子, 廣瀬理絵, 櫛直美 (2021) : 老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について, 第47回日本看護研究学会学術集会（オンライン）
- ・ 御手洗みどり (2019) : 成人期の子どもが高齢の親の死を受容する過程とその困難さ, 第26回日本家族看護学会（京都）

<市民講座>

- ・ 2022年：山口県宇部市市民公開講座 誰もがなりうる「ひきこもり」の正しい知識（企画、司会、運営、調整）

③過去の主要業績

- ・ 御手洗みどり, 楠凡之, 司農ゆかり, 長門仁 (2019) : 成人期の子どもが高齢の親の死の受容する過程とその困難さ～「未処理の葛藤」の問題に焦点をあてて～, Palliative Care Research 14(Suppl.) S345-S345 2019年6月
- ・ 御手洗みどり, 司農ゆかり, 橋本剛, 入江崇, 長門仁 (2018) : 人工呼吸器装着患者の栄養管理, 日本静脈経腸栄養学会雑誌 33(Suppl) 526 2018年1月

3. 外部研究資金

- ・ 研究代表者 松浦賢長, 分担研究者 御手洗みどり, 基盤研究 B: エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発, 16, 380 円 2022年～2026年

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、日本臨床栄養代謝学会、日本生活指導学会、日本精神科看護学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期、成人看護学演習ⅠⅡ・1単位・3年・前期、老年看護学演習ⅠⅡ・1単位・3年・前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・4年・前期、成人急性看護学実習3単位・3年・後期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

2023年度: 放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者

2022年度: SDS 支援システム開発講座 (社会連携講座)

2021～2022年: NPO 法人ふらっとコミュニティ非常勤支援員

2019年～: 一般社団法人共生社会実現サポート機構とんとんとん非常勤支援員

8. 学外講義・講演

2023年 12月 筑豊ブロック 看護生涯教育研修会講演 「高齢者の家族支援」講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	村上 香織
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として主に手術室、救急外来に勤務しながら、2011年に手術看護認定看護師の資格を取得しました。その後、法政大学大学院 政策創造研究科(政策学修士)に進学し、手術室における看護師の人材育成に関する研究を行いました。2023年、福岡県立大学に着任し、臨床看護技術にかかわる演習、実習科目を担当しております。

今後も、手術室における人材育成の研究を継続しながら、手術体位を起因とする末梢神経損傷に関する研究を進めて参ります。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術中看護記録はどうして大切? -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(1), pp.71-75.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 基本の記録方法を知ろう -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(2), pp.73-77.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 「何を書けばいい?と迷っているあなたへ」 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(3), pp.60-63.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 看護がみえる手術看護記録とは? -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(4), pp.78-81.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個性を取り入れよう 手術体位編 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(5), pp.86-92.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個性を取り入れよう 体温管理編 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(6), pp.76-79.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - その記録、正しく伝わりますか? -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(7), pp.78-82.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術前訪問・術後訪問を記録に残すことの意味 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(8), pp.64-70.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 緊急時の術中看護記録 何が大切になる -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(9), pp.68-71.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 大量出血の事例 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(10), pp.68-71.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 アナフィラキシーの事例 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(11), pp.74-77.
- ・ 村上香織(2023)「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 手術室看護師だからこそ残せる記録 -, メディカ出版, *Ope Nursing*, 38(12), pp.58-61.
- ・ 小澤聡貴, 村上香織編(2022)個別性による困難事例を最速解決! オペナースのための手術体位 Q&A52, メディカ出版.

- ・ 村上海織(2022). 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - 患者の情報収集、アセスメントと術中観察のポイント -, 日総研出版, 手術看護エキスパート, 16(1), pp.60-64.
- ・ 村上海織(2022). 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - 体位固定時の皮膚損傷・神経障害の予防 -, 日総研出版, 手術看護エキスパート, 16(2), pp.51-55.
- ・ 村上海織(2022). 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - かゆいところに手が届く器械出しのコツ -, 日総研出版, 手術看護エキスパート, 16(3), pp.58-62.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・ 村上海織(2017). 術式ごとに解説「椎弓形成術／椎弓切除術」, 日総研出版, 手術看護エキスパート, 11(4), pp.56-63.
- ・ 村上海織, 小澤聡貴(2019). ガッテン! 体位固定!, メディカ出版, Ope Nursing, 34 (1~12).

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本手術看護学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1~4年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2~4年・通年、
成人急性看護学実習・3単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年・後期
成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期
成人看護学演習Ⅰ・1単位・3~4年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・前期
専門看護学ゼミ・2単位・3~4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

第4回中国地区日本手術看護学会(山口分会)研修会「手術看護記録の基本」 講師

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	山口 馨子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として総合病院の内科系病棟と看護専門学校の専任教員を経て、本学に着任し成人老年看護学に携わっています。演習や実習で学生と共に看護を考え、より良い看護を目指しています。さらに成人期、老年期の急性期看護学について探究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 共に学ぶ・共に育豊かな看護教育を創る授業デザイン・授業リフレクションの実際 講義・演習編 メヂカルフレンド社 編集 目黒悟、永井睦子. 第2章-1 基礎看護学 山口馨子.
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～. 福岡県立大学看護学研究紀要 2022 : 69-76.
- ・ 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香. 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告. 福岡県立大学研究紀要 2022 ; 19 : 99-105.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 山口馨子、福田和美、江上千代美. 術後患者の呼吸状態の観察場面における看護学生のシミュレーション学習前後の眼球運動の変化. 日本看護研究学会 第49回学術集会、オンライン開催、2023年
- ・ 山口馨子、福田和美. 看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討. 日本看護研究学会 第48回学術集会、オンライン開催、2022年
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～. 日本看護研究学会 第47回学術集会、オンライン開催、2021年

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

教養演習、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・成人急性看護学実習3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2021年、2022年、2023年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

令和5年度研究奨励交付金計画書（データサイエンス研究）：看護教育におけるデジタル・トランスフォーメーションの具体的な教育手法の検討 研究分担者

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	吉田 麻美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。医療的ケアを必要とする子どもやその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探求している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト（編集）田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：MRI ってなあに？。初版：2024年3月
- 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト（編集）田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：がんばれ！！てんてきマン。初版：2024年3月
- 中村美穂子、山下清香、小野順子、吉田麻美、大塚文、岩崎玲奈、尾形由起子：入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴。福岡県立大学看護学部紀要第21巻。2024年3月。
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－。福岡県立大学看護学部紀要第20巻。2023年3月。
- 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－。福岡県立大学看護学部紀要第20巻。2023年3月。
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感。福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号。2023年3月。
- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫛直美、尾形由起子：A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題。福岡県立大学看護学部紀要第20巻。2023年3月。
- 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一：入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題。福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号。2022年。
- 吉田麻美：歩ける医療的ケア児の母親の子育てにおける適応していくプロセスの検討。福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文。2022年3月。
- 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫛直美、尾形由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応。福岡県立大学看護学部紀要 19巻、2022年。

- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、楳直美、吉田麻美：小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み。福岡県立大学看護学部紀要 19 巻、2022 年。
- ・ 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、楳直美、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、尾形由起子：A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題 - 災害時の在宅療養継続に向けて -。福岡県立大学看護学部紀要 19 巻、2022 年。
- ・ 楳直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香：在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察。福岡県立大学看護学部紀要 19 巻、2022 年。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 吉川未桜、吉田麻美、田中美樹：小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して - 保育園年長クラスの子どものための演習参加の試み -。第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会。鹿児島。2023 年 8 月 19 日

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本小児看護学会、日本小児保健協会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、子どもの健康と安全・1 単位・2 年・前期、暮らしの中の看護を知る実習、1 単位・2 年・前期、小児看護学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、小児看護学演習・2 単位・3 年・前期、小児看護学実習・2 単位・3 年・後期、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	石田 祐子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院での臨床経験を経て3年課程の看護専門学校にて教育に携わりました。

2022年度より本学に着任し、地域・在宅看護に携わっています。

研究では、潜在看護師における要因や実態をテーマに研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本精神科看護協会、看護理工学会

6. 担当授業科目（補助）

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、チーム医療論・1単位・1年・後期、暮らしと保健福祉・看護・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、家族看護学・1単位・2年・前期、地域・在宅看護論・2単位・2年・後期、精神看護学・2単位・2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2023年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	大場 美緒
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程終了。看護師として内科系の臨床で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、成人看護学、女性看護学に携わっている。

臨床では、神経難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻ることの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 櫛直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取り組みに関する一考察、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫛直美、尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香. 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美. 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. 看護学生のクリティカルケア実習の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.
- ・ 政時和美、古庄夏香、大場美緒. 医療依存度の高い在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目（補助）

暮らしを知る実習・1年・1単位・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2～4年・2単位・通年、暮らしの中の看護を知る実習・2年・1単位・前期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・前期、女性看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期、在宅看護学演習Ⅱ・3年・1単位・後期、女性看護学実習・3年・2単位・後期、在宅看護学実習・3年・2単位・後期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	島田 信
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

聖マリア学院大学看護学部卒業後、横浜市立大学附属病院にて手術室、整形外科・リハビリテーション病棟で勤務。臨床では運動器や脳神経性の疾患に対して治療を行う患者の退院後の生活を見据えた看護の提供を大切にしていた。

令和3年度に本学に着任。基礎看護学、成人看護学、老年看護学、地域在宅看護学、精神看護学と様々な科目の演習・実習を担当し、それぞれの学生がその学生のペースで学び看護を学ぶことを楽しいと感じることができるようなかわりを大切に教育活動に携わっている。

研究においては人体の構造や機能、疾患のメカニズムなどの基礎研究、特に看護ケアについて「食」を通じて人々の健康に寄与する科学的根拠の解明を行っていくことを目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 放送大学看護師国家試験対策支援ツール（2022）：第111回看護師国家試験問題午前第16問、午前第26問、午前第77問の解説
- ・ 放送大学看護師国家試験対策支援ツール（2023）：第112回看護師国家試験問題午後第30問の解説

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本栄養・食糧学会、日本看護協会

6. 担当授業科目（補助）

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1単位・4年・前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・後期、精神看護学実習・2単位・3年・後期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・4年・前期

7. 社会貢献活動

第 29 回日本看護診断学会学術大会実行委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	田原 千晶
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

<自己紹介>

看護師として小児病棟・GCU に勤務後、平成 29 年度より本学に着任した。

小児病棟・GCU では、急性期から慢性期、内科から外科まで幅広い小児看護に携わり、子どもの成長や発達を促す看護について考え、実践してきた。特に、長期入院やターミナル期の子どもについては、入院しているために制限される遊びやお祝い事などを中心に、1 人ひとりの子どもや家族の気持ちに寄り添い、両者の思いや願いをかなえる看護を創造することに力を注いできた。

<主な研究分野>

近年、医療技術の進歩により子どもの救命率は向上し、NICU を退院後、引き続き人工呼吸器や胃瘻を使用し在宅医療を受ける子どもは増加している。国の施策により地域包括ケアの整備が進み、在宅療養を行う人が増え、訪問看護利用者は年々と増加している。15 歳未満の訪問看護利用者も同様に年々と増加し、令和元年には 18,000 人を超えている。

しかし、令和 5 年度における福岡県の子どもを受け入れている訪問看護事業所の割合は 35.6%であり、半数に及んでいない現状にある。子どもの訪問看護事業所の少ない理由の一つに【小児看護の知識・技術の不足】が報告されているが、その内容までは明らかにされていない。そのため、訪問看護師における子どもに関する知識や観察技術、アセスメントについての調査を進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 梶原由紀子, 原田直樹, 田原千晶, 松浦賢長(2022). 養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究, 福岡県立大学看護学部紀要, 第 19 巻 57-68.
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦賢長, (2022). 元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究, 福岡県立大学紀要, 第 19 巻 1-12.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本保健福祉学会

6. 担当授業科目 (補助)

暮らしと保健福祉・2単位・1年・後期, チーム医療論・1単位・1年・後期, 暮らしを知る実習・1単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, 家族看護学・1単位・2年・前期, 暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期, 小児看護学・2単位・2年・後期, 地域・在宅看護論・2単位・2年・後期, 在宅看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期, 小児看護学実習・2単位・3年・後期,

7. 社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担製作者 (2023年)

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等